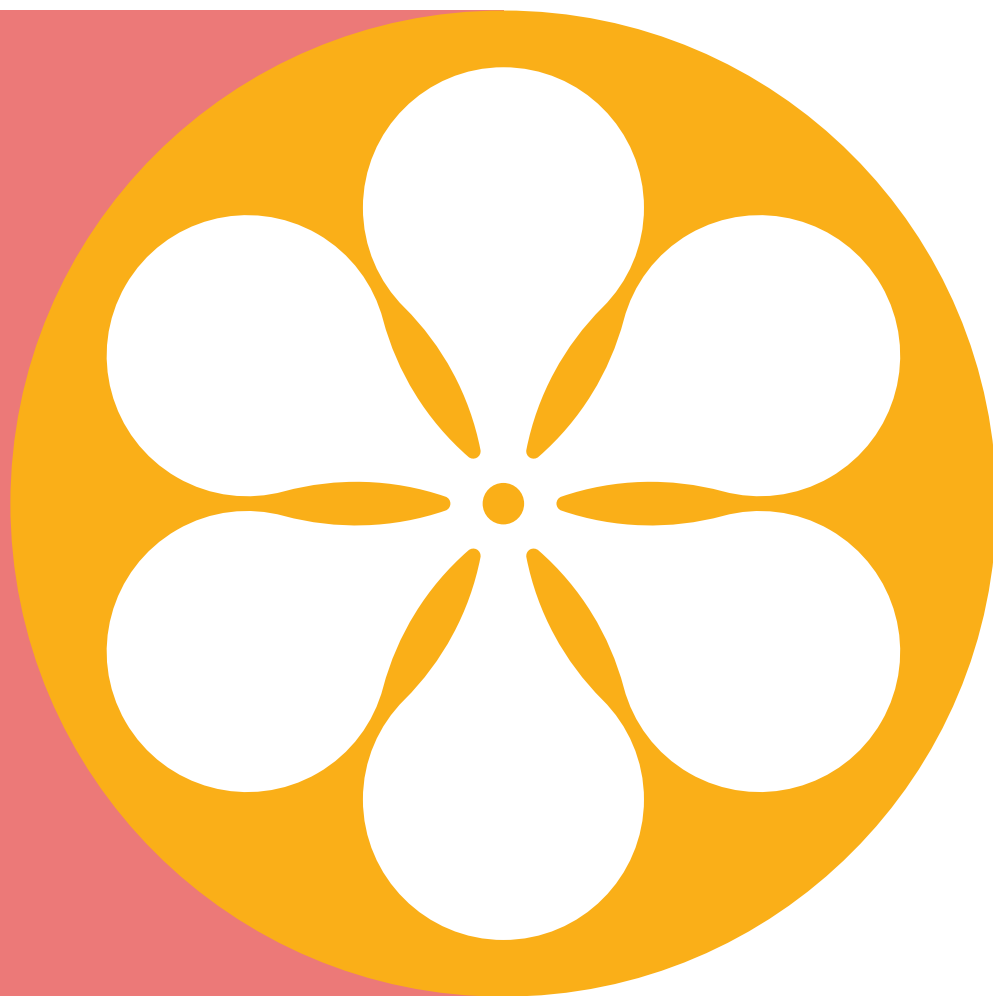


# 2018 SYLLABUS



札幌市立大学  
SAPPORO CITY UNIVERSITY

平成30年度履修要項  
《 授業計画 》  
デザイン学部・看護学部

# 2018 SYLLABUS

札幌市立大学  
平成30年度 履修要項《授業計画（シラバス）》  
デザイン学部・看護学部

## 《目 次》

---

### 平成30年度開講科目

1 共通教育科目 .....	8
2 デザイン学部	
2-1 専門教育科目（平成28年度（編入学生は30年度）以降入学生） .....	55
2-2 専門教育科目（平成27年度（編入学生は29年度）以前入学生） .....	145
2-3 自由科目 学芸員関連科目 .....	161
3 看護学部 専門教育科目 .....	170

### 平成31年度以降開講科目

1 デザイン学部 専門教育科目 .....	272
-----------------------	-----

---



# 平成30年度開講科目一覧

## ●共通教育科目(平成28年度(編入学生は30年度)以降入学生用)

1 年 前 期	導 入 科 目	スタートアップ演習 ……………	8
	教 養 科 目	哲学と倫理 …………… 体のしくみ …………… 人間関係を考える …………… 自然科学を学ぶ …………… 札幌を学ぶ ……………	9 10 11 12 13
1 年 後 期	コミュニケーション科目	英語 I A …………… 英語 I B …………… 英語 I C …………… 日本語表現法 …………… 基礎カウンセリング …………… 情報リテラシー I (デザイン) …………… 情報リテラシー I (看護) ……………	14 15 16 17 21 22 23
	教 養 科 目	宗教と思想 …………… 芸術と文化 …………… 心のしくみ …………… 動物のくらし …………… 現代社会と家族 …………… 現代社会と経済 …………… 統計の世界 (看護) ……………	24 25 26 27 28 29 30
2 年 前 期	コミュニケーション科目	英語 II A …………… 英語 II B …………… 英語 II C …………… プレゼンテーション …………… 対人コミュニケーション …………… 手話 …………… 情報リテラシー II (デザイン) …………… 情報リテラシー II (看護) ……………	31 32 33 34 35 36 37 38
	教 養 科 目	ジェンダーと文化 …………… 環境を考える …………… 現代社会と国際関係 …………… ボランティア活動を考える …………… 日本国憲法を学ぶ ……………	39 40 41 42 43
2 年 後 期	コミュニケーション科目	実践英語 A …………… 実践英語 B …………… グループ・ダイナミックス ……………	44 45 46
	教 養 科 目	教育を考える …………… 生活と文化 …………… 健康とスポーツ (看護) ……………	47 48 49
3 年 前 期	コミュニケーション科目	実践英語 A (デザイン) …………… 実践英語 B (看護) …………… 韓国語 …………… 中国語 (看護) …………… ロシア語 (看護) ……………	44 45 50 51 52
	教 養 科 目	健康とスポーツ (デザイン) ……………	49
3 年 後 期	コミュニケーション科目	中国語 (デザイン) …………… ロシア語 (デザイン) ……………	53 52
3 年 後 期	教 養 科 目	統計の世界 (デザイン) ……………	54

## ●デザイン学部専門教育科目(平成28年度(編入学生は30年度)以降入学生)

1 年 前 期	基 本 科 目	人間空間デザイン論 ……………	55
		人間情報デザイン論 …………… デザイン史 …………… デザインと数学 …………… 表現基礎 (描画) …………… 材料加工理論/実習 I …………… 時間表現理論/演習 I ……………	56 57 58 59 60 61
1 年 後 期	基 本 科 目	デザイン工学 ……………	62
		アイデア生成プロセス …………… 視覚・色彩心理学 …………… 表現基礎 (製図) …………… 表現基礎 (構成) …………… 材料加工理論/実習 II …………… Web デザイン ……………	63 64 65 66 67 68
1 年・2 年 通 年	発 展 科 目	地域プロジェクト I (基礎編) ……………	69

2 年 前 期	基 本 科 目	近現代建築史 .....	70	
		環境心理学 .....	71	
		デザイン研究法 (人間空間デザイン) .....	72	
		デザイン研究法 (人間情報デザイン) .....	73	
		建築設計製図 .....	74	
		情報製品製図 .....	75	
		3DCG 実習 (表現系) .....	76	
		建築系 CAD 実習 .....	77	
		時間表現理論 / 演習Ⅱ .....	78	
展 開 科 目	建築計画論 .....	79		
	環境計画論 .....	80		
	コミュニティデザイン論 .....	81		
	環境芸術論 .....	82		
	プロダクトデザインⅠ .....	83		
	プログラミングⅠ .....	84		
	協同デザインⅠ .....	85		
	ビジュアライゼーションⅠ .....	86		
	学部連携基礎論 .....	87		
発 展 科 目	デザイン総合実習Ⅰ (建築・環境) .....	88		
	デザイン総合実習Ⅰ (地域コミュニケーション・総合系) ..	89		
	デザイン総合実習Ⅰ (人間情報デザインコース) .....	90		
	フィールドスタディ .....	91		
2 年 後 期	基 本 科 目	情報社会論 .....	92	
		エコロジカルデザイン .....	93	
		コンピュータグラフィックス .....	94	
		ユニバーサルデザイン論 .....	95	
		3DCG 実習 (建築系) .....	96	
		製品系 CAD 実習 .....	97	
		Web プログラミング .....	98	
		展 開 科 目	建築デザイン論 .....	99
			空間デザイン史 .....	100
一般構造 .....	101			
家具・インテリアデザイン .....	102			
メディア芸術論 .....	103			
空間プロダクト .....	104			
プロダクトデザインⅡ .....	105			
プログラミングⅡ .....	106			
協同デザインⅡ .....	107			
発 展 科 目	デザイン総合実習Ⅱ (建築・環境) .....	108		
	デザイン総合実習Ⅱ (地域コミュニケーション・総合系) ..	109		
	デザイン総合実習Ⅱ (人間情報デザインコース) .....	110		
2年・3年・4年通年	発 展 科 目	地域プロジェクトⅡ (応用編) .....	111	
3 年 前 期	基 本 科 目	メディア社会論 .....	112	
		感性情報学 .....	113	
		展 開 科 目	都市計画論 .....	114
			建築設備計画 .....	115
			構造力学Ⅰ .....	116
			ランドスケープアーキテクチャ .....	117
			空間演出デザイン論 .....	118
			地域ブランド構築 .....	119
			空間映像表現 .....	120
ユーザーエクスペリエンスデザインⅠ .....	121			
プログラミングⅢ .....	122			
ヒューマンインタラクションⅠ .....	123			
ビジュアライゼーションⅡ .....	124			
発 展 科 目	ユニバーサルデザイン都市札幌 .....	125		
	デザイン総合実習Ⅲ (建築・環境) .....	126		
	デザイン総合実習Ⅲ (地域コミュニケーション・総合系) ..	127		
	デザイン総合実習Ⅲ (ものづくり・総合系) .....	128		
	デザイン総合実習Ⅲ (情報・総合系) .....	129		
インターンシップ .....	130			
3 年 後 期	基 本 科 目	デザイン展開プロセス .....	131	
		展 開 科 目	構造力学Ⅱ .....	132
			建築構法 .....	133
			構造・材料実験 .....	134
			建築生産 .....	135
			建築法規 .....	136
			寒冷地デザイン論 .....	137
			ユーザーエクスペリエンスデザインⅡ .....	138
			ヒューマンインタラクションⅡ .....	139
学部連携演習 .....	140			
発 展 科 目	デザイン総合実習Ⅳ (人間空間デザインコース) .....	141		
	デザイン総合実習Ⅳ (人間情報デザインコース) .....	142		
	キャリアデザイン .....	143		
3年・4年 通 年	発 展 科 目	地域プロジェクトⅢ (発展編) .....	144	

●デザイン学部専門教育科目(平成27年度以前入学生)

4 年 前 期	展 開 科 目	建築設備計画 .....	145
		住宅論 .....	146
		ロボティクス .....	147
		ヒューマンケア機器デザイン .....	148
		デジタル音響デザイン .....	149
		ネットワークシステムデザイン .....	150
		コンテンツ流通技術 .....	151
		放送メディアデザイン .....	152
4 年 通 年	発 展 科 目	デザインマネジメント .....	153
		起業論 .....	154
		デザイン英語 .....	155
		構造力学Ⅱ .....	156
		卒業研究(空間デザインコース) .....	157
		卒業研究(製品デザインコース) .....	158
		卒業研究(コンテンツデザインコース) .....	159
		卒業研究(メディアデザインコース) .....	160

●デザイン学部自由科目(学芸員課程関連科目)

3 年 前 期	自由科目 (学芸員課程関連科目)	生涯学習概論 .....	161
		博物館概論 .....	162
		博物館資料論 .....	163
		博物館情報・メディア論 .....	164
		博物館教育論 .....	165
3 年 後 期	自由科目 (学芸員課程関連科目)	博物館経営論 .....	166
		博物館資料保存論 .....	167
		博物館展示論 .....	168
4 年 前 期	自由科目 (学芸員課程関連科目)	博物館実習 .....	169

●看護学部専門教育科目

1 年 前 期	専 門 基 礎 科 目	形態機能学Ⅰ ..... 170 形態機能学Ⅱ ..... 171 地域保健学概論 ..... 172
	専 門 科 目	看護学原論 ..... 173 人間発達援助論 ..... 174 看護初期実習 ..... 175 看護観察技術論 ..... 176
1 年 後 期	専 門 基 礎 科 目	薬理学 ..... 177 病理病態学 ..... 178 感染予防論 ..... 179
	専 門 科 目	看護理論 ..... 180 看護過程論 ..... 181 基礎看護技術論 ..... 182 基礎看護学臨地実習Ⅰ ..... 183
1年・2年 通 年	専 門 科 目	地域プロジェクトⅠ（基礎編） ..... 184
2 年 前 期	専 門 基 礎 科 目	生命科学 ..... 185 生命倫理 ..... 186 環境保健 ..... 187 人間工学 ..... 188 臨床栄養学 ..... 189 疾病治療学概論 ..... 190 疾病治療学A ..... 191 疾病治療学B ..... 192 公衆衛生学 ..... 193 社会福祉学 ..... 194 家族社会学 ..... 195 医療情報 ..... 196
	専 門 科 目	症状マネジメント論 ..... 197 基礎看護学臨地実習Ⅱ ..... 198 成人看護学概論 ..... 199 成人看護援助論 ..... 200 老年看護学概論 ..... 201 精神看護学概論 ..... 202 学部連携基礎論 ..... 203
2 年 後 期	専 門 基 礎 科 目	臨床薬理学 ..... 204 疾病治療学C ..... 205 チーム医療論 ..... 206 感染管理論 ..... 207 臨床心理学 ..... 208
	専 門 科 目	援助の人間関係論 ..... 209 看護倫理学 ..... 210 小児看護学概論 ..... 211 母性看護学概論 ..... 212 成人看護学臨地実習Ⅰ ..... 213 老年看護援助論 ..... 214 精神看護援助論 ..... 215 在宅看護学概論 ..... 216 在宅看護援助論 ..... 217 がん看護学 ..... 218 公衆衛生看護学概論 ..... 219
2年・3年・4年 通 年	専 門 科 目	地域プロジェクトⅡ（応用編） ..... 220
3 年 前 期	専 門 基 礎 科 目	保健医療福祉行政論Ⅰ ..... 221 保健統計 ..... 222 疫学Ⅰ ..... 223
	専 門 科 目	小児看護援助論 ..... 224 母性看護援助論 ..... 225 成人看護技術論 ..... 226 成人看護学臨地実習Ⅱ ..... 227 老年看護学臨地実習Ⅰ ..... 228 精神看護技術論 ..... 229 精神看護学臨地実習 ..... 230 在宅看護技術論 ..... 231 在宅看護学臨地実習 ..... 232 リハビリテーション看護学 ..... 233 認知症ケア ..... 234
3 年 後 期	専 門 基 礎 科 目	健康教育指導法 ..... 235 研究方法論 ..... 236
	専 門 科 目	小児看護技術論 ..... 237 小児看護学臨地実習 ..... 238 母性看護技術論 ..... 239 母性看護学臨地実習 ..... 240 老年看護技術論 ..... 241 老年看護学臨地実習Ⅱ ..... 242 透析ケア ..... 243 重症集中ケア ..... 244 救急看護学 ..... 245 放射線医療管理論 ..... 246 公衆衛生看護援助論Ⅰ ..... 247 公衆衛生看護援助論Ⅱ ..... 248 看護教育学 ..... 249 学部連携演習 ..... 250

3年・4年通年	専 門 科 目	地域プロジェクトⅢ (発展編) …………… 251
4 年 前 期	専 門 科 目	ペリネイタルケア …………… 252
		パリアティブケア …………… 253
		寒冷地医療 …………… 254
		公衆衛生看護技術論 …………… 255
		ヘルスプロモーション活動論 …………… 256
		公衆衛生看護学臨地実習Ⅰ …………… 257
		公衆衛生看護学臨地実習Ⅱ …………… 258
		看護管理学 …………… 259
		看護情報学 …………… 260
		災害看護学 …………… 261
		国際看護学 …………… 262
		国際保健学 …………… 263
		医療経営学 …………… 264
医療安全管理論 …………… 265		
現代専門職論 …………… 266		
4 年 後 期	専 門 基 礎 科 目	保健医療福祉行政論Ⅱ …………… 267
		疫学Ⅱ …………… 268
4 年 通 年	専 門 科 目	ヘルスケアマネジメント実習 …………… 269
		公衆衛生看護管理論 …………… 270
4 年 通 年	専 門 科 目	卒業研究 …………… 271

## 平成31年度以降開講科目

### ●デザイン学部専門教育科目(平成28年度(編入学生は平成30年度)以降入学生)

4 年 前 期	基 本 科 目	知的財産権論 …………… 272
		デザイン英語 …………… 272
	展 開 科 目	景観デザイン文化論 …………… 272
		住宅論 …………… 273
		観光デザイン論 …………… 273
起業・経営論 …………… 273		
	ユーザーエクスペリエンスデザインⅢ …………… 274	
	ビジュアルライゼーションⅢ …………… 274	
4 年 後 期	発 展 科 目	卒業研究Ⅰ …………… 274
	発 展 科 目	卒業研究Ⅱ …………… 275



# スタートアップ演習

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：演習

単位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**：「D×N（デザインと看護）の連携」をテーマとしたプロジェクト活動を通じ、大学や地域という新しい舞台・環境に一日も早く慣れることをねらいとする。このため大講義室での合同講義や小人数編成によるグループ活動、大学での学び方、資料収集の方法、レポート作成、グループ討論など、主体的に勉学・研究を進めるための基本的な知識や学習法、課題解決の手法などを習得する。また「D×N連携」を活かしたプロジェクト活動を企画・実施し、チーム活動の成果をまとめ発表・報告する。これらの活動を通じ、教員と学生、学生間のコミュニケーションを深め、連携力を養うとともに、地域に対する関心や貢献の姿勢、4年間の学生生活や将来の職業生活への展望を育てる。

■**到達目標**：①主体的に勉学・研究に取り組む姿勢を持つ ②他者とのコミュニケーション能力を高める ③基本的な学習技術を習得する ④学生生活や将来への展望を持つ

■**担当教員**：【◎○は科目責任者】

◎町田 佳世子、松井 美穂、矢部 和夫、椎野 亜紀夫、藤木 淳、丸山 洋平、三谷 篤史、石田 勝也、大淵 一博、須之内 元洋  
○猪股 千代子、卯野木 健、三上 智子、守村 洋、工藤 京子、櫻井 繭子、高橋 奈美、原井 美佳、檜山 明子、近藤 圭子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 学長講話、デザインと看護の連携教育について・地域プロジェクトの概要、大学での学び方、スタートアップ演習の進め方と期待される成果、担当教員の紹介とグループ編成の発表（合同講義）／自己紹介・役割分担・グループ名の決定など（グループ活動）  
第2回 デザインと看護の世界：D×N連携を中心に本学の活動を紹介（先生方によるプレゼンテーション）（合同講義）／プロジェクト活動入門、レポートの書き方、「地域に親しむ」学外活動に向けての話し合い（グループ活動）  
第3回 図書館の使い方、学生からの活動報告（国際交流事業）（合同講義）／プロジェクト活動入門、レポートの書き方、「地域に親しむ」学外活動に向けての話し合い（グループ活動）  
第4回 「D×N連携」プロジェクト活動（グループ活動）  
第5回 「D×N連携」プロジェクト活動（グループ活動）  
第6回 「D×N連携」プロジェクト活動（グループ活動）  
第7回 「D×N連携」プロジェクト活動（グループ活動）／中間報告準備（グループ活動）\*中間報告会用配付資料提出  
第8回 中間報告会（合同講義）／今後の作業計画（グループ活動）  
第9回 「D×N連携」プロジェクト活動（グループ活動）\*レポート提出  
第10回 「D×N連携」プロジェクト活動（グループ活動）  
第11回 「D×N連携」プロジェクト活動（グループ活動）  
第12回 「D×N連携」プロジェクト活動（グループ活動）最終報告準備（グループ活動）\*最終報告会用エントリーシート提出  
第13回 「D×N連携」プロジェクト活動 報告展示（スカイウェイ）（グループ別活動）\*最終報告会用配布資料提出  
第14回 「D×N連携」プロジェクト活動報告会（合同講義）  
第15回 「D×N連携」プロジェクト活動のまとめと評価（グループ活動）

■**事前・事後学習**：

事前：活動に必要な情報（連絡事項、配布資料、提出物のフォーマットなど）をcommonに配付するので、事前に確認し準備するとともに、毎回のグループ活動にそなえて各自が必要と思うことを調べ、アイデアを用意すること。  
事後：グループのプロジェクト活動のテーマや地域が決まったら、放課後空き時間や休日を利用して積極的に地域に出向き、地域の状況を各自が把握すること。授業外でも作業をすることが必要になった場合は、特定の人に負担が偏らないよう、全員でできることを分担して作業を進めること

■**教科書**：特にありません。

■**参考文献**：随時紹介する。

■**成績評価基準と方法**：グループでの活動状況、レポートの成果などを元に、各グループの担当教員が上記の到達目標の達成度を評価する。欠席回数が3分の1を超えると単位を修得することができない。

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
定期試験						
小テスト・授業内レポート		○	◎	○	調査レポートを評価	20
受講態度	◎	○			積極性・集中度・礼儀態度	10
グループ活動／最終報告会などでの報告・発表	○	◎		○	人に自分が調べたことを説明し理解させる能力	45
課題・作品	○	○		◎	プロジェクト活動の成果と貢献度	25
出席	◎	◎			欠席回数が3分の1を超えると単位を修得することができない。全出席（30回）の場合は10点を加点する。ただし総合評価点が100点を超す場合は打ち切りとする。	

■**関連科目**：2年次の学部連携基礎論・3年次の学部連携演習・1～4年次の地域プロジェクト

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：commonを利用し、随時、必要な情報（連絡事項、配布資料、提出物のフォーマットなど）を提供していきますので、しっかり活用して下さい。グループ別活動は割当教室を中心に必要に応じて様々な場所で行われるので、集合場所は各グループの担当教員の指示に従ってください。有意義なキャンパスライフを送るための演習ですから、毎回、積極的に参加し早く大学に慣れ、先生や友人とのコミュニケーションを深めて下さい。グループ編成は、男女や看護とデザインの構成比などを勘案して行い第1回の時に担当教員とともに発表します。授業に参加する上で何か問題があれば担当の先生か、主担当の町田に事前に相談して下さい。

# 哲学と倫理

選 択

開講年次：1年次前期

科目区分：講 義

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：デザインも看護も人間の生活に深く関わる実践である。それゆえ、よいデザインとは何か、よい看護とは何かを考えようとする、人間であるとはどういうことかを考えざるをえない。そして私たちの自己理解は、私たちが生きる文化的伝統の内に受け継がれてきた様々な考え方に基づいている。この講義では、現代の学問のみならず日常的なものの方にも影響を与え続けている哲学的概念について歴史的背景も踏まえて解説していく。その理解にもとづいて、自分たちを取り巻く世界で出会う問題にアプローチするための基礎的な方法を身につけることを目標とする。

■**到達目標**：①基本的な哲学的概念を理解する。  
②それぞれの哲学者がどのような問いにどう答えようとしたのかを理解する。  
③①と②の理解をふまえ、自分の考えを筋道立てて論じる。

■**担当教員**：

中島 孝一

■**授業計画・内容**：

- 第1回 インTRODクシヨン—哲学は何をどのように問うのか
- 第2回 「私」が存在しないことはありえないのか
- 第3回 「ある」と「ない」—存在論のはじまり
- 第4回 主観と客観—心の内側と外側
- 第5回 主体と世界—近代哲学の世界観
- 第6回 私たちの思考の枠組みと限界
- 第7回 観念論と実在論
- 第8回 人格であること
- 第9回 独我論者じゃだめですか
- 第10回 自分に現れる世界を記述する方法
- 第11回 時間と空間と人間
- 第12回 「他者」は哲学でどう扱われるのか
- 第13回 世界の中心で「君の名は」と叫ぶ
- 第14回 努力は報われなければならないのか
- 第15回 論文の書き方と考えるヒント

■**事前・事後学習**：毎回講義のテーマについて考えるための課題を提示します。受講後は配布資料によって講義内容を復習し、講義で得られた観点にもとづいて自分の考えを深めてください。疑問点はノートや資料などに書き留めて次回の授業中に質問してください。興味をもったテーマに関しては参考文献にあたってさらに掘り下げ、問題への哲学的なアプローチの仕方を学ぶようにしてください。

■**教科書**：指定せず。講義中に資料を配布する。

■**参考文献**：各テーマに即した参考文献を講義中に提示する。

■**成績評価基準と方法**：期末レポート（70%）と中間レポート（30%）に平常点を加算して評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
期末レポート	◎	◎	◎	基本的な概念を理解し、個々の哲学者の考え方をふまえた上で、課題に関して筋道立てて論じることができること	70
中間レポート	◎	○		基本的な概念とその背景を理解していること	30
平常点	○	○		積極的な授業参加	10点以内で加算
出席				10回以上の出席	欠格条件

◎：特に重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：だれもが初学者ですので予備知識は必要ありません。考えるためのツールとその使い方は私が教えます。あとはあなた自身がどこまで深く考えようとする意志をもつかにかかっています。授業中の質疑応答や議論は大いに歓迎しますので、積極的に参加して講義内で疑問を解消するようにしてください。どんなにささいな疑問でも、それを解説することで参加者全員の講義内容の理解に役立ちます。

# 体のしくみ

選 択

開講年次：1年次前期

科目区分：講 義

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：体のしくみについて、人間の動作と身の回りにある道具やサービスとの関連性について学習し、人間が日常生活でどのような動作を行っているのか、どのように感じているのかを学ぶ。さらに、課題を通じて、各ユーザ特性の理解、問題発見から支援方法の提案までを行い、より理解を深める。

■**到達目標**：①障害の箇所の違いによる動作への影響について理解する。  
②人間の動作と身の回りにある道具やサービスとの関連性について理解する。

■**担当教員**：

小宮 加容子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 ガイダンス「人を知ることが大事」
- 第2回 視覚障害と支援技術
- 第3回 聴覚障害と支援技術
- 第4回 肢体不自由と支援技術
- 第5回 高齢者と支援技術
- 第6回 子どもと関連技術
- 第7回 身の回りのバリアフリー・ユニバーサルデザイン
- 第8回 疑似装具体験1
- 第9回 疑似装具体験2
- 第10回 課題1（グループ討論）
- 第11回 課題2（現状調査）
- 第12回 課題3（提案）
- 第13回 課題4（検証）
- 第14回 課題5（まとめ）
- 第15回 プレゼンテーション

■**事前・事後学習**：各授業の終わりに次回の授業内容および事前に調べておく事柄を予習のポイントとして指示します。受講後は、ノート、配布資料のほか、関連する書籍などを参照しながら、授業の振り返りと自分の考えをまとめ理解を深めてください。

■**教科書**：適宜プリントを配布

■**参考文献**：適宜紹介する

■**成績評価基準と方法**：授業態度（40%程度）、課題発表（20%程度）、課題・レポート（40%程度）を総合的に判断し成績を判定する。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
授業態度	○	○	積極的な姿勢	40
課題発表	○	○	明快さ、説得力	20
課題・レポート	○	○	調査・分析力、完成度	40
出席			2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：ユニバーサルデザイン論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：さまざまなケースにおける体のしくみを理解し、各専門性へ反映させて欲しい。

# 人間関係を考える

選 択

開講年次：1 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：挨拶から始まる対人関係と常識的なコミュニケーションが望まれているにもかかわらず、なかなかうまく表現できない人が多いといわれている。同じ職場に長く勤務できないのは、仕事がいやだからではなく、人間関係のトラブルからが多い。我々の日常生活は、家庭、学校、職場などを中心として営まれている。そのいずれにも、必ず他者とかかわらなければならない。そのためにまず、相手を知り、相手を認めることがいかに大切かを知り、コミュニケーションを上手にとるため、そして楽しい生き方をするための人間関係をつくることを目的とする。

■**到達目標**：①お客様、上司に対する礼儀作法の基本ができる。  
②言葉づかい・電話応対に対する即戦力が身につく。  
③対人関係が良くなる。

■**担当教員**：

椿 武愛子

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 対人関係がスムーズになる礼儀とマナー
- 第 2 回 上司・お客様との接し方（上座・下座席次他）
- 第 3 回 クレームにならないための処理法
- 第 4 回 言葉遣いと日本語表現、接客用語
- 第 5 回 恥をかかないための電話応対
- 第 6 回 上手なスピーチと自己紹介の仕方
- 第 7 回 自己紹介実践I
- 第 8 回 自己紹介実践II
- 第 9 回 個性心理学（動物占い）（自分を知って相手を知る）
- 第10回 手紙の書き方とビジネス文書の書き方
- 第11回 エコグラム交流分析とプラスのストローク（自分の現在のモチベーションを知る）
- 第12回 冠婚葬祭のマナー、のし袋の見分け方他
- 第13回 お年寄り、体の不自由な方の接し方と看護師としての心得
- 第14回 受付のポイント、ビジネスマンとしての心得、面接のマナー
- 第15回 総まとめと復習

■**事前・事後学習**：

●事前

毎回授業テーマが変わるため、次回の授業内容をシラバスで確認して目を通して、スムーズに授業に入れる様にテキストも忘れない事。

●事後の学習

授業で習った内容を自分の身にすぐ役立てるため復習し、演習（OJT）を鏡を見て行なってみる事によって身につく。テキストは常に見直すと良い。

■**教科書**：テキスト教材（2,000円）を購入していただけます。また、必要に応じてプリントを配布します。

■**参考文献**：追って指示します。

■**成績評価基準と方法**：出席状況、レポート、自己紹介、試験から総合的に評価を行う。

マナーのロールプレイングを取り入れて、それも評価に入れる。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②③		
定期試験	◎	○	テキストを良く理解しているか。	50
小テスト・授業内レポート	○	○	問題の正解度	20
授業態度	○	○		
発表	◎	○	自己紹介	30
課題・作品				
出席			2/3以上の出席	
その他			遅刻3回は欠席扱い	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：単位を取るだけでなく、実践し、仕事や社会人として即戦力のある人材になることを望む。

# 自然科学を学ぶ

選 択

開講年次：1 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：現代社会は科学技術に満ち溢れています。これからの職業人生や日常生活などの様々な場面において、私たちは専門家、非専門家、仲介者などの様々な立場で、科学技術と関わることになります。この授業は、科学についての理解・洞察を深め、科学技術との向き合い方について自分の考えを持つことをねらいとします。

高校までの理科では、既知の、正しいものとしての科学的知識を学んできました。この授業では科学についての理解を大学レベルへと一歩進めます。科学の歴史と科学についての考え方の歴史、現代の科学技術の現状と問題点などについて、哲学、歴史、倫理など様々な角度から焦点を当て、科学に関わる諸問題について考えるために役立ついくつかの重要なキーワードを学んできます。デザイン・看護それぞれの分野においての科学と自分の関わりについて理解し、これらのことを踏まえて科学技術との向き合い方について自分の考えを深め、表現することを目指します。

■**到達目標**：①科学と社会、自分との関わりについて理解する。  
②科学について理解・考察するための手がかりとなる重要な概念を理解する。  
③科学技術との向き合い方について、自分の考えを持ち、表現する。

■**担当教員**：佐藤 頼子

## ■授業計画・内容：

- 第 1 回 インTRODククション：現代科学と社会、デザイン・医療との関わり
- 第 2 回 科学の歴史と科学論 (1) 科学の歴史
- 第 3 回 科学の歴史と科学論 (2) 科学の方法
- 第 4 回 科学の歴史と科学論 (3) 帰納とヒューム
- 第 5 回 科学の歴史と科学論 (4) パパーの反証可能性
- 第 6 回 科学の歴史と科学論 (5) クーンのパラダイム論
- 第 7 回 科学の歴史と科学論 (6) 実在主義と道具主義
- 第 8 回 前半のまとめとディスカッション、現代の科学へ
- 第 9 回 現代科学と諸問題 (1) 現代科学の描く世界 (i)
- 第10回 現代科学と諸問題 (2) 現代科学の描く世界 (ii)
- 第11回 現代科学と諸問題 (3) 科学と倫理 (i)
- 第12回 現代科学と諸問題 (4) 科学と倫理 (ii)
- 第13回 現代科学と諸問題 (5) 科学と価値観
- 第14回 現代科学と諸問題 (6) 科学コミュニケーション
- 第15回 後半のまとめとディスカッション、これからの科学について

■**事前・事後学習**：授業で配布する資料をもとに、各回の復習を行う。配布資料や授業で紹介する参考文献等を利用し、期末レポートに向け関心のあるテーマの選定を行う。選んだテーマについて調べ物等を行い、授業で紹介したキーワードを参考にしながら、自分の考えを期末レポートにまとめる。

■**教科書**：教科書は使用しません。

■**参考文献**：1. サミールオカーシャ『科学哲学』岩波書店 (2008)  
2. 伊勢田哲二『疑似科学と科学の哲学』名古屋大学出版会 (2003)  
この他の参考文献は、必要に応じて随時紹介します。

■**成績評価基準と方法**：授業内課題50%、期末レポート50%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業内レポート	○	◎	○	各回の授業のポイントを理解したか。 自分なりに考える姿勢があるか。	50
期末レポート	○	○	◎	これまでの授業の内容を踏まえて、自分の考えを深め、表現しているか。	50
授業態度				質問、積極的な発言を歓迎します。 迷惑行為は禁止。	
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

## ■関連科目：

■**その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：科学の特定の分野についての特別な知識は、とくに前提としません。自分と関係のないものとしての科学ではなく、科学に関する問題を自分に引きつけて考え、今後役に立てて貰うことが目的です。講義形式で行いますが、質問や積極的な発言を歓迎します。毎回授業中に小レポートを書いて、授業の終わりに提出して貰います。受講者と関係のあるトピックをより多く紹介するために、受講者がデザイン・看護どちらか一方の学生の場合など、講義の時間配分を多少変更する場合があります。

# 札幌を学ぶ

選 択

開講年次：1年次前期

科目区分：講 義

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：札幌市が取り組む政策や地域課題を中心に、札幌の地域特性や道都としての札幌と北海道各地との関係、地域がかかえる問題や課題を学び考える。札幌市より、市長をはじめ各担当者をゲストスピーカーとして招き、お話を聞き、学生との意見交換を行う。科目責任者はゲストスピーカーの紹介、ファシリテーター、学生への情報提供と評価を担当する。

■**到達目標**：①地域社会に対し興味・関心を持つ  
②様々な分野の方々の話を注意深く聞き理解する姿勢と能力を身に付ける  
③適切なコメント・質問をする能力を身に付ける。

■**担当教員**：町田 佳世子

## ■授業計画・内容：

- 第1回 【プロローグ】札幌の学び方 授業の進め方 (科目担当者)
- 第2回 【未来】街が変わる、SAPPOROの街が (札幌市長)
- 第3回 【地域福祉】市民の支え合いによる地域社会～地域福祉社会計画・福祉のまち推進事業 (保健福祉局)
- 第4回 ～特別講義となります～
- 第5回 【介護】札幌市の高齢者施策～地域包括ケアシステム構築にむけた取組 (保健福祉局)
- 第6回 【スポーツ】冬季オリンピック・パラリンピックの招致 (スポーツ局)
- 第7回 【みどり】さっぽろのみどりづくり (建設局)
- 第8回 【子育て】子育て家庭の現状と子育て支援の必要性 (子ども未来局)
- 第9回 【国際化】札幌市の国際化～これからの海外との関係を考えよう (総務局)
- 第10回 【広報】笑顔をキーワードとしたシティプロモート～札幌の魅力を伝えるために (総務局)
- 第11回 【観光】観光の現状と観光まちづくりプラン (経済観光局)
- 第12回 【共生】誰もが自分らしく生きられる街SAPPORO～共生社会の街づくりに向けて (学外講師)
- 第13回 【環境】持続可能な環境都市・札幌を目指して (環境局)
- 第14回 【産業】札幌市の産業振興施策～産業の力で札幌を元気に! (経済観光局)
- 第15回 【都市計画】さっぽろの都市計画～これからの都市づくりについて (まちづくり政策局)

\*1 講義の内容や順番は、講師の先生方の都合により変更になる場合がある。その場合は事前に通知する。

■**事前・事後学習**：各回のテーマを参考に、講義前に各自が、新聞や札幌市のHPなどを活用して札幌市がどのような取組を行っているのかを調べておくこと。講義後は、講義を通して知った札幌市の現状・施策をもとに、それぞれの専門科目や連携科目の中で自分たちがどのような取組ができるのかを考えること。

■**教科書**：当日資料を配付する場合がある。講師の先生が授業で使用使用するパワーポイントは著作権の関係もあり、電子ファイルでの公開はできないので、当日の配布資料など参考にしっかりメモを取ること。

■**参考文献**：同上。必要に応じて関連する参考文献やリンクの情報を提供する。

■**成績評価基準と方法**：3分1以上（6回以上）欠席すると不合格となる。各回の講義内容に関する課題をポータルシステムで提出、5点満点で評価し、その合計点を100点満点に換算し、上記の到達目標の達成度を評価する。欠席した回は、課題をポータルシステムで提出しても評価の対象とならない。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度		◎		居眠り・おしゃべりなどの受講態度は減点の対象となります。	3回注意を受けると合否判定に大きく影響します。
発表					
課題・作品	◎	◎	◎	ポータルで出す課題の回答を評価(5点満点)。全課題の合計点を100点満点に換算する。	100%
出席	○			6回以上欠席すると不合格となります。	
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：地域連携科目

## ■その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）：

ゲストスピーカーの講義が教科書がわりになるので、話をじっくり聞き理解することが大切です。そのためには講義の中のキーワードや重要なメッセージを意識し、自分にとってこの講義は必ず参考になるところがある、だからそれを見つけるという気持ちで聞くことが有効です。また札幌市の課題に日々取り組む方達が講師としていらっしゃいますので、いつも以上にきちんとした態度で接し、居眠り、おしゃべりなど失礼のないようにして下さい。

授業では、後半の30分程度を講師の先生との質疑応答に当てる予定です。貴重な機会ですので、わからないことや自分のアイデアがあれば、手を挙げて積極的に参加しましょう。

# 英語IA

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：高校までに習得した英語の基礎的な読解力をさらに発展させることを目標とする。ここでは様々なトピックに関する比較的平易な英文を読みながら、英文読解力、語彙力の向上を目指す。進捗によっては、他の題材から選んだ英文を副教材とし英語力の更なるレベルアップをはかる。

■**到達目標**：

- ①比較的平易なレベルの英文を、的確に文の内容、論理展開を把握しながら、一定のスピードで読む力を習得する。
- ②英語の文章を読むための様々なスキルを習得する。

■**担当教員**：

清水 香 佐川 萌東子 赤間 荘太

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1: Animals in Zoos
- 第3回 Chapter 1: Animals in Zoos
- 第4回 Chapter 2: Security Cameras
- 第5回 Chapter 2: Security Cameras
- 第6回 Review<sup>注1)</sup>
- 第7回 Chapter 3 — Chapter 8のいずれか<sup>注2)</sup>
- 第8回 Chapter 3 — Chapter 8のいずれか
- 第9回 Chapter 3 — Chapter 8のいずれか
- 第10回 Chapter 3 — Chapter 8のいずれか
- 第11回 Chapter 3 — Chapter 8のいずれか
- 第12回 Chapter 3 — Chapter 8のいずれか
- 第13回 Chapter 3 — Chapter 8のいずれか
- 第14回 Chapter 3 — Chapter 8のいずれか
- 第15回 Chapter 3 — Chapter 8のいずれか

注1) 授業の進行状況により、Reviewの回が前後する場合もある。

注2) Chapter 3 - Chapter 8のどのChapterを行うかは、クラスの状況により担当教員が判断する。

■**事前・事後学習**：事前に単語の意味・発音を調べ、テキストの内容を把握しておくこと。そして音声を参考に十分音読をしておくことが求められる。授業後は学習した内容を復習し、新規の語彙や有用な構文は自分なりの方法で定着するようにし、ライティングやプレゼンテーションで活用できるようにする。予習・復習の所要時間には個人差があるが、数時間が必要である。

■**教科書**：Taking Sides: Opinions For and Against Asahi Press その他資料等は適宜授業で配布する。

■**参考文献**：担当教員より授業初回において指示する。

■**成績評価基準と方法**：出席状況、課題提出、試験の結果などから総合的に評価する。出席：10%（出席点5%と8月に実施されるTOEIC Listening & Reading IPテストの受験5%が合算される）平常点（課題、小テスト、クイズ等）40% 定期試験：50%

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験	◎	◎	語彙力、読み取りの的確さおよび読解のスピードを総合的に判断する。	50
小テスト・課題・中間試験等	◎	◎	語彙力、読み取りの的確さおよび読解のスピードを総合的に判断する。	40
出席			2/3以上の出席と8月に実施されるTOEIC IPテストの受験(授業の出席が2/3に満たない場合、定期試験の受験資格を失い、単位を修得することができません)	10
その他			遅刻3回で欠席1回とみなす	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：英語に関する全ての科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業には予習をして、辞書持参で出席すること。辞書に関しては英和中辞典以上の内容のものを使用すること（電子辞書も可、ただし携帯電話、スマートフォン、タブレット端末の辞書機能は不可）。実用英語力の向上、資格取得及び前期終了時点での総合的な英語力の診断のために、8月に全学生にTOEIC Listening & Reading IPテストを実施する予定である。それに備えて積極的に自ら勉強に取り組むこと（TOEIC実施に関する説明は授業等で行なう）。その他に関しては担当教員より指示する。

# 英語IB

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：高校までに習得した文法を再確認するとともに、英文の構造を理解しながら、英語でコミュニケーションをするために必要な作文力を身につける。また、ある程度まとまった内容を英語で表現するために必要なパラグラフの書き方を、ブレインストーミングなどの基礎から学び、論理的かつ明晰な英文を書くために必要な英文の構成の仕方を学ぶ。

■**到達目標**：①センテンス・レベルからの作文の練習から始め、パラグラフ程度の長さのまとまりのある内容を英語で表現できるレベルの力を習得する。  
②高校までに学習した英文法の知識をより深め、英作文に応用できる力を習得する。  
③パラグラフを書くためのプロセスを学び、英文パラグラフの論理構成、展開方法を理解する。

■**担当教員**：

町田 佳世子 松井 美穂 白土 淳子 鈴木 一生

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ライティングのための文法
- 第3回 ライティングのための文法
- 第4回 Chapter 1: Introducing Yourself 定義
- 第5回 Chapter 4: Different Varieties of English パラグラフの書き方
- 第6回 Chapter 4: Different Varieties of English パラグラフの書き方
- 第7回 Chapter 4: Different Varieties of English パラグラフの書き方
- 第8回 Chapter 7: Introducing Your Hometown プロセス・ライティングとは
- 第9回 Chapter 7: Introducing Your Hometown プロセス・ライティングとは
- 第10回 Chapter 2: Writing a Story by Yourself 出来事や経験を語る
- 第11回 Chapter 2: Writing a Story by Yourself 出来事や経験を語る  
～Chapter 3: Writing Your Own Recipe 手続きや手順の説明
- 第12回 Chapter 3: Writing Your Own Recipe 手続きや手順の説明
- 第13回 Chapter 5: Describing Interesting People and Places 描写
- 第14回 Chapter 5: Describing Interesting People and Places 描写
- 第15回 まとめ

■**事前・事後学習**：授業の終わりに次回の内容を指示するので、それに従って予習をしておくこと。授業後は、学習内容が定着するように十分復習し、小テストあるいは試験のために準備をしておくこと。予習・復習の所要時間には個人差があるが、数時間が必要である。

■**教科書**：Writing Frontiers 金星堂

その他資料等は適宜授業で配布する。

■**参考文献**：担当教員より初回授業において指示する。

■**成績評価基準と方法**：出席状況、課題提出、試験の結果などから総合的に評価する。出席：10% 平常点（課題、小テスト、中間試験等）40% 定期試験：50%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	○	文法力、文章構成力等を総合的に見て判断する。	50
小テスト・課題・中間試験等	◎	◎	◎	英作文の課題においては、学んだことが英作文にきちんと反映されているかどうかを確認する。課題は必ず提出すること。	40
出席				2/3以上の出席(出席が2/3に満たない場合、定期試験の受験資格を失い、単位を修得することができません)	10
その他				遅刻3回で欠席1回とみなす	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：英語に関する全ての科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業には予習をして、英和／和英辞書持参で出席すること。辞書に関しては英和辞典以上の内容のものを使用すること（電子辞書も可、ただし携帯電話、およびスマートフォンの辞書機能は不可）。実用英語力の向上、資格取得及び前期終了時点での総合的な英語力の診断のために、8月に全学生にTOEIC Listening & Reading IPテストを実施する予定である。それに備えて積極的に自ら勉強に取り組むこと（TOEIC実施に関する詳細は授業等で説明する）。その他に関しては担当教員より指示する。



# 英語IC

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：英語による口頭でのコミュニケーション能力の基礎習得を目標とする。伝えたいことを正確に英語で表現する力を身に付けるとともに、英語で自分の意見を発信する能力を養う。CD等の教材を使用し、リスニング力の向上に努めながら、日常の英会話で必要な表現力についても学ぶ。

■**到達目標**：①ある程度まとまった内容を口頭で表現できる。  
②英語でのプレゼンテーション能力の基礎力を身に付ける。

■**担当教員**：

山田 パトリシア バマイ モクター

■**授業計画・内容**：

第1回 Orientation

第2回 Learn the basics of presentation (Part I)

第3回 Unit 1 Health (health habits, smoking, nutrition)

第4回 Unit 1 Health (health and safety, life and death)

第5回 Unit 2 Animals (animal rights, endangered species)

第6回 Unit 3 Fashion (fashion excess, image and the language of fashion)

第7回 Unit 3 Fashion (eating disorders)

第8回 Unit 4 Family (raising children, discipline, extended families)

第9回 Unit 4 Family (family relationships, divorce)

第10回 Unit 5 Culture (cultural misunderstandings, experiencing a new culture)

第11回 Unit 5 Culture (preserving traditional culture)

第12回 Learn the basics of presentation (Part II)

第13回 Preparation for the group presentation

第14回 Preparation for the group presentation

第15回 Final Exam (group presentation)

\*スケジュールは事情により変更の可能性もある。

■**事前・事後学習**：指定された部分の英文について、単語の意味、発音を調べておくこと。特に発音は電子辞書などで音声聞いて確認し、何度も口頭練習をしておくこと。事後は英文を音声に合わせて何度も口頭練習すること。

■**教科書**：TOPIC TALK ISSUES (Second Edition) EFL Press

■**参考文献**：授業中に担当教員が指示する。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験	◎	◎	トピックの理解力、発表能力、思考の流暢さ、文法、発音などを総合的に判断する	50
授業態度	◎	○	積極的な姿勢	30
発表	◎	○	自らの考えや意見を発表することを重視する	
課題・作品	○	○		10
出席			2/3以上の出席(出席が2/3に満たない場合、定期試験の受験資格を失い、単位を修得することができません)	10
その他			遅刻3回で欠席1回とみなす	

◎：特に重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：英語に関する全ての科目

■**その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：この授業は英語のネイティブ・スピーカーの教員により、すべて英語で行なわれる。辞書を必ず持参すること。また授業中の積極的な発言が評価の対象になることに留意すること。

# 日本語表現法

選 択

開講年次：1年次前期

科目区分：演 習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：言語表現に関する基本的な学術用語を学び、多角的に考える為の基礎知識を培う。その上で、適切な日本語表現とは何かについて正しく理解するとともに、実践的な文章表現力を身に付ける。

■**到達目標**：①言葉をめぐる様々な概念を理解し、適切に応用できる。  
②様々な文章の性質を理解し、それぞれの約束事に沿った文章を執筆できる。

■**担当教員**：

安永 立子

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション／「レポート」とは／文章作成の基本
- 第 2 回 「話し言葉」と「書き言葉」／論文の語彙
- 第 3 回 説明的文章の方法（1）／知識や情報を伝える
- 第 4 回 説明的文章の方法（2）／「カテゴリー」とは／  
…レポート実作①「説明文」を書く
- 第 5 回 レポートの基本的構成／発想から文章へ（1）
- 第 6 回 レポートを組み立てる／資料の集め方／引用書誌情報の記し方／引用と要約／段落について
- 第 7 回 レポート実作②「問題提起のある文章」個人指導
- 第 8 回 発想から文章へ（2）／賛否両論を想定する
- 第 9 回 論文の構造／賛否両方の論を書いてみる
- 第10回 事実と意見の違い／アウトラインの作り方
- 第11回 レポート実作③「主張文」個人指導
- 第12回 「隠れた前提」とは／「反論」を組み立てる
- 第13回 「要約」の方法／論文的な文体とは
- 第14回 「論理的」ということ／データを読み取る
- 第15回 敬語について／手紙文、メール文の定型を学ぶ  
…レポート実作④「手紙文」を書く

■**事前・事後学習**：

予習について：授業の終わりに次回の授業テーマについて触れ、授業までに事前に調べておく事柄を予習のポイントとして指示します。

復習について：授業中に授業内容に即した形で家庭学習として取り組むべき課題を適宜指示します。

■**教科書**：教科書は使わず、授業毎にワークシートを配布する。

■**参考文献**：授業中にその都度、紹介する。

■**成績評価基準と方法**：授業内レポート・課題レポート（4割）、出席・授業態度（6割）

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験				
授業内レポート	◎	◎	授業内容を理解している事 指定を遵守して執筆している事	10
授業態度	○	○	積極的な参加	適宜加味する
発表				
課題・作品	◎	◎	授業内容を理解している事 指定を遵守して執筆している事	30
出席	◎	◎	2/3以上の出席 授業内で指示された課題を出席票に適切に 記入できる事	欠格条件 60
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：この講義は単純な文章の書き方講座ではなく、言葉の本質について考えることも重視している。授業には辞書（電子辞書も可）を毎回、携帯すること。

# 日本語表現法

選 択

開講年次：1 年次前期

科目区分：演 習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：文章を作成する上で必要な約束事を理解し、論理的な表現を行うための基礎を養う。その上で、実際にレポートの作成を行いながら、必要な文章表現力の向上を目指す。

■**到達目標**：①文章作成における基礎的事項を理解し、適切に応用できる。  
②様々な文章の性質を理解し、それぞれの約束事に沿った文章を執筆できる。

■**担当教員**：

斎木 正直

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 論理的文章の表現
- 第 3 回 文章の構造
- 第 4 回 文章の要約／レポート①
- 第 5 回 レポート作成の手順
- 第 6 回 データ・図の利用／資料の活用
- 第 7 回 文章の引用／注の使用／参考文献の利用
- 第 8 回 文章の構成／レポート②
- 第 9 回 表記のきまり／表記の統一
- 第10回 言葉の選択／読みやすい文章とは
- 第11回 事実と意見
- 第12回 文章の組立／レポート③
- 第13回 文章の推敲
- 第14回 敬語表現
- 第15回 まとめ／レポート④

■**事前・事後学習**：授業の各回でレポートを作成する時間を設けるが、レポート作成のための参考文献探しは授業時間外に行ってもらうため、その点は留意すること。

■**教科書**：教科書は使わず、授業毎にレジュメを配布する。

■**参考文献**：必要に応じて、適宜指示する。

■**成績評価基準と方法**：授業内レポート（4割）、出席・授業態度（6割）

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験				
小テスト・授業内レポート	◎	◎	授業内容を理解している事 指定を遵守して執筆している事	40
授業態度	○	○	積極的な参加	適宜加味する
発表 作品				
出席	◎	◎	2/3以上の出席 出席票に授業内で指示された課題を適切に 記入できる事	欠格条件 60
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：受講者には文章作成における基本を理解した上で、文章表現力の向上を目指してほしい。授業ではレポートを作成する時間を設けるので、辞書類は携帯すること。

# 日本語表現法

選 択

開講年次：1年次前期

科目区分：演 習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：文章作成の基礎と文章表現の技法を学び、「書くこと」および「書かれたもの」への知識と理解を深め、さまざまな種類の文書に対応しうる日本語での文章表現力を身につける。

■**到達目標**：さまざまな種類の文書における文章作成の方法と文章表現技法の基礎を理解し、適切な日本語の文章が作成できる。

■**担当教員**：

平野 葵

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 学術的な文章
- 第 3 回 文章の要約
- 第 4 回 原稿用紙の使い方／レポート①
- 第 5 回 事実と意見
- 第 6 回 論文・レポートの構成
- 第 7 回 資料の引用
- 第 8 回 文章の推敲／レポート②
- 第 9 回 敬語表現
- 第10回 メールと手紙
- 第11回 小論文の作成（1）
- 第12回 小論文の作成（2）／レポート③
- 第13回 文章の技法
- 第14回 書くことと書かれたもの
- 第15回 学習のまとめ／レポート④

■**事前・事後学習**：

予習について：前回配布された資料を確認し、課題・レポートに備える。

復習について：返却された課題・レポートのコメントを確認して改善すべき点を把握し、配布資料を参照しつつ適宜修正を行い、文章力向上をはかる。

■**教科書**：教科書は使わず、授業毎に資料を配布する。

■**参考文献**：必要に応じて、適宜指示する。

■**成績評価基準と方法**：授業内レポート（6割）、出席・授業態度（4割）

評価方法	到達目標	評価基準	評価割合(%)
定期試験			
小テスト・授業内レポート	◎	授業内容を理解している事 指定された条件を守って執筆している事	60
授業態度	○	積極的な参加	適宜加味する
発表 作品			
出席	◎	2/3以上の出席 課題を出席票に適切に記入できる事	欠格条件 40
その他			

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業中に文章作成の時間を設けるため、毎回辞書（電子辞書可）を携帯すること。

# 日本語表現法

選 択

開講年次：1 年次前期

科目区分：演 習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：文章に関する知識や文章を作成する方法を学び、一人一人がより適切な日本語表現ができるようになるための基礎力を養う。その上で、数回（4回を予定）のレポートの作成を通じて、レポートを作成する時に必要な手順や思考方法を身に付けることを目標とする。

■**到達目標**：①文章作成の基本的な技能を身に付ける。  
②標準的なレポートの作成方法や考え方を理解し、レポートが執筆できる。  
③文章の多様性を知り、それぞれの約束事に沿った文章を書くことができる。

■**担当教員**：

齊田 春菜

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション／日本語表現・レポートの役割
- 第 2 回 話し言葉と書き言葉
- 第 3 回 文章の読み方／要約の方法
- 第 4 回 コミュニケーションとしての文章／「読み手本位の文章」／【課題 レポート①】
- 第 5 回 レポートの執筆手順
- 第 6 回 引用のマナー／注釈の方法
- 第 7 回 数値データと図表の活用／資料収集と活用
- 第 8 回 事実と意見／先行研究について／【課題 レポート②】
- 第 9 回 問いと答えを切り出す／論証
- 第10回 アウトラインの作り方
- 第11回 アウトラインからパラグラフへ
- 第12回 書いた文章を見直す／推敲方法／【課題 レポート③】
- 第13回 文章を整える／表記のきまり／表記の統一／文末の表現
- 第14回 日本語の敬語の論理／手紙文・メールの形式を知る
- 第15回 総まとめ／【課題 レポート④】

■**事前・事後学習**：第1回はシラバスの内容を確認のうえ授業に臨むこと。第2回以降は受講する回のシラバス記載の内容を確認することを推奨する。受講後は、配布資料を復習しながら授業内容の理解を深め、全4回のレポート執筆に向けて準備をすること。課題レポート①～③は、講義の中で返却をするため、返却後は必ず読み返すこと。他、レポート以外の課題やワークについては、講義の中で指示をする。

■**教科書**：教科書は使わず、授業毎に資料を配布する。

■**参考文献**：講義中にその都度、紹介をする。

■**成績評価基準と方法**：授業内レポート（4割）、出席・授業態度（6割）

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎	◎	◎	授業内容を理解している事 指定を遵守して執筆している事	40
授業態度	○	○	○	積極的な参加	適宜加味する
発表 作品					
出席	◎	◎	◎	2/3以上の出席 授業内で指示された課題を適切に 記入できる事	欠格条件 60
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：この授業は、説明を聞くだけでなく実際に文章を書く時間があるため、能動的態度で授業に参加し、全ての課題に取り組むことを期待している。原則全4回のレポート課題は必ず提出すること（期限内に課題を提出しない場合は、減点の対象となるので注意すること）。授業には辞書（電子辞書も可）を毎回、携帯すること。

# 基礎カウンセリング

選 択

開講年次：1年次前期

科目区分：演 習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：カウンセリングは、適応上の課題を有する個人が、専門家の援助を受けながら自ら課題解決を図る過程です。本講義では、カウンセリングに関する基礎的な知識として、カウンセリングが必要となる心理的な状況や症状、カウンセラーの役割などについて、ロールプレイ等の体験もふまえながら理解を深めることを目的としています。

■**到達目標**：①カウンセリングの基本的な考え方を理解すること。  
②カウンセリングにおける応答について体験を通して理解すること。  
③様々な対象・状況におけるカウンセリングの方法を理解すること。

■**担当教員**：

小坂 守孝

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 カウンセリングとは何か
- 第 2 回 カウンセリングの基礎理論：来談者中心療法
- 第 3 回 カウンセリングの基礎理論：精神分析理論・行動理論
- 第 4 回 カウンセリングの実例
- 第 5 回 ロールプレイの方法
- 第 6 回 カウンセリングの流れ（初回面接・継続面接・終結）
- 第 7 回 気づきのためのコラージュ体験
- 第 8 回 カウンセリングにおける応答のしかた
- 第 9 回 ロールプレイ体験#1
- 第10回 対象別カウンセリングの特徴
- 第11回 カウンセリングと精神医学
- 第12回 医療現場におけるカウンセリング
- 第13回 ロールプレイ体験#2
- 第14回 認知・行動とカウンセリング
- 第15回 ト라우マとカウンセリング

■**事前・事後学習**：受講前については、各回の授業の終わりに次回の授業テーマに触れ、内容に応じて予習のポイントを指示します。受講後は配布資料などを復習しながら授業内容の理解を深め、可能な限り参考文献の該当部分も一読されることをお勧めします。

■**教科書**：特に用いません。必要に応じてプリント等を配布します。

■**参考文献**：前田重治（編）「カウンセリング入門：カウンセラーへの道」有斐閣選書  
河合隼雄「河合隼雄のカウンセリング入門：実技指導をととして」創元社

■**成績評価基準と方法**：講義で取り上げた理論に基づき自らの実習体験を振り返ることができ、その内容がレポートに反映されていることが求められます。出席状況を含めた授業態度（30%）、講義内の小レポート（30%）、学期末レポート（40%）により評価します。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎		◎	学期末レポート	40
小テスト・授業内レポート	○	○		自己の体験を客観視でき、その内容を文章化できること	30
授業態度		○		講義・ロールプレイ体験への積極的参加	30
発表					
課題・作品					
出席				2/3以上の出席	(欠格条件)
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

カウンセリングを理解するには、文献上の知識だけではなく体験的な学習も必要です。毎回出席することは勿論のこと、ロールプレイ体験への積極的参加を望みます。

# 情報リテラシーI(デザイン)

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：演習

単 位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：様々なデジタル情報を扱うための基礎的事項を学習した上で、コンピュータを利用したデザイン作業において一般的に用いられるフォトレタッチソフト及びドロー系ソフトの基本な活用方法を学習します。適切な画像データの作成方法、正しい印刷データの作成方法などを学び、表現ツールとして自由に使いこなすための基礎力を身につけます。

■**到達目標**：①デジタルデザインに不可欠なソフトウェアをデザインツールとして自由に使いこなす能力を身に付けること。  
②デザイン制作に関連する知識を習得すること。

■**担当教員**：

大淵 一博

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション／Macの基本操作
- 第2回 Illustrator基礎①（オブジェクト）
- 第3回 Illustrator基礎②（パス）
- 第4回 Illustrator基礎③（テキスト）
- 第5回 Illustrator基礎④（グラフィック）
- 第6回 課題1制作（ラフデザイン）
- 第7回 課題1制作（デザインの仕上げ）
- 第8回 デジタルデータ基礎①（情報数学・情報量）
- 第9回 デジタルデータ基礎②（色・解像度）
- 第10回 Photoshop基礎①（画像の調整）
- 第11回 Photoshop基礎②（画像の変換）
- 第12回 Photoshop基礎③（選択範囲／レイヤー）
- 第13回 ソフトウェア間の連携
- 第14回 課題2制作（ラフデザイン）
- 第15回 課題2制作（デザインの仕上げ）・試験オリエンテーション

■**事前・事後学習**：PCの基本操作については事前にある程度習得しておくこと。課題については、コンセプトの検討やラフスケッチなど事前の検討作業が必要となります。また、素材データの収集、課題制作など授業時間外の作業が必要となります。また授業内容の理解度を測るため、学期末試験を課します。このため、試験内容に関する学習が必要となります。

■**教科書**：使用しません。適宜資料を配布します。

■**参考文献**：『大学生の情報基礎』（日経BP社）

『Photoshop しっかり入門』、『Illustrator しっかり入門』（SBクリエイティブ）

■**成績評価基準と方法**：定期試験、課題、出席状況、授業態度を総合的に評価します。また、最終期限までにすべての課題が提出されない場合には、単位が認められません。また、出席数が全体の2/3に満たない場合にも単位が認められません。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験		◎	授業内容のポイントを理解していること。	30
課題	◎	◎	授業内容のポイントを理解し、条件に従って適切に制作していること。 期日までに提出されていること。	70
出席			2/3以上の出席。遅刻、欠席は全体の評価から減点します。	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：情報リテラシーII、デザインと数学、Webデザイン

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：定期試験と各課題の評価を総合的に集計して全体評価とします。課題期限に遅れた場合には、評価が減点されますので、注意してください。授業ではMacintoshを使用します。

# 情報リテラシーI(看護学部)

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：演習

単 位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：この授業は、看護学や就職活動で必要とされる様々な形式の文書を作成しながら、WordとPower Pointの使い方を学ぶとともに、資料収集や情報整理の仕方、基本的なルールやマナーを身につけることを目的としている。

■**到達目標**：①WordやPower Pointを用いたレポートの書き方を身につけることができる。  
②資料収集のしかたや論文の書き方の基本を学び、作成することができる。  
③情報リテラシーのルールやマナーの基本を身につけることができる。

■**担当教員**：

杉野 佑太

■**授業計画・内容**：

- 第1回 環境設定（PCアカウントやメールアカウントの確認）
- 第2回 Wordの基本的な操作（1：文字の入力と編集）
- 第3回 Wordの基本的な操作（2：各種設定の仕方）
- 第4回 Wordの基本的な操作（3：図や表の作成と挿入）
- 第5回 情報モラル&情報セキュリティ（1：資料のまとめ）
- 第6回 情報モラル&情報セキュリティ（2：発表用文書の作成）
- 第7回 情報モラル&情報セキュリティ（3：プレゼンテーションの作成）
- 第8回 情報モラル&情報セキュリティ（4：発表）
- 第9回 論文形式の文書を作成する（1：適切な様式を身につける）
- 第10回 論文形式の文書を作成する（2：文献の引用の仕方を身につける）
- 第11回 総合（1：発表に向けたテーマ設定・情報収集）
- 第12回 総合（2：発表用文書の作成）
- 第13回 総合（3：プレゼンテーションの作成）
- 第14回 総合（4：発表）
- 第15回 総合（5：発表・全体の振り返り）

■**事前・事後学習**：授業前に教科書の該当部分に目を通し、Word、PowerPointの操作方法についてあらかじめ確認しておくこと。また、発表に向けた情報の収集や資料の作成は、授業時間外に行う必要がある場合もある。

■**教科書**：『情報リテラシー 情報モラル&情報セキュリティ Windows9.1 InternetExplorer11 Word Excel PowerPoint2013』（FOM出版） そのほか、必要に応じて資料を配布します。

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：授業内課題の提出、および、発表に基づいて評価を行う。

評価方法	到達目標①～③	評価基準	評価割合(%)
定期試験			
小テスト・授業内レポート	◎	書式やルールを守る。	20
授業態度			
発表	◎	グループごとにプレゼンテーションを行う。 自己評価および他者評価をする。	20
課題・作品	◎	期限内に課題をきちんと提出する。 授業内容のポイントを理解している。	60
出席		2/3以上の出席が必要となる。	欠格条件
その他			

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：情報リテラシーII

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：教科書のほか、必要な資料は授業内で適宜配布します。

授業では毎週のように課題を出します。課題の指示に従わない場合、期限内に課題を提出しない場合は、減点の対象となります。パソコンはWindowsを使用します。授業内ではWordとPower Pointを主に使用しますが、一部Excelを使用することもあります。



# 宗教と思想

選 択

開講年次：1年次後期

科目区分：講 義

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：宗教と思想はそれぞれ、「信じること」と「考えること」として、互いに異質な営みであるように見えます。実際、「神さま信じるのって、自分の頭で考えられない人じゃない?」と言う人もいますでしょう。しかし、そんなふう簡単に宗教を斬って捨ててしまう前に、様々な宗教のなかで生まれ、継承されてきたものの見方に、目を向けてみてはどうでしょう。そこには人間とは何か、生命とは何か、といった根源的な問いに関わる思想の結晶が、ふんだんにかくされています。この講義では、そのような「宗教の思想」を、身近な話題や関連する映画の紹介を織り交ぜて、様々な角度から解説していきます。

## ■到達目標：

- ①キリスト教、イスラーム、仏教をはじめとする諸宗教の成り立ちと基本思想についての最小限の知識の習得。
- ②自らの宗教観の偏り（これは誰しも免れえない）を自覚し、異なる信念の持ち主の間にも絶えず共感の糸口を探そうとする姿勢の形成。
- ③日々接する現象や情報の中に隠れている宗教との接点を鋭く見だし、その含意を丁寧に読み解いていく姿勢の形成。

## ■担当教員：

堀 雅彦

## ■授業計画・内容：

- 第1回 イントロダクション：そもそも「宗教」って、何？
- 第2回 宗教の思想と「看護」「デザイン」の接点とは？
- 第3回 世界の宗教分布と日本人の「無宗教」について
- 第4回 キリスト教の成り立ちと思想の基本
- 第5回 現代キリスト教の風景
- 第6回 映画の中のキリスト教
- 第7回 イスラームの成り立ちと思想の基本
- 第8回 現代イスラームの風景
- 第9回 映画の中のイスラーム
- 第10回 仏教の成り立ちと思想の基本
- 第11回 現代仏教の風景
- 第12回 映画の中の仏教
- 第13回 日本宗教史のアウトライン
- 第14回 スピリチュアル文化と「宗教的なもの」のゆくえ
- 第15回 まとめと質疑応答

## ■事前・事後学習：

- 予習：次回分のハンドアウトを配布するので、目を通して疑問点などをメモしておきましょう。
- 復習：授業で使用したハンドアウトとノートを見ながら、自分なりの問題関心に基づいて情報収集や考察を進め、以後の授業の理解やレポート作成の準備につなげていきましょう。

■**教科書**：特に指定せず、授業中にハンドアウトを配布します。

■**参考文献**：授業の中で適宜紹介します。

■**成績評価基準と方法**：授業内レポート（感想、質問など）50%、学期末レポート50%。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業内レポート	◎	◎	○	授業内容の基本的な理解はもちろん、自ら考え、学ぼうとする姿勢が感じられること。	50
学期末レポート	○	○	◎	大枠の課題に従って自らテーマを設定して論述。自由度は高いが、授業内容、および最小限の資料を踏まえた説得的な議論が求められる。	50
出席				10回以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

## ■関連科目：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：何かを信じることを勧めるものではありませんので、その点は安心(?)してください。私たちが宗教から受け取るべきは答えではなく、むしろ問いなのです。

# 芸術と文化

選 択

開講年次：1年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：本講義は、西洋美術史の重要な作品をいくつか取り上げて、その歴史的背景を踏まえながら解説していきます。絵画を中心に取上げますが、建築や工芸品、ファッションなどその時代の特色を示すさまざまなジャンルの作品も見していきます。

講義では、実際に作品の写真図版を見ながら、どのようなモチーフが描かれているのか、形や色彩、構図などから具体的に分析を行います。入門的なコースですので、美術史の方法論（様式論、図像学、図像解釈学）について最初の講義で説明し、それら方法論を使って、実際に分析する練習をします。教官と学生が一緒に考えながら分析を進めます。講義が終わるころには、皆さんは分析作業の手順が身につけていることでしょう。

さらに作品の意味を探るために、美術的な知識だけではなく、歴史学、宗教史、科学思想史、ジェンダーなど隣接諸学の学問成果を踏まえながら、いわゆる学際的なアプローチで芸術の歴史をとらえ直します。これによって、美術というものがじつはわたしたち人間の歴史を紐解くような大切な史料であることを実感されるでしょう。

最終的に、皆さんが身の回りに起きている社会的事象に対して、敏感かつ多面的な角度から理解し、解決方法を探る力を身につけ、知の実践者となっていくことが最大の目標となります。

■**到達目標**：①美術作品を分析するための方法論（様式論、図像学、図像解釈学）の理解とトレーニング。

②専門用語・専門知識の習得、およびイメージ・リテラシー（図像の読み方）を学ぶ。

③実際に自分たちの力で図像分析し、敷衍して社会や歴史的な事象を分析的に見直す知を身につける。

■**担当教員**：望月 由美子

## ■授業計画・内容：

第1回 オリエンテーション：イメージの歴史を学ぶことの意義と方法論

第2回 ルネサンスの芸術革新 — 人間感情の誕生

第3回 ルネサンスの芸術革新 — 遠近法の発明と空間の誕生

第4回 盛期ルネサンスの美術：レオナルド・ダ・ヴィンチの世界観

第5回 北方ルネサンス：宗教改革前夜のネーデルランド絵画①

第6回 北方ルネサンス：宗教改革前夜のネーデルランド絵画②

第7回 バロック美術：対抗宗教改革期におけるカトリック教会の喧伝芸術様式

第8回 ディスクリプション作業

第9回 バロック美術：オランダ市民絵画におけるヴァニタス（はかなさ）の寓意

第10回 バロック美術：ヴェルサイユ宮殿と太陽王ルイ14世のセルフイメージ

第11回 ロココ美術：愛妾ボンパドール夫人の時代と文化

第12回 ロマン主義の美術：フランス革命期の疾風怒濤の時代とヨーロッパ絵画

第13回 19世紀リアリズム、ラファエロ前派：産業革命期のヨーロッパ絵画

第14回 印象派

第15回 指輪物語～リングの歴史と思想について

■**事前・事後学習**：（予習）授業の終わりに次回分析する主要な美術作品・作者について触れ、事前に確認しておく点を指示します。（復習）その日に学んだ専門用語ならびに方法論を整理し、記憶し、説明できるようになることが求められます。参加型授業の形式をとるため、既習内容について頻りに学生に質問しながら授業が進行します。尚、定期試験（図像分析レポート）の他に、中間レポートを課すため、講義時間外の作業も必要となります。

■**教科書**：無し。授業毎にレジュメを配布します。

■**参考文献**：必要に応じて適宜お伝えします。

■**成績評価基準と方法**：基本的に図像分析の課題と講義終了時のレポート形式の試験で評価します。欠格条件は、出席回数が規定回数（10回以上）を下回った場合と、講義中の携帯使用など授業態度に著しく問題がある場合などに適用されます。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	専門用語、様式の見方、作品分析の手順の理解度、および実際の分析内容を見て総合的に判断します。	70
課題	◎	○		ディスクリプションの精度によって評価します。	30
授業態度				積極的な発言など	授業中の携帯電話やPCの使用など、電子機器使用者は欠格条件となる。
出席				10回以上の出席 遅刻3回で1回欠席とみなす	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

# 心のしくみ

選 択

開講年次：1年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：多岐にわたる現代心理学の諸領域を概観し、人間の心理と行動についての基礎を学ぶ。また、日常生活のさまざまな場面・状況における人間の行動を、心理学の知識や理論に基づいて理解する。

■**到達目標**：①心理学諸領域の代表的な研究・理論を概観し、心理学全般についての知識を得る。  
②講義で紹介した心理学の知識や理論に基づいて、人間の行動全般を理解・考察できるようになる。

■**担当教員**：

岸 靖亮

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション：「こころ」とは何か？
- 第 2 回 心理学の歴史：「こころ」はどのようにとらえられてきたのか
- 第 3 回 心と身体機能：「こころ」を支える身体のしくみ
- 第 4 回 認知心理学（1）感覚・知覚のしくみ
- 第 5 回 認知心理学（2）記憶のしくみ
- 第 6 回 認知心理学（3）学習と動機づけのしくみ
- 第 7 回 社会心理学（1）社会的環境と人間の行動
- 第 8 回 社会心理学（2）対人行動とコミュニケーション
- 第 9 回 社会心理学（3）集団と個人
- 第10回 社会心理学（4）パーソナリティとその測定法
- 第11回 発達心理学（1）発達に及ぼす諸要因：遺伝と環境
- 第12回 発達心理学（2）愛着の形成
- 第13回 発達心理学（3）言語の発達と知能の発達
- 第14回 臨床心理学 適応とストレス
- 第15回 犯罪心理学 捜査技術と犯罪者の心理

■**事前・事後学習**：

事前学習として、毎授業ごとのテーマをシラバスで確認し、テーマに沿った自身の体験、ないし日常生活での身近な疑問を予め整理しておくことが求められる。

事後学習として、配布資料を基に講義内容の理解を深め、様々な情報媒体を参照しつつ、受講前に予め整理した自身の疑問についての解消、更なる考察を図ることが望ましい。

■**教科書**：教科書は使用しない。毎回の講義時に資料を配布する。

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：定期試験90%、出席状況を含めた授業態度10%

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験	◎	◎	100点満点で60点以上正答のこと。	90
授業態度	○	○		10
発表				
課題・作品				
出席			2/3以上の出席	欠格条件
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：心理学の領域は非常に幅広く、人間に関わることすべてが心理学の研究対象と言っても過言ではありません。講義の内容と、皆さんが専攻する領域とのつながりを意識しながら受講してほしいと願っています。また、出席カードに記述された質問には、次の講義の冒頭で対応していきますので、自由に質問し、積極的に知識を広げてほしいと考えています。

# 動物のくらし

選 択

開講年次：1年次後期

科目区分：講 義

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：動物のくらしは、生息する場所の環境条件や他の生物との相互作用に強い影響を受けている。自然界では、不適切な動きはその個体の消耗や死に直結することも多く、変化する環境に対して種によって特有の挙動をする。人間の目には奇妙に映る動物のいろいろな動きも、それぞれの種が生き残って繁殖するために進化させた効果的なやり方である。さまざまな要因に対していろいろな動物がどのように適応しているかを知ることによって、動物のくらしの多様さとそれを生み出すメカニズムを学び、環境と生物の関係を理解する。本来、地球生態系の一員である私たち人類が他の動物とどのような面で違い、また、人間のくらしが環境や動物のくらしにどのような影響を及ぼしているかを考える。

■**到達目標**：①動物のくらしの多様さと生物間の相互作用とつながりの広さを理解する  
②環境が動物のくらしに与えている制約とそれに対する動物の適応を知る  
③動物のくらしをみることで、人間の生活や技術についてあらためて考えるきっかけとなる。

■**担当教員**：  
桑原 禎知

■**授業計画・内容**：

- 第1回 動物のくらし(序)：人間と動物／科学的な考え方
- 第2回 生態学の視点：自然の階層性／空間と時間のスケール／動物と植物
- 第3回 動物のくらす場所(1)：陸上と水中／環境条件とさまざまな制約
- 第4回 生物間の相互作用(1)：資源と競争／ニッチ／共存
- 第5回 動物のくらす場所(3)：環境勾配と動物の分布／形質置換と進化
- 第6回 生物間の相互作用(2)：相互作用／生態系エンジニア／群集と生態遷移
- 第7回 動物の移動と生活史(1)：系と流れ／分散と移動／季節移動・回遊
- 第8回 動物の移動と分布(2)：環境の多様さと群集／個体群とメタ構造／ビオトープ
- 第9回 動物の行動と社会：なわばり／群れ／包括適応度と社会性
- 第10回 生活史と繁殖(1)：資源分割／繁殖様式
- 第11回 生活史と繁殖(2)：生活史戦略と戦術／タイミング・フェロロジー
- 第12回 環境と個体数：増加率と環境収容力／産業活動と環境収容力
- 第13回 食物網と生態系：系内のつながり／系間のつながり／食物網と栄養カスケード
- 第14回 環境変動と動物：環境変化とレジームシフト／地史と動物の分布
- 第15回 人間と動物：人間活動と生態系の変化／動物のくらしの未来

※授業内容や関連する事項で質問や追加の解説の要望があれば逐次受け付けます。  
リクエストに応じた解説の時間を確保出来るように配慮します。

■**事前・事後学習**：講義前はシラバスの項目に目を通すだけでなく、日常生活で見聞きした自然や動物に関する話題について興味や疑問点を考え、講義時に質問する準備をしてもらいたい。講義後は配布資料や教科書を復習し、さまざまな事象との関連性を考えてほしい。それでも解決しない疑問点やさらなる解説の要望をすることで自分の関心の方向性や理解を深められるように心がけてほしい。

■**教科書**：テーマに応じて適宜資料を配布します。下記の教科書は講義では参考書的に用います。  
生態学入門 第2版 日本生態学会編 東京化学同人 2940円※この教科書は2年後期のエコロジカルデザインと共通です

■**参考文献**：講義時に参考になる文献や話題を提示します。

■**成績評価基準と方法**：定期試験(70%)の点数に、授業中に数回行う小レポートを加点(15%×2回程度)して評価する。定期試験は単なる用語の記憶や選択ではなく、科学的な推察による論述型の問題が多くなる。

評価方法	到達目標			評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	
定期試験	◎	◎	◎	70
小テスト・授業内レポート	○	○	○	30
授業態度				
発表				
作品				
出席				
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：環境を考える(2年前期)、エコロジカルデザイン(2年後期)

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：動物のくらしを学ぶことで、私たち人間の生活を見つめ直し、その相違点を意識してもらいたい。用語や説明を覚えることよりも、一つの出来事が次々と連鎖して他の現象に影響を与えるというパズルを推察する思考方法を身に付けてもらいたいと思う。授業では上記の教科書を参考書として引きつつ、各回のテーマにあわせて適宜資料を配布します。授業中は随時質問を受け付けます。授業時に受ける質問や話題のリクエストは、提示する追加資料の選択にとっても役立ちます。双方向で理解が深められるように受け身でない積極的な授業への参加を期待します。

# 現代社会と家族

選 択

開講年次：1年次後期

科目区分：講 義

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：当たり前の存在として考えられがちな家族は、時代や社会、個人によって意味や位置付けが異なる。特に現代社会では社会構造の複雑化やグローバル化が進み、人口減少や少子高齢化といった人口変動も伴いながら、家族のあり方や個人と家族の関わり方も変化している。この講義は現代社会における家族や人口の変化について学び、日本の家族が抱える課題について理解し、家族に対する興味・関心を養うことを目指す。

■**到達目標**：①家族や人口問題に関する関心を養う  
②家族の変化を統計的に捉える方法を学ぶ  
③家族と地域社会の関係や日本の家族が抱える課題を理解する

■**担当教員**：  
丸山 洋平

■**授業計画・内容**：

- 第1～2回 家族とは何か?：家族を巡る話題／家族のイメージ／家族の定義
- 第3～4回 日本の家族の特徴は?：家族の種類／核家族化と人口転換／家族の地域差
- 第5～7回 女性はいつから専業主婦になったのか?：コーホート分析／家事と主婦の誕生
- 第8～10回 結婚すると何が起きるか?：家族形成／家族の発達課題
- 第11～14回 家族の持つ役割とは?：生殖／子育て／介護／地域社会と家族
- 第15回 家族の未来を考える：家族から個人へ?

■**事前・事後学習**：教材（講義ノート・配布資料）に適宜書き込みを行い、事後に復習し、ポータルシステムからの課題に取り組む。

■**教科書**：特になし

■**参考文献**：

- 『21世紀家族へ―家族の戦後体制の見かた・超えかた[第3版]』／落合恵美子（有斐閣選書）1,785円
- 『家族社会学を学ぶ人のために』／井上眞理子編（世界思想社）2,300円
- 『現代人口学[少子高齢社会の基礎知識]』／阿藤誠（日本評論社）2,700円
- 『人口減少社会の構想』／宮本みち子・大江守之（放送大学教育振興会）3,100円
- 『戦後日本の人口移動と家族変動』丸山洋平（文眞堂）2,800円

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度					
発表					
課題・作品	◎	◎	◎	課題(5回)の合計点	100
出席	○			6回以上欠席した場合は、不合格	
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：家族社会学（2年次の看護専門科目）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：デザイン・看護を問わず、家族・人口に関する知識は有益であり、現代社会を生きていく上でも必要な教養である。看護学部生で2年次に専門科目の「家族社会学」を履修する者は、この科目を履修しておくことが望ましい。

# 現代社会と経済

選 択

開講年次：1年次後期

科目区分：講 義

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：現代社会のさまざまな経済活動を理解するために、経済学や経営学の基本的な知識を習得します。また、身近な経済トピックスなどを通じて、経済のグローバル化、情報化の現状を概観します。

私たちは普段、消費者としてモノやサービスを買ひ、利用しています。コンビニでお弁当を買ひ、ファッション専門店で服を買ひ、シネマコンプレックスで映画を鑑賞し、携帯電話で会話を楽しんでいます。一方、売り手である企業は、そうした製品やサービスを消費者に提供することで利益を上げます。その過程で企業は、消費者の好みを探り、彼らを満足させられる製品・サービスの開発に努め、ライバル製品との競争にどのように勝つかを常に考えています。

この講義では、社会の経済主体の中心である企業のマーケティング活動に焦点を当て、その理解を通じて現代の社会や経済を見る眼を養います。具体的には、企業戦略の基本的な考え方をマーケティングの視点から提供し、具体的な事例を多く交えながら説明するとともに、適宜、テーマに則したDVDを見たり、雑誌記事を読み、ディスカッションやレポートを通じてマーケティングの理解を深めます。

■**到達目標**：①マーケティングを通して企業活動を理解し、社会、経済を見る知識を習得する。  
②マーケティング戦略の分析能力と戦略立案能力を養う。  
③ディスカッションやプレゼンテーションの能力を養う。

■**担当教員**：近藤 公彦

■**授業計画・内容**：講義は、大きく理論編と事例分析編に分かれます。理論編ではマーケティングの基本的な考え方を習得し、事例分析編では理論編で学んだ知識を基礎に実際の企業のマーケティングを分析し、新しい戦略を考えていただきます。この事例分析は学期末のレポートとして提出いただく予定です。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マーケティングの基礎①
- 第3回 マーケティングの基礎②
- 第4回 マーケティングの基本戦略①
- 第5回 マーケティングの基本戦略②
- 第6回 マーケティングの基本戦略③
- 第7回 「カシオ計算機G-SHOCK」の事例分析①（グループワーク）
- 第8回 「カシオ計算機G-SHOCK」の事例分析②（グループワーク）
- 第9回 「カシオ計算機G-SHOCK」の事例分析③（グループワーク）
- 第10回 「クックパッド」の事例分析①（グループワーク）
- 第11回 「クックパッド」の事例分析②（グループワーク）
- 第12回 「クックパッド」の事例分析③（グループワーク）
- 第13回 「カシオ計算機G-SHOCK」の事例分析発表（プレゼンテーション）
- 第14回 「クックパッド」の事例分析発表（プレゼンテーション）
- 第15回 まとめ

■**事前・事後学習**：講義パートについては、予定の内容をシラバスで確認し、配布資料などに目を通しておいください。事例分析パートについては、事例を十分に読み込み、授業中のグループ・ディスカッションに備えてください。予習・復習時間としてそれぞれ、2時間程度が必要です。

■**教科書**：教科書は使用せず、毎回、資料を配付します。

■**参考文献**：小樽商科大学高大連携チーム編『わかる経営学』日本経済評論社、2005年。  
小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためのケース分析(第2版)』同文館出版、2010年。  
参考記事は適宜配布します。

■**成績評価基準と方法**：授業への出席（40%）、授業中の発言・発表（20%）、学期末レポート（40%）として評価します。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート		◎		知識の習得と分析能力	
授業態度	◎			発言などの積極的な姿勢	10
発表			◎	プレゼンテーション	10
課題・作品		◎		学期末レポートの内容	40
出席	○	○	○	2/3以上の出席	40
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：人間情報デザイン論、ユーザーエクスペリエンスデザインI、地域ブランド構築、ビジュアルライゼーションI

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：デザインにせよ、看護にせよ、顧客や患者など利用者の視点に立って考えることは非常に重要です。マーケティングの知識はその際に不可欠であるばかりでなく、現代の社会や経済の仕組みを深く理解することにつながります。この講義から多くの「発見」をしてください。

# 統計の世界(看護学部)

選 択 開講年次：1 年次後期 科目区分：講 義 単 位：2 単位 講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：現代社会はデータが溢れる社会であり、データに基づく客観性・合理性・効率性の追求が日常生活の一部となっている社会である。データとの接し方を理解していることが基本的な教養、あるいは生きていくための基礎的な知識として求められるようになってきていると言ってもいいだろう。本授業では、なぜ統計が必要か?という問いに始まり、統計を扱う際の注意点や心構え、統計学の基本的概念、統計的推論や検定などの分析手法を学ぶことを通じて、様々なデータと付き合っていく上で必要となる統計学的な物の見方や考え方を理解・修得することを目指す。

■**到達目標**：①統計学的な物の見方や考え方を理解する。  
②統計を用いた推計・検定の基礎を身につける。  
③要因間の関係について考える力を身につける。  
④統計を扱う上での注意や心構えを身につける。

■**担当教員**：丸山 洋平

## ■授業計画・内容：

- 第 1 回 ようこそ、統計の世界へ：なぜ統計が必要か?
- 第 2 回 もし世界が100人の村だったら：統計と確率の基本は割合・比率
- 第 3 回 出生率は上がっても子どもの数は減って行く?：母数と割合・比率の関係
- 第 4 回 日本は格差社会か?：度数分布・累積度数分布・ジニ係数・パレートの法則
- 第 5 回 学力はどう測るのか?：平均値・標準偏差・標準化
- 第 6 回 畑のジャガイモはどのように育つか?：正規分布
- 第 7 回 予言するタコ? あるいはビールの目隠しテスト：二項分布
- 第 8 回 スープの味見? あるいはサンプリングの原理：母集団と標本の関係
- 第 9 回 日本人の身長は高くなったか?：平均値の推定・検定
- 第10回 内閣支持率あるいは選挙の開票速報：比率の推定・検定
- 第11回 足の大きさから身長を推理する：相関関係
- 第12回 冬の気温とお酒の売り上げ：回帰分析と有意性検定
- 第13回 ワインの質を予測する：重回帰分析
- 第14回 統計で人を騙したり、騙されたりしないために
- 第15回 統計調査の実際

■**事前・事後学習**：事前に教科書の該当する章に目を通し、わからない点などを事前にチェックする。事後に教科書の該当箇所を読んで復習し、ポータルシステムからの課題に回答する。

■**教科書**：原俊彦『統計の世界—物の見方・考え方・心構え—』（原書房）¥1,600

■**参考文献**：涌井良幸『統計解析がわかった!』（日本実業出版社）¥1,600  
片平冽彦『やさしい統計学—保健・医薬・看護・福祉関係者のために（改訂版）』（桐書房）¥2,100  
岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎 JGSSデータとオンライン集計の活用』（有斐閣）¥2,800

## ■成績評価基準と方法：

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③	④		
定期試験						
小テスト・授業内レポート						
授業態度						
発表						
課題・作品	◎	◎	◎	◎	課題の評価点(15回分を100点満点で評価)	100
出席	○				6回以上欠席した場合は、不合格	
その他						

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：情報リテラシーI・情報リテラシーII（看護）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：この授業は、モニターに教材を映す講義形式で行います。講義終了後は各自が教科書で自習し、ポータルシステムで課題に取り組んでもらいます。課題は毎回の授業後に提示し、2週間後を締め切りとします（提出遅れは減点対象）。統計学的な考え方に慣れるまでは難しいと感じると思いますので（特に後半）、自習の時間を取ることを強く勧めます。また、Excelを使って自分で計算したりグラフを作成したりすることで、知識をより修得しやすくなります。看護との関連に重点を置いた講義内容となります。

\*看護の編入生は桑園でのTV遠隔授業になります。

# 英語ⅡA

必修

開講年次：1年次後期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：「英語ⅠA」で培った読解力をさらにレベルアップし、アカデミック・スタディに必要な英文読解力の充実を目指す。さまざまな英文について、正確かつ確に内容を理解する訓練を行うとともに、平易な長文の大意を短時間で把握する速読、パラグラフ・リーディングの練習も行う。また、併せて辞書を使用せずに一定レベルの英文を読み取る語彙力を養成する。

■**到達目標**：①複雑な構文、難易度の高い語彙を含む英文を、的確に理解できる読解力を習得する。  
②速読、パラグラフ・リーディングなど多様な読みのスキルを適用して読解ができるようになる。

■**担当教員**：

町田 佳世子 清水 香 佐川 萌東子 赤間 荘太

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 9 Space Exploration
- 第3回 Chapter 9 Space Exploration
- 第4回 Chapter 10～Chapter 15のいずれか<sup>注1)</sup>
- 第5回 Chapter 10～Chapter 15のいずれか
- 第6回 Chapter 10～Chapter 15のいずれか
- 第7回 Chapter 10～Chapter 15のいずれか
- 第8回 Review<sup>注2)</sup>
- 第9回 Chapter 10～Chapter 15のいずれか
- 第10回 Chapter 10～Chapter 15のいずれか
- 第11回 Chapter 10～Chapter 15のいずれか
- 第12回 Chapter 10～Chapter 15のいずれか
- 第13回 Chapter 10～Chapter 15のいずれか
- 第14回 Chapter 10～Chapter 15のいずれか
- 第15回 Chapter 10～Chapter 15のいずれか

注1) Chapter 10～Chapter 15のどのChapterを行うかは、クラスの状況により担当教員が判断する。

注2) 授業の進行状況により、Reviewの回が前後する場合もある。

■**事前・事後学習**：事前に単語の意味・発音を調べ、テキストの内容を把握しておくこと。そして音声を参考に十分音読をしておくことが求められる。授業後は学習した内容を復習し、新規の語彙や有用な構文は自分なりの方法で定着するようにし、ライティングやプレゼンテーションで活用できるようにする。予習・復習の所要時間には個人差があるが、数時間が必要である。

■**教科書**：Taking Sides: Opinions For and Against Asahi Press

その他資料等は適宜授業で配布する。

■**参考文献**：担当教員より授業初回において指示する。

■**成績評価基準と方法**：出席状況、課題提出、試験の結果などから総合的に評価する。

出席：10% 平常点（課題、小テスト、クイズ等）40% 定期試験：50%

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験	◎	◎	語彙力、読み取りの的確さおよび読解のスピードを総合的に判断する。	50
小テスト・課題・中間試験等	◎	◎	語彙力、読み取りの的確さおよび読解のスピードを総合的に判断する。	40
出席			2/3以上の出席 (授業の出席が2/3に満たない場合、定期試験の受験資格を失い、単位を修得することができません)	10
その他			遅刻3回で欠席1回とみなす	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：英語に関する全ての科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業には予習をして、辞書持参で出席すること。辞書に関しては英和中辞典以上の内容のものを使用すること（電子辞書も可、ただし携帯電話、スマートフォン、タブレット端末の辞書機能は不可）。その他に関しては担当教員より指示する。



# 英語ⅡB

必修 開講年次：1年次後期 科目区分：演習 単位：1単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：「英語ⅡB」で培った作文力をもとに、英語で自分の考えや意見を論理的に表現できる力や研究レポート等を英語で表現できる力を身につける。英文の文章構成力を習得し、最終的にはエッセイレベルの長文を書く技術を身につけることを目指す。

■**到達目標**：①センテンスレベルで、英語の文の構造を正しく理解する。  
②英作文における文章構成力を習得する。  
③パラグラフを書く力をさらに発展させ、最終的にはエッセイレベルの長さの、論理的な文章を書ける力を身につける。

■**担当教員**：

白土 淳子 鈴木 一生

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション パラグラフの復習
- 第2回 Chapter 6: Expressing Your Feelings 例を挙げる
- 第3回 Chapter 6: Expressing Your Feelings 例を挙げる
- 第4回 Chapter 8: Studying More about the World 分類
- 第5回 Chapter 8: Studying More about the World 分類
- 第6回 Chapter 9: Why Are They So Popular? 理由
- 第7回 Chapter 9: Why Are They So Popular? 理由
- 第8回 Chapter 10: Why Have Fast Food Shops Become Popular in Japan? 原因と結果
- 第9回 Chapter 10: Why Have Fast Food Shops Become Popular in Japan? 原因と結果
- 第10回 Chapter 11: Comparing *Shogi* and Chess 比較・対照
- 第11回 Chapter 11: Comparing *Shogi* and Chess 比較・対照
- 第12回 Chapter 12: Things Can Be the Same; Things Can Be Different パラグラフからエッセイへ
- 第13回 Chapter 12: Things Can Be the Same; Things Can Be Different パラグラフからエッセイへ
- 第14回 Chapter 12: Things Can Be the Same; Things Can Be Different パラグラフからエッセイへ
- 第15回 まとめ

■**事前・事後学習**：授業の終わりに次回の内容を指示するので、それに従って予習をしておくこと。授業後は、学習内容が定着するように十分復習し、小テストあるいは試験のために準備をしておくこと。予習・復習の所要時間には個人差があるが、数時間が必要である。

■**教科書**：*Writing Frontiers* 金星堂

その他資料等は適宜授業で配布する。

■**参考文献**：担当教員より初回授業において指示する。

■**成績評価基準と方法**：出席状況、課題提出、試験の結果などから総合的に評価する。出席：10% 平常点（課題、小テスト、中間試験等）40% 定期試験：50%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	○	文法力、文章構成力等を総合的に見て判断する。	50
小テスト・課題・中間試験等	◎	◎	◎	英作文の課題においては、学んだことが英作文にきちんと反映されているかどうかを確認する。課題は必ず提出すること。	40
出席				2/3以上の出席(出席が2/3に満たない場合、定期試験の受験資格を失い、単位を修得することができません)	10
その他				遅刻3回で欠席1回とみなす	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：英語に関する全ての科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業には予習をして、英和／和英辞書持参で出席すること。辞書に関しては英和辞典以上の内容のものを使用すること（電子辞書も可、ただし携帯電話、およびスマートフォンの辞書機能は不可）。その他については、担当教員より指示する。

# 英語ⅡC

必修

開講年次：1年次後期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：「英語ⅡC」で培ったスピーキング力、プレゼンテーション能力をさらに向上させ、一定レベルの内容を英語で発信する力を養う。同時に、ある程度複雑な内容のネイティブの会話や説明などを正確に理解できるように、CD等の教材を活用し、更なるリスニング力の向上を目指す。

■**到達目標**：①英語で自らの考えや意見を論理的に発信できる力を身につける。  
②論理的な内容の英語を聞いて理解できる力を身につける。

■**担当教員**：

山田 パトリシア バマイ モクター

■**授業計画・内容**：

第1回 Orientation

第2回 Unit 6 Love & Marriage (building strong relationships)

第3回 Unit 7 Jobs (choosing work and applying for jobs)

第4回 Unit 7 Jobs (men's / women's roles in work)

第5回 Unit 8 Shopping (shopping and the environment)

第6回 Unit 9 School (schools in Japan)

第7回 Unit 9 School (problems at school, alternative schools)

第8回 Unit 10 TV and Movies (the negative influence of TV, selecting the news)

第9回 Unit 10 TV and Movies (excessive spending in the movie industry)

第10回 Unit 11 Nature (respecting nature)

第11回 Unit 11 Nature (environmental problems)

第12回 Free Topic (handouts)

第13回 Preparation for the group presentation

第14回 Preparation for the group presentation

第15回 Final Exam (Group presentation)

\*スケジュールは事情により変更の可能性もある。

■**事前・事後学習**：指定された部分の英文について、単語の意味、発音を調べておくこと。特に発音は電子辞書などで音声聞いて確認し、何度も口頭練習しておくこと。事後は英文を音声に合わせて何度も口頭練習すること。

■**教科書**：TOPIC TALK ISSUES (Second Edition) EFL Press

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験	◎	◎	トピックの理解力、発表能力、思考の流暢さ、文法、発音などを総合的に判断する	50
授業態度	◎	○	積極的な姿勢	30
発表	◎		自らの考えや意見を発表することを重視する	
課題・作品	○			10
出席			2/3以上の出席(出席が2/3に満たない場合、定期試験の受験資格を失い、単位を修得することができません)	10
その他			遅刻3回で欠席1回とみなす	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：英語に関する全ての科目

■**その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：この授業は英語のネイティブ・スピーカーの教員により、すべて英語で行なわれる。辞書を必ず持参すること。また授業中の積極的な発言が評価の対象になることに留意すること。

# プレゼンテーション

【デザイン学部必修】  
【看護学部選択】

開講年次：1 年次後期

科目区分：演習 単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：現代社会を生き抜くために、情報を効果的に伝えるために、クリエイティブ、コミュニケーション戦略、クリティカル・シンキングの力がますます求められている。

特に、情報を伝達する目的や相手に合った情報の収集や編集方法を学ぶとともに、プレゼンテーション用のソフトウェアを活用し、多様な表現手段と説得力あるプレゼンテーション技術を習得する。

■**到達目標**：①目的や相手に合わせた最も効果的な表現手法および読み解く方法について理解する。

②適切なプレゼンテーション方法やソフトウェアを自ら選定し実践することができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎武田 巨明 矢久保 空遥

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 導 入：全体オリエンテーション、自己紹介と戦略的コミュニケーション
- 第 2 回 理論編：地域活性化と札幌市の観光の概要／調査・課題の推定／調査
- 第 3 回 理論編：テクニカルレクチャー／調査／テーマ案検討
- 第 4 回 演習編：表現手法と役割、編集・制作／調査／テーマ確定
- 第 5 回 演習編：クリティカル・シンキング／プレゼンテーション資料準備
- 第 6 回 実践編：課題Ⅰグループ内発表会-1／評価のワークシート記入
- 第 7 回 実践編：課題Ⅰグループ内発表会-2／評価のワークシート記入
- 第 8 回 実践編：課題Ⅱオリエンテーション／テクニカルレクチャー
- 第 9 回 演習編：プレゼンテーション評価の分析／改善案の検討・作業
- 第10回 演習編：効果的で説得力のある画面設計・色彩・書体・構成・可視化
- 第11回 演習編：課題Ⅱグループ内発表会／評価のワークシート記入
- 第12回 演習編：効果的なプレゼンテーションの検討とデータの作成
- 第13回 実践編：課題Ⅱ発表会-1 - プレゼンテーション：行う側と受ける側
- 第14回 実践編：課題Ⅱ発表会-2 - プレゼンテーション：行う側と受ける側
- 第15回 実践編：課題Ⅱ発表会-3 - プレゼンテーション：行う側と受ける側、まとめ

■**事前・事後学習**：毎回の授業の中で、関係資料を示し、調査検討する事項を具体的に指示する。

■**教科書**：特に指定しない。適宜、資料等を配布する。

■**参考文献**：「プレゼンテーションの教科書」 脇山真治（日経BP社）¥2,600、「デジタルプレゼンテーション」 内田整・讃岐美智義・橋本悟（秀潤社）¥3,780など

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験				
小テスト・授業内レポート	○	○		20
授業態度				
課題・発表	○	○		50
出席	○	○	2/3以上の出席	30
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：：表現や提案に関わる科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：クラス編成は、前期の情報リテラシーIの結果やデザイン・看護などの構成比などを勘案して行う。効果的に人（相手）に伝えるには、人（相手）の価値観や求めるものを理解している必要がある。広く社会の動向に関心を持ち、各種活動に積極的に参加することを期待する。

# 対人コミュニケーション

選 択

開講年次：1年次後期

科目区分：演 習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：私たちは他者とのコミュニケーションなしに社会生活を送ることはできない。コミュニケーションの仕組みを知ること、よりよいコミュニケーションの担い手への第一歩である。この授業では、心理学、社会学、言語学、社会心理学などの研究成果を基に、コミュニケーションという現象にアプローチする。

■**到達目標**：①コミュニケーションという営みについての基本的な理論を学ぶ。  
②身近なコミュニケーション行動をその知識を基に観察または内省する。  
③①と②を自らのコミュニケーションに適用し、より豊かなコミュニケーションの担い手となる。

■**担当教員**：

町田 佳世子

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 コミュニケーションとは何か
- 第 2 回 コミュニケーションの過程と構成要素
- 第 3 回 自己概念
- 第 4 回 自己評価とコミュニケーションへの影響
- 第 5 回 自己呈示
- 第 6 回 ことばがことを行う：発話行為
- 第 7 回 会話を成り立たせる原理：会話の公理と含意
- 第 8 回 間接派と直接派：何が相手への配慮なのか
- 第 9 回 コミュニケーションスタイル：心理的距離
- 第10回 コミュニケーションスタイル：力関係
- 第11回 コミュニケーションスタイル：InvolvementとIndependence
- 第12回 非言語コミュニケーション：人は身体全体でコミュニケーションしている(1)
- 第13回 非言語コミュニケーション：人は身体全体でコミュニケーションしている(2)
- 第14回 働きかけのコミュニケーション：アドバイスはきらわれる？
- 第15回 コミュニケーション・トレーニング

■**事前・事後学習**：事前、事後ともに常に自分のまわりでおこっているコミュニケーションに関心を持ち、何からかの行き違いが生じていると感じた場合は、授業中においては学習中の概念や専門用語で説明できるかを考え、授業後は、学んだ事柄をあてはめて解決方法を考えるようにする。

■**教科書**：毎回授業中にハンドアウトを配布する

■**参考文献**：授業中に随時指示する

■**成績評価基準と方法**：授業中の積極的な発言や参加態度と期末レポート（定期試験に代える）の結果により評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎			内容を理解した上で、的確な内省と観察を行っている。これまでの理論や報告に対して多角的な視点で考察している。	80
授業内の発表		◎	○	趣旨を理解した上で、的確な内容を発表することが求められる。	20
授業態度		◎	○	ハンドアウト上の質問への回答状況 ディスカッションへの参加	0
発表					
課題・作品					
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：対人コミュニケーションについて一緒に考えるという気持ちで受講することを望む。

# 手話

選 択

開講年次：1 年次後期

科目区分：演 習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：このクラスでは、実技指導などを通し、日本人ろう者のコミュニケーション手段の1つである「日本手話」の基礎を学びます。また、ろう者およびろうをめぐる問題についても考えてみたいと思います。

■**到達目標**：ろう者に対する理解を深めると共に手話による簡単な会話を習得する。  
日常会話を行う。必要な手話技術を習得する。

■**担当教員**：

高橋 淨

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 実技指導 (1)：名前をたずねる
- 第 3 回 実技指導 (2)：年齢をたずねる
- 第 4 回 実技指導 (3)：家族の紹介
- 第 5 回 実技指導 (4)：出身地
- 第 6 回 実技指導 (5)：仕事
- 第 7 回 これまでの復習
- 第 8 回 実技指導 (6)：一日の生活
- 第 9 回 ビデオ「音のない世界で (Sound and Fury)」鑑賞
- 第10回 実技指導 (7)：通勤・通学
- 第11回 実技指導 (8)：趣味・スポーツ
- 第12回 実技指導 (9)：旅行
- 第13回 実技指導 (10)：嗜好品
- 第14回 これまでの復習
- 第15回 総まとめ

■**事前・事後学習**：授業の内容に合わせて指示します。毎回復習をしておくこと。

■**教科書**：『はじめての手話：初歩からやさしく学べる手話の本』木村晴美・市田泰弘 生活書院

■**参考文献**：なし

■**成績評価基準と方法**：出席状況 (70%)、定期試験・レポート (30%) を総合的に評価する。

■**その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：1クラス30名程度を上限とした履修制限がある。上限を超過した場合は、抽選によって履修者を決定する。

# 情報リテラシーⅡ(デザイン学部)

必修

開講年次：1 年次後期

科目区分：演習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：前期で学習したIllustrator、Photoshopの基本操作を活用し、より実践的なデザイン制作を行います。グラフィックデザイン、エディトリアルデザインなど多様なデザイン実習を通じて、デザイン現場で活用できる基礎的な知識と技術を習得することが目標です。また、コンセプトを立てて表現の目的を明快にするプロセスを理解する力を身につけます。

■**到達目標**：①デザインに不可欠なソフトウェアをデザインツールとして自由に使いこなす実践的な能力を身に付け、あわせて関連する知識を十分に理解する。  
②デザインにおけるコンセプト立案から表現までの流れを理解し、提出課題としてまとめ、発表することができる。

■**担当教員**：

児玉 潤二郎

■**授業計画・内容**：

第1週 オリエンテーション／制作演習—トレース (Illustrator／Photoshop)  
第2週 //  
第3週 制作演習—図形 (Illustrator)  
第4週 //  
第5週 //  
第6週 制作演習—動物絵文字 (Illustrator)  
第7週 //  
第8週 制作演習—絵漢字 (Illustrator)  
第9週 //  
第10週 //  
第11週 制作演習—自己紹介 (Illustrator／Photoshop)  
第12週 //  
第13週 //  
第14週 講評と発表  
第15週 //

■**事前・事後学習**：

事前学習  
・Illustrator／Photoshopの基本操作  
事後学習  
・各演習課題の制作

■**教科書**：使用しません。

■**参考文献**：

・『IllustratorとPhotoshopとInDesignをまるごと使えるようになりたいという欲ばりな人のための本』（エクスマレッジ）  
・『デザイン入門教室【特別講義】確かな力を身につけられる—学び、考え、作る授業』（SBクリエイティブ）  
・『考具 —考えるための道具、持っていますか?』（阪急コミュニケーションズ）

■**成績評価基準と方法**：授業課題、出席状況、授業態度を総合的に評価します。課題の提出は必須条件です。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
授業態度	○	○	積極的な授業への参加姿勢 ※出席日数は授業への参加姿勢として勘案する	5
発表		◎	コミュニケーション能力	20
課題・作品	◎	◎	①ソフトウェアの操作技術 ②コンセプトと表現の整合性 ※①60%+②40%の比率 ※課題の提出は必須条件	65
出席			2/3以上の出席が必要	10

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：情報リテラシーI

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：Macintoshの基本操作やファイル管理について十分習得していることが望ましい。また、情報リテラシーIIにおいて、Illustrator、Photoshopの基本操作を十分習得しておく必要があります。初回到授業内容や評価について説明します。

# 情報リテラシーⅡ(看護学部)

必修 開講年次：1年次後期 科目区分：演習 単 位：1単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：この授業は、収集したデータをわかりやすい形にまとめ、統計に基づいた分析を行い、報告することを目的とする。情報リテラシーⅡでは、アンケート等を用いたデータの収集・集計、Excelを用いたデータの処理を学びます。また、得られた個人情報などの扱いについても学びます。

■**到達目標**：①Excelや他の分析ツールを用いた情報処理・統計分析を身につけることができる。  
②WordやPower Pointを用いて、調査の結果を報告することができる。  
③情報リテラシーのルールやマナーの基本を身につけることができる。

■**担当教員**：

杉野 佑太

■**授業計画・内容**：

- 第1回 Excelの基本的な操作 (1:データの入力と集計)
- 第2回 Excelの基本的な操作 (2:表や図の作成)
- 第3回 Excelの基本的な操作 (3:関数の利用—sum関数、average関数など)
- 第4回 Excelの基本的な操作 (4:関数の利用—if関数など)
- 第5回 Excelの基本的な操作 (5:フィルタリングなど)
- 第6回 データの収集について学ぶ (1:データ収集の目的と必要なデータの選定)
- 第7回 データの収集について学ぶ (2:収集されたデータの処理)
- 第8回 データの収集について学ぶ (3:より効果的なデータの表し方)
- 第9回 データの収集について学ぶ (4:発表)
- 第10回 Excelの応用的な操作 (1:フィルタリング)
- 第11回 Excelの応用的な操作 (2:ピボットテーブル)
- 第12回 Excelの応用的な操作 (3:複合グラフの作成)
- 第13回 総合 (1:プレゼンテーションの作成)
- 第14回 総合 (2:発表)
- 第15回 総合 (3:発表・全体の振り返り)

■**事前・事後学習**：授業前に教科書の該当部分に目を通し、Excel、PowerPointの操作方法についてあらかじめ確認しておくこと。また、発表に向けた情報の収集や資料の作成は、授業時間外に行う必要がある場合もある。

■**教科書**：『情報リテラシー 情報モラル&情報セキュリティWindows9.1 Internet Explorer11 Word Excel PowerPoint2013』(FOM出版) そのほか、必要に応じて資料を配布します。

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：授業内課題の提出、および、発表に基づいて評価を行う。

評価方法	到達目標①～③	評価基準	評価割合(%)
定期試験			
小テスト・授業内レポート	◎	書式やルールを守る。	20
授業態度			
発表	◎	グループごとにプレゼンテーションを行う。 自己評価および他者評価をする。	20
課題・作品	◎	期限内に課題をきちんと提出する。 授業内容のポイントを理解している。	60
出席		2/3以上の出席が必要となる。	欠格条件
その他			

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：情報リテラシーⅠ

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：必要に応じて、授業内で適宜資料を配布します。

授業内で課題を出します。課題の指示に従わない場合、期限内に課題を提出しない場合は、減点の対象となります。

パソコンはWindowsを使用します。授業内では主にExcelを使用しますが、情報リテラシーⅠで学んだWordやPower Pointの技術も必要となります。

# ジェンダーと文化

選 択

開講年次：2年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：人権問題やジェンダーの考え方について、基礎的な知識を習得する。また、ジェンダーを生み出す社会的な構造を理解し、最近のジェンダーの課題について、事例を通して考察する。現代の日本社会、あるいは国際社会の問題から具体的なテーマをとりあげ、現代社会における男女の性別秩序をとらえ、分析する。ジェンダーの問題はグローバルな問題であり、文献や資料も適宜、英語によるものを使用する。

■**到達目標**：①私たちのまわりの社会的・文化的事象を、ジェンダーという概念を通して分析、考察し、新たな知見を得る。  
②ジェンダーをめぐるグローバルな状況や問題を理解する。  
③積極的に情報収集し、得られた情報に基づいて論理的に自己の意見を述べる。

■**担当教員**：

松井 美穂

■**授業計画・内容**：

第 1 回 オリエンテーション：ジェンダーとは何か

第 2 回 「女性らしさ」／「男性らしさ」とは何か

第 3 回 フェミニズムについて

第 4 回 男性学について

第 5 回 セクシュアリティとジェンダー

第 6 回 家族とジェンダー

第 7 回 教育とジェンダー

第 8 回 労働とジェンダー

第 9 回 メディアとジェンダー

第10回 デザイン・アートとジェンダー

第11回 文学とジェンダー

第12回 言葉とジェンダー

第13回 性暴力とジェンダー（デートDV防止講座）

第14回 国際社会とジェンダー

第15回 まとめ

■**事前・事後学習**：毎回授業のテーマが変わるので、予定されている授業の内容をシラバスで確認し、予め資料が配布されている場合はそれに目を通しておくこと。受講後は、配布資料などを復習しながら授業内容の理解を深め、さらに参考図書、新聞、ウェブメディアなどを参照しながら、そのテーマに関する考察を深めることが求められる。

■**教科書**：講義時に適宜レジュメを配布する。

■**参考文献**：適宜授業にて紹介する。

■**成績評価基準と方法**：学期末レポート50%、授業参加度（コメント、小レポート、出席状況など）50%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
学期末レポート	◎	◎	◎	主張の明確さ、論述の仕方、情報収集方法、論文構成、書式など。詳しくは学期後半に講義中に説明する。2/3以上の出席を条件とする。	50
小テスト・授業内小レポート	◎	◎	○	授業の理解度、コメントにおける発見、意見、感想、疑問の有無、字数によって判断する。	40
出席				2/3以上の出席	10

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：現代社会と家族、教育を考える、現代社会と経済

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：この授業では毎回講義の最後5分～10分間に講義内容に関する小レポートの提出が求められる。時間が不足している場合は小レポートの提出がない場合もある。一つのテーマに関してグループディスカッションをすることもある。



# 環境を考える

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**:現代の環境問題は加害者と被害者の対立構造が不明快となり、全員が加害者であり被害者となっています。また、環境問題は地域の問題から、地球全体の問題へと変質しました。環境問題は自然科学でそのプロセスやメカニズムを扱う問題であると同時に、社会構造とそのシステムの問題です。そして行政ばかりでなく我々市民ひとりひとりや企業が取り組むべき問題であり、デザインで解決できる方法を考えるべき問題でもあります。この授業はさまざまな環境問題の科学として基礎知識を提示し、社会とのかかわりも重要な側面であるという認識に立って対策と提言をします。

■**到達目標**：①環境問題の原因と発生のメカニズムを把握し、問題を正確に捉える  
②環境問題に対する社会生活上の取り組みを考究する

■**担当教員**：

矢部 和夫

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 環境問題の流れ
- 第 2 回 環境管理の二本の柱
- 第 3 回 環境問題の本質的一面、地球の自然と物質
- 第 4 回 市立大学の森1（新緑の季節、フィールドワーク）
- 第 5 回 水の性質
- 第 6 回 大気汚染
- 第 7 回 発生源対策
- 第 8 回 酸性雨
- 第 9 回 水質汚濁
- 第10回 市立大学の森2（木の花の季節、フィールドワーク）
- 第11回 地球温暖化の原因
- 第12回 地球温暖化の将来予測
- 第13回 Countermeasures against global warming (外部講師の予定)
- 第14回 環境保全と生物多様性
- 第15回 都市と環境、市民生活と環境管理

■**事前・事後学習**：

事前学習 配布された翌週のレジメの内容について30分以上の予習を行うこと

事後学習 授業内容について30分以上の復習を行うこと

■**教科書**：『環境の科学 われらの地球、未来の地球』三訂版／山口勝三、斎藤紘一、菊地立（培風館）2009年3月発行

■**参考文献**：なし

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験	◎	○		80
小テスト・授業内レポート				
授業態度	○	○	毎回の出席カードへのコメント記入も評価する	10
発表				
作品				
出席	○	○	2/3以上の出席、高出席率はプラスの評価	欠格条件 10
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：「自然科学を学ぶ」

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：私たちは今さまざまな環境問題に直面しており、日常生活を快適に送る中で環境にさまざまな負荷をかけています。この授業を通じて現在の世界が抱えている環境の問題について、一市民として自分の生活の仕方からその原因・しくみ・対策について考えてみましょう。

# 現代社会と国際関係

選 択

開講年次：2年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：現代社会は国際社会との関係なしには成り立ちません。日本にとってはとりわけ東アジアとの関係が重要です。しかし、東アジアの国々の社会や政治、歴史、文化、人々の対日観などについて私たちはどれだけ知っているでしょうか。国際情勢が一段と厳しさを増す中、感情論や一方的な情報で物事を判断するのではなく、彼らの論理にも目を向け、様々な動きの背景に何かあるのかを考えることも大事になってきます。相手を知り多角的な視点を養うことは相互理解と日本社会や私たちの立ち位置を考える契機ともなります。東アジアでいま起きていることを日本との関係から読み解き、考えていきます。

■**到達目標**：①東アジアの基礎的な知識と情報を得るとともに、国内外で現在起きている状況を理解する  
②感情に流されることなく、多角的な観点から社会を幅広く、冷静に見ていく力を養う  
③情報を見極め、選別する目を養うとともに、最低限のニュース感覚と国際感覚を身につける

■**担当教員**：

青木 隆直

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 はじめに（国際関係を学ぶために）
- 第2、3回 北朝鮮を読み解く
- 第 4 回 ロシアと北方領土問題、極東開発
- 第5－6回 日米関係を見る（沖縄を含めて）
- 第7－9回 中国とどう向き合うか
- 第10－12回 日本と韓国を考える
- 第13－14回 民主主義と人権（レーン・宮沢事件から考える）
- 第15回 まとめ

※ 講義内容の基本は変わらないが、国際情勢の変化やニュースに応じて変更や入れ替えがある

■**事前・事後学習**：東アジアを巡る情勢は日々刻々と変化している。講義で予定されている国々に関するニュースを日ごろから新聞などを読み、押さえておくこと。受講後は配布資料や新聞、文献などを参照しつつ講義内容の理解を深めておくこと

■**教科書**：なし

■**参考文献**：必要に応じて講義の中で資料を配布、または参考文献を紹介する

■**成績評価基準と方法**：定期試験はペーパーテストの代わりにレポートを提出。授業中に小レポートを書いてもらう。授業態度なども参考にする

評価方法	到達目標			評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	
定期試験(レポート提出)	◎	◎	◎	75
授業内レポート	○	◎	○	20
授業態度	○	○	○	5
発表				
作品				
出席				10回以上の出席で評価対象とする
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：国際情勢や時事問題をきちんと見ていく習慣を身に着けることで、自分たちの社会が今後どうなっていくのか次第にわかってきます。最初は「薄く広く」で構いません、日々のニュースに関心を持ち続けてください。「自分には関係ない」と思っていたことが、「実はそうではない」と気付くことが出てきます。様々な情報が溢れている現代では、双方向から物事を見て、考えていく姿勢が大切です。そうすることで、視野も広がり、多角的な物の見方ができるようになり、一方的な、或いは意図的な情報に踊らされないようになってきます。これからの時代を作っていくのは、若いあなた方です。

# ボランティア活動を考える

選 択

開講年次：2年次前期

科目区分：講 義

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：ボランティア活動は身近な支え合いの活動として私たちの生活に密接に関係しています。しかし、ボランティアを正しく理解するような学びは決して多くありません。私たちの身近なボランティア活動を取り上げ、ボランティアの魅力や効果をグループワーク形式による学生の相互交流により理解します。また、ボランティア活動の実践に向け、ボランティア活動で発生する課題や留意点について考えます。

■**到達目標**：①ボランティアの理念とボランティア活動の基礎を学ぶ  
②ボランティア活動の幅広さ、身近さを理解する  
③ボランティア活動と自身の生活とのかかわりを理解する

■**担当教員**：篠原 辰二

## ■授業計画・内容：

- 第1回 オリエンテーション／ボランティアとは何か
- 第2回 ボランティアの価値～ボランティア活動をすることで得られる効果
- 第3回 ボランティアと心理～人はなぜボランティア活動をするのか
- 第4回 ボランティアのあゆみ～ボランティア活動の歴史とトレンド
- 第5回 災害とボランティア～災害発生時に行われるボランティア活動の手段と目的
- 第6回 生活とボランティア～生活の場から生まれるボランティア活動
- 第7回 国際社会とボランティア～途上国支援の実態と課題
- 第8回 大学生とボランティア～学生によるボランティア活動の効果と魅力
- 第9回 まちづくりとボランティア～ボランティア活動をまちづくりに展開する仕組み
- 第10回 ボランティアの組織化～ボランティア活動の活性化を目指した仕組み
- 第11回 ボランティア活動の支え手～ボランティア活動を推進するコーディネーター
- 第12回 ボランティアコーディネーター1～ボランティア実践に向けたプログラムづくり
- 第13回 ボランティアコーディネーター2～ボランティア実践に向けたプログラムづくり
- 第14回 今が旬なボランティア～この時期限定のボランティア活動
- 第15回 授業全体の成果報告とまとめ

■**事前・事後学習**：授業の終了時に翌週までの事前学習テーマを発表します。各回のテーマ（シラバス参照）に応じた情報を収集しておき、授業内容の理解を深められるように準備すること。また、授業後は授業の内容をふりかえり、簡単なレポートにまとめ提出すること。

■**教科書**：指定する教科書はありません。毎回、講義レジュメを配布します。

■**参考文献**：岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子編『学生のためのボランティア論』大阪ボランティア協会 2006  
日本ボランティアコーディネーター協会編『市民社会の創造とボランティアコーディネーション』筒井書房 2009

## ■成績評価基準と方法：

- ①授業における参加度・態度  
主体的な参加（質問、発表、グループワーク等の積極性）をしているか。また、授業態度は良好か。
- ②授業内レポート（リアクションペーパー）  
各回のテーマを理解し、到達目標をふまえた自身の見解を簡潔明瞭に表現しているか。
- ③レポート  
本科目のねらいを理解し、各回のテーマごとの連動性を加味した全体的な見解を簡潔明瞭に表現しているか。

評価方法	到達目標			評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	
授業参加度・態度	重視	重視	重視	30
授業内レポート	重視	最重視	最重視	30
レポート	重視	最重視	最重視	40
出席回数	2/3以上の出席(欠格条件)			

■**関連科目**：特になし

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：ボランティアの理念や活動を理解することは、社会生活や就職後の仕事においても役立つことが多くあります。また、自分自身の知識や見解を広げること、多様な価値を受容する方法を学ぶことにもつながると思います。ボランティア活動経験のない方でも安心して履修できます。

# 日本国憲法を学ぶ

選 択

開講年次：2年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：法律や法学についてあまり触れた経験のないみなさんに、日本国憲法の、とくに人権保障のありようを、具体的な事例問題の検討を通して理解してもらうことが、本科目の課題となります。

■**到達目標**：①法律の条文や法的議論に関する文章が読めるようになること。  
②法的知識や法的問題について理解を深めること。  
③法的なものの考え方（リーガル・マインド）を身に付けること。

■**担当教員**：

岡田 信弘

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 違憲審査
- 第 3 回 人権の分類
- 第 4 回 外国人の人権
- 第 5 回 人権の私人間効力
- 第 6 回 自己決定権
- 第 7 回 公務員の人権
- 第 8 回 中間試験・解説授業
- 第 9 回 平等原則
- 第10回 信教の自由と政教分離
- 第11回 表現の自由に対する規制
- 第12回 知る権利とプライバシー
- 第13回 インターネットに対する規制
- 第14回 職業選択の自由
- 第15回 教育を受ける権利

■**事前・事後学習**：

- 予習について：授業では、各回1つの問題について検討します。教科書の次回検討する該当箇所を事前に必ず読み、疑問点をチェックしておくようにしてください。
- 復習について：授業で得た知識を元に、「設問」の解答を考えてみてください。そのことが、試験に適切に対応する準備につながります。

■**教科書**：岡田信弘編著『憲法のエチュード（第3版）』（八千代出版、2012年）

■**参考文献**：芦部信喜／高橋和之補訂『憲法（第6版）』（岩波書店、2015年）

■**成績評価基準と方法**：

- ・中間試験（30点）と定期（期末）試験（70点）の総合点で成績評価を行う。
- ・原則として、総合点50点以上の者を合格とする。

評価方法	到達目標			評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	
定期試験	◎	◎	◎	70
小テスト(中間試験)・ 授業内レポート	○	○	○	30
授業態度				
発表				
作品				
出席				2/3以上の出席 (欠格条件)
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業は、教科書に沿って進められるので、事前に教科書を読み、理解できなかったところをチェックしておくことが望まれます。

# 実践英語A

選 択 開講年次：デザイン学部 2 年次前期・後期 科目区分：演 習 単 位：1 単位 講義時間：30 時間  
看護学部 2 年次前期

■**科目のねらい**：英語I、英語II（各A、B、C）で学んだことを基礎に、デザイン・看護の各専門に関する英語図書の講読を通じて専門英語に慣れるとともに、専門分野に関する語彙を習得することを目指す。看護学部においては、患者から様々な情報を取得する会話力を習得することも目標とする。

■**到達目標**：①専門分野に関する語彙を習得する。  
②英文で書かれた専門分野に関する論文を読むための力を身につける。  
③患者に関する情報を英語で取得する力を身につける。（看護学部）

■**担当教員**：

デザイン学部 前期 松井 美穂・後期 志堅原 郁子  
看護学部 二ノ宮 靖史

■**授業計画・内容（上段がデザイン学部、下段が看護学部）**：

第 1 回	Orientation, Introduction Orientation, Introduction	第 9 回	Chapter 5 Punk Rock Unit 4 Taking Vital Signs
第 2 回	Chapter 1 What Is Subculture? Unit 1 Meeting Patients	第10回	Chapter 5 Punk Rock Unit 4 Taking Vital Signs
第 3 回	Chapter 1 What Is Subculture? Unit 1 Meeting Patients	第11回	Chapter 6 Hip Hop Unit 5 Taking a Specimen
第 4 回	Chapter 3 American Cosplay Unit 2 Taking Medical History	第12回	Chapter 6 Hip Hop Unit 5 Taking a Specimen
第 5 回	Chapter 3 American Cosplay Unit 2 Taking Medical History	第13回	Chapter 8 Street Gangs Unit 6 Conducting Medical Examinations
第 6 回	Chapter 4 Comic Books Unit 3 Assessing Patients' Symptoms	第14回	Chapter 8 Street Gangs Unit 6 Conducting Medical Examinations
第 7 回	Chapter 4 Comic Books Unit 3 Assessing Patients' Symptoms	第15回	Review Unit 7 Assessing Pain
第 8 回	Review Review		

■**事前・事後学習**：（看護学部・デザイン学部）教科書の指定された部分の英文を、辞書をよく用いて読み、内容把握に努めておくこと。また、読む際は音声素材を聞き、音読の練習もすること。授業後は小テストを行うこともあるので、それに備えてよく復習しておくこと。

■**教科書**：デザイン学部：American Subcultures（『現代アメリカのサブカルチャー事情』）英宝社  
看護学部：Caring for People センテージ ラーニング

■**参考文献**：授業初回に、担当教員より指示する。

■**成績評価基準と方法**：出席状況、課題提出、試験の結果などから総合的に評価する。

平常点（小テスト、課題、中間テスト等）：40% 期末テスト：60%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③ (看護学部)		
定期試験	◎	◎	◎	読解力、語彙力、文法力を見て総合的に判断する。	60
小テスト 課題 中間テスト等	○	○	○	各章の内容を理解し、かつ専門分野に関する語彙力がついているかどうかを見る。	40
出席				2/3以上の出席(出席が2/3に満たない場合、定期試験の受験資格を失い単位を修得することができません)	
その他				遅刻3回で欠席1回とみなす	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：英語に関する全ての科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業には予習をして、辞書持参で出席すること。辞書に関しては英和辞典以上の内容のものを使用すること（電子辞書も可、ただし携帯電話、およびスマートフォンの辞書機能は不可）。その他に関しては担当教員より指示する。

# 実践英語B

選 択 開講年次：2年次前期（デザイン学部）  
2年次前期・後期（看護学部） 科目区分：演 習 単 位：1 単位 講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：英語I、英語II（各A、B、C）で学んだことを基礎に、将来学術分野や実社会において、専門分野に関することがらを英語で聞き取り、議論できるように、さらに英語力を発展させる。授業ではそれぞれの専門分野に関する内容を口頭で発信する練習を行いながら、専門用語も習得する。授業はそれぞれの学部に分かれて行われる。

■**到達目標**：①専門に関する事柄を英語でプレゼンテーションでき、また会議等において英語でディスカッション等ができるレベルの語学力の習得を目指す。

■**担当教員**：

山田 パトリシア バマイ モクター

■**授業計画・内容（デザイン学部／看護学部）**

- 第1回 Orientation
- 第2回 Unit 2 This Calls For a Bud Light / Lesson 1 You Can Live to Be a Hundred
- 第3回 Handouts / Lesson 2 Ten Ways to Prevent Cancer
- 第4回 Unit 4 McDonald's—King of Fast Food Restaurants / Lesson 4 The Environment and Your Health
- 第5回 Unit 5 Relax, It's FedEx / Lesson 5 Exercise for Good Health
- 第6回 Unit 6 BMW-A Car beyond Reason / Lesson 6 Healthy Food for a Healthy Body
- 第7回 Handouts / Lesson 7 Alcohol Can Be Dangerous
- 第8回 Unit 8 Learning Languages / Lesson 8 Stress Can Ruin Your Health
- 第9回 Unit 9 Pepsi-Ask for More / Lesson 9 Obesity is a Bad Thing
- 第10回 Handouts / Lesson 10 Dental Care for Healthy Teeth
- 第11回 Unit 11 Disney-Magic Happens / Lesson 11 The AIDS Crisis Concerns Everyone
- 第12回 Unit 12 Coca-Cola- For Everyone / Lesson 12 Depression: Don't Let It Get You Down
- 第13回 Unit 13 Anti-Smoking Campaign / Free Topic (Handouts)
- 第14回 Unit 14 Counterfeit Mini Coopers / Preparation for presentation
- 第15回 Final Exam / Final Exam (Presentation)

■**事前・事後学習**：指定された部分の英文について、単語の意味、発音を調べておくこと。特に発音は電子辞書などで音声聞いて確認し、何度も口頭練習をしておくこと。事後は英文を音声に合わせて何度も口頭練習すること。

■**教科書**：デザイン学部：English in 30 Seconds 南雲堂  
看護学部：HEALTH TALK (Third Edition) MACMILLAN LANGUAGE HOUSE

■**参考文献**：授業中に、担当教員が指示する。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標	評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①		
定期試験	◎	トピックの理解力、発表能力、思考の流暢さ、文法、発音などを総合的に判断する。	50
授業態度	○	積極的な姿勢。	30
発表	◎	毎回の授業で自らの考えや意見を発表することを重視する。	
課題・作品	○		10
出席		2/3以上の出席。	10

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：英語に関する全ての科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：・この授業は英語のネイティブ・スピーカーの教員により、すべて英語で行われる。辞書を必ず持参すること。また授業中の積極的な発言が評価の対象になることに留意すること。  
・看護学部の実践英語Bについては、授業および定期試験の運営上、履修人数の制限を行う（1クラス最大15名）。

# グループ・ダイナミクス

選 択

開講年次：2年次前期

科目区分：演 習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：個人の積み重ねが社会を作る。社会を構成する集団と集団を構成する個人について、グループ・ダイナミクス（集団力学）という視点から検討する。人は一人である時と集団である時とでは行動が変わる。そのメカニズムや原理を知ること、自分の行動や他者理解につながり、メカニズムがわかれば、コントロールも可能になる。日常生活におけるさまざまなグループ・ダイナミクスの影響を理解し利用する事ができるようになることが本科目のねらいである。また、具体的な社会問題についてグループ・ダイナミクスの観点から検討する。

■**到達目標**：①授業で得られた知識を十分に理解する  
②授業で得られた知識を日常生活に関連づけられるようになる

■**担当教員**：

山口 司

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション：グループ・ダイナミクスとは
- 第 2 回 集団の影響：集団とは
- 第 3 回 集団の影響：同調と服従
- 第 4 回 集団の影響：援助行動
- 第 5 回 集団の影響：集団意思決定①
- 第 6 回 集団の影響：集団意思決定②
- 第 7 回 グループ・ダイナミクスの事例：集団の影響と裁判員制度①
- 第 8 回 グループ・ダイナミクスの事例：集団の影響と裁判員制度②
- 第 9 回 グループ・ダイナミクスの事例：グループ・ダイナミクスと災害①
- 第10回 グループ・ダイナミクスの事例：グループ・ダイナミクスと災害②
- 第11回 グループ・ダイナミクスの事例：少子化・未婚化、そして、婚育①
- 第12回 グループ・ダイナミクスの事例：少子化・未婚化、そして、婚育②
- 第13回 コミュニケーション・スキル①
- 第14回 コミュニケーション・スキル②
- 第15回 まとめ

■**事前・事後学習**：毎回テーマが変わるが前回のテーマと次回のテーマは関連づけてあるので、資料に目を通しておく、また、気になるキーワードがあったら、自ら積極的に調べ、学び事を望む。キーワードを調べ、まとめる予習・復習作業で、それぞれ2時間程度必要である。

■**教科書**：授業毎にハンドアウトを配布する。

■**参考文献**：「社会と向き合う心理学」サトウタツヤ・若林宏輔・木戸彩恵（編）新曜社 2,800円  
「グループ・ダイナミクス」釘原直樹 有斐閣 2,000円  
「人とのつながりどころ」今川民雄・山口司・渡辺舞 ナカニシヤ出版 2,200円

■**成績評価基準と方法**：レポート課題100%で評価する。2/3以上の出席を単位認定の条件とする。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
レポート課題	◎	◎	授業の知識を用いて3000字程度のレポート作成	100
出席			2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：人間に対する理解の科目、コミュニケーションに関する科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：グループ・ダイナミクスとは、集団と社会的な問題に積極的に関わっていくとする心理学の一分野です。各回毎にテーマを決め、講義と質疑応答をしていきたいと思っております。人間行動に興味のある人は、是非受講して下さい。

# 教育を考える

選 択

開講年次：2年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：受講者が自己の教育経験をとらえ直し、自由な社会・創造的な文化の主体となる道筋について考えていく。そのために、理想と現実のはざま、人びとが教育にどんな期待をし、どのような工夫や努力を行ってきたか、を理解していく。また、教育に関する思想や制度の意義と課題について考察する。さらに、現代の教育問題、国内外の改革論議などを題材にしながら、教育と人間に関する考察を深めていく。現場の見学、実践者との交流など、生きた教育を通じて「教育を考える」機会も設けたい。

■**到達目標**：①自身の教育経験を対象化し、客観的にとらえることができる。  
②〈人間を教育の主体とする智慧〉について、その意義や現代的課題を述べることができる。  
③教育の世界の経験や問題から受けた示唆をもとに、デザインまたは看護についての自身の考えを深めていくことができる。

■**担当教員**：光本 滋

■**授業計画・内容**：2回をユニットとして一つのテーマを深めていく。順序は組み換えることがある。

第1回 ガイダンス

第2・3回 わたくしたちが受けてきた教育はどのようなものだったか

自己の教育体験をふりかえり、他者の経験を共有することにより、教育をとらえ直していく。

第4・5回 教育というものの考え方

世代と教育経験／人間の発達と教育への関心／教育の自由と権利

教育に関する考え方が歴史的にどのように形成されてきたか、現代的課題は何か検討する。

第6・7回 生涯学習の課題

人間が大人になるとはどういうことか／学校の学びと社会の中の学び

教育は子どもだけのものではない。人間の生涯にわたる発達と学習の課題について考える。

第8・9回 教師・実践者の仕事

子どもの苦悩と向き合う／学びと社会認識／実践者の学びと成長

教育実践に関する記録を読み、教育者の果たしてきた役割について考える。

第10・11回 学校改革の課題

親の教育要求と学校改革／学校づくりと子どもの参加／地域・社会の中の学校改革

学校が社会とかわかっていくこと、学校づくりと子ども・青年の社会参加の教育的意義を考える。

第12・13回 教育改革の課題

国内の教育課題と改革の動向／国際的な教育の課題と改革の動向

21世紀に入ってから教育課題と改革動向について批判的に検討する。

第14・15回 教育をデザインする／教育の現場から考える

実際の学校等に出かけ、現場の経験と知恵に学ぶ。2017年度は、札幌市若者支援総合センター（札幌市中央区・白石区）、札幌太田病院院内学校（札幌市西区）を訪問した。

■**事前・事後学習**：配付した資料を読み、課題に関する見解をまとめる。訪問見学に関する検討課題、理解できたことに関する見解をまとめる。

■**教科書**：特定の教科書は用いない。プリント資料を配付する。

■**参考文献**：授業の中で適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**：小テスト・授業内レポート（30%）。発表、課題・作品（70%）

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
小テスト・授業内レポート	15%	15%		各回のポイント理解	30%
授業態度					
発表	10%	20%		検討の水準・構成の工夫	30%
課題・作品	10%	20%	10%	論点設定、構成、結論の説得力	40%
出席					
その他					

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：教育に関して、基本となる考え方を理解し、自身の言葉で考えることができるようになってほしいと思います。一方的な講義ではなく、受講者と教員との双方向的なやりとり、ディスカッション、グループワークなどの要素も取り入れます。受講者にも授業中に報告を求めることがあります。



# 生活と文化

選 択

開講年次：2年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：本講義では、人とその社会から生み出される日常的な生活や文化の諸相に注目しながら、今後の社会のあるべき姿について論じてゆく。人は一人きりで生きているのではなく、自然や社会、そして長い時間をかけて醸成されてきた文化や風習、歴史とともに生きている。自分たちを包み込んでいる、これらの“見えないもの”の存在を認識・理解し受容することにより、私たちは心の安寧を保ち、豊かな心を育むことができるのかもしれない。本講義は、毎回提出を求めるミニツツペーパー等により、率直な発言を導き出しながら、主体的な思考力を養うことを狙いとする。

■**到達目標**：①日常的な生活や文化の諸相に対する認識と理解力を養う。  
②豊かな人間観や生活観を養う。  
③社会活動に対する積極的な姿勢を育む。

■**担当教員**：

未定

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 (10/2) 「アイコン」：消えた命への祈り
- 第 2 回 (10/9) 「弔い」：「雪の墓標」—手作りの葬式
- 第 3 回 (10/16) 「宿命」：「T・G・M」と夢の在りか
- 第 4 回 (10/23) 「脱宿命」：病院とアートの効果
- 第 5 回 (10/30) 「掟」：「北越雪譜」—障がいと仕事
- 第 6 回 (11/6) 「生業と市」：まちの記憶
- 第 7 回 (11/13) 「設え」：「お茶漬の味」—協働の意味
- 第 8 回 (11/20) 「サービス」：「モモ」—現代社会の諸相
- 第 9 回 (11/27) 「搾取」：「モダンタイムス」—愛の復権
- 第10回 (12/4) 「シャドウワーク」：生活のリアリティ
- 第11回 (12/11) 「ポスト“熱い社会”」：明日の社会の姿
- 第12回 (12/18) 「地域創生」：“まちづくり”への回帰
- 第13回 (1/8) 「生業創生」：QUEST価値
- 第14回 (1/15) 「都市の創生」：エリアマネジメント
- 第15回 (1/22) 「ウェルネスとテクノロジー」：文化技術の未来

■**事前・事後学習**：毎回の授業終了時に示す「宿題：テーマ」を次回に提出すること。事前学習を求められることがある。

■**教科書**：教科書は使用しない。板書をするので、ノートをとること。

■**参考文献**：蓮見孝『マルゲリータ女王のピッツァーカたちの発想論』筑波出版会 1997年  
蓮見孝『地域再生プロデュース—参画型デザインングの実践と効果』文眞堂 2009年  
長谷川宏司編『多次元のコミュニケーション』大学教育出版 2006年

■**成績評価基準と方法**：レポート（50%）、ミニツツペーパーと出席状況（30%）、授業態度（20%）で総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
レポート	◎	◎	◎	講義内容の理解度、主体的思考力、資料収集への積極性等によって評価する。	50
ミニツツペーパー	○	○	○	講義内容の理解度、好奇心を、内容から判断する。	30
授業態度				ディスカッションへの参加度合いと出席状況を合わせて評価する。	20
発表					
作品					
出席				6回以上の欠席は不可	
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：理屈で理解しようとせず、好奇心をもって素直にテーマと向き合ってみよう。講義を受けた上で、自分なりの視点・論点を考えて見よう。

# 健康とスポーツ(デザイン学部・看護学部)

選 択 開講年次：3 年次前期 デザイン学部 科目区分：講 義 単 位：2 単位 講義時間：30 時間  
2 年次後期 看護学部

■**科目のねらい**：現代社会における多くの日本人は、栄養過多と偏り、運動不足、そしてストレスの解消や発散も十分になされず、本来あるべき健康な生活を送ることができない人が増えてきているといわれている。加えて精神的に病む人が増え、働き盛りのうつ病の増加が問題視されている。特に北海道では、子どもから注目される運動能力・体力の低下が問題視されている。一方で日本は長寿世界一を長く維持してきており、健康長寿のための様々な研究が進められている。この科目は、学生時代に、一生を考えたからだづくりに挑戦することができるように理論と実践を学び、有意義な学生時代を送ることができるようにすることを目的とする。

■**到達目標**：①現代社会における日本人の健康管理を学び、日々自己の健康管理に努力できるようにする。  
②知識ばかりではなく、自分の今あるからだ対話しながら、自分のための運動処方を作成できるようにする。ここでは思春期後期にある最後のからだづくりをすることができるように、理論と実技を通して学んでいく。

■**担当教員**：出町 道代

## ■授業計画・内容：

第 1 回	オリエンテーション：科目についての概要と内容／健康からみた現代の学生生活	第 7 回	生活習慣病／運動とからだの仕組み・働き
第 2 回	自分の身体を知る／健康・体力づくりのための実技（その1体育館）	第 8 回	健康づくりプログラムを意識した実技（その4体育館）
第 3 回	日本人の食生活と健康問題	第 9 回	身体活動量とからだの変化／生涯発達と寿命
第 4 回	自分の身体を知る／健康・体力づくりのための実技（その2体育館）	第 10回	健康づくりプログラムを意識した実技（その5体育館）
第 5 回	運動不足がもたらす健康問題／肥満～現代社会が抱える問題	第 11回	人のからだの発育・発達からみた健康問題
第 6 回	自分の身体を知る／健康・体力づくりのための実技（その3体育館）	第 12回	健康づくりプログラムを意識した実技（その6体育館）
		第 13回	健康とスポーツ
		第 14回	健康づくりプログラムを意識した実技（その7体育館）
		第 15回	最終課題に取り組む：自分に必要な運動プログラムを作成し提出

## ■事前・事後学習：

事前：安静時（起きた時）心拍数を調べておく。実技に備えて体調を整える。

事後：講義内容を自身の生活において考える。実技後は身体のケアを行う。

■**教科書**：特に使用しない。毎時間作成した資料を配布、それをもとにすすめる。

■**参考文献**：若い時に知っておきたい運動・健康とからだの秘密、生涯発達の健康科学、健康・スポーツ科学講義、健康寿命を延ばすための運動処方、健康運動プログラムの基礎、ストレッチングと筋の解剖、体力とは何か～運動処方のその前に～

■**成績評価基準と方法**：①毎授業内の報告（小レポート） ②授業態度（いねむり、おしゃべり、飲食、メールなど授業に集中しているか否かの態度） ③実技は、健康・体力向上のためのプログラムを実践することが目的。知識とあわせて実践することが必要であり真面目に取り組む態度を求める。 ④課題提出 1. 学習内容からの問題に記述式で答える。プリント類持参可 2. 自分のためのトレーニングプランの作成 ⑤理論と実践を組み合わせで行うので、偏った出席にならないようにする。

評価方法	到達目標	評価基準	評価割合(%)
小テスト 授業内レポート	◎	毎時の講義で学んだことを感想とともに提出することを小テストとする。	30
授業態度	○	姿勢維持や集中力などは心身に影響を与える。授業中の態度は健康づくりに役立つことが多い。	10
課題	◎	課題1 講義で学んだことを、自分のこととして考え意見を述べるができる。 課題2 理論と実践が共に有効に働かなければ、自分に相応した、一生を支えるからだづくりにつながらない。最終的に、自分のためのトレーニングプランを作成できるようになること。	30
出席	◎	理論と実践が結びつくように実技時間をまとめてとってあるので、理論と実技の出席が偏らないようにすること。	30

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

## ■関連科目：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：選択であることから、年度により選択者数が変化するため、実技の展開が当初の目的どおりにいかない場合があります。日々からだのことを考えながら生活しなければならない時代に生きる人として、理論と実技をしっかり結びつけ、年代、性差にふさわしいからだづくりを継続できるようにしましょう。自分の身体を知り、姿勢づくり・歩き方・筋肉の使い方・コア、筋肉トレーニング・心肺機能を高める運動・リズム感養成・関節の柔軟性を通して血流をよくし、からだをデザイン（からだ再構築）することを学びましょう。また、軽スポーツレクリエーションで心身のリフレッシュを感じましょう。そして日々の生活にそれを生かし、生涯通して自分のからだは自分で守る、自分の健康は自分で守ることができるようにしましょう。実技の時には、動きやすく、汗をかいてもよい服装（着替えの用意）で出席すること。講義の時には、最後に椅子にかけたままのストレッチ体操や軽い筋トレ、マッサージ及び疲労回復体操を行います。

# 韓国語

選 択

開講年次：2年次後期

科目区分：演 習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：ハングルを読み、書き、簡単なあいさつや自己紹介ができるようになること。授業を通して韓国の文化や韓国人の考え方に触れること。

■**到達目標**：①韓国語の簡単な文章や単語が書ける  
②韓国語の簡単な文章や単語が読める  
③韓国語で自己紹介や簡単な会話ができる

■**担当教員**：

松田 由紀

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション、自己紹介のしかた
- 第2回 第1課 基本母音
- 第3回 第2課 基本子音(平音)
- 第4回 第2～3課 基本子音(平音、激音)
- 第5回 第3課 基本子音(激音)
- 第6回 第4課 基本子音のおさらい
- 第7回 第5課 濃音
- 第8回 第6課 複合母音
- 第9回 第7課 終声(下につく子音)
- 第10回 第8課～第9課 表記どおりに発音されないケース
- 第11回 ハングル全体のおさらい、韓国の歌を聴く
- 第12回 韓国文化に触れる(チマチョゴリの試着等)
- 第13回 口述テスト
- 第14～15回 第11課 「私は学生です」

■**事前・事後学習**：2回に1回のペースで小テストがあるので、単語の練習をしっかりと行うこと。予習は基本的に必要ないが、授業で習ったハングルは必ず復習し、次回には必ず読める状態で授業に臨むこと。

■**教科書**：高島淑郎「書いて覚える初級朝鮮語」(白水社)

■**参考文献**：ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典(小学館)

■**成績評価基準と方法**：定期試験50%、出席・授業態度・発表等30%、小テストおよび口述テスト20%を目安に総合的に判断する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎		60%以上正解のこと	50
小テスト・授業内レポート	◎	○		単語テストと口述テスト	20
授業態度			○	積極的な発音	30
発表			◎	自己紹介等	
課題・作品					
出席				欠席は5回未満であること (出席数も評価の対象となる)	
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：なし

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：近年韓国は急速に身近な国となりました。テレビドラマや動画サイトで韓国語に触れる機会も増えてきました。ふと耳にした韓国語が日本語に似ていると感じることもあると思います。実際韓国語と日本語は語順も同じで漢字をつかった言葉も多いなど、共通点が沢山あります。この授業ではハングルを習得し、韓国語で自己紹介できるようになることを目指します。

# 中国語(看護学部)

選 択 開講年次：2年次後期 科目区分：演 習 単 位：1 単位 講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：入門中国語としての文字・発音・文法を学習しながら医療現場に役立つ基本的な用語・会話も学習する。また異文化コミュニケーションという観点から、中国に対する理解を深める。

■**到達目標**：①中国語で自己紹介ができる。  
②中国語で初歩的なコミュニケーションができる。  
③医療現場での初歩的なコミュニケーションができる。

■**担当教員**：照井 はるみ

## ■授業計画・内容：

- 第1回 ガイダンス：「中国語学習を始める前に」、「自分の名前は中国語で」、「挨拶用語」、「中国医療事情」  
スライド・DVD鑑賞：「中日友好医院」（北京）、「馬偕記念医院」（台北）、ルポ「中国的伝統と現代生活」
- 第2回 第1課「発音I」
- 第3回 第2課「発音II」
- 第4回 第3課「何月何日?」「何時?」
- 第5回 第4課「お名前は?」「どちらの大学?」
- 第6回 第5課「だれ? なに?」「これは～です」
- 第7回 第6課「いる」「ある」
- 第8回 第7課「どこにいる?」「AそれともB?」
- 第9回 第8課「どれくらいかかる?」「～するのが好きです」
- 第10回 映像で知る中国：ルポ「中国少数民族大運動会」、ルポ「伝承」、ルポ「中国の服飾」、京劇舞台版「西遊記一三打白骨精」／「中国茶を味わう」
- 第11回 第9課「いくら?」「Aよりも～です」
- 第12回 第10課「～したい」「どこで?」
- 第13回 第11課「～できる?」「～していい?」
- 第14回 第12課「～している」「～したいことがある」／自己紹介練習
- 第15回 自己紹介発表会：全員が発表者で審査員  
スライド鑑賞：「春節風景in台北・西安」、「胡同」、「パリの中華街&東洋美術館」他

## ■事前・事後学習：

- ◎ 事前学習：毎回学習する課の新出単語の意味を、教科書巻末の語句リストを使って事前に教科書の新出単語欄に書き込んでおく。これは中国語辞書の引き方の訓練にもなり、新出単語を簡体字・ピンイン・日本語訳の3点から総合的に学習することができる。
- ◎ 事後学習：宿題としてその日学習した新出単語の簡体字・ピンイン・日本語訳の3項目をすべて筆記して提出する。教師は添削後返却するので、自分の正すべき点を確認する。
- ◎ 講座終了までに中国・中国語に関する本を1冊読み、感想文を提出する。読む本は「参考図書目録」（ガイダンスで配布、大学図書館所蔵）を参考に選択する。ジャンルは問わない。これは各自の視点を通して中国に対する認識を深めることを目的とするものである。

■**教科書**：『はじめよう楽々中国語』（CD付／音声ダウンロード）白水社 2,200円+税  
／ハンドアウト：歴史・文化・社会・生活の紹介に加え、医療用語などのプリントを配付する。

■**参考文献**：『近くて遠い中国語』阿辻哲治著（中公新書）、『貝と羊の中国人』加藤徹著（新潮新書）、『東京の台所・北京の台所—中国の母から学んだ知恵と暮らし』ウー・ウエン著（岩崎書店）、『美麗島紀行』乃南アサ著（集英社）、『すぐ使えるナースのための中国語会話1000』石渡延男監修（桐書房）、他にガイダンスで配布する「参考図書目録」（大学図書館所蔵）を参照。

■**成績評価基準と方法**：定期試験（学期末）70%、授業態度・出席30%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	○	定期試験100点満点で80点以上取得のこと。	70
授業態度・発表	◎	◎	○	毎回授業に出席しその内容を習得することが基本。	30
出席				2/3以上の出席。1回欠席で-5点。	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

## ■関連科目：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：今日の中国は、近代から現代に至る約200年の間で最も豊かで、最も国力の高い時期にあるといえる。今や14億人に迫ろうとする人口は、約4億人の都市戸籍者と9億人以上の農民戸籍者（その内約3億人が農民工として都市部に住み、6億人以上が農民として農村部に住む）に分けられ、都市戸籍と農民戸籍の間には社会保障・教育・生活などあらゆる面で大きな差別がある。このように異なる社会的背景・価値観・感性をもつ多面多層の中国に対し、隣国の私たちは複眼的な視点を持ち、現実的な対応を志向しなければならない。またこの講座では、中国語・中国のみならず、医療用語や伝統的民間療法「養生」についても学習する。

# ロシア語(デザイン学部、看護学部)

選 択 開講年次：デザイン学部3年次前期 科目区分：演 習 単 位：1単位 講義時間：30時間  
看護学部2年次後期

■**科目のねらい**：基礎である読む・書く・話す・理解する（ロシア語会話で最もよく使われる言葉）ことを学習する。  
ロシアのマナー用語（挨拶・自己紹介・電話での会話など）について学習する。また、ロシア文化についての説明もする。

■**到達目標**：①簡単な文章、例えば会話帳などを読むことが出来る。  
②ロシア語でのメールや絵葉書が書けるようになる。  
③ロシア語での簡単な会話（天気、家族、食事、学校など）が出来る。

■**担当教員**：

ジダーノフ・ウラディミール

■**授業計画・内容**：

- 第1回 アルファベット・エチケットとあいさつ
- 第2回 アルファベット・ロシアについてのインフォメーション
- 第3回 感謝表現
- 第4回 疑問文・謝罪の表現
- 第5回 賛成、否定の表現
- 第6回 可能、不可能
- 第7回 物主代名詞（わたしの、あなたの）・名詞の性
- 第8回 家族について
- 第9回 動詞
- 第10回 名詞の変化・自分について
- 第11回 副詞・ロシア語が話せますか？
- 第12回 「好き・欲しい／したい・できる」の動詞
- 第13回 時間の表現
- 第14回 ロシア映画鑑賞
- 第15回 ロシア映画鑑賞

■**事前・事後学習**：授業で習った単語や文章を書いてスペルを覚えるように努め、また音読の練習もすること。  
学習の所要時間には個人差があるが、語学習得のためには短時間でもできるだけ毎日繰り返すことが重要です。

■**教科書**：『TEPEMOK 基礎編』を使用する。  
授業毎にコピー資料を配布するので、購入の必要はない。

■**参考文献**：露和・和露辞典があると良い。

■**成績評価基準と方法**：最も重視するのは授業態度で、「授業態度（出席状況含む）：50％・宿題：10％・課題（問題を事前にわたし、それを提出してもらう／2回実施）：40％」とする。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度	◎	○	◎	積極的な姿勢。	
発表	◎	○	◎	発音重視。	
課題・作品	○	◎		提出期限厳守であること。	20
出席	◎	◎	◎	時間厳守であること。	50
その他（ホームテスト）		◎		正確な文法であることを重視。	30

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：簡単なロシア語の文章の読み書きや会話を習得することがこの授業の目標です。また、ロシアの文化を紹介したいと思います。

# 中国語(デザイン学部)

選 択

開講年次：3年次前期

科目区分：演 習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：中国語の基礎的な文字・発音・文法を学習し、基本的な会話文を習得するとともに、異文化コミュニケーションという観点から、中国に対する理解を深める。

■**到達目標**：①中国語で自己紹介ができる。  
②中国語で初歩的なコミュニケーションができる。  
③中国語の特徴を通して異文化を理解する。

■**担当教員**：照井 はるみ

## ■授業計画・内容：

- 第1回 ガイダンス：「中国語学習を始める前に」、「自分の名前は中国語で」、「挨拶用語」、DVD鑑賞：ルポ「上海の街並・建築の変遷」、ルポ「中国的伝統と現代生活」
- 第2回 第1課「発音I」
- 第3回 第2課「発音II」
- 第4回 第3課「何月何日?」「何時?」
- 第5回 第4課「お名前は?」「どちらの大学?」
- 第6回 第5課「だれ? なに?」「これは～です」
- 第7回 第6課「いる」「ある」
- 第8回 第7課「どこにいる?」「AそれともB?」
- 第9回 第8課「どれくらいかかる?」「～するのが好きです」
- 第10回 映像で知る中国：ルポ「中国少数民族大運動会」、ルポ「中華武術」、アニメ版・京劇舞台版「三岔口」、アニメ版・京劇舞台版「西遊記一三打白骨精」／「中国茶を味わう」
- 第11回 第9課「いくら?」「Aよりも～です」
- 第12回 第10課「～したい」「どこで?」
- 第13回 第11課「～できる?」「～していい?」
- 第14回 第12課「～している」「～したいことがある」／自己紹介練習
- 第15回 自己紹介発表会：全員が発表者で審査員  
スライド鑑賞：「北京飯店本館・旧館・新館」、「円明園西洋遺楼」、「胡同」、「台湾の古建築」、「パリの中華街&東洋美術館」

## ■事前・事後学習：

- ◎ 事前学習：毎回学習する課の新出単語の意味を、教科書巻末の語句リストを使って事前に教科書の新出単語欄に書き込んでおく。これは中国語辞書の引き方の訓練にもなり、新出単語を簡体字・ピンイン・日本語訳の3点から総合的に学習することができる。
- ◎ 事後学習：宿題としてその日学習した新出単語の簡体字・ピンイン・日本語訳の3項目をすべて筆記して提出する。教師は添削後返却するので、自分の正すべき点を確認する。
- ◎ 講座終了までに中国・中国語に関する本を1冊読み、感想文を提出する。読む本は「参考図書目録」（ガイダンスで配布、大学図書館所蔵）を参考に選択する。ジャンルは問わない。これは各自の視点を通して中国に対する認識を深めることを目的とするものである。

■**教科書**：『はじめよう楽々中国語』（CD付／音声ダウンロード）白水社 2,200円+税  
／ハンドアウト：毎回、歴史・文化・社会・生活などを紹介するプリントを配布する。

■**参考文献**：『近くて遠い中国語』阿辻哲治著（中公新書）、『貝と羊の中国人』加藤徹著（新潮新書）、『近代中国史』岡本隆司著（ちくま新書）、『美麗島紀行』乃南アサ著（集英社）、『知日』毛丹青ほか著（潮出版社）、他にガイダンスで配布する「参考図書目録」（大学図書館所蔵）を参照。

■**成績評価基準と方法**：定期試験（学期末）70%、授業態度・出席30%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	○	定期試験100点満点で80点以上取得のこと。	70
授業態度・発表	◎	◎	○	毎回授業に出席しその内容を習得することが基本。	30
出席				2/3以上の出席。1回欠席で-5点。	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

## ■関連科目：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：今日の中国は、近代から現代に至る約200年の間で最も豊かで、最も国力の高い時期にあるといえる。今や14億人に迫ろうとする人口は、約4億人の都市戸籍者と9億人以上の農民戸籍者（その内約3億人が農民工として都市部に住み、6億人以上が農民として農村部に住む）に分けられ、都市戸籍と農民戸籍の間には社会保障・教育・生活などあらゆる面で大きな差別がある。このように異なる社会的背景・価値観・感性をもつ多面多層の中国に対し、隣国の私たちは複眼的な視点を持ち、現実的な対応を志向しなければならない。この講座が中国語を学ぶと同時に中国を知る場になることを願っている。

# 統計の世界(デザイン学部)

選 択

開講年次：3年次後期

科目区分：講 義

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：現代社会はデータが溢れる社会であり、データに基づく客観性・合理性・効率性の追求が日常生活の一部となっている社会である。データとの接し方を理解していることが基本的な教養、あるいは生きていくための基礎的な知識として求められるようになってきていると言ってもいいだろう。本授業では、なぜ統計が必要か?という問いに始まり、統計を扱う際の注意点や心構え、統計学の基本的概念、統計的推論や検定などの分析手法を学ぶことを通じて、様々なデータと付き合っていく上で必要となる統計学的な物の見方や考え方を理解・修得することを目指す。

- 到達目標**：①統計学的な物の見方や考え方を理解する  
②統計を用いた推計・検定の基礎を身につける  
③要因間の関係について考える力を身につける  
④統計を扱う上での注意や心構えを身につける

■**担当教員**：丸山 洋平

## ■授業計画・内容：

- 第1回 ようこそ、統計の世界へ：なぜ統計が必要か?
- 第2回 もし世界が100人の村だったら：統計と確率の基本は割合・比率
- 第3回 出生率は上がっても子どもの数は減って行く?：母数と割合・比率の関係
- 第4回 日本は格差社会か?：度数分布・累積度数分布・ジニ係数・パレートの法則
- 第5回 学力はどう測るのか?：平均値・標準偏差・標準化
- 第6回 畑のジャガイモはどのように育つか?：正規分布
- 第7回 予言するタコ?あるいはビールの目隠しテスト：二項分布
- 第8回 スープの味見?あるいはサンプリングの原理：母集団と標本の関係
- 第9回 日本人の身長は高くなったか?：平均値の推定・検定
- 第10回 内閣支持率あるいは選挙の開票速報：比率の推定・検定
- 第11回 足の大きさから身長を推理する：相関関係
- 第12回 冬の気温とお酒の売り上げ：回帰分析と有意性検定
- 第13回 ワインの質を予測する：重回帰分析
- 第14回 統計で人を騙したり、騙されたりしないために
- 第15回 統計調査の実際

■**事前・事後学習**：事前に教科書の該当する章に目を通し、わからない点などを事前にチェックする。事後に教科書の該当箇所を読んで復習し、ポータルシステムからの課題に回答する。

■**教科書**：原俊彦『統計の世界—物の見方・考え方・心構え—』（原書房）¥1,600

■**参考文献**：涌井良幸『統計解析がわかった!』（日本実業出版社）¥1,600

片平列彦『やさしい統計学 — 保健・医療・看護・福祉関係者のために（改訂版）』（桐書房）¥2,100

岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎 JGSSデータとオンライン集計の活用』（有斐閣）¥2,800

## ■成績評価基準と方法：

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③	④		
定期試験						
小テスト・授業内レポート						
授業態度						
発表						
課題・作品	◎	◎	◎	◎	課題の評価点(15回分を100点満点で評価)	100
出席	○				6回以上欠席した場合は、不合格	
その他						

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

## ■関連科目：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：この授業は、モニターに教材を映す講義形式で行います。講義終了後は各自が教科書で自習し、ポータルシステムで課題に取り組んでもらいます。課題は毎回の授業後に提示し、2週間後を締め切りとします（提出遅れは減点対象）。統計学的な考え方に慣れるまでは難しいと感じると思いますので（特に後半）、自習の時間を取ることを強く勧めます。また、Excelを使って自分で計算したりグラフを作成したりすることで、知識をより修得しやすくなります。デザインとの関連に重点を置いた講義内容となります。

# 人間空間デザイン論

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：人間空間デザインの基本的な考え方と、広範なデザインの対象、デザインの手法を理解する。建築・環境デザインおよび地域コミュニケーションデザインの事例を通して、人間と建築・環境・地域を考えた空間デザインに係る理念を学ぶとともに、様々なデザイン手法についても理解を深める。授業は人間空間デザインコース全教員のオムニバス方式により行う。なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（その他）である。

■**到達目標**：①人間と建築・環境・地域を考えた空間デザインに係る理念が理解できる。  
②建築・環境デザインの手法について説明することができる。  
③地域コミュニケーションデザインの手法について説明することができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎斉藤 雅也・上遠野 敏・羽深 久夫・矢部 和夫・椎野 亜紀夫・高井 真希子・武田 亘明・山田 信博・山田 良・石田 勝也・大島 卓・片山 めぐみ・小宮 加容子・須之内 元洋・金子 晋也・新任教員（2名：予定）

■**授業計画・内容**：

- 第1回 建築・環境デザイン1（建築設計意匠）【金子】
- 第2回 建築・環境デザイン2（建築計画）【山田 信博・新任教員（予定）】
- 第3回 建築・環境デザイン3（建築史）【羽深】
- 第4回 建築・環境デザイン4（建築環境・都市計画）【斉藤・新任教員（予定）】
- 第5回 建築・環境デザイン5（エコロジカルデザイン）【矢部】
- 第6回 建築・環境デザイン6（ランドスケープデザインI）【椎野】
- 第7回 建築・環境デザイン7（ランドスケープデザインII）【大島】
- 第8回 建築・環境デザイン8（環境芸術）【山田 良】
- 第9回 地域コミュニケーションデザイン1（地域デザイン）【高井】
- 第11回 地域コミュニケーションデザイン2（コミュニティデザイン）【片山】
- 第11回 地域コミュニケーションデザイン3（プロジェクト企画デザイン）【武田】
- 第12回 地域コミュニケーションデザイン4（メディアアーツ）【須之内】
- 第13回 地域コミュニケーションデザイン5（映像音響空間演出）【石田】
- 第14回 地域コミュニケーションデザイン6（ユニバーサルデザイン）【小宮】
- 第15回 地域コミュニケーションデザイン7（アートとまちづくり）【上遠野】

■**事前・事後学習**：

- （事前）各回の授業内容に関係する図書・資料を事前に読んでおくこと。
- （事後）講義後に小レポートを書く時間を設ける。要点をまとめ、自分の考えを記すこと。

■**教科書**：授業時間に適宜指示します。

■**参考文献**：授業時間に適宜指示します。

■**成績評価基準と方法**：3分の1を超えて欠席すると単位が出ません。評価は授業内レポート70%、授業態度15%、出席15%により総合的に判断します。遅刻2回で1回の欠席とします。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
授業内レポート	○	◎	◎	授業内容に対する理解度	70
授業態度	◎	○	○	積極的な姿勢	15
発表					
出席	○	○	○	2/3以上の出席。遅刻は減点対象。	15
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習I、II、III、IVほか

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：人間空間デザインは人々の生活や社会を、建築設計や地域づくりで豊かにしていくデザイン分野です。このため日頃から生活空間、地域、都市、社会について高い関心を持つよう心がけて下さい。



# 人間情報デザイン論

必修 開講年次：1年次前期 科目区分：講義 単位：2単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：人間情報デザインの基本的な考え方とデザイン対象を理解するとともに、デザイン手法や評価手法の概要も理解する。ものづくりデザインおよび情報コミュニケーションデザインの事例を通して、人々の暮らしを快適で楽しくするようなモノやコトのデザインを学ぶとともに、様々なデザイン手法についても理解を深める。授業は人間情報デザインコース全教員のオムニバス方式により行う。

■**到達目標**：人間情報に関わるデザインの基本的な考え方を理解するために、次の点を到達目標とする。

- ①人間の情報伝達の基本と表現方法を理解する
- ②IT機器と人間とのインタラクションの考え方を理解する
- ③製品（もの）のデザインの基本を理解する

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

安齋 利典、◎石井 雅博、城間 祥之、細谷 多聞、若林 尚樹、柿山 浩一郎、張 浦華、藤木 淳、三谷 篤史、大淵 一博、金 秀敬、福田 大年、松永 康佑、矢久保 空遥

■**授業計画・内容**：

第1回	人間情報デザインとは	(城間)
第2回	世界の問題を視覚情報化する～TIME MAGAZINEの表紙デザイン～	(城間)
第3回	コミュニケーションデザイン	(若林)
第4回	エンターテインメントコンピューティング	(松永)
第5回	プロダクトデザイン	(安齋)
第6回	サービスデザイン	(福田)
第7回	感性デザイン	(張)
第8回	ロボットメカトロニクスデザイン	(三谷)
第9回	ユーザーエクスペリエンスデザイン	(金)
第10回	ヒューマンコンピュータインタラクション	(石井)
第11回	システム開発とプログラミング	(大淵)
第12回	メディアアート	(藤木)
第13回	インタラクションデザイン	(矢久保)
第14回	インタラクションデザインの評価	(柿山)
第15回	人間情報デザインの築く未来	(細谷)

■**事前・事後学習**：

事前学習：指定された書籍や配布された資料等を読み理解しておくこと。

事後学習：小レポート等を課す場合がある。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：必要に応じて、各教員が紹介する。

■**成績評価基準と方法**：毎回の授業内容をまとめたレポート60%、2/3以上の出席（欠格条件）30%、授業態度10%で、上記の到達目標の達成度を評価します。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎	◎	◎	毎回の授業のレポート	60%
授業態度	○	○	○		10%
発表					
課題・作品					
出席	◎	◎	◎	その他 参照	30%
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：人間空間デザイン論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：書籍や雑誌、現実の社会等において、広くデザインに関する知識を習得するとともに、多くのデザインされた「もの」や「こと」に接して欲しい。

欠席時数が全体の1/3を超えた場合は単位認定しない。

遅刻・無断欠席、及びレポート未提出は成績評価に悪影響する。

# デザイン史

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：(1)デザインを学んだことの証明は、その分野がどのような過程を経て現在に至るかを、一般常識として学習していることに他ならない。この講義では、社会の一員として、デザインの教養を常識的に携える知識を獲得することを目的とする。

(2)人間は有史以来、住居や都市、道具や情報といった自分たちの生存環境のデザインを試みてきた。本講義では、このような広義の「デザイン」をデザイン前史（20世紀以前）からの一貫性の中で通史的に学ぶ。なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（その他）である。

■**到達目標**：デザイン史に関わるトピックスを、住環境である建築や都市の変遷を礎としながら、以下の観点から理解すると共に、著名な作家や作品、デザイン運動等の知識を素養として獲得する。

- ①技術の発展とデザインとの関係について理解する
- ②文化とデザインの関係について歴史的な変遷を理解する
- ③社会・経済がデザインに及ぼした影響を理解する

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎細谷 多聞・金子 晋也

■**授業計画・内容**：

第1回 イントロダクション「なぜデザイン史を学ぶのか」

<デザイン前史>

第2回 建築・都市

第3回 人工物・情報

<1920～40年代（大戦前・モダンデザイン期）>

第4回 建築都市

第5回 人工物

第6回 情報

<1950～60年代（戦後・日本のデザイン）>

第7回 建築都市

第8回 人工物

第9回 情報

<1970～80年代（ポストモダン）>

第10回 建築都市

第11回 人工物（1）

第12回 情報（1）

第13回 人工物（2）

第14回 情報（2）

第15回 デザイン史リフレクション

■**事前・事後学習**：毎回授業のテーマが変わるので、予め配布されている資料などに目を通し、デザインの変遷について把握しておくこと。受講後は、配布資料などを復習しながら授業内容の理解を深め、さらに授業内で紹介された事例について参考図書、関連書籍、ウェブメディアなどを参照しながら、自身の考察を深めることが求められる。予習・復習時間としてそれぞれ、2時間程度が必要である。

■**教科書**：適宜資料を配布する。

■**参考文献**：適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**：定期試験やレポート等（60%）、授業態度（10%）、出席（30%）

評価方法	到達目標			評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	
定期試験	◎	◎	◎	60
授業態度	◎	◎	◎	10
出席	○	○	○	30
その他				

◎：極めて重視する。 ○：重視する。 空欄：評価に加えない。

■**関連科目**：近現代建築史ほか

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：デザインの専門家になろうとしている皆さんは、デザインという分野の「今」を適確に読み解く能力が必要です。こうした能力は、「今」を観察しているだけでは、なかなか身につけません。デザインの過去に、どのような経緯があったのかを知ることで、「今」おこっている様々な出来事が見えてきます。この授業を大学における皆さんの学びに役立ててください。

# デザインと数学

選 択

開講年次：1年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：数学や物理などの自然科学は、デザインの様々な分野において基礎となる重要な学問です。図形に関する知識は、2次元・3次元のコンピュータグラフィクスや形状デザインには欠かせないものであり、数式や物体の運動などに関する知識は、コンピュータシミュレーションやプログラミング、建築、各種プロダクトの設計に必須のものとなっています。本科目では、今後のデザイン活動において必要とされる数学について扱います。

■**到達目標**：①デザイン分野で必要とされる数学の基礎的事項を理解する。  
②数学的思考をデザインに応用する手法を理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎石井 雅博、松永 康祐、大淵 一博

■**授業計画・内容**：

第1回	デザインと数	大淵
第2回	デザインと各種関数の応用	//
第3回	プログラミングのための円・三角関数①	//
第4回	プログラミングのための円・三角関数②	//
第5回	複素数とその活用	//
第6回	自然における造形と数学	松永
第7回	様々な比率とデザイン構図	//
第8回	立体構造・パターン模様と造形	//
第9回	デザインにおける各種曲線	//
第10回	CG分野における運動法則	//
第11回	ベクトルと空間認識	石井
第12回	画像変換と行列	//
第13回	微分・積分	//
第14回	論理と集合	//
第15回	場合の数	//

■**事前・事後学習**：事前学習として、高等学校の数学I・II程度の内容をおおまかに復習しておく必要があります。事後学習として、課題を課すことがあります。

■**教科書**：使用しません。適宜資料を配布します。

■**参考文献**：『高校数学の美しい物語』（SBクリエイティブ）、『アートを生み出す七つの数字』（オーム社）、『アートのための数字』（オーム社）、『図説やさしい建築数学』（学芸出版）、『建築には数学がいっぱい』（彰国社）、『ゲーム開発のための数学・物理学入門』（SBクリエイティブ）

■**成績評価基準と方法**：定期試験、出席状況、授業態度を総合的に評価します。また、出席数が全体の2/3に満たない場合には単位が認められません。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験	◎	◎	授業内容のポイントを理解していること。	90
授業態度	○	○	授業に対する積極的な参加姿勢。	10
出席			2/3以上の出席。遅刻、欠席は全体の評価から減点します。	

◎：より重視する    ○：重視する    空欄：評価に加えず

■**関連科目**：情報リテラシーI、情報リテラシーII、デザイン工学、プログラミングI、プログラミングII、プログラミングIII、3DCG実習、Webプログラミング

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：本科目は主に高校での数学III未履修者を対象としていますが、デザインと数学は深い関係があるので、数学をやや苦手としている学生の受講についても強く勧めます。受験用の数学が得意でなかった人も是非、受講してください。

# 表現基礎(描画)

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：実習

単 位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**:デザインの基礎となる見る力とそれにもとづく描く力を向上させ、自己のアイデアを展開し、まとめる力を、ドローイング表現技術の習得を通して学ぶ。

基本的な描画の道具としての画材の特性を理解し、それをもとに自分の手で描くことでアイデアを展開し、まとめ、伝えるためのツールとしてドローイング技術の活用を体験的に学ぶ。

■**到達目標**: ①観察する力とそれを表現する力を身につける。

②段階的プロセスによりイメージした形を的確に表現することができる。

③デザインにおけるドローイングの役割を理解し、ビジュアルなコミュニケーションに活用できる。

■**担当教員**:【◎は科目責任者】

◎若林 尚樹、藤木 淳

■**授業計画・内容**:

つかむ

第1回 描画の基礎1:イメージで描く、見て描く(カイトミル、ミテミル、ミテカク)

第2回 描画の基礎2:線を描く(直線と曲線、そして基本図形)

第3回 描画の基礎3:立体を描く(陰と陰、基本立体を描く)

第4回 描画の基礎4:素材を描く(硬い素材、柔らかい素材。さまざまな素材)

第5回 作品制作(形をつかむ、素材をあらわす)

あらわす

第6回 線で描く(たくさんの線で描く、一本の線で書く)

第7回 面で描く(平面の組み合わせ、色の組み合わせ)

第8回 点で描く(点描とデジット)

第9回 図形で描く(基本図形の組み合わせで描く)

第10回 作品制作(4つの表現で描く)

ひろげる

第11回 形の変わる製品を描く1(ディテール、機構の表現)

第12回 建物を描く1(建物の内装を描く:ディテール、機構の表現、質感の表現)

第13回 建物を描く2(作品制作)

まとめ

第14回 ポートフォリオの制作1(表現基礎(描画)の作品集)

第15回 ポートフォリオの制作2(ポートフォリオ作品講評会)

■**事前・事後学習**:

予習について:授業の終わりに次回の授業テーマについて触れ、授業までに事前に調べておく事柄を予習のポイントとして指示します。

復習について:授業にもとづいて関連する作品等の調査や演習課題を課します。また、発表準備、素材制作、課題作成など、授業時間外の作業が必要となります。

■**教科書**:授業の中で資料を適宜配布する。

■**参考文献**:授業の中で適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**:授業態度・提出課題の結果を総合して評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度	○	○	○	授業時間を効果的に活用して制作を行う	30%
発表	○	○	◎	作品の制作意図などを説明できる	20%
作品	◎	◎	◎	出題条件にそった課題作品をすべて提出していること	50%
出席				2/3以上の出席が必要	欠格条件

◎:より重視する ○:重視する 空欄:評価に加えず

■**関連科目**:表現基礎(構成)、表現基礎(製図)

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**:デザインを学ぶ上で基礎となる描く力を、さまざまな視点からのエクササイズを通して身につける授業です。

\*スケッチブックは指定のものを購入

\*鉛筆、ミリペン、サインペンなどの描画のための画材は提示する資料を参考に各自が準備する

# 材料加工理論／実習Ⅰ

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：実習

単 位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**：木材、金属、プラスチックによる造形基礎理論と実習を実施する。木工、金工、プラスチック加工の機器操作安全講習と、目的にあった材料特性を理解して加工方法を習得するとともに、材料に適する造形技術、および、3次元の表現力、造形力を養うことを目的とする。

■**到達目標**：①材料の特性と加工方法を知る。  
②材料特性に基づいた造形ができる。  
③思い描いた造形を立体に加工できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎上遠野 敏・矢久保 空遥・川上 りえ

■**授業計画・内容**：

第1回 木材加工（木工室機械講習、テーマ説明）

第2回 木材加工（材料加工理論、木取り、ケガキ）

第3回 木材加工（木材加工）

第4回 木材加工（結合、接着、組立）

第5回 木材加工（造形）

第6回 金属加工（金工室機械講習、テーマ説明）

第7回 金属加工（材料加工理論、木取り、ケガキ、切断）

第8回 金属加工（金属加工）

第9回 金属加工（溶断、溶接）

第10回 金属加工（組立、仕上げ）

第11回 プラスチック加工（樹脂塗装室機械講習、テーマ説明）

第13回 プラスチック加工（材料加工理論、画像処理）

第14回 プラスチック加工（レーザー加工）

第15回 プラスチック加工（接着、組立）

\* 工場の収容人員を鑑み、火曜（1～2コマ目）2グループ（各23名）、（4～5コマ目）2グループ（各23名）の授業構成で、木工（5週）、金工（5週）、プラスチック（4週）をローテーションで入れ替えます。

■**事前・事後学習**：予習について：課題に必要な事前調査（作品や事例など）を行って、作品構想のイメージを構築しておくこと。  
復習について：素材に対して加工技術や技法を理解しながら、創造性を発揮した時間外の課題制作が必要となります。

■**教科書**：適宜資料を配布する。

■**参考文献**：なし

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート				理解、習得技術に関するレポート	
授業態度	○	○	○	積極的な姿勢。	30
発表					
課題・作品		○	◎		70
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：表現基礎（描画）・（製図）・（構成）、材料加工理論／実習Ⅱ

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業開始時に、一括購入する材料費（木材1,500円、金属1,500円、プラスチック材1,500円）4,500円が必要となります。  
各工場の安全講習と作品制作を行います。作業に適した服装を用意してください。

# 時間表現理論／演習Ⅰ

選 択

開講年次：1年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：19世紀に発明された写真技術は、近代視覚文化に多大な影響を与えたばかりでなく、現代社会のコミュニケーションに欠かせないメディアである。本講義前半は、写真メディアの特徴やその可能性を理解し、スナップ、風景、静物、組写真など写真表現の基礎的手法を修得する。

映像とは時間的変化を視覚表現として発展した技術であり、現在我々の社会においてはアート、広告、エンターテインメント等様々な場面において無くてはならないものとなっている。後半では前半で自らが撮った写真を素材にして映像制作の基本手法を修得する。

■**到達目標**：①写真メディアの特徴と可能性を説明できる。一眼レフカメラを用いた基本的な撮影手法と、写真のプリント手法を理解し、実践できる。

②自身のアイデアや行為を表現するためのメディアとして、写真を積極的に活用し表現できる。

③映像が静止画の連続性によって成り立っていることを知り、静止画からの映像制作を実践する

④映像における、空間及び時間の概念について理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎須之内 元洋、石田 勝也

■**授業計画・内容**：

第1回 写真の可能性、一眼レフカメラの基本

第2回 撮影演習 静物写真

第3回 撮影演習 風景写真

第4回 撮影演習 スナップ写真

第5回 課題オリエンテーション、写真プリントの基本

第6回 プリント演習

第7回 プリント演習

第8回 プリント仕上げ・展示

第9回 映像の成り立ち、課題オリエンテーション

第10回 映像制作演習 コンテ制作

第11回 映像制作演習 素材選定・切り分け

第12回 映像制作演習 時間変化1

第13回 映像制作演習 時間変化2

第14回 映像制作演習 映像の書き出し・圧縮方法

第15回 映像作品講評

■**事前・事後学習**：座学で得た知識を演習に反映できるよう、座学で習得した内容を毎回確実に復習すること。曖昧な点についてはそのままにせず、必ず質問を行うこと。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：講義中に適宜紹介します。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
発表	◎	◎	◎	◎		20%
成果物・作品	◎	◎	◎	◎	完成度・精度	40%
出席	○	○	○	○	2/3以上の出席必須	40%

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：時間表現理論／演習Ⅱ、メディア芸術論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：写真と映像は、現代の視覚文化を織りなす基本的な表現言語です。写真と映像の基本的な理論と、それぞれのメディアの特徴について、演習を通じて楽しく理解を深めましょう。なお、インク用紙代として、教材費500円／1人が必要です。

# デザイン工学

選 択

開講年次：1年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：現代社会における多様なシステムは、視覚的な造形美を追求するだけでは成立しない。システムには安全性や快適性、耐久性、最近では省エネルギー性、リサイクルなどの高い環境性能が要求される。本講では、人間空間デザインおよび人間情報デザイン分野の基礎となる工学・理学に関わる基礎知識の習得とその応用事例について学ぶ。  
なお、本講は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（その他）である。

■**到達目標**：①建築環境システム・建築構造システムの基本的な成り立ちについて理解する。  
②製品の設計事例や実習により、エコデザインの基本的な知識を習得する。  
③電子技術の基礎を学ぶことで、技術に基づいたデザイン表現を行なう知識の獲得を目指す。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎斉藤 雅也・細谷 多聞

■**授業計画・内容**：

- 第1回 システム論・入れ子構造【斉藤】
- 第2回 熱の流れ、エネルギー収支、断熱・蓄熱・遮熱のメカニズム【斉藤】
- 第3回 ペットボトルハウスづくり（演習）による温房・涼房の原理【斉藤】
- 第4回 演習課題の発表・討論【斉藤】
- 第5回 システムの持続可能性【斉藤】
- 第6回 建築構造システム・キャンパス内の事例調査【斉藤】
- 第7回 建築構造計画と安全性【斉藤】
- 第8回 外力と応力の関係【斉藤】
- 第9回 製品の成り立ち【細谷】
- 第10回 製品設計とエコデザイン【細谷】
- 第11回 製品解体実習【細谷】
- 第12回 情報技術とデザイン【細谷】
- 第13回 アナログ回路とデジタル回路【細谷】
- 第14回 マイクロコンピュータによる表現（1）【細谷】
- 第15回 マイクロコンピュータによる表現（2）【細谷】

■**事前・事後学習**：事前には、以下の参考書等、関係する書籍、資料を参照しておくこと。事後には、授業内容について復習をして理解を深めること。

■**教科書**：必要に応じて資料を配布する。

■**参考文献**：設計のための建築環境学 日本建築学会編（彰国社）  
図説 テキスト建築構造 構造システムを理解する 第二版（彰国社）  
デジタル回路の設計・製作 湯山俊夫著（CQ出版社）

■**成績評価基準と方法**：2回の遅刻は1回の欠席とみなす。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎		50
授業内演習	◎	◎	◎	上記の演習内容	15
授業態度	○	○	○	出席・遅刻と一体で見る	(15)
発表					
課題レポート	◎	◎	◎		20
出席	◎	◎	◎	2/3以上の出席(欠格条件)	15
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：人間空間デザイン論、人間情報デザイン論、建築デザイン論、寒冷地デザイン論ほか

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：どちらのコースに進むにせよ、履修することを強く薦める。

# アイデア生成プロセス

必修

開講年次：1年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：アイデア生成プロセスにおける、情報収集・発散・収束の関連性を、個人ならびに協創的環境での体験を通して理解する。

■**到達目標**：①情報収集・発散・収束の関連性を、事例を基に体験的に理解する。  
②個人によるアイデア生成プロセスの精度を向上させることができる。  
③多人数によるアイデア生成プロセスの精度を向上させることができる。

■**担当教員**：

福田 大年

■**授業計画・内容**：

第1回 講義紹介／アイデアの質と量の関係  
第2回 活動1 日常の観察とアイデアの関係1  
第3回 活動1 日常の観察とアイデアの関係2  
第4回 活動1 日常の観察とアイデアの関係3  
第5回 活動2 構造の理解とアイデアの関係1  
第6回 活動2 構造の理解とアイデアの関係2  
第7回 活動2 構造の理解とアイデアの関係3  
第8回 活動3 描くこと、協力すること、とアイデアの関係1  
第9回 活動3 描くこと、協力すること、とアイデアの関係2  
第10回 活動4 ストーリーとアイデアの関係1  
第11回 活動4 ストーリーとアイデアの関係2  
第12回 活動4 ストーリーとアイデアの関係3  
第13回 活動4 ストーリーとアイデアの関係4  
第14回 活動4 ストーリーとアイデアの関係5  
第15回 講義全体の振り返り／まとめ

■**事前・事後学習**：

・事前学習：各活動の実施前に、参考文献・関連資料などの内容の確認、身の回りの関連事象の調査を、積極的に進める。  
・事後調査：各活動の実施後に、授業内容、活動結果、参考文献・関連資料など基に、学び得たことを振り返り、次の活動準備をする。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：・James W Yanng、今井茂雄 訳（1988）「アイデアのつくり方」TBSブリタニカ  
・川喜田二郎（1967）「発想法」中公新書  
・加藤昌治（2003）「考具」阪急コミュニケーションズ  
その他、必要に応じ講義内で紹介する。

■**成績評価基準と方法**：活動（調査・制作など）・提出物（50%）／授業態度（20%）／共有・振り返り（30%）／出席を、総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
活動(調査・制作など)・提出物	○	◎	◎	課題の意図を理解し、創意工夫ができる	50
授業態度	◎	○	○	試行錯誤して臨む姿勢	20
共有・振り返り	○	○	○	課題の意図を理解し、自省・相互評価できる	30
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：協同デザインI、協同デザインII、デザイン展開プロセス

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：日常の中に潜んでいるアイデアのタネを探し、発散と収束を繰り返しながら、精査し、昇華していく流れを、個人ならびにグループ活動で探究していきます。アイデア生成は、正解や100点を求めるプロセスではありません。工夫と創発によってアイデアが活性化していくプロセスを、自ら構築する手立てとして本講義での学びを活用してください。



# 視覚・色彩心理学

必修

開講年次：1年次後期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：視覚情報は、建築・景観・インテリア・照明・サインデザイン・情報デザイン等において重要な要素である。本科目では、形・光・色彩、奥行き、運動などに関する基本的知識を学習すると共に、多様な条件下において応用できる能力の習得をめざす。また、生活環境との関連性において、視覚情報の、建築・景観・インテリア・照明・サインデザイン・情報デザイン面への効果的活用と計画について考え、理解する。

なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（その他）である。

■**到達目標**：①形や光・色彩の知覚メカニズムと特性、色彩計画について理解する。  
②形や光・色彩の空間認知に関わる心理的効果について理解する。  
③建築・景観・インテリア・照明・サインデザイン等への応用事例を理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎石井 雅博

■**授業計画・内容**：

- 第1回 色彩の基本：光と色彩、色の三属性（色相・明度・彩度）など
- 第2回 色彩の効果：温度感／大きさ感／重量感／距離感、面積効果、対比効果、ブルキン工現象など
- 第3回 色彩の調和：配色、色彩調和理論、平均演色評価数、加法・減法混色、アクセント効果など
- 第4回 測光と表色システム：分光分布、照度、光度、輝度、マンセル表色系、色相環、色温度など
- 第5回 視覚の時空間特性：視力、明所視・暗所視、グレア、視野、順応など
- 第6回 形の知覚：光の流れ・方向性、反射、印象など
- 第7回 群化：近接・閉鎖・連続・類同など
- 第8回 図と地：背景に対する前景
- 第9回 錯視：長さ・面積・曲線・動き・影
- 第10回 空間の認知：遠近法、パースペクティブ、テクスチャーの勾配など
- 第11回 空間の認知：奥行き、景観の印象、両眼網膜像差、運動視差、臨場感など
- 第12回 空間のシークエンスデザイン：周壁面の光・色の認知、運動知覚
- 第13回 空間のシークエンスデザイン：誘目性／魅力、視線の誘導、眼球運動
- 第14回 建築・景観・インテリア・照明・サインデザインへの応用事例 ①
- 第15回 建築・景観・インテリア・照明・サインデザインへの応用事例 ②

■**事前・事後学習**：

事前学習：講義資料を事前に公開するので、目を通しておくこと。

事後学習：講義中に興味を持った箇所や分からなかったところを自身で調べること。

■**教科書**：授業で適宜、デジタル資料・印刷物等を配布します。

■**参考文献**：設計のための建築環境学（彰国社）、生活環境学（井上書院：第4章 光環境と色彩）ほか。

■**成績評価基準と方法**：レポート（30%）、期末テスト（70%）によって評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標 ①	到達目標 ②	到達目標 ③		
レポート	◎	◎	◎	各回のポイントを理解していること。	30
期末テスト	◎	◎		ポイントを理解していること。	70
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：建築計画論、環境計画論（主に光環境）、建築デザイン論、その他 建築・景観・インテリア・照明・サイン・インタラクション等のすべてのデザインに関連します。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

# 表現基礎(製図)

選 択

開講年次：1 年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：3次元の空間図形を2次元である平面上に表示するため、投象の種類と画法を理解し、基本製図（三面図、アクソメ、アイソメ、パースなど）の技法を習得する。また、基本製図で身に付けた平面の表現能力をもとに、スチレンボード・紙を使った立体モデルを制作する。デザインに必要な立体物の構成について理解し、制作を通じて三次元の表現力を養う。

- 到達目標**：①投象の種類と画法など基本製図技法を習得する。  
②イメージした立体を基本製図技法により平面上に表現することができる。  
③イメージしたパースを立体で表現することができる。  
④スチレンボード、ケント紙を用いて立体物が制作できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎山田 信博、金子 晋也

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 基本製図（図形の作図・点と直線）  
第 2 回 基本製図（図形の作図・面）  
第 3 回 基本製図（図形の作図・立体）  
第 4 回 基本製図（図形の作図・応用1）  
第 5 回 基本製図（図形の作図・応用2）  
第 6 回 基本製図（パース起こし1）  
第 7 回 基本製図（パース起こし2）  
第 8 回 基本製図（パース起こし3）  
第 9 回 スチレンボードによる立体造形（模型の基本1）  
第10回 スチレンボードによる立体造形（模型の基本2）  
第11回 スチレンボードによる立体造形（トップライト空間の計画1）  
第12回 スチレンボードによる立体造形（トップライト空間の計画2）  
第13回 紙による立体造形（折り紙建築の基本）  
第14回 紙による立体造形（オリジナル折り紙椅子の構想）  
第15回 紙による立体造形（オリジナル折り紙椅子の制作）

■**事前・事後学習**：

事前学習：配布資料や参考文献を通読すること。

事後学習：講義内容の復習と、演習での指摘を十分理解し各回の成果物の修正を行うこと。

■**教科書**：適宜資料を配布する。

■**参考文献**：図学概論／須藤利一（東京大学出版）

■**成績評価基準と方法**：出席・授業態度・提出課題の結果を総合して評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
課題・作品	◎	◎	◎	作品の内容	70
出席	○	○	○	2/3以上の出席が必要	30
				出席回数×2点	欠格条件

◎：より重視する。 ○：重視する。 空欄：評価に加えない。

■**関連科目**：表現基礎実習

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業開始時に、一括購入する教材費（用紙・製図用具等）として3,000円が必要になります。

# 表現基礎(構成)

選 択

開講年次：1 年次後期

科目区分：講義 + 演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：構成に関する基礎的知識を習得する。図形・色・文字を用いた演習を通し、構成の理論と手法について体験することで、制作目的に沿った表現および計画能力を修得する。適した道具の選択から作画と着色まで、表現活動に必要な応用能力の向上を図る。

■**到達目標**：①図形・色・文字を用い、構成に関する基礎的知識を理解する。  
②図形・色・文字を用い、構成に関する基礎的技術を理解し、向上させる。  
③図形・色・文字を用い、構成に関する知識および技術を生かした、応用表現能力を修得する。

■**担当教員**：

金 秀敬・新任教員

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション（構成の定義と意義）
- 第 2 回 作図
- 第 3 回 講評および更新
- 第 4 回 着色（彩度無し）
- 第 5 回 講評および更新（彩度無し）
- 第 6 回 着色（彩度有り）
- 第 7 回 講評および更新（彩度有り）
- 第 8 回 文字組み（欧文）
- 第 9 回 講評および文字組み（和文）
- 第10回 字組み講評（和文）および構成表現（設計）
- 第11回 講評および更新
- 第12回 構成表現（設計）
- 第13回 構成表現（彩色）
- 第14回 講評および更新
- 第15回 最終講評会（まとめ）

■**事前・事後学習**：授業では、講義内容の理解度を確認するために、双方向コミュニケーションを試みています。事前準備および事後復習を通して積極的な姿勢で授業に臨んでください。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：三井秀樹（2006）新構成学、六耀社  
白石学 編（2016）かたち・色・レイアウト 手で学ぶデザインリテラシー、武蔵野美術大学出版

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度	○			質問に対する回答内容	10
制作・提出物		◎	◎	アイデア・クオリティ	70
発表		○	○	講義内容の理解度	10
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他		○	◎	提出締め切り	10

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：表現基礎（製図）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：皆さんの実力に、現状そんなに差があるわけではありません。アイデア及びクオリティを意識し、「丁寧」に作業に取り組む姿勢が重要であります。真剣に活動すれば、自ずと上達すると思います。なお、受講には一括購入する教材（用紙・用具など）の費用が必要です。詳細情報は別途提供します。授業では理解度や進行状況をチェックするために、発表の機会が多く設けられています。また、製作した提出物については、最終的にポートフォリオにまとめることを心掛けてください。

# 材料加工理論／実習Ⅱ

選 択

開講年次：1 年次後期

科目区分：実 習

単 位：2 単位

講義時間：60 時間

■**科目のねらい**：セラミックス、インダストリアルクレイ(以降“クレイ”)による造形基礎理論と実習を実施する。材料特性を知り、加工方法を習得するとともに、材料に適する造形技術、および、3次元の表現力、造形力を養うことを目的とする。

■**到達目標**：①材料の特性と加工方法を知る。  
②材料特性に基づいた造形ができる。  
③思い描いた造形を立体に加工できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎安齋 利典・張 浦華・石崎 友紀・山田 祥子

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーションと基礎知識（セラミックスとクレイ合同）
- 第 2 回 セラミックス：タタラ成形と型による成形
- 第 3 回 セラミックス：表面装飾とひも作りによる筒の成形
- 第 4 回 セラミックス：ひも作りの仕上げと自由形の成形
- 第 5 回 セラミックス：自由制作
- 第 6 回 セラミックス：自由制作仕上げ
- 第 7 回 セラミックス：電動ロクロ体験
- 第 8 回 セラミックス：素焼き釉薬かけ／評価
- 第 9 回 クレイ：第1課題（基本造形）1：中子、荒盛り、造形作業
- 第10回 クレイ：第1課題（基本造形）2：造形作業、仕上げ、完成
- 第11回 クレイ：第2課題（応用造形）1：概要説明、図面・ゲージ・中子作製、荒盛り
- 第12回 クレイ：第2課題（応用造形）2：造形作業
- 第13回 クレイ：第2課題（応用造形）3：造形作業
- 第14回 クレイ：第2課題（応用造形）4：仕上げ、プレゼンテーション準備
- 第15回 クレイ：プレゼンテーション／評価

\*前半セラミックス、後半発泡材／クレイと、前半発泡材／クレイと後半セラミックスの、2グループに分け、9週目で入れ替えます。

■**事前・事後学習**：クレイに関しては、第2課題の造形（スケッチと三面図）及びプレゼンテーション用A3レポート（ポートフォリオ対応）を各回に分散して宿題とする。セラミックスに関しては、カップや茶碗などの日常生活道具について、使いやすさ持ちやすさや、取っ手の付け方などについて普段からよく観察すること。粘土から器の焼成までの制作のプロセスや作品写真など含み、A3レポート（ポートフォリオ対応）にまとめて宿題とする。

■**教科書**：適宜資料を配布する。

■**参考文献**：なし

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎			理解、習得技術に関するレポート	30
授業態度	○	○	○	積極的な姿勢。	20
発表					
課題・作品		○	◎		50
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：表現基礎、材料加工理論／実習Ⅰ

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業開始時に、一括購入する材料費（粘土、クレイ、発泡材等）として4,000円程度が必要となる。場所と道具類の制約から履修人数の上限を40名程度とする。上限を超過した場合は、抽選によって履修者を決定する。世の中にある製品の形状を、造形的視点から観察すること。特にセラミックスに関しては、日常使っている陶磁器に関して注意深く形状や仕上げを観察すること。

# Webデザイン

必修

開講年次：1年次後期

科目区分：演習

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：Webサイトを制作することは、今日では必須の情報発信手段となっています。この授業では、インターネットのしくみを理解しながら、HTMLとスタイルシート（CSS）による「正しい」Webサイト制作についての演習を行い、Webデザインについての基礎的な技術と知識を身につけます。

■**到達目標**：①Web制作に関わる基本的な作業手順を理解できること。  
②Webコンテンツを適切に制作できること。

■**担当教員**：  
大淵 一博

## ■授業計画・内容：

- 第1回 オリエンテーション／ページ制作基礎①（HTML基本タグ・文書構造）
- 第2回 ページ制作基礎②（CSSの記述方法）
- 第3回 ページ制作基礎③（Validation・idとclass）
- 第4回 ページ制作基礎④（ボックス）
- 第5回 Webページ制作演習（課題1）
- 第6回 ページ制作基礎⑤（テーブルその1）
- 第7回 ページ制作基礎⑥（テーブルその2・複数スタイルシート）
- 第8回 ページ制作基礎⑦（画像）／Webページ制作演習（課題2）
- 第9回 ページ制作基礎⑧（箇条書き・リンク）
- 第10回 ページ制作基礎⑨（パス・ファイル管理）
- 第11回 ページ制作基礎⑩（段組とナビゲーション）／高度なページ制作テクニック
- 第12回 Webサイト制作総合演習①
- 第13回 Webサイト制作総合演習②
- 第14回 Webサイト制作総合演習③
- 第15回 講評／授業のまとめ

■**事前・事後学習**：1年前期まででPCの基本操作やファイル管理について十分に習得しておいてください。課題については、素材データの収集、課題制作など授業時間外の作業が必要となります。

■**教科書**：教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

■**参考文献**：『HTML5&CSS3標準デザイン講座』（翔泳社）  
『できるポケット HTML5&CSS3/2.1全事典』（インプレス）

■**成績評価基準と方法**：授業課題、出席状況、授業態度を総合的に評価します。また、最終期限までにすべての課題が提出されない場合には、単位が認められません。  
また、出席数が全体の2/3に満たない場合にも単位が認められません。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
課題	◎	◎	授業内容のポイントを理解し、条件に従って適切に制作していること。 期日までに提出されていること。	100
出席			2/3以上の出席。遅刻、欠席は全体の評価から減点します。	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：情報リテラシーI、情報リテラシーII、Webプログラミング

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：各課題の評価を総合的に集計して課題の全体評価とします。課題期限に遅れた場合には、評価が減点されますので、注意してください。情報リテラシーI、情報リテラシーIIでMacintoshの基本操作やファイル管理について十分習得していることが望ましいです。また、文字入力が多くなりますので、タイピングに慣れておくことが望ましいです。

# 地域プロジェクトI(基礎編)

自由 開講年次：1年次・2年次(通年) 科目区分：演習 単 位：2単位 講義時間：60時間

■**科目のねらい**：地域の概念やしぐみ・札幌市の特徴についての基礎知識を基盤とし、実際に地域の活性化を目指し、教員が立案・計画したプロジェクトの参加観察(参加型)を通して、地域課題を解決するために必要な能力の基礎を習得する。

■**到達目標**：①地域の概念やしぐみ・札幌市の特徴について理解を深める。  
②地域プロジェクトの参加観察(参加型)を通して、地域の課題解決につながるプロジェクトが成立するための要件を考察する。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎定廣 和香子・大淵 一博

■**授業計画・内容**：

## Section 1. 地域活動へのいざない

1. オリエンテーション
2. 札幌市のまちづくり・地域活動について(講義)
3. 本学教員の地域プロジェクト事例(講義)

## Section 2. 地域活動の実際を知る(basic)

1. 地域活動に関わる特別講義・公開講座への参加

## Section 3. 地域プロジェクトを体感する

1. 地域プロジェクトの参加観察(中間報告会)

## Section 4. 学習活動を自己評価する

1. 報告会(地域住民向け)
2. アフターセッション(1年間の活動の自己評価)

■**事前・事後学習**：関心、興味のあるプロジェクトについて事前に情報収集をして下さい。プロジェクト参加後は、各自で担当した役割や感想をまとめ、プロジェクト実施報告書を提出して下さい。

■**教科書**：特になし

■**参考文献**：適宜参考資料を提供する。

■**成績評価基準と方法**：授業態度(活動の態度や言動・活動計画・記録、報告会にむけての準備)40%、発表20%、課題・作品(Section 2.の報告内容・報告書)40%、出席状況(Section 1.の受講状況、活動受け入れ先の実施証明書、報告会の参加状況)から総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
授業態度	○	○	◎	活動記録や活動受け入れ先の評価	40
発表			◎		20
課題・作品		◎	○	報告書・報告内容を含む	40
出席	○	○	○	2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：スタートアップ演習、札幌を学ぶ

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：学生が、自らの関心、興味に従って、主体的に学習する授業である。Section 3は、プロジェクト担当教員と面談の上、活動内容を決定し、計画を立案する。複数のプロジェクトに参加できるが、各プロジェクト終了時に、活動記録および活動受け入れ先の実施証明書を提出する。

# 近現代建築史

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：古代から現代へと至る建築の歴史の中で、建築理論や建築様式、建築形式、ビルディングタイプ、ランドスケープといった様々な類型や規範は、それぞれの時代の美意識や社会状況と密接に結びついて形成されてきている。本講義では、現代の建築理論がどのように形成されてきたかを特に空間と機能の概念が明確に意識化された近代建築およびランドスケープを通して理解し、近代の建築的営みを継承し、発展してきた現代の建築物、建築理論、都市環境の今後の進むべき道を考察する。

■**到達目標**：①近代の建築の変遷が建築理論、様式によって理解できること。  
②近代以前から近代へと至る建築史の変遷が理解できること。  
③現代の建築理論と建築形式の特徴を理解し、建築の批評が行えること。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎金子 晋也・羽深 久夫・山田 良・小澤 丈夫・中渡 憲彦・武田 明純・池上 重康

■**授業計画・内容**：

I 文化と技術の変容と近代建築の形成

1. 近代化と空間デザインの歴史
2. 新古典主義から新しい様式へ（アールアンドクラフト、ゼツセッション、ロシア構成主義、未来派など）
3. 合理主義の形成（ドイツ工作連盟、バウハウス、インターナショナルスタイル）
4. 近代建築と近代都市（コルビュジェ、ミース、ライトなど近代建築の巨匠）

II 建築周辺の空間の展開

5. 近代ランドスケープデザインの誕生（都市と自然）
6. アーバニズムと都市公園（都市の文脈）
7. アメリカンランドスケープ（巨匠の事例紹介）
8. エコロジカルランドスケープデザイン（エコロジーの文脈）
9. 参加型デザイン・コミュニティデザイン（コミュニティの文脈）

III 各地域における近現代建築の展開

10. アメリカの近現代建築
11. ヨーロッパの近現代建築1
12. ヨーロッパの近現代建築2
13. 日本の近現代建築1
14. 日本の近現代建築2
15. 世界の近現代建築

■**事前・事後学習**：毎回授業のテーマが変わるので、予め配布されている資料などに目を通し、近現代の建築について把握しておくこと。受講後は、配布資料などを復習しながら授業内容の理解を深め、さらに授業内で紹介された事例について参考図書、関連書籍、ウェブメディアなどを参照しながら、自身の考察を深めることが求められる。

■**教科書**：適宜資料を配布するため、特定の教科書は使用しない。以下の参考文献等を利用するとよい。

■**参考文献**：『現代建築史』／ケネス・フランプトン著・中村敏男訳（青土社）  
『20世紀建築の空間』／瀬尾文彰著（彰国社）  
『現代建築の潮流』／ヴィットリオ・M・ランブニャーニ著・川向正人訳（鹿島出版会）  
『近代建築史図集』／日本建築学会編（彰国社）  
『テキストランドスケープデザインの歴史』武田史朗、山崎亮、長濱信貴編（学芸出版社2010）  
『ランドスケープの近代』佐々木葉二、三谷徹、宮城俊作、登坂誠（鹿島出版社2010）

■**成績評価基準と方法**：授業態度及び出席状況（20%）、レポート（30%）期末試験（50%）により評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	○	用語の理解と内容の論説	50
レポート	○	○	◎	実際の建築空間における応用が理解できること	30
授業態度	○	○	○	授業への積極的な参加	20
出席	○	○	○	2/3以上の出席を必要とする。	

◎特に重視する、○重視する

■**関連科目**：デザイン史、空間デザイン史

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：現代の建築空間や都市空間の成立過程を学ぶことで、社会・地域・歴史とデザインの関連性に興味を持ち、批評性をもって望むことを期待する。空間デザインを専攻希望の学生は履修することが望ましい。

# 環境心理学

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：建築や環境を利用するヒトの知覚・認知・行動の特性を理解した上で、建築・環境デザインのあり方や手法を知ることが本科目のねらいです。特定の環境におかれた人間の心理の諸概念について、動物や集団としてのヒト、環境を自ら心地良い環境に改変しようとする主体としてのヒトに着目し、具体的デザイン事例をあげて講義します。  
なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（その他）です。

■**到達目標**：①ヒトの知覚・認知・行動の基礎的な知識を身につける  
②ヒトの知覚・認知・行動の基礎的な知識に基づいて環境・空間デザインを企画できる  
③ヒトの知覚・認知・行動の基礎的な知識に基づいて環境・空間デザインを評価できる

■**担当教員**：

片山 めぐみ

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 環境心理学とは
- 第 2 回 環境知覚と環境認知
- 第 3 回 パーソナリティと環境
- 第 4 回 パーソナルスペース
- 第 5 回 テリトリアリティ
- 第 6 回 クラウディング
- 第 7 回 プライバシー
- 第 8 回 集まって暮らす環境
- 第 9 回 都市のイメージと認知地図
- 第10回 空間移動と心理的距離
- 第13回 住居と公共空間の環境心理
- 第11回 オフィスの環境心理
- 第14回 医療・高齢者施設の環境心理
- 第12回 自然空間の環境心理
- 第15回 コミュニティ心理学

■**事前・事後学習**：授業内で取り組むショート課題についての下調べを事前学習として課す。また、課題提出に対する添削内容についての振り返り報告を事後学習として課す。

■**教科書**：授業時にハンドアウトを配布します

■**参考文献**：「環境心理学 上・下」、R.ギフォード著、北大路書房  
「人間都市学～安全で心地よい環境をつくる人間都市学」、大野隆造、井上書院

■**成績評価基準と方法**：授業態度や発表などの授業への参加度（50%）、授業内レポートおよび小テスト（50%）によって評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業内課題・レポート・小テスト	◎	◎		各回のポイントを理解していること。	50
授業態度・課題発表		◎	◎	積極的な姿勢。	50
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：視覚・色彩心理学、ユニバーサルデザイン論、感性情報学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：講義では学問的理論だけにかたよらず、身近なデザイン事例にも言及します。また一方向の講義にならないよう、簡単な実験や発表、練習課題などを取り入れます。



# デザイン研究法(人間空間デザイン)

必修

開講年次：2 年次前期

科目区分：講義+演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：地域の自然環境と人文社会環境について、既存資料調査やフィールドワークをおこない、その結果を解析し地域の現状把握と課題を抽出する。さらにこれらを基に地域課題に対するコンセプトを立て、地域計画の方針を提案する。

■**到達目標**：①地域環境の調査を遂行することができる。  
②データの分析方法を理解し、遂行することができる。  
③地域の課題を抽出し、地域計画につなげることができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎矢部 和夫・森 朋子・石井 雅博

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 研究倫理【石井】
- 第 2 回 地域の地理情報の抽出【矢部】
- 第 3 回 地域景観調査【矢部】
- 第 4 回 中間発表【矢部】
- 第 5 回 住民ヒアリング【矢部】
- 第 6 回 問題点の抽出とマスタープランの作成1【矢部】
- 第 7 回 問題点の抽出とマスタープランの作成2【矢部】
- 第 8 回 プレゼンテーション【矢部】
- 第 9 回 地域論【森】
- 第10回 地域調査法と地域分析法の基礎【森】
- 第11回 地域構造分析〈演習〉【森】
- 第12回 システムとモデル【森】
- 第13回 相関分析と回帰分析〈演習〉【森】
- 第14回 多変量解析法1（現象を多次元的に捉える）【森】
- 第15回 多変量解析法2（クラスター分析：類型化する）〈演習〉【森】

■**事前・事後学習**：

事前学習：授業に必要な30分以上の予習（調査、分析方法など）を行っておくこと。

事後学習：授業で与えられた課題や30分以上の復習を行うこと。

■**教科書**：授業時にハンドアウトを配付します。

■**参考文献**：授業時に適宜指示します。

■**成績評価基準と方法**：3分の1を超えて欠席すると単位が出ません。評価は授業への参加状況（受講態度を含めます）20%、小テスト・授業内レポート30%、課題50%等により総合的に判断します。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎	○	◎	授業内容に対する理解度	30
授業態度	◎	○	○	積極的な姿勢	20
発表					
作品	○	◎	◎	課題提出物の充実度	50
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：他科目の課題や作品制作のための調査・分析手法のみならず、将来の研究を進める上で有益な手法を学びます。

# デザイン研究法(人間情報デザイン)

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：講義+演習

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：人間情報デザインに関する研究方法の基本について学習する。ここでは、研究事例を基に課題発見、仮説の設定、研究計画、アンケート調査、検証実験、データ分析、結果・考察などの一連の研究プロセスに関する研究作法（文献検索、データ収集、各種検定・分析方法、結果・考察の客観的な解釈など）を学習する。また、研究成果を論文形式にまとめる論述表現についても学習する。授業では、4人の教員がそれぞれの専門領域の観点から研究作法を教授する。

■**到達目標**：①文献検索ができ、先行研究の特徴・成果を明らかにできる。  
②アンケート調査方法を理解し、各種検定・分析手法を用いて収集したデータの分析ができる。  
③仮説を設定し、その検証実験を計画・実行できる。  
④研究成果を客観的に論述表現できる。また、実際の実験サンプルを用いて論文形式にまとめることができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎城間 祥之・石井 雅博・張 浦華・金 秀敬

■**授業計画・内容**：

第1回	研究倫理：誠実に研究を行う上での心得	(石井)
第2回	研究の作法、アンケート調査の計画・立案	(城間)
第3回	調査票（質問紙と回答文）の作成、及び評定尺度について	(城間)
第4回	卒業研究、修了研究における調査研究・分析例の紹介	(城間)
第5回	仮説とライフスタイルデータの収集	(張)
第6回	ライフスタイルデータの集計	(張)
第7回	クラスター分析と考察	(張)
第8回	ライフスタイル分類によるユーザーターゲットの構築	(張)
第9回	主観的評価の構造を探る：「SD法」	(金)
第10回	人間情報デザイン分野の成果報告種類と書き方について	(金)
第11回	原稿作成の理解I：制作報告と実証研究報告の違い：報告目的に合う書き方	(金)
第12回	原稿作成の理解II：何をどこに書けば良いか：論文構造に着目した本文の割合と内容	(金)
第13回	情報収集、文献調査	(石井)
第14回	パフォーマンス評価、生理指標測定法、実験計画	(石井)
第15回	心理物理学の基礎	(石井)

■**事前・事後学習**：

予習について：毎回授業のテーマが変わるので、予定されている授業内容をシラバスで確認し、予め配布される資料などに目を通し、ある程度自分の考えをまとめておくこと。

復習について：配布資料などを復習しながら授業内容の理解を深め、さらに参考図書・文献などを比較・参照し、自身の考察を深めること。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：なし

■**成績評価基準と方法**：定期試験40%、2/3以上の出席（欠格条件）30%、授業内レポート30%で、上記の到達目標の達成度を評価します

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
定期試験	◎	◎	◎	◎		40
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○		30
授業態度						
発表						
課題・作品						
出席	○	○	○	○	その他 参照	30
その他						

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：欠席時数が合計で5回を超えた場合は単位認定しない。欠席時数が各担当教員の持ち時間数の1/2を超えた場合も単位認定しない。遅刻・無断欠席、及びレポート未提出は成績評価に悪影響する。

# 建築設計製図

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：演 習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：設計製図は、概念的な計画行為を具体的な3次元空間の実体として構成していくプロセスである。ここでは、概念を図面や模型を通して表現するとともに、内容を検討・確認する作業も必要である。本演習では、そのための道具としての設計製図の基礎的方法を主に建築の設計を通して学ぶ。授業では、小規模な住宅建築やギャラリーを対象として、図学、製図法、意匠の検討、プレゼンテーションについて順次、演習を行う。なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要なとされる指定科目（建築設計製図）である。

■**到達目標**：①基本的な図学の能力を基本に建築製図の意匠図までを描く能力を身に付ける。  
②模型や図面を用いた意匠の検討を行い、3次元の空間的思考ができる。  
③構想的に表現するためのプレゼンテーションができること。

■**担当教員**：

山田 良

■**授業計画・内容**：

- I. 図学と製図法
- 第 1 回 三面図、建築物の立体と図面
  - 第 2 回 平面図・立面図・断面図1（住宅）
  - 第 3 回 平面図・立面図・断面図2（大規模な建築、傾斜地など）
- II. 住宅の設計を通して学ぶ
- 第 4 回 住宅建築の概要
  - 第 5 回 スタディ① プロセスとスケジュール
  - 第 6 回 スタディ② 平面の検討
  - 第 7 回 スケッチと模型
  - 第 8 回 コラージュ（場所の状況や利用者のイメージを表現する）
  - 第 9 回 プレゼンテーション作成
  - 第10回 講評
- III. ギャラリーの設計を通して学ぶ
- 第11回 コンセプト・ダイアグラム
  - 第12回 コラージュ（場所の状況や利用者のイメージを表現する）
  - 第13回 プレゼンテーションの作成1
  - 第14回 プレゼンテーションの作成2
  - 第15回 講評

■**事前・事後学習**：授業毎に次のテーマについて触れ、事前に準備するものや調べておく事柄を指示します。設計作品等の課題を課すため製図・模型作成など、授業時間外の作業が必要となります。

■**教科書**：適宜資料を配布するため、特定の教科書は使用しない。

■**参考文献**：講義内で適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**：授業時間内に行う課題と出席状況により評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度		○		授業内のエスキスの積極性	50
課題・作品	○		○		50
出席				2/3以上の出席	欠格要件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習I～Ⅲ（建築・環境）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：人間空間デザインコースで建築士受験資格の取得を希望する学生は履修を強くおすすめします。空間デザインにおいては、原寸で考えることはもちろん、様々な縮尺を用いて、抽象化と具体化を繰り返して行う必要があります。この授業は、建築空間の事例を通して、縮尺の差異による設計や表現の要点に着いて学びます。それらを通してデザイン全般への応用可能な基礎的製図法を学んでほしいと思います。

# 情報製品製図

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：演 習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：製品デザインや情報デザインの現場では、エンジニアとコミュニケーションしながら設計を検討する。その際の共通言語として、製品デザインでは機械製図、状態遷移図等を、情報デザインにおいてはフローチャートや画面遷移図等を用いる。本演習では、これらの設計する為の記述手法を体験的にまなび、デザイナーとして必要な、異なる専門性を有するチームにおけるコミュニケーション能力を獲得する。

■**到達目標**：①製品デザインにおける機械製図、状態遷移図を描くことができる。  
②情報デザインにおけるフローチャート、画面遷移図を描くことができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎柿山 浩一郎

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション、機械製図の役割と基本的な作図法に関して
- 第 2 回 機械製図 作図演習 1
- 第 3 回 機械製図 作図演習 2
- 第 4 回 フローチャートの役割と基本的な作図法に関して
- 第 5 回 フローチャート 作図演習
- 第 6 回 状態遷移図の役割と基本的な作図法に関して
- 第 7 回 状態遷移図 作図演習 1
- 第 8 回 状態遷移図 作図演習 2
- 第 9 回 機械製図のフィードバック・押さえるべきポイント
- 第 10 回 機械製図 作図演習 3
- 第 11 回 画面遷移図の役割と基本的な作図法に関して
- 第 12 回 画面遷移図 作図演習 1
- 第 13 回 設計演習 1 (オリエンテーション 基本設計)
- 第 14 回 設計演習 2 (状態遷移図の作図)
- 第 15 回 設計演習 3 (機械製図の作図)

■**事前・事後学習**：

事前学習：配布された資料の読み込みを行うこと。

事後学習：配布された資料と授業中の指導内容を、手を動かして定着させること。

■**教科書**：指定はありません。資料を適宜配布する。

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度	○	○			20
作品	◎	◎			80
出席				2/3以上の出席	欠格

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習I～IV

■**その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：人間情報デザインコースを選択した学生の受講を推奨する。

# 3DCG実習(表現系)

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：実 習

単 位：2 単位

講義時間：60 時間

■**科目のねらい**：コンピュータの三次元空間を用いた造形表現を学び、モデリング、マッピング、レンダリング等のCG（コンピュータグラフィクス）独自の技術を理解した上で、その性質をデザインや表現に結び付ける手法を学ぶ。また、映像業界で用いられる3DCGソフトウェアの扱いに習熟し、コンピュータ上の立体的な造形力を習得する。

■**到達目標**：①モデリング、マッピング、レンダリング等の方法を理解している。  
②3次元空間に於ける立体感や位置関係を表現できる。  
③カメラや照明を用いた演出を理解している。

■**担当教員**：

松永 康佑

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 3DCGの概要と、ソフトウェアの機能
- 第 2 回 モデリング-1（基本形体と複製による空間構成）
- 第 3 回 モデリング-2（レイズオブジェクト、ロフトオブジェクト）
- 第 4 回 モデリングの展開（ポリゴンメッシュによる造形1）
- 第 5 回 モデリングの展開（ポリゴンメッシュによる造形2）
- 第 6 回 マテリアルの作成とマッピング
- 第 7 回 カメラアングルによる表現の違い
- 第 8 回 ライティング
- 第 9 回 レンダリング
- 第10回 イメージ出力（印刷原稿作成）に至るプロセスの基本
- 第11回 課題制作1（テーマ設定）
- 第12回 課題制作2
- 第13回 課題制作3
- 第14回 課題制作4（提出）
- 第15回 講評

■**事前・事後学習**：CGによる作品で高い評価を得ている作品や、興味のある作品について調べておくこと。また、ソフトウェアの習熟には時間を要するので、授業時間外にも操作に慣れておくことが必要である。特にモデリングには時間がかかることを念頭に置くこと。Windows PCを個人で所有している場合は、自分で環境を整えることも可能である。

■**教科書**：プリントを配布。

■**参考文献**：適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**：提出された課題（90%）と発表（10%）によって評価。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度					
発表	○	○	○		10
課題・作品	◎	◎	◎	到達目標の反映度	90
出席					欠格条件
その他					

■**関連科目**：特になし

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：ソフトは、Autodesk社の3dsmaxを使用する。Adobe Photoshopなどのグラフィックソフトの基本を理解している必要がある。授業進行にあわせてプリントを配布します。欠席をしないように心がけること（特に前半）。

※使用教室機材の都合により、履修人数によって抽選することがあります。

# 建築系CAD実習

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：実 習

単 位：2 単位

講義時間：60 時間

■**科目のねらい**：特にここでは、製図法の基礎および建築系CAD（VectorWorks）の操作・表現技術を習得するため、3次元物体形状（建築）を図面に表現する2次元製図（平面図・立面図・断面図）課題を実施する。また、コンピュータを利用した設計技術・表現技術を習得するために3次元CADによる形状設計を行い、具体的設計方法と図面表現との関連・違いを認識する。さらに、CADによる形状設計では、環境シミュレーションやレンダリングソフトなど複数のアプリケーションを駆使して所期の形状を表現する能力を身につける。授業後半ではCADを用いたオリジナルの建築空間設計のモデリングを行う。

なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要なとされる指定科目（その他）である。

■**到達目標**：①CADによる建築図面の製図法が理解できるとともに作図可能であること。  
②CADによる3次元のモデリングとレンダリングが理解できるとともにシミュレーションができること。  
③オリジナルの建築空間をCADによって設計・表現ができること。

■**担当教員**：

金子 晋也

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 ガイダンス、建築系CADの特長など。
- 第 2 回 VectorWorksの基本操作①（画面構成、2次元ツールの種類と操作法）
- 第 3 回 VectorWorksの基本操作②（2次元作図演習、3次元のモデリング演習）
- 第 4 回 VectorWorks：2次元の作図（RC造住宅）
- 第 5 回 VectorWorks：3次元のモデリング（RC造住宅）
- 第 6 回 VectorWorks：2次元の作図（木造住宅）
- 第 7 回 VectorWorks：3次元のモデリング（木造住宅）
- 第 8 回 VectorWorks：2次元の作図（S造住宅）
- 第 9 回 VectorWorks：3次元のモデリング（S造住宅）
- 第10回 VectorWorks：3次元のモデリングとレンダリング①
- 第11回 VectorWorks：3次元のモデリングとレンダリング②
- 第12回 VectorWorks：3次元のモデリングとレンダリング③
- 第13回 VectorWorks：3次元のモデリングとレンダリング④
- 第14回 VectorWorks：建築空間の構成
- 第15回 VectorWorks：建築空間の構成とプレゼンテーション

■**事前・事後学習**：

事前学習：配布資料および教科書の通読。授業で取扱った建築に関する資料の収集。

事後学習：各回の課題の修正。

■**教科書**：建築 設計 製図／貴志雅樹 監修、松本明・横山天心 著（学芸出版社）

その他、適宜デジタル資料を準備する。

■**参考文献**：なし

■**成績評価基準と方法**：課題（60%）、出席（20%）、授業態度（20%）

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
授業態度					◎積極的な姿勢	20
課題・作品	◎	◎	◎	◎	期限厳守(20%) 理解度(20%) 完成度(60%)	60
出席					◎2/3以上の出席 授業開始20分までを遅刻とする。 遅刻3回で欠席1回とみなす。	20 欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：特になし

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：欠席時数が全体の1/3を超えた場合は単位認定しない。遅刻・欠席、及び課題未提出は成績評価に悪影響する。

# 時間表現理論／演習Ⅱ

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：本講義前半は、音を聴く体験を通して、音響体験の多様性と音の性質を理解する。さらに、課題作品の制作演習を通じて、コンピューターを使った音の生成、音響加工編集、サンプリングやリミックスによる音響表現の基礎を学ぶ。音の可能性を実感し、映像表現との関係を考えるうえでの基礎とする。

現在の映像表現は視覚情報だけでは成り立たない。本講義後半では前半で習得した音響表現を用いて、音響と映像の関係性をより深く習得する。映像と音響のもつ時間表現とは何かを考えたつ、音と映像の表現方法の可能性を探る。また、デバイスの違いによる映像・音響送出の適正化についても合わせて習得する。

- 到達目標**：①音響表現の基礎、サウンドシンセシスについて説明できる。  
②自身のアイデアにもとづく音響作品を制作し、指定された形式で提出できる。  
③映像と音との関係性、特にその効果を理解する。  
④ポストプロダクションと呼ばれる各種技術の習得

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎石田 勝也、須之内 元洋

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 音とはなにか？  
第 2 回 フィールドレコーディングの実践  
第 3 回 音の調理  
第 4 回 ミュージックコンクレートの制作  
第 5 回 音を作ってみる  
第 6 回 DAWの利用  
第 7 回 サウンドロゴの制作  
第 8 回 音と映像の関係性、課題オリエンテーション  
第 9 回 映像制作演習 コンテ制作  
第10回 映像制作演習 映像素材加工  
第11回 映像制作演習 粗編集（音との同期）  
第12回 映像制作演習 本編集1（リタイミング、色調補正、SE等）  
第13回 映像制作演習 本編集2（モーショングラフィックス、オーディオ補正等）  
第14回 映像制作演習 映像の書き出し・圧縮方法  
第15回 制作映像作品講評

■**事前・事後学習**：事前に音とは何かを考え、アフターエフェクトやフォトショップの習得した内容を確認すること。特に事後に関しては機材やアプリケーションの使用方法を再度確認し、取りこぼしのない学修をすること。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：講義中に適宜紹介します

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
授業内演習・レポート		◎				20%
発表			◎			40%
出席		◎			2/3以上の出席必須	40%
その他						

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：時間表現理論／演習Ⅰ、メディア芸術論、空間演出デザイン論、空間映像表現

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：1年次に行った時間表現理論Ⅰを基本として、映像と音の関係性を身につけることを目標とします。現在放映されているテレビCMやプロモーションビデオ、映画に至るまで映像における音の重要性に着目しておいて下さい。

# 建築計画論

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：建築全体の中での「計画」が果たす役割を明確にし、設計に向けての論理的かつ発明的な思考を行うための知見と思考方法を養成する。具体的には、建築計画の史的理解を通して現代に通ずる計画理念を解説した上で、建築過程における計画の位置づけと条件の定義、特定の施設計画の進め方、空間知覚、ユーザの利用行動、メディアとしての建築などについて講義する。なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要なとされる指定科目（建築計画）である。

■**到達目標**：①建築における「計画」が果たす役割を、史的考察、現代の建築過程における位置づけが理解できていること。  
②現代の具体的計画手法を理解し、事例の問題点が指摘できること  
③条件の明確な理解と条件に基づいた計画目標の設定、それにふさわしい建築の内容を具体的に計画できる能力がついていること。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎片山 めぐみ・山田 信博

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 建築計画の位置づけ：建築空間・環境における計画目標／より良い建築のための論理
- 第 2 回 建築計画の史的理解1：機能主義と建築形態
- 第 3 回 建築計画の史的理解2：地域性と建築形態
- 第 4 回 建築計画の史的理解3：プログラム・図式と空間
- 第 5 回 建築過程と建築計画の位置づけ：条件の把握、問題の定義、目標の設定
- 第 6 回 計画事例1：複合施設
- 第 7 回 計画事例2：市民交流施設
- 第 8 回 計画事例3：展示・演出空間
- 第 9 回 計画事例4：高齢者施設
- 第10回 計画事例5：自然の中の建築
- 第11回 形からのアプローチ
- 第12回 空間知覚からのアプローチ
- 第13回 利用行動からのアプローチ
- 第14回 メディアとしての建築
- 第15回 持続可能な社会のための建築計画

■**事前・事後学習**：授業内で取り組むショート課題についての下調べを事前学習として課す。また、課題提出に対する添削内容についての振り返り報告を事後学習として課す。

■**教科書**：適宜資料を配布するため、特定の教科書は使用しない。以下の参考文献等を利用するとよい。

- 参考文献**：『建築計画を学ぶ』／建築計画教材研究会編（理工出版）  
『設計に活かす建築計画』／内藤和彦・橋本雅好・日色真帆・藤田大輔編著（学芸出版社）  
『インテリアデザイン教科書』／インテリアデザイン教科書研究会編著（彰国社）  
『20世紀建築の空間 空間計画学入門』／瀬尾文彰（彰国社）  
『建築・都市計画のための空間学事典』／日本建築学会編（井上書院）  
その他講義内で適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**：定期試験（40%）、およびレポート・授業時間内の小課題、授業態度（60%）により評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	用語の理解と内容の論説	40
レポート・授業内課題		◎	◎	実際の建築空間における応用が理解できること	60
授業態度		○	○	授業内の課題への積極的な参加	
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習I～Ⅲ、人間空間デザイン論、建築デザイン論、住宅論、環境心理学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：本講義は、建築図面の基本的読解能力が備わっている事を前提として構成されています。また、履修に当たっては、直感を大切にしながらも論理的な手続きと相対化された評価軸によって建築を考えるために、建築以外の様々な分野の価値基準や評価法を各自で学びながら、本講義を受講する事を望みます。



# 環境計画論

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：持続可能な地域・都市・建築の環境計画を行なうためには、対象地をはじめとする周辺環境の環境要素（太陽光・風・雨・雪・植生など）の振る舞いを読みとり、ヒトの安全性・健康性・快適性が得られるようにそれらをコントロールし、地域の自然環境の保全に配慮しなければならない。本講義では、建築環境・屋外環境の計画に関する基礎理論について学ぶ。なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（建築環境工学）である。

■**到達目標**：①建築環境・都市環境の計画に関わるバイオクライマティックデザインを理解する（斉藤）。  
②広域環境における生物多様性を保全する意義と保全事例について理解を深める（矢部）。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎斉藤 雅也・矢部 和夫

■**授業計画・内容**：

## I. 建築環境（斉藤）

- 第1週 気候・風土を活かすバイオクライマティックデザインの事例
- 第2週 建築環境と人間の快／不快・寒暑感・体感温度（想像温度）
- 第3週 光環境デザインの理論・応用I
- 第4週 光環境デザインの理論・応用II
- 第5週 熱環境デザインの理論・応用I
- 第6週 熱環境デザインの理論・応用II
- 第7週 空気環境デザインの理論・応用I
- 第8週 空気環境デザインの理論・応用II
- 第9週 都市環境デザインの事例

## II. 屋外環境（矢部）

- 第10回 大学の森（水平分布と垂直分布、針広混交林、二次遷移と植生自然度）
- 第11回 ツリーウォッチング（植生図と代表的な樹種）
- 第12回 樹木同定実習I
- 第13回 樹木同定実習II
- 第14回 都市環境とビオトープ事業（エッジ効果、孤立化、緑地配置計画）
- 第15回 自然再生事業

■**事前・事後学習**：事前に関連する書籍、資料に目を通しておくこと。授業で配布した資料や解説した教科書の内容について授業後に復習をすること。

■**教科書**：斉藤：設計のための建築環境学 日本建築学会編（彰国社）※建築設備計画（3年前期）でも使用する。  
矢部：北海道樹木図鑑 [増補新装版]：佐藤孝夫（著）本多政史（編）垂璃西社、新北海道の花：梅沢俊：北大図書刊行会（デザイン総合実習II（建築・環境）以降でも使用する）

■**参考文献**：図説 やさしい建築環境（学芸出版社）  
シリーズ地球環境建築 専門編1・2 日本建築学会編（彰国社）

■**成績評価基準と方法**：学期末試験（50%）、授業内レポート＋授業態度（15%）、提出課題（20%）、出席（15%）を総合的に評価する。遅刻2回で欠席1回とカウントする。

評価方法	担当者		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①(斉藤)	到達目標②(矢部)		
学期末試験	◎	◎	論述問題70%、算術問題30%	50
授業内レポート				
授業態度	○	○	積極的な姿勢を評価する。	10
提出課題	○	○	出席カードの記入コメントを含む	20
出席	○	○	2/3以上の出席(欠格条件)、遅刻・早退は減点対象	15

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：環境を考える（2年前期）、エコロジカルデザイン（2年後期）、建築デザイン論（2年後期）、ランドスケープアーキテクチャ（3年前期）、寒冷地デザイン論（3年後期）、建築設備計画（3年前期）、景観デザイン文化論（4年前期）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：「I. 建築環境（斉藤）」の理論は復習が不可欠である。教科書や参考図書を活用して十分に理解する必要がある（1級・2級建築士の試験問題として出題される内容）。

# コミュニティデザイン論

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：人口減少、年齢構成の変化、住民偏在、エネルギーと環境変化、超高度情報化など21世紀の日本社会の変化を見据えたコミュニティデザインおよびソーシャルデザインについて概説する。特に、前半は人のつながりを中心としたコミュニティのあり方について、後半は交流を活性化するためのまちづくりのしくみや交流拠点のあり方について、総合的に検討する。

■**到達目標**：①ソーシャルデザインおよびコミュニティデザインについて理解する。  
②人をつなげるコミュニティづくりについて理解し、その方法を身につける。  
③交流を活性化するためのまちづくりのしくみや交流拠点のあり方について理解し、そのデザイン方法を身につける。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎武田 亘明・片山 めぐみ

■**授業計画・内容**：

第1部 人のつながりを中心としたコミュニティのあり方（武田）

- 第 1 回 社会の変化と課題先進国：今なぜコミュニティデザインなのか
- 第 2 回 社会全体の課題を読み解く：まちづくりの全体像と考える方法
- 第 3 回 市民の声と参加の仕組み：ワークショップとファシリテーター
- 第 4 回 課題の分析と整理：問題の本質を見抜く
- 第 5 回 テーマの絞り込みと解決策：スケジュール・コスト・評価
- 第 6 回 プロジェクトの構想：組織と連携
- 第 7 回 具体的なプランと推進：市民ネットワーク
- 第 8 回 まとめ

第2部 交流を活性化するためのまちづくりのしくみや交流拠点のあり方（片山）

- 第 9 回 コミュニティデザインの心理学
- 第10回 コミュニティカフェ・レストランと市民育ち
- 第11回 高齢者の居場所づくりと世代間交流の創造
- 第12回 ソーシャルデザインとインクルーシブデザイン
- 第13回 建築士が育てる地域力
- 第14回 空き家活用のコミュニティデザイン
- 第15回 まとめ

■**事前・事後学習**：毎回の授業の中で、関係する資料名を示し、調査検討してくる内容を具体的に指示する。

■**教科書**：特に指定しない。適宜資料を配布する。

■**参考文献**：「コミュニティデザイン」山崎亮、学芸出版社、2013  
・「実践!地域を元気にするコミュニティデザイン」林まゆみ編、彰国社、2013  
・「ソーシャルデザインアトラス」鹿島出版会、2012  
・「インクルーシブデザイン～社会の課題を解決する参加型デザイン」ジュリアン・セカム編著、学芸出版社、2014  
・「建築士が育てる地域力～もの・まち・くらしづくり」社団法人建築士会連合会編著、日刊建設通信新聞社、2009

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート		○	○	授業内の課題	40
授業態度	○	○	○	積極的な参加	30
発表					
作品					
出席	○	○	○	2/3以上の出席	30
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：「デザイン総合実習I」「情報社会論」

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

# 環境芸術論

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：環境芸術とは、屋内外を問わず人間を取り巻く空間と環境そのものを作品とする芸術の総称である。また、鑑賞者の参加や関わり方も作品を形成する要素とする。本講では、風景と空間、芸術と地域性、芸術による空間再生、空間プロデュースなどの観点から具体的な作品事例に触れ、それらを通じて環境芸術の諸概念と多様性について学ぶ。

■**到達目標**：①環境芸術の作品事例や制作手法について理解する。  
②環境芸術に係わる諸概念について学ぶ。  
③芸術と地域性の観点から、現代社会における環境芸術の役割について考察する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎山田 良（1～8回目） 上遠野 敏（9～15回目）

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 ガイダンス／環境芸術とは
- 第 2 回 場所から導かれる環境芸術の概念 その1
- 第 3 回 場所から導かれる環境芸術の概念 その2
- 第 4 回 実例から学ぶ その1
- 第 5 回 実例から学ぶ その2
- 第 6 回 環境芸術と風景
- 第 7 回 建築と芸術
- 第 8 回 ショート課題
- 第 9 回 自然神の現れと神々のお供え
- 第10回 日本の美意識から探る1 仏教の宇宙概念
- 第11回 日本の美意識から探る2 遊興の心
- 第12回 アースワークの地平
- 第13回 ドイツから学ぶ事・エムシャーパーク構想
- 第14回 アートによる地域遺産の活用法
- 第15回 環境を映す現代アート

■**事前・事後学習**：授業毎に次回のテーマを提示します。シラバスを合わせ確認すると同時に自分のイメージをまとめておいてください。授業後のレポート等は、適宜指示します。

■**教科書**：授業内にて配布または紹介する

■**参考文献**：「ランドアートと環境アート」ジェフリー カストナー 編・PHAIDON、「デ・アーキテクチャー—脱建築としての建築」ジェイムズ ワインズ・鹿島出版会 など

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎	◎	◎		左記を総合的に評価する
授業態度	◎	◎	◎		
発表	◎	◎	◎		2/3以上出席すること
出席	◎	◎	◎		
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習など

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

# プロダクトデザインI

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**:プロダクトデザインをするために、HCD:Human Centered Design（人間中心設計プロセス）の考えに則り、生活者や市場の要求事項の把握・分析から具体的な製品のデザインプロセスを学び、的確な問題発見力、問題解決力、表現伝達力、造形力、説明能力等の、プロダクトデザインの基本を理解することを狙いとする。

■**到達目標**：①プロダクトデザインに必要な基礎知識の習得  
②プロダクトデザインに必要な技術／背景の理解

■**担当教員**：

安齋 利典

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション／プロダクトデザインとは
- 第 2 回 デザインプロセスとHCD
- 第 3 回 利用状況の把握：調査・分析方法
- 第 4 回 ユーザーの要求事項の明示：ペルソナとシナリオ
- 第 5 回 デザインによる解決案策定：アイデア生成とスケッチの基礎
- 第 6 回 デザインによる解決案策定：コンセプトの策定
- 第 7 回 評価：コンセプトの説明／プレゼンテーションと評価
- 第 8 回 デザインによる解決案策定：スタイリング、カラーリング、ユーザビリティ
- 第 9 回 デザインによる解決案策定：スケッチの応用
- 第10回 デザインによる解決案策定：スケッチから図面
- 第11回 デザインによる解決案策定：図面とデザイン仕様、材料、機構／構造
- 第12回 デザインによる解決案策定：モデルの意義
- 第13回 デザインによる解決案策定：モデルの事例
- 第14回 プレゼンテーションの準備とポートフォリオ
- 第15回 プレゼンテーションと評価／まとめ

■**事前・事後学習**：今後のプロダクトデザイン開発のひな形となるよう、各授業のまとめと次回の準備に関する宿題を課す。最終的にはA3のレポート（ポートフォリオ）としてまとめる。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：「プロダクトデザイン—商品開発に関わる全ての人へ—」／日本インダストリアルデザイナー協会編（株式会社ワークスコーポレーション）  
・「誰のためのデザイン」／D. A. ノーマン、野島久雄訳（新曜社認知科学選書）  
・「こんなデザインが使いやすいさを生む」／三菱電機デザイン研究所編（工業調査会）  
・「プロダクトデザインのためのスケッチワーク」／増成和敏（オーム社）

■**成績評価基準と方法**：2／3以上の出席（欠格条件）50%、毎回の授業内容をまとめたレポート（300文字程度）40%、授業態度10%

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験				
小テスト・授業内レポート	◎	◎	毎回の授業のレポート	40%
授業態度	○	○		10%
発表				
作品				
出席	◎	◎	2/3以上の出席	50%
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**:人間情報デザイン論、表現基礎（描画）、（製図）、デザイン工学、材料加工理論／実習I、II、プロダクトデザインII、デザイン総合実習I～IV

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：企画からプロダクトデザインの完成に至るデザインプロセスを理解していただきます。ユーザーの立場、組織（企業等）の立場に立ちながら、課題解決者としてのデザイナーのプロダクトデザインに対する考え方を養い、アイデアを実現するための道筋を理解することを目指します。

# プログラミングI

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：演 習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：ユーザの動作に対して何らかの反応をするモノ・環境を作るためにはプログラミング技術の利用が不可欠です。この科目では、初学者にもわかりやすいプログラミング言語・開発環境を使ってコンピュータプログラミングの考え方や基礎的技能的の習得を目指します。

■**到達目標**：①プログラミングとは何であるかを理解するとともに基礎的な命令を説明できる  
②フローチャートを作成できる  
③簡単なインタラクティブシステムをデザインし、そのプロトタイプを作成できる

■**担当教員**：

石井 雅博

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 開発環境の実行、プログラムの記述、保存、実行
- 第 2 回 変数、配列、演算
- 第 3 回 反復
- 第 4 回 条件分岐
- 第 5 回 マウス、キーボードからの入力、画像ファイル
- 第 6 回 数式を利用した描画
- 第 7 回 関数
- 第 8 回 クラス
- 第 9 回 文字、カメラ、マイク、サウンド、3Dなど
- 第10回 テーマ課題制作1
- 第11回 テーマ課題制作2
- 第12回 テーマ課題制作3
- 第13回 arduino入門
- 第14回 PCとarduinoの連携1
- 第15回 PCとarduinoの連携2

■**事前・事後学習**：

事前学習：講義資料を事前に公開する。当該箇所を読んでおくこと。

事後学習：各回の課題プログラムを制作する。

■**教科書**：使用しません。適宜資料を配布します。

■**参考文献**：Processing関係の本やwebページ、Arduino関係の本やwebページ

■**成績評価基準と方法**：課題・レポートや授業態度を総合的に評価します。出席数が全体の2/3に満たない場合には単位が認められません。また、授業に欠席した場合であっても、課題・レポートは全て提出すること。未提出課題・レポートがある場合は単位が認められません。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
課題・レポート	◎	◎	授業内容のポイントを理解していること。	90
授業態度	○	○	授業に対する積極的な参加姿勢。	10
出席			2/3以上の出席。2回の遅刻を1回の欠席と扱います。	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：人間情報デザインの中の、特にインタラクションに関する科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業に関係のないウェブページを閲覧している場合や別の作業を行っている場合は、欠席とみなします。プログラミング能力の習得には「慣れ」が必要です。何回も時間をかけて親しむこと・手を動かすことが重要です。分からないことは、どんどん質問してください。インターネットで情報を探すことも重要です。この場合、日本語だけでなく英語でも試すと良いです。

# 協同デザインI

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：協同環境における、アイデア、マネジメント、クオリティの関連性を、体験型コンテンツのデザイン制作活動を通して実践的に理解する。

- 到達目標**：①参加型デザイン手法を生かしたアイデアの重要性について理解する。  
②参加型デザイン手法を生かしたマネジメントの重要性について理解する。  
③コミュニケーションとコンテンツのクオリティの関係性について理解する。

■**担当教員**：

福田 大年

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 講義紹介／協同環境とデザインの関係  
第 2 回 体験型コンテンツの試作1-1  
第 3 回 体験型コンテンツの試作1-2  
第 4 回 体験型コンテンツの試作1-3  
第 5 回 体験型コンテンツの試作2-1  
第 6 回 体験型コンテンツの試作2-2  
第 7 回 体験型コンテンツの試作2-3  
第 8 回 体験型コンテンツの試作2-4  
第 9 回 体験型コンテンツの提案1  
第10回 体験型コンテンツの提案2  
第11回 体験型コンテンツの提案3  
第12回 体験型コンテンツの提案4  
第13回 体験型コンテンツの体験発表  
第14回 体験型コンテンツの体験発表  
第15回 講義全体の振り返り／まとめ

■**事前・事後学習**：

- ・事前学習：各活動の実施前に、参考文献・関連資料などの内容の確認、身の回りの関連事象の調査、チームメンバーならびに学外関係者の特徴の理解と関係性の構築の準備をする。
- ・事後調査：各活動の実施後に、授業内容、活動結果、参考文献・関連資料など基に、学び得たことを、チームメンバーならびに学外関係者と振り返り、次の活動準備をする。

■**教科書**：なし

- 参考文献**：・山口高広（2015）「アイデア・メーカー」東洋経済新報社  
・Dave Grayほか、野村恭彦 監訳（2011）「ゲームストーミングー会議、チーム、プロジェクトを成功へと導く 87のゲーム」オライリー・ジャパン  
・ジュリア・カセムほか（2014）「インクルーシブデザインー社会の課題を解決する参加型デザイン」学芸出版社  
その他、必要に応じ講義内で紹介する。

■**成績評価基準と方法**：活動（調査・制作など）提出物（40％）／授業態度（20％）／発表（10％）／共有・振り返り（30％）／出席を、総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
活動(調査・制作など)提出物	◎			チームメンバーや関係者らと連携・工夫して、質の向上に臨むことができる	40
授業態度	○	○	○	試行錯誤して臨む姿勢	20
発表			◎	丁寧に発表できる	10
共有・振り返り	○	◎	○	課題の意図を理解し、自省・相互評価できる	30
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：アイデア生成プロセス、協同デザインII、デザイン展開プロセス

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：チーム活動ならびに学外関係者と連携して進める予定です。そして、体験発表を学内・学外で実施することを検討しています。そのため開講時間が変則的になる場合があります。

# ビジュアルライゼーションI

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：生活様式への着目を背景として、対象の理解～目的の整理～コンセプトの立案～可視化という一連のデザインプロセスを学習する。具体的には、ビジュアルアイデンティティの生成や広告における情報伝達などを通し、メディアの多様化を踏まえた視覚伝達デザインの実際と可能性を探る。

■**到達目標**：①グラフィックデザインを基とした「意味の可視化」を理解する。  
②ライフスタイルを基としたデザインの提案手法を理解する。  
③課題をプレゼンテーションとしてまとめ、他者に効率よく伝達する。

■**担当教員**：

吉田 和夫

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 ビジュアルアイデンティティとは：キーワードの解釈と整理
- 第 2 回 1-ビジュアルアイデンティティ制作：キーワードのコラージュ
- 第 3 回 1-ビジュアルアイデンティティ制作：キーワードのコラージュ
- 第 4 回 2-ビジュアルアイデンティティ制作：キーワードに沿ったデザイン展開
- 第 5 回 2-ビジュアルアイデンティティ制作：キーワードに沿ったデザイン展開
- 第 6 回 3-ビジュアルアイデンティティ制作：プレゼンテーションのまとめ
- 第 7 回 発表・講評会
- 第 8 回 ライフスタイルを基としたデザイン提案：作例分析
- 第 9 回 1-対象の設定（グループ）：ライフスタイルの整理
- 第10回 2-商品企画立案（グループ）：ライフスタイルを基にした商品提案
- 第11回 2-商品企画立案（グループ）：ライフスタイルを基にした商品提案
- 第12回 3-広告企画立案（グループ）：商品企画とVI、広告等の企画（訴求点の整理）
- 第13回 3-広告企画立案（グループ）：広告デザイン制作（VI、広告企画の整理）
- 第14回 4-企画プロセスの整理（グループ）：プレゼンテーションのまとめ
- 第15回 発表・講評会

■**事前・事後学習**：各講義の内容を復習するとともに、次回に向けて事例の収集や事前の調査を各自行うこと。また演習に関し、授業時間で行なった作業を進めるなど、提案に対する事後学習の時間を確保すること。

■**教科書**：適宜授業進行に合わせて資料を配布

■**参考文献**：「広告論講義」天野祐吉（岩波書店）、「広告に携わる人の総合講座」日経広告研究所発行およびADC年鑑などの関連図版集

■**成績評価基準と方法**：提出物とプレゼンテーションおよび出席状況を総合的に評価します。課題の提出は必須。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度	○	○	○	グループ学習時は出席日数をもとに授業への参加姿勢を評価する。	15
発表	○	○	◎	コミュニケーション能力	25
作品	◎	◎	◎	①プロセスの理解度 ②ライフスタイル基点の考え方 ③柔軟な 独創性 ※前・後半課題50%+50%の比率 ※課題等の提出は必須	60
出席	○	○	○	※2/3以上の出席が必須	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：情報リテラシーI、II

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：「視覚伝達デザインでできること」をVI制作とライフスタイル基点のデザインプロセスを通して学習します。楽しいデザイン、?なデザイン、役に立つデザイン等々見慣れた情報伝達表現を、作り手と受けての両面から再確認して行きたいと思います。また、演習にはIllustrator等の表現技術は必須となります。

# 学部連携基礎論

必修

開講年次：2 年次前期

科目区分：講義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：札幌市の各地域の特徴と課題を看護学、デザイン学的視点から分析し、地域の課題を明確化する過程を通し、それぞれの専門性に対する理解を深めるとともに、異分野連携に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。

■**到達目標**：①デザイン学・看護学の理論的知識の特徴を理解し、共通点と相違点を理解する。  
②地域の特徴と課題を看護学、デザイン学的視点から分析し、課題発見のプロセスを理解する。  
③連携による課題解決の可能性に向けた提案を検討・共有する。  
④相互の専門性や価値観を尊重し、異分野連携の意義を考察する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎斉藤 雅也・武田 巨明・松井 美穂・福田 大年・金子 晋也・田島 悠史

◎古都 昌子・小田 和美・喜多 歳子・小坂 美智代・矢野 祐美子・柏倉 大作

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 全体ガイダンス・連携の実践と地域における実践事例
- 第 2 回 ガイダンス・南区の基本情報および地区希望調査
- 第 3 回 交換授業1 デザインの理論・看護の理論
- 第 4 回 交換授業2 デザイン学と看護学の学問領域の実践方法
- 第 5 回 グループダイナミクスとプロジェクト活動の基礎
- 第 6 回 グループワーク「グループワークを進める秘策を考えよう!」
- 第 7～9 回 グループワーク「担当地域のアセスメントから特徴と課題の発見」
- 第10～12回 グループワーク「地域課題の解決の可能性に向けた提案」
- 第13～15回 学習内容の発表と討論

■**事前・事後学習**：デザイン学・看護学の理解を深めるための相互の情報収集や、南区の理解を深めるための街角ウォッチングによる日常的な情報収集をお願いします。

■**教科書**：

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
レポート	◎	○	○	◎	課題の内容が基準を満たしていること	20
個人活動評価票	○	◎	◎	○	グループワークの取組	40
成果発表	○	◎	◎	○	発表内容(梗概および発表会)	40

■**関連科目**：スタートアップ演習、学部連携演習、地域プロジェクト I～III

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：本科目は3年次必修科目である学部連携演習の基盤となる科目です。次年度につながる学習として、プロジェクト活動への理解を深めながら参加されるように期待しています。後半6回目～12回目のグループワークは、グループごとのゼミナール形式で弾力的なスケジューリングが可能です。編入生もカリキュラムに応じた計画をグループで設定します。学習環境を担当教員とともに築いていきましょう。



# デザイン総合実習I(建築・環境)※人間空間デザインコース

必修 開講年次：2年次前期 科目区分：実習 単 位：2単位 講義時間：60時間

■**科目のねらい**：デザイン基本科目（人間空間デザイン論、デザイン史、デザイン工学、表現基礎（製図）、建築設計製図）や展開科目（建築計画論、環境計画論、近現代建築史）の内容を踏まえ、1. 室内外の環境の理解と実践を通じた空間の活用、2. 都市近郊における外部環境の形成と活用、についての設計・制作を通して、建築物に関する知識・技術を深める。さらに、3. 都市近郊における住宅設計の課題へと実習を進め、植生、人々の活動、空間の大きさ・密度といった様々な視点を統合する計画・設計提案の能力と、建築図面の表現方法を養う。なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（建築設計製図）である。

■**到達目標**：①土地利用計画、施設計画を考える基礎資料になる環境調査の方法と基本的計画ができること。  
 ②室内外の環境および環境心理をふまえた空間を、平面図、立面図、断面図、透視図、模型などを通じて計画・提案できること。  
 ③樹木の種類やランドスケープをふまえた外部環境に対する提案を、配置図、断面図、植生図などを通じて計画・提案できること。  
 ④以上の①～③を踏まえ札幌市の都市近郊における様々な地域環境の違いに配慮し、住宅の計画・設計提案と建築図面のプレゼンテーションの方法を修得する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎山田 信博・斉藤 雅也・羽深 久夫・矢部 和夫・椎野 亜紀夫・山田 良・大島 卓・片山 めぐみ・金子 晋也

■**授業計画・内容**：

空間デザインの表現方法

1. 室内外の環境の理解と実践を通じた空間の活用（休憩施設）

- 第1回 ガイダンス・調査方法・初期調査
- 第2回 環境調査と活用する空間の発見
- 第3回 環境の提案
- 第4回 講評

2. 都市近郊における外部環境の形成と活用（公園・緑地関連施設）

- 第5回 ガイダンス・調査方法・初期調査
- 第6回 外部環境の理解と利用計画

第7回 外部環境の形成と活用についての提案

第8回 講評

3. 都市近郊における住宅設計（住宅）

第9回 ガイダンス・調査方法・初期調査

第10回 住宅の計画（敷地の特徴に関する批評／自然環境・都市環境との関係）

第11回 住宅の計画（住宅の平面計画）

第12回 住宅の計画（住宅の構造計画／環境計画）

第13回 住宅の設計（作図／模型）

第14回 住宅の設計（作図／模型）

第15回 講評

■**事前・事後学習**：

事前学習：課題計画に必要な事前調査（敷地、文献、事例など）を行っておくこと。

事後学習：講評会の指摘を十分理解し、課題作品の見直し・再検証を行うこと。

■**教科書**：『住宅をデザインする（建築学教育研究会編）』（鹿島出版会）

『北海道樹木図鑑 [増補新装版]』／佐藤孝夫著、本多政史編（亜璃西社）

■**参考文献**：『建築・都市計画のための空間計画学』／日本建築学会（井上書院）

『北のランドスケープ』／浅川編著（環境コミュニケーションズ）

『樹木図鑑URL』／北造協、<http://www.hokuzoukyou.or.jp/zukan/zukan.html>

■**成績評価基準と方法**：提出課題作品（50%）、エスキス内容（30%）、現地調査報告（20%）を総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度	○	○	○	エスキスに対する姿勢 調査に対する取り組み	10
発表	◎	◎	○	エスキスの内容 調査報告等の内容	40
課題・作品	○	○	◎	計画趣旨 計画趣旨と内容の整合性 適切な表現	50
出席	◎	◎	◎	2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習Ⅱ（建築・環境）、デザイン総合実習Ⅲ（建築・環境）、デザイン基本科目、人間空間デザインコースの関連展開科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：デザイン基礎科目で基本的な空間デザインの思考方法と表現方法を修得したうえで、人間空間デザインコース関連展開科目を関連させた実践的な建築デザイン・環境デザインの課題に取り組むための第1歩として現実的な課題に取り組む。

# デザイン総合実習I(地域コミュニケーション・総合系)※人間空間デザインコース

必修 開講年次：2年次前期 科目区分：実習 単 位：2単位 講義時間：60時間

■**科目のねらい**：市民がより良く生きるための身近な暮らしに関する（1）課題の発見（2）解決策としての具体的なモノやコトの策定（3）プロジェクトの実施・運営について、身近な生活空間や家庭、町内などのコミュニティ内でのコミュニケーションを促進することをとおして実践的に学ぶ。

■**到達目標**：①資料や現地の調査、聞き取りやワークショップにより現状と課題を把握・分析することができる。  
②課題の本質を解明し、デザイン思考を以て効果的な解決策を策定することができる。  
③市民参加型の地域連携プロジェクト活動を運営・推進することができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎武田 亘明・片山 めぐみ・小宮 加容子

■**授業計画・内容**：

<p>第1部：テーマ：住宅において家族等のコミュニケーションを促進するためのデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視 点：コト=会話、食事、遊び、モノ=家具、間取り、コミュニケーションツール等</li> <li>・図書館での活動を含む</li> </ul> <p>第1週 地域コミュニケーションとまちづくりについて、課題企画テーマの説明</p> <p>第2週 事例の研究（資料調査）</p> <p>第3週 グループ活動（調査分析・課題の整理）</p> <p>第4週 グループ活動（方向性の明確化）</p> <p>第5週 グループ活動（企画の策定）</p> <p>第6週 グループ活動（企画の策定）</p> <p>第7週 グループ企画発表会（連携先招待）</p>	<p>第2部：テーマ：ご近所や沿道で出会う人とのコミュニケーションを促進するためのフットパスと屋外の休憩・交流場所などのデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視 点：コト=散歩、地域交流、心と身体の健康、モノ=フットパス。屋外休憩場所等</li> <li>・まこまないキャンパスでの活動を含む</li> </ul> <p>第8週 課題企画テーマの説明、グループ編成</p> <p>第9週 事例の研究（資料調査）</p> <p>第10週 グループ活動（現地調査・課題の整理）</p> <p>第11週 グループ活動（方向性の明確化）</p> <p>第12週 グループ活動（企画の策定）</p> <p>第13週 グループ活動（企画の策定）</p> <p>第14週 グループ活動（企画の策定）</p> <p>第15週 グループ発表会（連携先招待）</p>
--	---

■**事前・事後学習**：毎回の授業で、関係する資料を示し調査・検討をしてもらうよう具体的に指示する。

■**教科書**：特に指定しない。適宜資料を配布する。

■**参考文献**：「ソーシャルデザインアトラス」鹿島出版会、2012  
「ソーシャルデザイン実践ガイド」英治安出版、2013  
「世界を変えるデザイン～ものづくりには夢がある」英治出版、2011  
「インクルーシブデザイン～社会の課題を解決する参加型デザイン」2014  
「デザイン思考が世界を変える」ティム・ブラウン、ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2014  
「里山資本主義」藻谷浩介NHK広島取材班、KADOKAWA、2013

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度	○			積極的な協働	20
発表			○	効果的な提案	30
企画課題		○			30
出席		○		2/3以上の出席	20
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：「札幌を学ぶ」「アイデア生成プロセス」「情報社会論」「コミュニティデザイン論」

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

# デザイン総合実習I(人間情報デザインコース)

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：実習

単 位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**：デザイン基本科目等の基礎的な知識・技術の習得を踏まえ、実験や制作などの実習を通じ、デザインに関する知識・技術をより深める。ものづくりや情報コミュニケーションといった様々なアプローチにより、デザインに必要な調査や制作手法の習得、レポート作成、プレゼンテーションなどの基礎的能力を身に付ける。

■**到達目標**：①課題発見からコンセプト立案、デザイン案の制作といった一連のプロセスを習得する。  
②ポートフォリオに自信を持って掲載可能な作品を制作する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎安齋 利典・大淵 一博

■**授業計画・内容**：

第1回 オリエンテーション／授業概要・グループ分け

●グループA（前半：安齋／後半：大淵）

- 第2回 問題点・テーマ設定／アイデア展開
- 第3回 デザイン展開・収斂／コンセプトメイキング
- 第4回 中間発表／モデル化準備
- 第5回 モデル作製①
- 第6回 モデル作製②
- 第7回 検証とプレゼンテーション準備
- 第8回 プレゼンテーション
- 第9回 コンセプトメイキング・アイディアスケッチ
- 第10回 デザイン制作①
- 第11回 デザイン制作②
- 第12回 デザイン制作③
- 第13回 課題のまとめ（印刷物）
- 第14回 課題のまとめ（Web）
- 第15回 プレゼンテーション

●グループB（前半：大淵／後半：安齋）

- コンセプトメイキング・アイディアスケッチ
- デザイン制作①
- デザイン制作②
- デザイン制作③
- 課題のまとめ（印刷物）
- 課題のまとめ（Web）
- プレゼンテーション
- 問題点・テーマ設定／アイデア展開
- デザイン展開・収斂／コンセプトメイキング
- 中間発表／モデル化準備
- モデル作製①
- モデル作製②
- 検証とプレゼンテーション準備
- プレゼンテーション

■**事前・事後学習**：大淵担当分に関しては、下記の参考文献①～③などを参考にしながら、ブランディングやCIなどに関する様々な事例について調べておくことが必要です。また課題については、デザイン対象に関する調査や取材、素材データの制作、課題制作など授業時間外の作業が必要となります。

安齋担当分に関しては、下記の参考文献④、⑤などにより、プロダクトデザインのプロセスやアイデア発想について調べてください。また、課題については、毎回、ポートフォリオ用のまとめや、進捗に応じて、次回に使うアイデア展開のスケッチ、図面、モデル作製などの授業時間外の作業が必要となります。

■**教科書**：適宜資料を配布します。

■**参考文献**：①「スタイル別ブランディングデザイン」（パイインターナショナル）、  
②「新しい価値を生み出すためのブランディングプロセス」（パイインターナショナル）、  
③「構成・レイアウトで魅せる企業案内グラフィックス」（パイインターナショナル）、  
④「プロダクトデザイン」（ワークスコーポレーション）、  
⑤「プロダクトデザインのためのスケッチワーク」（オーム社）

■**成績評価基準と方法**：安齋担当分（50%）、大淵担当分（50%）とし、それぞれ、課題、プレゼン、大学祭における展示、授業態度、ならびに出席状況を総合的に判断して評価します。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
授業態度	○	◎	積極的な姿勢	60
課題・作品	◎	◎	課題設定、コンセプトと表現の整合性	
発表(プレゼン)	◎	○	コミュニケーション能力	30
出席			全体で2/3以上の出席。かつ、前後半各7週において、それぞれ5週以上の出席。	10

■**関連科目**：情報リテラシーI・II、デザイン総合実習Ⅱ～Ⅳ（人間情報デザインコース）、プロダクトデザインI・II、ビジュアルライゼーションI～III

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：2週目以降は、コース所属の学生を2グループに分けて実施します。9週目で担当教員が入れ替わり、安齋担当分7週+大淵担当分7週を行います。

# フィールドスタディ

選 択

開講年次：2 年次集中

科目区分：実 習

単 位：2 単位

講義時間：60 時間

■**科目のねらい**：道内外のデザイン先進企業・デザイン関連施設、歴史的建造物・現代建築の先進事例等の研修を通じて、社会・産業へのデザイン適用上の知識・ノウハウについて理解を深める。

本講義での「研修」とは以下の3つから成り立つこととする。

1. 事前活動  
(情報収集→目的の明確化→仮説立案→候補選定→候補先との交渉→調査計画をした結果を発表およびレポートとしてまとめる)
2. 現地調査  
(仮説検証のための先進事例の観察、体験、関係者へのヒアリングなど)
3. 事後活動  
(1、2の結果とそれらに関連する事例調査から結論を導き出し、発表およびレポートとしてまとめる)

なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（建築計画）である。

■**到達目標**：①事前活動、現地調査、事後活動により、デザインの役割や社会的位置付けを理解する。  
②歴史的建造物や博物館・美術館等を調査することにより多様な文化への理解を深める。  
③社会・産業におけるデザイン実務の研究を通じて、基本的なデザイン開発やデザイン手法を習得する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎若林 尚樹・森 朋子・福田 大年・小宮 加容子

■**授業計画・内容**：

(毎月第2週に設定、7月は4週目も追加、9月はオープンキャンパスの日程)

- 第1回 オリエンテーション(4月11日)  
第2回 現地調査に関する説明(5月16日)  
第3回 現地調査先に関する解説(6月13日)  
第4回 事前活動結果の発表(1)(7月11日)  
第5回 事前活動結果の発表(2)(7月25日)  
第6～28回 現地調査(8月～9月)  
第29、30回 報告会および講評(9月15日)

道内(1.5日)：札幌市内、または近郊の企業、研究施設等のデザイン活動および歴史的建造物・現代建築等の現地調査  
道外(3日)：デザイン企業・デザイン関連施設、歴史的建造物・現代建築等の先進事例の現地調査

■**事前・事後学習**：

事前学習 グループごとに調査の目的、テーマを設定し、それに基づいて調査先となる施設の調査・選定とともに、現地における調査計画を立案する。

事後学習 調査を実施した施設や地域についてその展開となる関連調査および追加調査を実施し、それをもとに報告会での発表のための発表資料の作成、及び報告書としてまとめる。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：・シビックプライドー都市のコミュニケーションをデザインする(宣伝会議Business Books)、読売広告社都市生活研究局(著)  
・エリアリノベーション：変化の構造とローカライズ、馬場 正尊(著、編集)、Open A(著、編集)他  
・ライフ・シフトー100年時代の人生戦略、リンダ・グラットン(著)、アンドリュー・スコット(著)、池村 千秋(翻訳)、東洋経済新報社

■**成績評価基準と方法**：事前調査レポート30%、授業態度20%、報告会での発表20%、調査レポート(作品)30%を、総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎			的確なレポート作成	30
授業態度	○	○	○	積極的な姿勢	20
プレゼンテーション	○	◎	○	報告会等でのプレゼンテーション	20
課題・作品		○	◎	調査レポート(作品)	30
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：キャリアデザイン、インターンシップ

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：

- ・現地調査は8月～9月に実施予定。現地研修欠席の場合は、単位は認められない。
- ・現地調査にかかる費用(交通費・宿泊費・入場料等)は、学生負担とする。
- ・学生が中心となり、現地調査・調査のしおり・発表会・事後活動レポート等の企画や進行を行う。
- ・本科目は事前活動と、これに基づく現地調査と、調査結果を分析・考察したレポートおよび報告会という一連の実践的実習であり、修学旅行的なものではない。

# 情報社会論

必修

開講年次：2年次後期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：情報技術の進展は著しく、これまでの社会システムを大きく変えている。本講では、情報技術の進展が現代の情報社会にもたらす社会システムの役割や仕組みについて概説する。また、古代から今日までに現れた多様なメディアと文化の歴史を概観する。社会情報の主体的な活用についてソーシャルメディアの現状と課題とともに学ぶ。

■**到達目標**：①情報技術の進展およびメディアの遍歴と変わる社会について理解する。  
②情報社会の課題を理解し、新しいメディアをどのように活用していくか、その方法について理解する。

■**担当教員**：

武田 巨明

■**授業計画・内容**：

- 第1回 情報社会とは
- 第2回 情報社会はつくられる
- 第3回 情報とコンピュータ
- 第4回 計算機の歴史
- 第5回 インターネット
- 第6回 サイバースペースと犯罪
- 第7回 インターネットとセキュリティ
- 第8回 情報社会と法律
- 第9回 電子商取引
- 第10回 文字・言葉・新聞・雑誌
- 第11回 写真とカメラの歴史
- 第12回 映像と映画の歴史
- 第13回 ラジオとテレビの歴史
- 第14回 ネットワークコミュニティの歴史
- 第15回 メディア空間に生きる

■**事前・事後学習**：毎回の授業で、資料を示し調査・検討する事項を指示する。

■**教科書**：特に指定しない。適宜、資料等を配布する。

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	○	○		最終レポート含む	40
授業態度	○	○		積極的な意見交換	30
発表					
課題・作品					
出席	○	○		2/3以上の出席	30
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業に出席するにあたり、必ずその日の新聞を読んでから出席すること。

# エコロジカルデザイン

選 択

開講年次：2 年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：近年、多様な生物種が加速度的に減少し絶滅するという「生物多様性の危機」が、世界的な問題とされています。エコロジカルデザインでは、このような問題の解決すなわち「生物多様性の保全」を目的として、生態学の観点から論考を進めていきます。失われた自然環境を取り戻すために生物多様性国家戦略や自然再生推進法が制定され、デザイン分野においても、持続可能な社会の実現をめざした自然との共生デザインやそのような保全活動の意義を啓蒙し普及することが求められています。この授業は、地域の空間計画や地域振興の課題の中で、私たちの身近な自然である都市の中の森、草原や池沼などを、生物多様性をキーワードにして、どのように扱えばよいかということを知っていただくことを目標とします。

■**到達目標**：①種の多様化（進化）のしくみを理解する  
②多種共存のしくみを理解する  
③生物多様性を保全することの意義と方法を考究する

■**担当教員**：

矢部 和夫

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 環境と生物
- 第 2 回 多様な生物界・適応放散（種分化）
- 第 3 回 生物現象のHowとWhy（紅葉のしくみ）
- 第 4 回 新種形成の過程
- 第 5 回 進化とは：遺伝子平衡を崩す要因
- 第 6 回 自然選択説
- 第 7 回 もう一つの進化論：中立説
- 第 8 回 血縁選択
- 第 9 回 競争関係にある2種の共存
- 第10回 捕食関係にある2種の共存
- 第11回 生物群集の種多様性
- 第12回 なぜ生物群集の中でたくさんの種が共存しているか
- 第13回 生態遷移と極相・攪乱と二次遷移
- 第14回 生態系の保全と地球環境
- 第15回 ビオトープ・自然再生

■**事前・事後学習**：

- 事前学習 配布された翌週のレジメの内容について30分以上の予習を行うこと
- 事後学習 授業内容について30分以上の復習を行うこと

■**教科書**：生態学入門（第2版） 日本生態学会編 東京化学同人 2,800円+税

■**参考文献**：なし

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎		70
小テスト・授業内レポート		○			10
授業態度	○	○	○	毎回の出席カードへのコメント記入も含める	10
発表					
作品					
出席	○	○	○	2/3以上の出席、高出席率はプラスの評価	欠格条件 10
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：動物の暮らし（1年後期）、環境計画論（3年前期）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：我々は自然のつくる環の中で存在しています。都市と自然が共生できる社会を考えましょう。

# コンピュータグラフィックス

選 択

開講年次：2 年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：CG分野における基礎的な内容について学習し、ソフトウェアがどのような仕組みで画像を生成しているのか理解を深める。CG分野で必要となる特殊な数学に関する知識、3DCG分野では形状モデルや照明モデル、レンダリング法などの違い、2DCG分野では画像処理等を中心に、計算手法の違いとその結果画像を比較しながら紹介する。CG分野では専用機材が多く開発されており、それらの概要について解説する。また、先端的な領域ではどのような研究がおこなわれているのか、資料を踏まえて紹介する。

■**到達目標**：①専門用語を理解する  
②背景となる技術について理解する  
③CGで用いる専門的な機材について理解する  
④先端的な研究について理解を深める

■**担当教員**：

松永 康佑

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 CGの歴史
- 第 2 回 ファイル形式・映像信号
- 第 3 回 ベクトル
- 第 4 回 行列と回転、カメラ
- 第 5 回 モデリング1
- 第 6 回 モデリング2
- 第 7 回 レンダリング
- 第 8 回 陰影・大域照明
- 第 9 回 テクスチャマッピング
- 第10回 画像処理
- 第11回 CGシステム・ハードウェア
- 第12回 先端的な研究紹介
- 第13回 NPR
- 第14回 アニメーション
- 第15回 数理造形

■**事前・事後学習**：参考図書に目を通し、当分野に関心を持ち、関連するネットの記事などを参照すること。配布した資料を復習し、理解を深めること。ネット上にあるSIGGRAPHに関連するレビュー記事や、論文、動画、最新のゲームグラフィックスに関する情報に関心を寄せること。

■**教科書**：次の2冊に沿って授業を進める。要点はスライドで紹介するが、学習を深めたい学生は準備してください。

- ・CG ARTS協会 コンピュータグラフィックス [改訂新版]
- ・CG ARTS協会 デジタル映像表現 ―CGによるアニメーション制作― [改訂新版]

■**参考文献**：SIGGRAPH資料

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	理解度	70%
小テスト・授業内レポート					
授業態度	○	○	○		
発表					
作品					
出席					欠格条件
その他	○	○	○	レポートなど	30%

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：「デザイン数学」のベクトルと行列を理解していると役立つ。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：定期試験を実施しますので、予習、復習を怠らないようにしてください。わからないことがあれば授業中・メール問わず質問してください。

# ユニバーサルデザイン論

必修

開講年次：2 年次後期

科目区分：講義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：ユニバーサルデザインを生み出す背景となった現代社会の高齢化、IT化に伴う社会システムの複雑化の現状等を理解した上で、ユニバーサルデザイン開発方法論について学習する。障がい者や機能の低下した高齢者のみならず多様性を持つ健常者の心身特性や生活実態を理解し、すべての製品・システム・サービスが具備すべき特性とそれを実現するためのプロセスや方法論について事例を交えて学習する。なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要なとされる指定科目（その他）である。

■**到達目標**：①ユニバーサルデザインの理念や対象となるユーザーの特性を理解する。  
②ユニバーサルデザイン開発に必要な評価基準や方法論の基礎を習得する。

■**担当教員**：

小宮 加容子

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 ユニバーサルデザインの背景
- 第 2 回 ユニバーサルデザインの基本原則
- 第 3 回 身の回りのユニバーサルデザイン
- 第 4 回 関連法規とガイドライン
- 第 5 回 多様なユーザー特性（障がい者）
- 第 6 回 多様なユーザー特性（高齢者）
- 第 7 回 多様なユーザー特性（子ども）
- 第 8 回 ユーザビリティ評価
- 第 9 回 ユニバーサルデザインの評価視点
- 第10回 ユニバーサルデザイン開発プロセス
- 第11回 カラーユニバーサルデザイン
- 第12回 まちづくりとユニバーサルデザイン
- 第13回 情報・コミュニケーションとユニバーサルデザイン
- 第14回 遊びとユニバーサルデザイン
- 第15回 まとめ

■**事前・事後学習**：

事前学習：日ごろからユニバーサルデザインに関する情報を意識し、授業および課題に活かせるように準備しておくこと。  
事後学習：授業でとったノートを参考に振り返りを行い、自分の考えをまとめ理解を深めること。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：講義の中で適宜紹介する

■**成績評価基準と方法**：演習レポート40%、授業内課題40%、授業態度・発表20%

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
演習レポート	◎	○	基本理念や対象となるユーザの特性を理解していること	40
授業内課題	○	◎	評価基準や方法論などを理解していること	40
授業態度	○	○	積極的な姿勢。	20
出席			2/3以上の出席	欠格条件
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：身の回りの施設・設備・機器等を日頃からよく観察するようにしてください。また、教科書を使用しないため、学習内容の要点を要領よくメモするよう習慣づけてください。



# 3DCG実習(建築系)

選 択

開講年次：2 年次後期

科目区分：実 習

単 位：2 単位

講義時間：60 時間

■**科目のねらい**：本科目では、表現手法の一つである3DCG（3次元モデリング）の作図操作を習得する。特に、建築・空間デザインの分野で表現できる能力を身につけることを想定している。「図面」「模型」「3DCG」の表現は建築・空間デザイン分野では必須となっている、3DCGの習得により、プレゼン能力の向上に努めて欲しい。本科目では2次元から3次元への展開が比較的容易なCADソフト（VectorWorks）を使用するため、2次元操作が習得済みの者（建築系CAD実習受講者）が望ましい。授業では、身近な立体物の制作から公共施設の計画まで規模を拡大し、自身の計画する建築空間が表現できるようCADソフトが操作できることをねらいとしている。なお、本科目は、建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（その他）である。

■**到達目標**：①建築設計の基礎となるモデリング、レンダリング等の方法を理解している。  
②建築空間を構成し、3次元空間における立体感や位置関係を表現できる。  
③採光・照明などの光源（ライティング）、素材を用いた演出を理解している。

■**担当教員**：

山田 信博

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 ガイダンス、3DCGの概要（事例の紹介、2次元作図の復習）
- 第 2 回 VectorWorksの基本操作①（3次元作図のコマンド、特殊な立体の作成）
- 第 3 回 VectorWorksの基本操作②（素材、光源、レンダリング）
- 第 4 回 身近な立体物の計画①（家具のモデリング）
- 第 5 回 身近な立体物の計画②（家具のモデリング）
- 第 6 回 内部空間の計画①（商業施設のモデリング）
- 第 7 回 内部空間の計画②（商業施設のモデリング）
- 第 8 回 内部空間の計画③（商業施設のモデリング）
- 第 9 回 建築物の計画①（RC住宅のモデリング）
- 第10回 建築物の計画②（RC住宅のモデリング）
- 第11回 建築物の計画③（RC住宅のモデリング）
- 第12回 公共施設の計画①（教育施設のモデリング）
- 第13回 公共施設の計画②（教育施設のモデリング）
- 第14回 公共施設の計画③（教育施設のモデリング）
- 第15回 作品集の作成、プレゼンテーションと講評会

■**事前・事後学習**：ソフトウェアの習得は事後学習が欠かせない、配布プリントやコマンドの復習、他科目においてVectorWorksを積極的に使用して欲しい。

■**教科書**：プリントを配布。

■**参考文献**：適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**：提出された課題（80%）と出席日数（20%）によって評価。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
課題・作品	◎	◎	◎	到達目標の反映度	70
出席	○	○	○	2/3以上の出席	30

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：人間空間デザイン論、デザイン総合実習I（建築・環境）、建築系CAD実習、など。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：使用ソフトVectorWorksの基本が習得されていることを前提に進める、「建築系CAD実習」受講者が望ましい。他にもグラフィックソフト、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorなどの基本を理解していることが望ましい。毎回新しいコマンドや作図方法を説明するので、遅刻・欠席の無いよう心掛けること。

# 製品系CAD実習

選 択

開講年次：2 年次後期

科目区分：実 習

単 位：2 単位

講義時間：60 時間

■**科目のねらい**：まず、製品系CADの歴史、3次元形状表現法、およびソリッドモデリングの特長を理論的に学習する。次に、製品系CAD (SolidWorks) における2次元スケッチの完全定義方法を学び、寸法拘束・幾何拘束の役割を理解する。形状モデリング実習では、生活用品・台所用品、IT機器 (携帯電話) などを対象に、単純な外観形状をもつ製品から複雑形状の製品へ、単一部分から多数の部品で構成される組立製品へ、モデリング技術を徐々に高度化させ、製品系CADの操作・表現技術の習得を目指す (第1回～第8回)。授業後半 (第9回～第15回) では、3D CADモデルから試作品 (ハードモックアップ) を高速かつ正確に制作するラピッドプロトタイピング (RP: Rapid Prototyping) について学ぶ。ここでは、複数部位で成り立つ製品をテーマにデザインを行い、手加工によるスタディモデルに加え、SolidWorksによる3Dモデル、RPによるハードモックアップを制作し、デザインと機能を検証する方法について学ぶ。

■**到達目標**：①ソリッドモデリングのための寸法・幾何拘束の役割を理解し、スケッチを完全定義できること。  
②携帯電話などの外観 (筐体) を3D CADによって形状モデリングできること。  
③試作品のデザイン性と機能を検証できること。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎城間 祥之・三谷 篤史

■**授業計画・内容**：

- 第1回 ガイダンス、3D CADの歴史、3次元形状表現法、ソリッドモデリングとその特長など。
- 第2回 SolidWorksの基本操作① (画面構成、定義平面での操作、寸法拘束、幾何拘束、押し出し、シェル、フィレット)：ガasketのモデリング
- 第3回 SolidWorksの基本操作② (押し出しカット、回転カット、ミラーカット、ロフト)：サイコロ、トレーのモデリング
- 第4回 SolidWorksの基本操作③ (回転、回転カット、スイープ、ミラー)：マグカップ、コーヒーフィルターのモデリング
- 第5回 SolidWorksの基本操作④：携帯電話のモデリング (その1：上下ボディのモデリング)
- 第6回 SolidWorksの基本操作⑤：携帯電話のモデリング (その2：組み立て、干渉チェックなど)
- 第7回 SolidWorksによる形状モデリング課題 (携帯電話)
- 第8回 SolidWorksによる形状モデリング課題 (携帯電話)
- 第9回 ラピッドプロトタイピングとは、課題説明、アイデア展開
- 第10回 アイデアスケッチ、スタディモデルの制作
- 第11回 SolidWorksによる3Dモデリング1
- 第12回 SolidWorksによる3Dモデリング2
- 第13回 ラピッドプロトタイピング実習1
- 第14回 ラピッドプロトタイピング実習2、発表資料作成
- 第15回 プレゼンテーション、講評

■**事前・事後学習**：

予習について：授業の終わりに次回の授業テーマについて触れ、次回までに調べておくべき事柄を指示します。

復習について：授業前半 (第1回～第8回) では、毎回、時間を要する演習課題が多数あり、授業中には終われません。授業中に終われなかった演習課題を次回までの宿題とします。授業後半 (第9回～第15回) では、試作品制作、発表準備など、授業時間外の作業が必要となります。

■**教科書**：教科書は使わず、デジタル資料を配信する。

■**参考文献**：なし

■**成績評価基準と方法**：課題 (60%)、発表および発表資料の完成度 (20%)、出席 (15%)、授業態度 (5%) で、上記の到達目標の達成度を評価します。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度	○	○		積極的な姿勢	5
発表			◎	発表・資料の完成度	20
課題・作品	◎	◎	◎	期限厳守 (20%) 完成度 (80%)	60
出席	○	○	○	・その他参照 ・授業開始20分までを遅刻とする。遅刻3回で欠席1回とみなす。	15
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：欠席時数が全体の1/3を超えた場合は単位認定しない。欠席時数が各担当教員の持ち時間数の1/3を超えた場合も単位認定しない。遅刻・無断欠席、及び課題未提出は成績評価に悪影響する。

# Webプログラミング

選 択

開講年次：2 年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：Webにおけるインタラクティブなしくみを構築するために、JavaScriptによる基礎的なプログラミング手法について学習します。また、JavaScriptライブラリの中でも近年最もよく利用されるjQueryについても触れ、より高度なWebプログラミングのための、足がかりを築きます。

■**到達目標**：①プログラミングの基本的な考え方を理解できること。  
②JavaScriptやjQueryを利用した簡単なプログラミングができること。

■**担当教員**：

大淵 一博

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション／プログラミングの考え方／Webプログラミングの現状
- 第 2 回 JavaScriptの基礎①（変数、代入、演算子、ダイアログ、コメント）
- 第 3 回 JavaScriptの基礎②（条件分岐、繰り返し）
- 第 4 回 JavaScriptの基礎③（イベントハンドラ）
- 第 5 回 JavaScriptの基礎④（文字列操作、配列、関数）
- 第 6 回 JavaScriptの基礎⑤（ダイアログ、エレメント、スタイル）
- 第 7 回 JavaScriptの基礎⑥（FORMとの連携、画像）
- 第 8 回 課題1
- 第 9 回 JavaScriptの基礎⑦（Canvasによる描画①）
- 第10回 JavaScriptの基礎⑧（Canvasによる描画②）
- 第11回 課題2
- 第12回 jQueryの基礎①（JavaScriptとの関係・基本構文・セレクタ）
- 第13回 jQueryの基礎②（メソッド）
- 第14回 jQueryの基礎③（イベントハンドラ）
- 第15回 課題3

■**事前・事後学習**：2年次前期開講の「プログラミングI」を受講していること履修条件としているので、第3回目くらいまでの内容（変数、代入、演算子、条件分岐、繰り返し）については、事前にある程度理解しておくこと。プログラミングは、できるだけ多くの演習をこなすことが上達の鍵となるので、授業時間外を活用し、与えられた練習問題や課題などに取り組むこと。

■**教科書**：教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

■**参考文献**：『やさしくはじめるWebデザイナーのためのjQueryの学校』（マイナビ）、『Web制作の現場で使うjQueryデザイン入門』（アスキーメディアワークス）、『JavaScriptポケットリファレンス』（技術評論社）、『改訂新版JavaScript本格入門～モダンスタイルによる基礎から現場での応用まで』（技術評論社）

■**成績評価基準と方法**：授業課題、出席状況、プレゼンテーション、授業態度を総合的に評価します。また、最終期限までにすべての課題が提出されない場合には、単位が認められません。また、出席数が全体の2/3に満たない場合にも単位が認められません。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
課題	◎	◎	授業内容のポイントを理解し、条件に従って適切に制作していること。 期日までに提出されていること。	100
出席			2/3以上の出席。遅刻、欠席は全体の評価から減点します。	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：情報リテラシーI、情報リテラシーII、Webデザイン、プログラミングI、プログラミングII、プログラミングIII

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：2年次前期開講の「プログラミングI」を受講していること履修条件とします。各課題の評価を総合的に集計して課題の全体評価とします。課題期限に遅れた場合には、評価が減点されますので、注意してください。

# 建築デザイン論

選 択

開講年次：2 年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：人間と環境を考えた建築デザインの動向と課題、それらの背後にある思潮と設計手法について理解を深める。特に近現代建築の建築思潮を理解するために、建築、哲学、デザイン、風景、環境デザインなどに関する多岐に渡る具体的な事例から学ぶ。各自が分担に応じてレポートをまとめて発表し、講義と議論をもとに授業を進める。また総合実習科目などとも関連づけた授業とする。なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要なとされる指定科目（建築計画）である。

■**到達目標**：①人間と環境を考えた建築デザインの思潮を学ぶ。  
②建築デザインの意義と事例を学ぶ。  
③環境から捉えた建築デザイン（パッシブデザイン）の意義と事例を学ぶ。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

○山田 良・斉藤 雅也

■**授業計画・内容**：

主に建築デザインの思潮、設計手法、事例に関する講義と、建築環境デザインからの視点に基づく思潮、事例に関する講義に分けて進める。

- 第 1 回 パッシブデザインとその系譜、建築計画原論の再考
- 第 2 回 バナキュラー建築・都市のデザイン
- 第 3 回 断熱・熱容量を活かす温もりのデザイン
- 第 4 回 日射遮へい・天空放射を活かす涼しさのデザイン
- 第 5 回 屋光を活かす明暗のデザイン
- 第 6 回 中間季の室内気候デザイン・半屋内空間のデザイン
- 第 7 回 空間×時間の建築デザイン
- 第 8 回 パッシブ×アクティブ建築技術のインテグレート
- 第 9 回 建築デザインの概念・哲学
- 第10回 建築思潮と表現
- 第11回 建築デザインと風景
- 第12回 身体と空間、および諸概念
- 第13回 芸術としての建築
- 第14回 建築設計とディテール
- 第15回 建築をデザインすること

■**事前・事後学習**：授業毎に次回のテーマを提示します。シラバスを合わせ確認すると同時に自分のイメージをまとめておいてください。授業後のレポート等は、適宜指示します。

■**教科書**：「設計のための建築環境学 日本建築学会編（彰国社）」  
その他、必要に応じて資料を配布する。

■**参考図書**：「建築設計資料集成 総合編 日本建築学会編（丸善）」、「建築設計資料集成 拡張編」（環境）、（人間）、（居住）、（地域・都市I～II）ほか

■**成績評価基準と方法**：出席状況（50%）および提出課題、定期試験（25%）、レポート（25%）を総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	○	○	◎		25
小テスト・授業内レポート	○	○	○		25
授業態度	○	○	○		
発表					
課題・作品					
出席	○	○	○		50
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習Ⅱ（建築・環境）ほか、設計・製図等の建築設計製図の科目。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

# 空間デザイン史

選 択

開講年次：2 年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：日本建築を中心として、日本・西洋・アジアと地域ごとに分け、各地域の時代を古代、中世、近世に分けながら通史として空間デザインの歴史的な成立と展開を概説する。日本と西洋、アジアにおける空間デザインの歴史を住宅に着目して、様式、地域、環境の視点から、その展開と系譜を概説し、日本の空間デザインの特質を明らかにする。また、北海道における空間デザインの歴史的な過程についても概説する。  
なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（建築計画）である。

■**到達目標**：①日本建築史、西洋建築史の流れを理解する。  
②東洋建築史、近代建築史の流れを理解する。  
③日本建築史、西洋建築史、東洋建築史、近代建築の流れと相関関係を理解する。

■**担当教員**：  
羽深 久夫

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 日本の空間デザイン史 (1) 日本建築の起源
- 第 2 回 日本の空間デザイン史 (2) 古代 飛鳥建築 古代神社建築
- 第 3 回 日本の空間デザイン史 (3) 古代 奈良建築 都城制、南都六宗の寺院建築
- 第 4 回 日本の空間デザイン史 (4) 古代 平安建築 寝殿造
- 第 5 回 日本の空間デザイン史 (5) 中世 鎌倉建築 禅宗建築
- 第 6 回 日本の空間デザイン史 (6) 中世 室町建築 主殿造
- 第 7 回 日本の空間デザイン史 (7) 近世 安土桃山建築 城郭
- 第 8 回 日本の空間デザイン史 (8) 近世 江戸建築 書院造、数寄屋
- 第 9 回 日本の空間デザイン史 (9) 近代 都市独立住宅
- 第10回 西洋の空間デザイン史 (1) 古代 エジプト・オリエント・ギリシャ・ローマ建築
- 第11回 西洋の空間デザイン史 (2) 中世 ビザンチン・イスラム・ロマネスク・ゴシック建築
- 第12回 西洋の空間デザイン史 (3) 近世 ルネッサンス・バロック・ロココ・近代建築
- 第13回 アジアの空間デザイン史 (1) アジアの建築 韓国・中国・ネパール建築
- 第14回 アジアの空間デザイン史 (2) 小アジアの建築 アルメニア建築
- 第15回 北海道の空間デザイン史 北海道の建築

■**事前・事後学習**：教科書の該当するページを読んで、内容を把握してから授業に参加すること。毎回前週の内容について小レポートを行うので、授業内容を理解しておくこと。

■**教科書**：『建築史』／桐敷真次郎（実教出版）1,300円  
『日本建築史図集』／日本建築学会編（彰国社）2,415円  
『西洋建築史図集』／日本建築学会編（彰国社）2,625円

■**参考文献**：『東洋建築史図集』／日本建築学会編（彰国社）3,255円  
『近代建築史図集』／日本建築学会編（彰国社）2,415円

■**成績評価基準と方法**：定期試験（60%）、授業態度・発表（20%）、その他（20%）により総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎		用語を理解し、図を用いた説明ができること。	60
小テスト・授業内レポート					
授業態度	○	○	◎	授業での質問への返答	10
発表	○	○	◎	授業での質問への返答	10
課題・作品					
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他	○	○	◎	特別講義、公開講座への参加	20

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン史（1年次前期） 近現代建築史（2年次前期）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：歴史は学の基盤となるもので、空間デザイン史の理解は建築デザイン教育の基礎となるものである。

# 一般構造

選 択

開講年次：2 年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：建築物を成り立たせる各部分、全体のつくり方、形づくる方法である建築構造は、基礎、軸組、仕上げに大別される。また、建築構造は、太古からの木材や石・れんがなどの自然材料を用いた建築構造、産業革命以後の鋼材やコンクリートなどの工業生産材料を用いた近代的な建築構造、さらに第2次世界大戦以後の新材料や組立方式の導入による現代の建築構造と歴史的発展を遂げ、建築技術、建築材料、生産方式の改良と発展を促し、高く・大きく・自由な建築空間をつくりだしている。建築構造を材料による分類、つくり方による分類、形による分類で学び、建築物に働く力、建築材料の規格、建築基準法・技術的規準との関連を概説する。なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（建築一般構造）である。

■**到達目標**：建築構造の基本である木構造、鉄筋コンクリート構造、鋼構造、その他の構造（鉄骨鉄筋コンクリート構造、石造、煉瓦造、補強コンクリートブロック造）の特徴を踏まえ、骨組のつくり方による架構式、一体式、組積式、組立パネル式、また、骨組の形によるラーメン、トラス、アーチ、壁式、その他（シェル、空気膜、吊り）の具体的内容を理解する。

■**担当教員**：

羽深 久夫

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 建築構造のあらまし
- 第 2 回 木構造の特徴と構造形式
- 第 3 回 木構造の基礎・軸組・仕上げ
- 第 4 回 木構造の構法
- 第 5 回 鉄筋コンクリート構造の特徴と構造形式
- 第 6 回 鉄筋とコンクリートの性質
- 第 7 回 鉄筋コンクリート構造の基礎・軸組・仕上げ
- 第 8 回 鉄筋コンクリート構造の構法
- 第 9 回 鋼構造の特徴と構造形式
- 第10回 鋼材の接合
- 第11回 鋼構造の基礎・軸組・仕上げ
- 第12回 鋼構造の構法
- 第13回 その他の構造（鉄骨鉄筋コンクリート造）
- 第14回 その他の構造（石造・煉瓦造など）
- 第15回 その他の構造（シェル・空気膜・釣り構造）

■**事前・事後学習**：教科書の該当するページを読んで、内容を把握してから授業に参加すること。次週の小テストを行うために毎回その範囲を示すので、その内容を理解しておくこと。

■**教科書**：『建築構造』／青木博文他（実教出版）

『建築構造用教材』／日本建築学会（丸善）1,900円 ISBN4-8189-0444-9 C3052

■**参考文献**：『絵とき建築材料』／廣瀬幸男他（オーム社）2,800円 ISBN4-274-10306-4 C3052

『建築材料用教材』／日本建築学会（丸善）1,900円 ISBN4-8189-2202-1 C3052

■**成績評価基準と方法**：出席・授業態度（30%）、レポート（20%）、定期試験（50%）により総合的に評価する。

評価方法	到達目標	評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①		
定期試験	○	専門用語の習得	50
小テスト・授業内レポート	○	各構造の理解度	20
授業態度	○	質問に対する答え	15
発表			
課題・作品			
出席	○		15
その他			

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：構造力学I（3年次前期）、建築生産（3年次後期）、建築構法（3年次後期）、構造・材料実験（3年次後期）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：建築一般構造は建築を理解する最初の基本知識であり、建築空間の多様性を理解する上で不可欠である。

# 家具・インテリアデザイン

選 択

開講年次：2 年次後期

科目区分：実 習

単 位：2 単位

講義時間：60 時間

■**科目のねらい**：建築の内部空間を構成する家具・インテリアデザインについて理解を深めます。本科目では、建築の基本的な計画（平面計画・断面計画・採光／照明計画など）に基づいて、家具の使用目的・配置、使用者の行為・動線、材料の特性などを理解した上で、オリジナル家具をデザイン・制作し、図面と制作物による講評をします。特に、建築計画を基盤として、人間工学の理解と生活行為の分析を通して適切なデザイン提案ができることを重視し、使用目的に合わせた素材選びや形態デザインなどと、その作図法について個別指導をおこないます。なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（その他）です。

■**到達目標**：①建築の基本的な計画（平面・断面・採光／照明計画など）と家具の関係を理解する。  
②建築の内部空間、家具の使用目的・配置、使用者の行為・動線、材料の特性などを理解した上で、独自の着想に基づき家具をデザイン・制作し、図面と制作物による発表ができる。  
③人の行動や知覚等を考慮してインテリアや家具の使用材料や構法を考えることができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎片山 めぐみ・岸本 幸雄・未定

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 概論：世界の建築と家具・インテリアデザイン
- 第 2 回 建築の基本的な計画と家具・インテリアに係わる人間工学
- 第 3 回 建築・家具のデザイン1（コンセプト、作図法）
- 第 4 回 建築・家具のデザイン2（寸法体系、作図法）
- 第 5 回 建築・家具のデザイン3（寸法体系、作図法）
- 第 6 回 建築・家具のデザイン4（詳細設計）
- 第 7 回 建築・家具の図面表現（三面図、パース表現など）
- 第 8 回 建築・家具の図面表現（三面図、パース表現など）
- 第 9 回 制作1（図面・家具）
- 第10回 制作2（図面・家具）
- 第11回 制作3（図面・家具）
- 第12回 制作4（図面・家具）
- 第13回 制作5（図面・家具）
- 第14回 制作6（図面・家具）
- 第15回 講評会：建築・家具の図面・制作物の発表

■**事前・事後学習**：授業内で取り組むショート課題についての下調べを事前学習として課す。また、課題提出に対する添削内容についての振り返り報告を事後学習として課す。

■**教科書**：必要に応じて印刷物を配布する。

■**参考文献**：授業時に参考図書を紹介する。

■**成績評価基準と方法**：授業態度およびオリジナル家具の成果物により評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度	○	○	○	積極的に参加すること	20
課題・作品	◎	◎	◎	制作の意図と制作物の内容が吟味されていること	80
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：材料加工理論／実習I、建築設計製図、建築計画論など。

建築の内部空間、インテリアデザインおよび家具におけるスタディと表現を的確に行なうために、本授業の履修を希望する学生は、建築設計製図（2年次前期）を履修していることが望ましい。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：特に関連科目としてはあげていませんが、様々なデザインの歴史、現在のデザインの動向などを積極的に各自で情報収集することを心掛けてください。オリジナル家具制作の材料費として4,000円程度が必要となります。

# メディア芸術論

選 択

開講年次：2 年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：メディア・アート（Media Art）と総称される1980年代以降の新たな芸術表現分野を中心に、メディア技術と芸術文化・産業との関わりについて概観する。日本の特有語である「メディア芸術」（Media Arts）には、アニメやマンガ、ゲームなどの商業的コンテンツが含まれているが、その特徴的課題を世界のメディア・アートの文脈と比較する。先端メディア技術と芸術表現の連携は、古典芸術の種々のジャンル（絵画、音楽、演劇）を、デジタルメディア（マルチメディア）によって統合してきた。デジタル情報に一元化されることで、さまざまな芸術の境界は融解し、それまで分化していた諸芸術の統合が喚起されている。芸術のオープン・イノベーションが加速する中、非西欧的芸術の表現拡張が抱える課題と可能性についても理解を深める。

■**到達目標**：①現代アートにおける「メディア芸術」の再定義と展開を、20世紀後半からの情報メディア技術の社会的・文化的な変動と重ねて理解する。  
②様々な表現メディアの歴史的景観やメディア・アートの取り組みの理解を通して、メディアに対する理解を深める。  
③メディア・アーティストの斬新な取り組みや発想から、その戦略と具体的アプローチを考える。新たな表現の場、人材育成の場について考察する。

■**担当教員**：

須之内 元洋

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 メディア芸術概論—媒体と芸術
- 第 2 回 メディア芸術の先駆者たち1—マーシャル・マクルーハン
- 第 3 回 メディア芸術の先駆者たち2—ナム・ジュン・バイク
- 第 4 回 メディア芸術の先駆者たち3—ジョン・ケージ
- 第 5 回 メディア芸術と社会変革—対抗文化としてのメディア・アート
- 第 6 回 絵画とは何か？ 視覚とメディア
- 第 7 回 写真という狂気をめぐって
- 第 8 回 映画の登場と視覚専制社会I
- 第 9 回 映画の登場と視覚専制社会II
- 第10回 ニューメディアの言語／人工知能
- 第11回 音（楽）—聴くことの諸相
- 第12回 音（楽）とメディア芸術
- 第13回 ホビー・アイドル・ゲーム・広告とメディアの新たな関係
- 第14回 都市とメディア芸術
- 第15回 総括 21世紀のメディア芸術、その新たな定義をめぐって

■**事前・事後学習**：講義で取り上げる思想・作品・プロジェクト等について、積極的に復習・読書・鑑賞を行い、作品や思想に直に触れながら理解を深めることが大切です。

■**教科書**：特になし

■**参考文献**：適宜、授業中に指示します

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業内レポート	◎	◎	○	各回の課題を理解し、企画力、展開能力をみる。	40
授業態度	○	○	○	積極的な姿勢を期待する	10
課題・作品	◎	◎	◎	課題に対する展開能力、独創性、社会性	40
出席	○	○	○	2/3以上の出席(欠格条件)	10

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：時間表現理論／演習I・II、メディア社会論、環境芸術論、総合実習I～III（地域・総合）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：メディア芸術が志向する社会変革への視点、そして自身のアート表現戦略を学んで下さい。誰もがメディア・アーティストであるという観点を認識し、次代のアーティスト、デザイナーとして向かうべき方向性を見出して下さい。



# 空間プロダクト

選 択

開講年次：2 年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：地域、身近な日常生活空間における問題を中心に、それに関わるさまざまなモノやコトについて学ぶ。

授業では、生活道具や雑貨、家具などを題材に、高齢者から子どもまで幅広いユーザの中から対象を設定し、その対象者が地域や生活の中で必要とするモノやコトを調査・考察、提案、評価を通して実践的に学ぶ。

■**到達目標**：①地域や日常生活空間における問題発見、調査分析、提案までのプロセスを習得する。

②ユーザの特性を十分に理解し、発見した問題点に対する改善策を提案する。

■**担当教員**：

小宮 加容子

■**授業計画・内容**：

第 1 回 課題説明

第 2 回 現状調査1

第 3 回 現状調査2

第 4 回 調査結果の分析

第 5 回 問題点の整理

第 6 回 アイデア展開

第 7 回 デザインコンセプトの立案

第 8 回 モデル製作1

第 9 回 モデル製作2

第10回 モデル製作3

第11回 モデル製作4

第12回 評価実験

第13回 評価実験結果の検討、デザイン修正

第14回 プレゼン資料作成

第15回 プレゼンテーション

■**事前・事後学習**：

事前学習：授業内容および課題について、各自で調査や課題の取り組みを行うこと。

事後学習：授業内容の振り返り、各課題の修正、再検討を行うこと。

■**教科書**：作成資料を適宜配布する

■**参考文献**：適宜紹介する

■**成績評価基準と方法**：授業態度（40%程度）、課題発表（20%程度）、課題成果（40%程度）を総合的に判断し成績を判定する。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
授業態度	○	○	積極的な姿勢	40
発表	○	○	明快さ、説得力	20
課題・作品	○	○	完成度、新規性	40
出席			2/3以上の出席	欠格条件

■**関連科目**：体のしくみ、ユニバーサルデザイン論、空間演出デザイン論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：地域や自分の日常生活の現状、身の回りにあるモノやコトの問題点について日頃からよく観察するように心がけてください。

# プロダクトデザインⅡ

選 択

開講年次：2 年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：近年、情報技術や自動化技術の発展により身の回りの様々な製品が高機能化・自動化されており、それに合わせて製品の内部構造や部品構成も複雑化している。このような状況の中で、効果的な製品をデザインするためには、製品が有している基本概念を知っておく必要がある。ここでは、これらの基本概念を知るために、モノの成り立ちやそれに派生する規格化、製品を正しく駆動・機能させる構造について学ぶ。また、具体的な製品を題材に、その外観や内部構造の図面化を通して、製品の構成を理解する。その上で、内部構造や駆動部位を考慮した制作課題を行うことで、実践的なデザイン力を養う。

■**到達目標**：①【製品構造の理解】製品の分解やテクニカルイラストレーションを通して、製品の構造やモノの成り立ちを理解する。  
②【技術の理解】ハードウェアの内部構造や機構の他、ITやロボット関連技術の調査を通して、駆動や動作の仕組みを理解する。  
③【実践力】内部構造や機構を考慮したデザインを行う制作課題を通して、実際に機能する製品のデザイン力を養う。

■**担当教員**：

三谷 篤史

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 モノの成り立ちと規格化
- 第 2 回 製品を正しく駆動・機能させる構造と機構
- 第 3 回 演習その1：歯車とリンク機構（1）
- 第 4 回 演習その1：歯車とリンク機構（2）
- 第 5 回 アクチュエータについて
- 第 6 回 運動の定義
- 第 7 回 演習その2：テクニカルイラストレーション（1）
- 第 8 回 演習その2：テクニカルイラストレーション（2）
- 第 9 回 課題説明、アイデア展開、アイデアスケッチ
- 第10回 課題制作（1）
- 第11回 課題制作（2）
- 第12回 課題制作（3）
- 第13回 課題制作（4）
- 第14回 発表準備
- 第15回 プレゼンテーション

■**事前・事後学習**：授業の進捗に合わせて、適宜レポートや課題を課すので、予定されている授業内容を事前に確認し、各課題にすぐに取りかかれるように下調べをしておくこと。また授業時間内に各課題を達成できないことが想定されるので、残りの作業は授業時間外に行うことになる。

■**教科書**：資料を適宜配布する。

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：レポート課題の提出と、制作課題に関するポートフォリオおよびプレゼンテーションにより判別する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度				積極性を有しているか。	10
演習レポート	○	○		規定の内容を含んでいるか。第三者に分かりやすい内容となっているか	20
課題作品		○	○	プロダクトとしての新規性を含んでいるか。	30
プレゼンテーション	○	○	○	第三者に伝わる発表になっているか。質問に対応できているか	30
出席				2/3以上	10

■**関連科目**：表現基礎、材料加工理論／実習、製品系CAD実習、プロダクトデザインI、プログラミングⅢ

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：同時期に開講する製品系CAD実習を受講する（またはSolidWorks（3D-CAD）を使える）ことが望ましい。

# プログラミングⅡ

選 択

開講年次：2 年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：プログラミングIで習う、変数、配列、繰り返し、分岐などを前提に、各種外部入力センサ装置等（マイク・Kinect・Leap・筋電・arduino経由のセンサ）および、通信の実習を行い、ソフトからハードへの転換へむけたPCによる制作を行う。エンターテインメント分野におけるコンテンツ（芸術表現 インタラクティブアート、メディアアート、パフォーマンス、ゲームなど）制作を行う。

■**到達目標**：①制作課題の設定と、それに合わせた入力装置を選ぶことができる。  
②各種入力装置を用いて作品に取り入れることができる。  
③作品の展示及び、紹介映像を制作することができる。

■**担当教員**：

松永 康佑

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 画像データ処理基礎
- 第 2 回 カメラを用いたリアルタイム画像データ処理
- 第 3 回 運動データの処理
- 第 4 回 手の運動データ処理
- 第 5 回 筋電データ処理
- 第 6 回 音声データ処理
- 第 7 回 通信処理とセンサ
- 第 8 回 ゲーム
- 第 9 回 デジタルコンテンツ表現計画1
- 第10回 デジタルコンテンツ表現計画2
- 第11回 デジタルコンテンツ制作1
- 第12回 デジタルコンテンツ制作2
- 第13回 デジタルコンテンツ制作3
- 第14回 デジタルコンテンツ制作4
- 第15回 プレゼンテーション

■**事前・事後学習**：プログラミングIで学習した基本的なプログラミングに関する文法について復習しておくこと。授業中に与えるプログラミングの課題について、完成させておくこと。また、自分で改良できるように、理解を深めること。

■**教科書**：

■**参考文献**：適宜、スライドを用意し、配布します。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度					
発表	○	○	○		10
作品	◎	◎	◎		70
出席					欠格条件
その他	○	○	○	レポートなど	20

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：プログラミングIを受講していることを前提に進める。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

# 協同デザインⅡ

選 択

開講年次：2 年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：協同デザインという視点からデザインプロセスとその運用のための手法についての基本的な考え方を学ぶとともに、そこから得られた視点をもとにいくつかの体験的なプロジェクトを通して実践的に学ぶ。とくに「理解：共感」「観察：問題定義」「具体化：アイデア創出」「プロトタイピング：試作と改良」「実行と検証」というデザインシンキングを事例のひとつとしてデザイン手法を体験的に学ぶ。

■**到達目標**：①自分たちの生活の中で使われているさまざまなデザイン、およびそのデザインプロセスについて関心を持つ。  
②デザインプロセスとその運用のための手法についてその基本的な考え方を学ぶ。  
③理解、観察、具体化、プロトタイピング、マテリアライズの一連のプロセスの中での方法論を学ぶ。

■**担当教員**：

若林 尚樹

■**授業計画・内容**：

第 1 回目 ガイダンス：協同デザインの視点、導入（基本となる考え方）

第 2 回目 協同デザインのための視点1 「みえるか!？」

第 3 回目 協同デザインのための視点2 「わかるか？」

第 4 回目 協同デザインのための視点3 「わかるか？」

試行（身近なテーマで考える）

第 5 回目 協同デザインのための視点4 「できるか？」

第 6 回目 協同デザインのための視点5 「みせるか？」

第 7 回目 振り返り：協同でデザインするためのいくつかの手法

展開（一般化へのアプローチ）

第 8 回目 実践的なプロジェクト1 キックオフ：課題設定

第 9 回目 実践的なプロジェクト2 調査・分析、コンセプトの検討

第10回目 実践的なプロジェクト3 企画、提案の検討

第11回目 実践的なプロジェクト4 デザインの検討・展開

第12回目 実践的なプロジェクト5 デザインの展開・制作

第13回目 実践的なプロジェクト6 デザインの展開・制作

第14回目 実践的なプロジェクト7 発表と意見交換

第15回目 最終発表会とまとめ

■**事前・事後学習**：準備学修として、授業計画にそって取り上げるテーマを題材に、協同デザインという視点から意識して見直してみるよう、授業時に具体的な指示をする。それに従って授業時間相当の調査をおこない、指示にしたがってレポートや課題を作成すること。また、発表準備、素材制作、課題作成など、授業時間外の作業が必要となる。

■**教科書**：授業の中で資料を適宜配布する。

■**参考文献**：デザイン思考が世界を変える、ティム・ブラウン（著）、早川書房

■**成績評価基準と方法**：授業態度・提出課題・発表の結果を総合して評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業内レポート	◎	◎	○	授業時間を効果的に活用して制作を行う	20%
授業態度	○	○	○	授業時間を効果的に活用して制作を行う	30%
発表	○	○	◎	課題条件にそった制作意図などを説明できる	20%
作品	○	○	◎	出題条件にそった課題作品をすべて提出していること	30%
出席				2/3以上の出席が必要	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：協同デザインⅠ、アイデア生成プロセス

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：学外での調査、取材等もふくむ

# デザイン総合実習Ⅱ(建築・環境)※人間空間デザインコース

必修

開講年次：2年次後期

科目区分：実習

単 位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**:デザイン基本科目、展開科目及び発展科目である総合実習Ⅰと人間空間コース関連展開科目、発展科目を踏まえ、具体的な建築物および外部環境についての設計を統合した制作を通して、建築設計に関する知識・技術を深める。1. 外部環境の計画と表現で公園・緑地および公園関連施設の計画・設計の基礎を学び、公共空間の計画を経て、2. 都市部における集住体の計画・設計へと実習を進め、植生、人々の活動、空間の大きさ・密度といった様々な視点と計画力を養う。なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要なとされる指定科目（建築設計製図）である。

■**到達目標**：①造園の基本的な計画手法を学ぶ(敷地や地形の読み取り、サイトプランニングの基礎及びプレゼンのための表現技術)。  
②建築についての計画をおこない、平面図、立面図、断面図、透視図、模型などでの確かな表現ができること。  
③建築・造園等を総合した空間デザインの対象として都市部の集住体の計画と設計ができること。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎金子 晋也・斉藤 雅也・羽深 久夫・矢部 和夫・椎野 亜紀夫・山田 信博・山田 良・大島 卓・片山 めぐみ

■**授業計画・内容**：

空間デザインの表現方法

1. 外部環境の計画と表現（公園・緑地の施設整備計画）

- 第 1 回 外部環境の計画と表現
- 第 2 回 外部環境の計画と表現
- 第 3 回 外部環境の設計
- 第 4 回 外部環境の設計
- 第 5 回 外部環境の設計
- 第 6 回 制作物の発表と講評

2. 都市部における集住体の計画・設計（共同住宅／RC造）

- 第 7 回 建築の配置と周辺環境／建築の平面・断面計画と周辺環境
- 第 8 回 建築と周辺環境に関する計画の発表
- 第 9 回 集住体の計画（都市部の住環境に対する批評）
- 第 10 回 集住体の計画（空間的集合のスタディ）
- 第 11 回 集住体の計画（集住体の提案）
- 第 12 回 集住体の計画・設計（提案内容の批評）
- 第 13 回 州渋滞の設計（作図／模型）
- 第 14 回 集渋滞の設計（作図／模型）
- 第 15 回 制作物の発表と講評

■**事前・事後学習**：

事前学習：課題計画に必要な事前調査（敷地、文献、事例など）を行っておくこと。

事後学習：講評会の指摘を十分理解し、課題作品の見直し・再検証を行うこと。

■**教科書**：1については、『造園計画』、『北海道樹木図鑑 [増補版]』を使用する。  
2については、適宜資料を配布する。

■**参考文献**：『造園計画』／文部科学省

『北海道樹木図鑑 [増補新装版]』／佐藤孝夫著、本多政史編（亜細亜社）

『図・建築表現の手法』／図研究会、東海大学出版会

『建築・都市計画のための空間計画学』／日本建築学会、井上書院

『樹木図鑑URL』／北造協、<http://www.hokuzoukyou.or.jp/zukan/zukan.html>

■**成績評価基準と方法**：出席（40%）と提出課題作品（60%）を総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度・出席	○	○	○	出席、積極的な姿勢	40
発表			○	制作物の意図・内容を明快に説明できること	60
課題・作品	○	○	◎	空間表現が図面上・模型上でできていること	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：設計・製図、人間空間デザインコースの展開科目、デザイン総合実習Ⅰ～Ⅲ（建築・環境）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業では、基礎的な表現方法から、一連の計画・設計過程までを総合的にを行います。学生各自での努力はもちろんのこと、授業毎での教員とのエスキスチェック・議論を積極的に行ってください。

# デザイン総合実習Ⅱ(地域コミュニケーション・総合系)※人間空間デザインコース

必修 開講年次：2 年次後期 科目区分：実習 単 位：2 単位 講義時間：60 時間

■**科目のねらい**：メディア環境、コミュニケーションの形態が多様化する現在、自己と他、パブリックとプライベート、LGBTなどのジェンダー問題、人工知能との共生など我々を取り巻く社会において、私たちは新しい公共性、ワークライフバランスなどのソーシャルイノベーションを通じたライフスタイルを考える必要がある。本科目前半はパブリックスペースの新しい形態、システムの提案を考える。後半ではイノベティブなライフスタイルの提案を基に、社会的なソリューションに繋がる住まいや日常実践のアイデアを創造する。

■**到達目標**：①様々な社会状況の変化によるパブリックとプライベート、個と公の変化について理解する  
②新しいメディア環境、コミュニケーションの形態を理解し、その優位、劣位を理解する  
③様々な人の営み、そのスタイルの理解とそこにある問題を理解する  
④空間（スペース）およびコミュニケーションに関する自由な発想力を養う

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎石田 勝也、山田 良、須之内 元洋

■**授業計画・内容**：

〈パブリックを考える〉

- 第 1 回 課題発表、事例研究（パブリックスペースを考え直す）
- 第 2 回 ディスカッション1（パブリックについて）
- 第 3 回 ディスカッション2（パブリックについて）
- 第 4 回 個別企画
- 第 5 回 課題制作
- 第 6 回 課題制作
- 第 7 回 成果発表及び講評

〈住まうということ（ソーシャルイノベーション／ワークライフバランス／コミュニケーション）〉

- 第 8 回 課題発表、事例研究（新しいライフスタイルを考える）
- 第 9 回 ディスカッション1
- 第10回 ディスカッション2
- 第11回 個別企画
- 第12回 課題制作
- 第13回 課題制作
- 第14回 課題制作
- 第15回 成果発表及び講評

■**事前・事後学習**：事前に「パブリック」や「住まう」と言った概念をどう捉えるか、様々な文献、サイトを参照し授業に取り組むこと。特に事後に関しては自身が考えた企画内容を再度確認し、社会との関係性など自身で考えきれなかった点など取りこぼしのない学修をすること。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：講義中に適宜紹介します

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
授業内演習・レポート	○	○	○	○		20%
発表	○	○	○	○	プレゼンスキル	20%
課題・作品	◎	◎	◎	◎		40%
出席	○	○	○	○	2/3以上の出席必須	20%
その他						

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：人間空間デザイン論、コミュニティデザイン論、環境芸術論、情報社会論、メディア芸術論、デザイン総合実習Ⅰ、デザイン総合実習Ⅱ（建築・環境）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：前半の課題ではパブリックとは何か？公共性についての新しい発想を求めます。そのためには様々な事例や昨今の社会事情の理解が必要です。また建築・環境系の課題との関連も意識し、現実的でもありかつ未来を見越した夢のある企画を考えて下さい。一方で後半では個々人のこれからの生き方、そのスタイルがどのようにすれば多様性を維持しながら共生出来るのかを考えていきます。

# デザイン総合実習Ⅱ(人間情報デザインコース)

必修 開講年次：2年次後期 科目区分：実習 単 位：2単位 講義時間：60時間

■**科目のねらい**：デザイン総合実習Ⅰをはじめ、専門教育科目の履修を踏まえ、知識・技術を発展させるための制作課題に取り組む。作品制作では実働するものを制作し、これを対象とした効果検証を実施する。以上を通して、デザイン総合実習Ⅰよりも更に実践的なデザイン能力を身につける。

■**到達目標**：①課題発見からデザイン作品制作までを行い、効果検証も行うデザイン姿勢を身につける。  
②ポートフォリオに掲載可能な作品を増やすとともに、質的な向上を目指す。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎張 浦華 矢久保 空遥

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション フィールドスタディによる素材収集
- 第2回 素材の分析
- 第3回 プログラミング
- 第4回 プログラミング
- 第5回 制作物の加工
- 第6回 制作物の加工・分析
- 第7回 プレゼンテーション
- 第8回 オリエンテーション・グループディスカッション
- 第9回 イメージ展開
- 第10回 モデリング作成
- 第11回 調査計画立案・調査ツール作成
- 第12回 外部講師による講習会の開催
- 第13回 検証評価
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 合同パネルセッション

第1回のオリエンテーションは合同で実施し、以降A・Bの2グループに分けて授業を並行して実施する。第8週目でA・Bのグループを入れ替え、第15回には2グループ合同の合同パネルセッションを行う。Aグループでは第5回、Bグループでは第12回の授業に外部講師により講習会を開催する予定。講師の都合により日程を変更することがあります。

■**事前・事後学習**：日常生活を通して道具と人間との関わりをよく観察し、新しい技術や表現について常に検討すること。授業では学生のプレゼンテーションを行うので、事前のプレゼンテーション準備、事後プロセスシートの作成を宿題とする。最終的にはポートフォリオにまとめる。

■**教科書**：適宜資料を配布する

■**参考文献**：適宜資料を配布する

■**成績評価基準と方法**：取組み姿勢、提出物、およびプレゼンテーションにより評価する。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
取組み姿勢	○	○	作業プロセス	30
発表	○	◎	プレゼンテーション	30
課題・作品	◎	◎	モデル・パネル	30
出席	○	○	欠格条件	10
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：・デザイン総合実習Ⅰ

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

# 地域プロジェクトⅡ(応用編)

自由 開講年次：2年次・3年次・4年次(通年) 科目区分：演習 単 位：2単位 講義時間：60時間

■**科目のねらい**：地域の概念やしくみ・プロジェクトの実現に必要な基礎知識を基盤とし、実際に地域の活性化を目指し、教員が立案・計画したプロジェクトにメンバーとして参加する事を通して、地域課題を解決するために必要な能力を習得する。

■**到達目標**：①公開講座に企画運営者の視点から参加し、地域の概念やしくみ・札幌市の特徴、地域課題の解決に向けた知識の普及方法について理解を深める。  
②教員が、地域と連携し、企画する地域プロジェクトにメンバーとして参加することを通して、地域の課題解決につながるプロジェクトを成立させるために必要な基礎的知識、技術、態度について考察する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎定廣 和香子・大淵 一博

■**授業計画・内容**：

## Section 5. 地域活動の実際を知る (advance)

1. 地域活動に関わる特別講義・公開講座への参加  
(企画・運営の視点から)

## Section 6. 地域プロジェクトを計画する (basic)

1. 地域プロジェクトの計画にメンバーとして参加する。

## Section 7. 地域プロジェクトを実践する (basic)

1. 地域プロジェクトの運営にメンバーとして参加する。

## Section 8. 地域プロジェクトを評価する (basic)

1. 報告会 (地域住民向け)
2. アフターセッション (プロジェクトの評価と活動の自己評価)

■**事前・事後学習**：関心、興味のあるプロジェクトについて事前に情報収集をして下さい。プロジェクト参加後は、各自で担当した役割や感想をまとめ、プロジェクト実施報告書を提出して下さい。

■**教科書**：特になし

■**参考文献**：適宜参考資料を提供する。

■**成績評価基準と方法**：授業態度 (活動の態度や言動・活動計画・記録、報告会にむけての準備) 40%、発表20%、課題・作品40%、出席状況 (活動受け入れ先の実施証明書、報告会の参加状況) から総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
授業態度	○	○	◎	活動記録や活動受け入れ先の評価	40
発表			◎		20
課題・作品		◎	○	Section 6.の企画書および、報告書・報告内容を含む	40
出席	○	○	○	2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：スタートアップ演習、学部連携基礎論、札幌を学ぶ、ボランティア活動を考える

■**その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：学生は、公開されているプロジェクトの担当教員と面談の上、活動内容を決定し、計画を立案する。毎回、活動記録および活動受け入れ先の実施証明書を提出する。2年次生は、地域プロジェクトIの単位を取得している必要がある。3・4年次生は、Section 5の開始に先立ち地域プロジェクトI:Section 1を聴講すること。



# メディア社会論

選 択

開講年次：3 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：前半は、現代社会のコミュニケーションを司るインターネットの成立背景や思想を概観し、インターネットを利用した社会変革の可能性について考察する。また、インターネットによって可能となった様々な表現形式、ソーシャルメディアの諸相、集合知やキュレーションといったキーワードについても理解を深める。後半は、アーカイブの歴史やデジタルアーカイブの実践を参照しながら、記憶・記録・表現をめぐる諸相について考察する。メディア実践演習を通じて、今後のメディアの社会的役割や、メディア企画・デザイン戦略について理解を深める。

■**到達目標**：①インターネットの基本的な仕組み・思想、創造性を基盤とする産業について理解する。  
②様々な表現活動・芸術文化の経済・産業化の観点を理解し、自身の表現や提案に反映できる。  
③記憶・記録・表現の諸相とメディアの社会的役割を理解する。

■**担当教員**：

須之内 元洋

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 Electronic Super Highway／フラタニティとファンダム
- 第 2 回 インターネット時代の新たな表現
- 第 3 回 集合知・キュレーション・ソーシャルメディア
- 第 4 回 メディア実践演習
- 第 5 回 メディア実践演習
- 第 6 回 メディア実践演習 成果発表
- 第 7 回 アーカイブの起源と記憶の歴史
- 第 8 回 様々な記憶の表象、記憶と芸術について
- 第 9 回 デジタルアーカイブの誕生／ル・コルビュジェとポール・オトレ
- 第10回 プリコラージュによるアーカイブ
- 第11回 記憶・記録・表現をめぐる
- 第12回 メディア実践演習
- 第13回 メディア実践演習
- 第14回 メディア実践演習
- 第15回 メディア実践演習 成果発表

■**事前・事後学習**：講義で取り上げる思想・作品・プロジェクト等について、積極的に復習・読書・鑑賞を行い、作品や思想に直に触れながら理解を深めることが大切です。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：野生の思考（1976、クロード・レヴィ=ストロース、みすず書房）  
記憶―「創造」と「想起」の力（1996、港千尋、講談社）  
記憶のゆくたてーデジタル・アーカイブの文化経済（2003、武邑光裕著 東京大学出版会）  
ウェブ文明論（2013、池田純一 新潮選書）  
集合知とは何かーネット時代の「知」のゆくえ（2013、西垣通 中央公論新社）  
その他、適宜、授業中に指示します

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度	○	○	○	積極的な姿勢を期待する	10
演習課題・作品	○	◎	◎	完成度・独創性・困難性	60
出席	○	○	○	2/3以上の出席(欠格条件)	30

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：時間表現理論／演習I・II、情報社会論、メディア芸術論、デザイン総合実習I～III（地域・総合）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

# 感性情報学

必修

開講年次：3年次前期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：人間は理性や知性によって合理的判断を行う一方、感性の働きによって固有の感情状態を常に保持している。本授業では理性や知性の働きと感性の働きとの違いや、感性情報処理と心理、生理との関連など感性科学の基礎を前半で学ぶ。また世界的に評価されていたデザイン成果物を実例とし、グローバルな観点からの感性情報学の意義と活用分野を理解する。更に後半では、地域や民族の感性の特徴や感性情報の差異を理解するために具体的な事例を通して感性情報の数量化、解析、考察を行いグローバルな情報の抽出と解析方法を学ぶ。

■**到達目標**：①感性の働きと知性の働きとの違いを理解する。  
②グローバルな観点からの感性情報学の意義と活用方法を理解する。  
③グローバルな観点から感性情報の抽出、感性情報の数量化、感性情報解析の基礎を学ぶ。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎張 浦華・金 秀敬

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 知覚と感性
- 第3回 知覚情報と範囲
- 第4回 知覚情報と可視化
- 第5回 知覚情報と価値
- 第6回 経験と期待
- 第7回 期待と選択
- 第8回 嗜好・好みと他事象との関連
- 第9回 感性評価の相違
- 第10回 感性情報の抽出
- 第11回 感性情報の数量化
- 第12回 感性データの集計
- 第13回 データの解析
- 第14回 感性的差異の考察とまとめ
- 第15回 プレゼンテーション

■**事前・事後学習**：授業では理解度や進行状況をチェックするために、発表の機会が多く設けられている。事前発表の準備をおこなうこと。また事後には、授業内容を復習しプロセスシートの作成を宿題とする。最終的にはポートフォリオにまとめる。

■**教科書**：

■**参考文献**：ニコラス ハンプリー（2006）『赤を見る—感覚の進化と意識の存在理由』紀伊國屋書店。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート		○		課題提出(用語の適切性、講義内容の反映度、論理性)	25
授業態度	◎			積極的な姿勢、努力度	25
発表		○		第三者に理解しやすい内容	25
作品	◎			ポートフォリオの完成度	25
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他				各回のポイントを理解していること	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン研究法（人間情報）、ユーザーエクスペリエンスデザイン

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業前の学習や準備、授業後の課題の提出を成績評価に反映します。

# 都市計画論

選 択

開講年次：3 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

以下は、2017年度の内容です。変更があった場合は、掲示等でお知らせします。

■**科目のねらい**：都市の概念や、都市及び都市計画の歴史、都市の機能と空間構造、土地利用計画プロセス、都市計画制度、市街地再開発事業、都市基盤整備等、都市空間の計画手法全般について体系的に学習する。さらに、国内外の先進的まちづくり事例の学習を通じ、転換期にある現在の都市計画の動向とその背景について考察するとともに、新たな都市計画手法についても論及する。「まちづくりの事例解説」等では札幌市をはじめ、様々な都市や地域における課題および実践的取組事例について、ビジュアルな資料を基に理解を深める。（地域とのつながり あり）なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（建築計画）である。

■**到達目標**：①都市、都市計画・まちづくりに係る理念が理解できる  
②転換期にある都市計画の状況と、新たな都市計画手法について説明することができる  
③習得した知識や技法をまちづくりデザインに応用することができる

■**担当教員**：

森 朋子

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション（授業内容と進め方／都市計画とまちづくり）
- 第 2 回 都市計画の体系1（都市の歴史と都市問題）
- 第 3 回 都市計画の体系2（都市計画の思想と方法）
- 第 4 回 まちづくりの事例解説1（西欧都市）
- 第 5 回 都市の土地利用計画（都市の機能と構造）
- 第 6 回 都市の調査方法（都市の資料と分析手法）
- 第 7 回 都市計画手法（都市計画法と都市計画規制）
- 第 8 回 まちづくりの事例解説2（都市開発プロジェクトの動向1）
- 第 9 回 まちづくりの事例解説3（都市開発プロジェクトの動向2）
- 第10回 都市のインフラ計画（インフラストラクチャ／街路と歩行者空間）
- 第11回 まちづくりの事例解説4（新しいインフラ整備）
- 第12回 新たな都市計画の動向1（中心市街地の空洞化と活性化／都市景観）
- 第13回 新たな都市計画の動向2（コンパクトシティ／郊外型住宅団地の再生）
- 第14回 新たな都市計画の動向3（路面電車とまちづくり）
- 第15回 まとめ（札幌のまちを創る）

■**事前・事後学習**：

■**教科書**：授業時にハンドアウトを配布します。

■**参考文献**：『まちづくりデザインのプロセス』／日本建築学会編（丸善）、『現代都市計画事典』／山田学他（彰国社）、『まちづくりキーワード事典』／三船康道（学芸出版社）、『都市計画教科書』／都市計画教育研究会編（彰国社）、『まちの見方・調べ方』／西村幸夫・野澤康編（朝倉書店）

■**成績評価基準と方法**：3分の1を超えて欠席すると単位が出ません。評価は授業への参加状況（受講態度を含めます）20%、小テスト・授業内レポート40%、課題レポート40%により総合的に判断します。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
小テスト・授業内レポート	◎	◎	○	授業内容に対する理解度	40
授業態度	◎	○	○	積極的な姿勢	20
課題・作品	○	◎	◎	課題提出物の充実度	40
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：特になし

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：「人がまちを創り、まちが人を創り育てる」が信条です。人口減少時代に移行したわが国において、従来の「拡大・拡散型」から「凝縮・成熟型」へという、まちづくりの大きな方向転換が求められています。そのための新しい計画理念や手法について、学生のみなさんと一っしょに考えてみたいと思います。

# 建築設備計画

選 択

開講年次：3 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：建築設備は、居住者にとっての光・熱・空気・水などの環境を良好に調整するための電氣的・機械的なシステムで、システムを出入りするエネルギー・物質の流れを適切に計画しなければならない。本講では、空調和、電気・情報、給排水衛生の設備計画にかかわる基礎知識を習得し、それに基づいて実際の住宅や事務所建築における設備計画の事例、省エネルギー計画について理解を深める。  
なお、本科目は、建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（建築設備）である。

■**到達目標**：①建築環境システムの構成要素としての建築設備についての理解を深める。  
②建築の省エネルギー性とヒトの快適性を満足する関係を理解する。  
③建築の環境・省エネルギー計画を作成することができる。

■**担当教員**：  
齊藤 雅也

## ■授業計画・内容：

- 第 1 回 最新の建築環境・設備のデザイン事例
- 第 2 回 建築設備の基礎知識 1（エネルギー収支・物質収支・エクセルギー収支）
- 第 3 回 建築設備の基礎知識 2（パッシブソーラーシステム、ZEB/ZEH、創エネ・省エネ）
- 第 4 回 建築設備の基礎知識 3（ヒートポンプの原理）
- 第 5 回 各家庭でのエネルギー使用実態に関する演習課題【演習①】
- 第 6 回 空調和設備 1（空調和の概要、湿り空気線図、暖冷房システム）
- 第 7 回 空調和設備 2（空調負荷・熱搬送システム・換気システム）
- 第 8 回 電気設備 1（照明の基礎、昼光照明・電灯照明システム）
- 第 9 回 電気設備 2（電気・電力設備、通信情報設備システム、昇降システム）
- 第 10 回 建築設備を理解するための演習課題【演習②】
- 第 11 回 給排水設備 1（建築と水環境）
- 第 12 回 給排水設備 2（給水・給湯設備、排水設備）
- 第 13 回 給排水設備 3（雨水利用システム、衛生設備）
- 第 14 回 建築と省エネルギー（省エネルギー基準）
- 第 15 回 大学キャンパスの環境・省エネルギー計画の作成【演習③】

■**事前・事後学習**：事前に授業内で配布した資料、関連書籍等に目を通しておくこと。事後、復習によって学習内容を確認すること。

■**教科書**：図説 建築設備（学芸出版社）  
その他、必要に応じて資料を配布する。

■**参考文献**：設計のための建築環境学 日本建築学会編（彰国社）

■**成績評価基準と方法**：学期末試験（50%）、授業内演習＋課題（20%）、授業態度（15%）、出席（15%）で評価する。原則、遅刻は減点対象（遅刻 2 回は欠席 1 回相当）。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	論述問題 50% 算術問題 50%	50
授業内演習	◎	◎	◎	上記の演習内容	20
授業態度	○	○	○		15
発表					
課題	◎	◎	◎	授業内演習と一体で評価する。	(20)
出席	○	○	○	2/3以上の出席(欠格条件)	15
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン工学、環境計画論、建築デザイン論、寒冷地デザイン論、デザイン総合実習I～IV

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：学生へのメッセージ・履修上の留意点：演習①では、各自の自宅での電力使用量を予想し、その使用実態と照らし合わせながら、省エネルギー性と快適性について学ぶ。各自が契約している電力供給会社から送られてくる明細（1～3月）を用意すること。インターネット経由で電力使用量を取得することも可能である。

# 構造力学I

選 択

開講年次：3 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：建築物などにどのような力がかかっているのかを理解し、その力を計算することは、建築物や構造物を設計する上で非常に重要なことである。本講では、建築物や各種構造物が、力学的にどのような構造になっているか、構造力学の基礎理論や原理を理解させる。具体的には、荷重と反力、静定ラーメン、トラス構造に関する基礎理論を体系的に解説するほか、演習を交えることで理解を深める。

なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（構造力学）である。

■**到達目標**：①力の合成・分解を通して力とは何かを考える。  
②単純ばり、簡単なトラス構造やラーメン構造の応力が解けるようになる。  
③建築デザインにおける構造力学の役割・必要性を理解する。

■**担当教員**：

石丸 修二

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション～構造力学の概要および建築デザインとの関係
- 第 2 回 力の合成・分解
- 第 3 回 偶力とモーメント
- 第 4 回 モデル化と荷重
- 第 5 回 トラス解法（1）
- 第 6 回 トラス解法（2）
- 第 7 回 トラス解法（3）
- 第 8 回 片持ち梁の応力（1）
- 第 9 回 片持ち梁の応力（2）
- 第10回 単純梁の応力
- 第11回 特殊な静定構造物（その1）
- 第12回 特殊な静定構造物（その2）
- 第13回 構造設計の世界（1）
- 第14回 構造設計の世界（2）
- 第15回 構造デザイン

■**事前・事後学習**：講義では例題を説明しながら解いていきますが、同様な問題を演習課題として毎週出します。それらを翌週までに提出し、理論・解法を復習することが必要です。（課題は1～2時間程度で解ける量とします。）

■**教科書**：なし（資料を毎回、配布します）

■**参考文献**：『初めて学ぶ建築構造力学』、山田丈富・大貫愛子、市ヶ谷出版  
『よくわかる構造力学』、市之瀬敏勝、ナツメ社  
『マンガでわかる構造力学』、原口秀昭、彰国社

■**成績評価基準と方法**：演習課題提出と出席状況を総合的に判断します。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	○	○		授業・課題で出した問題と同程度の問題を正解すること	30
授業態度	○	○	○	全回の出席を重視	
課題・作品	◎	◎		課題提出は必須	35
出席	◎	◎	◎	最低2/3以上の出席は必須	35

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：建築構法、構造・材料実験

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：構造力学は建築デザインにおいて重要な要素であり、また、建築士取得のための必須科目です。簡単な数学と物理の知識が必要ですが、できるだけわかりやすい授業を心がけます。また、実際の構造設計を題材にした講義を行い、現実の建物の構造設計を紹介します。

# ランドスケープアーキテクチャ

選 択

開講年次：3 年次前期

科目区分：講義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：本講義では、ランドスケープアーキテクチャの基礎を習得する事を目的とし、その概念や歴史、特質、専門領域についての基本的理解を深める。また成長・変化する植栽材料で構成されるランドスケープ空間は、短期的には季節により変化する空間を演出すると同時に、長期的には時間の流れを経て完成へと近づくことを理解する。さらに、これらの特性を踏まえた空間の計画理論と設計手法について学習する。

■**到達目標**：①ランドスケープに関わる概念や基本的な用語とその意味について理解し、説明することができる。  
②植栽材料の特徴を踏まえたランドスケープ空間の短期的・長期的変化を理解し、説明することができる。  
③ランドスケープ空間の計画・設計・管理運営手法について理解し、説明することができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎椎野 亜紀夫、大島 卓

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 履修ガイダンス、ランドスケープの概念とその特徴
- 第 2 回 植栽適温帯、気候区により形成されるランドスケープ空間の地域性
- 第 3 回 ランドスケーププランニング①：植栽材料の特性
- 第 4 回 ランドスケーププランニング②：基盤計画
- 第 5 回 ランドスケーププランニング③：機能計画
- 第 6 回 ランドスケーププランニング④：景観計画
- 第 7 回 ランドスケーププランニング⑤：都市緑地計画
- 第 8 回 前半のまとめ
- 第 9 回 ランドスケープの近代史
- 第10回 庭園・公園のデザイン
- 第11回 ランドスケープと公共
- 第12回 都市のデザイン
- 第13回 ランドスケープとコンテキスト
- 第14回 地域社会と文化的景観
- 第15回 後半のまとめ

■**事前・事後学習**：事前学習として、参考文献に掲げた文献のほか関連資料について通読し、授業で取り扱う専門領域の基礎的理解を進めておくことが求められる。事後学習として、授業内で配付した資料や授業内で取り上げた内容に関する復習を行い、専門知識の定着化に努めることが求められる。

■**教科書**：特に指定しない。授業内でハンドアウトを配付する。

■**参考文献**：・ジョン・オームスピー・サイモンズ／バリー・W・スターク「ランドスケープアーキテクチャ 環境計画とランドスケープデザイン」鹿島出版会  
・遠藤与志郎「緑のデザイン図鑑」エクスマレッジ  
・佐々木葉二／三谷徹／宮城俊作／登坂誠「ランドスケープの近代 建築・庭園・都市をつなぐデザイン思考」鹿島出版会  
・武田史朗／山崎亮／長濱伸貴「テキスト ランドスケープデザインの歴史」学芸出版社

■**成績評価基準と方法**：小テストおよびレポートにより成績評価を行う。出席回数2/3以上を満たさない場合、単位取得は認められない。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎	◎	◎	授業内容から出題する小テストおよびレポートにより評価する	80
授業態度	○	○	○	授業内の積極的な発言	20
発表					
作品					
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：都市計画論、環境計画論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業で学習した内容が身近な生活空間の中でどのように取り入れられているのか、自主的に観察し学習を深めることが望ましい。

# 空間演出デザイン論

選 択

開講年次：3 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：空間演出に必要な思考方法、制作に必要な様々な技術手法を、実例を踏まえながら修得する。「空間インスタレーション」「サウンドアンドビジュアル」「ライティングデザイン」「ユニバーサルデザイン」など、様々なデザイン思考やデジタル化されたコンテンツと空間との接続方法を考え、実空間の演出方法について思考していく。

■**到達目標**：①空間演出に必要な基礎知識の習得  
②空間演出の多様性を理解し、その方法を身につける

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎石田 勝也 山田 良 小宮 加裕子

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 講義「Noiseを知る」 石田+小宮+山田
- 第 2 回 即日課題、本課題発表
- 第 3 回 空間演出デザイン課題I「場の音を作る（仮）」 フィールドリサーチ、作品企画
- 第 4 回 空間演出デザイン課題I「場の音を作る（仮）」 作品発表
- 第 5 回 空間演出デザイン課題I「場の音を作る（仮）」 講評
- 第 6 回 講義「“仕掛ける”を知る」 小宮+石田+山田
- 第 7 回 即日課題、本課題発表
- 第 8 回 空間演出デザイン課題II「仕掛ける」 企画
- 第 9 回 空間演出デザイン課題II「仕掛ける」 発表
- 第10回 空間演出デザイン課題II「仕掛ける」 講評
- 第11回 講義「空間演出のカテゴリー」 石田+小宮+山田
- 第12回 即日課題、本課題発表
- 第13回 空間演出デザイン課題III「風景を捉える」 作品制作、発表
- 第14回 空間演出デザイン課題III「最小限の空間演出」 作品制作、発表
- 第15回 空間演出デザイン課題III「空間を演出するとは」 作品制作、発表

■**事前・事後学習**：事前に参考文献、サイトを参照し授業に取り組むこと。特に事後に関しては習得内容を再度確認し、取りこぼしのない学修をすること。

■**教科書**：

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
レポート	◎	◎		10
授業態度	○	○		10
作品発表	◎	◎		50
出席	○	○		30

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：空間映像表現

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：一般的な空間という概念にとらわれない、広い視野に立って課題を取り組む姿勢を持って下さい。3名の教員が持つ空間へのアプローチを習得することで、より柔軟な思考を生み出す事が可能となります。

# 地域ブランド構築

選 択

開講年次：3 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：信頼と約束の記号であるブランド構築は、企業や地域社会のアイデンティティを担う「資産」として、最も活用されている経営戦略である。本授業では、特に地域におけるブランド構築の実例を分析し、デザインやアートを活用したブランド構築方法、展開手法などを学ぶ。

■**到達目標**：①ブランド構築の基本的概念を習得する。  
②地域の課題をリサーチしてブランド構築の実践を身につける。

■**担当教員**：

未定

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 ブランドの理解 (1) ブランドの価値と強化
- 第 3 回 ブランドの理解 (2) ブランドの価値と強化
- 第 4 回 企業とブランド (1) 企業・団体の商品・サービス・活動のブランド
- 第 5 回 企業とブランド (2) 企業・団体の商品・サービス・活動のブランド
- 第 6 回 企業とブランド (3) 企業・団体の商品・サービス・活動のブランド
- 第 7 回 地域とブランド (1) 札幌市内の地域ブランド事例
- 第 8 回 地域とブランド (2) 札幌市内の地域ブランド事例
- 第 9 回 地域とブランド (3) 札幌市内の地域ブランド事例
- 第10回 国内地域ブランドの調査 (演習1)
- 第11回 国内地域ブランドの調査 (演習2)
- 第12回 国内地域ブランドの調査 (演習3)
- 第13回 調査結果の発表 (1)
- 第14回 調査結果の発表 (2)
- 第15回 調査結果の発表 (3)

■**事前・事後学習**：事前学習として、授業計画にそって各授業で取り上げる分野におけるテーマを題材に、ブランディングという視点から意識して見直してみるよう、授業時に指示する。また、事後学習として、発表準備・素材制作・課題作成など、授業時間外の作業が必要となる。

■**教科書**：特になし。

■**参考文献**：適宜授業時に配布する。

■**成績評価基準と方法**：定期試験レポート（学期末）50%、授業内課題30%、授業態度・発表20%

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験				50
小テスト・授業内レポート	○	○		30
授業態度			積極的な姿勢	
発表	◎	◎	観察力と再現性	20
作品				
出席			2/3以上の出席	欠格条件
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：コミュニティデザイン論、観光デザイン論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：身近なモノ、コトから、札幌に関連する地域ブランド構築など、実際のブランディング作業を経験することで、ブランド・デザインの発想と計画に求められるスキルと社会との連携を学びます。



# 空間映像表現

選 択

開講年次：3 年次前期

科目区分：演 習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：近年、映像表現はコンピュータ技術やその送出装置の進歩によって、鑑賞という域を超え、アート、エンターテインメント、コミュニケーションの分野において、様々な体験の場を創りだすようになった。本講義では、このようなあらゆる空間にたいする映像や音を用いた表現方法の基礎的技術を習得し、映像・音響体験する場としての空間の構築を目指す。

■**到達目標**：①映像を用いた空間演出の基本的概念を習得する  
②様々な音響・映像送出機器の技術的特徴を知る  
③空間と映像表現の関係を理解し、素材にあった空間演出を実践する

■**担当教員**：

石田 勝也

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション（光による空間演出とは?）
- 第 2 回 光を知る 1（事例紹介）
- 第 3 回 光を知る 2（アプリケーション、機材の構造）
- 第 4 回 光を知る 3（インタラクションを考える）
- 第 5 回 影絵の実践
- 第 6 回 ミニプロジェクションマッピング（簡易モデル製作1）
- 第 7 回 ミニプロジェクションマッピング（簡易モデル製作2）
- 第 8 回 ミニプロジェクションマッピング（制作モデルへの照射）
- 第 9 回 プロジェクションマッピング（空間の選定）
- 第10回 プロジェクションマッピング（映像の構成）
- 第11回 プロジェクションマッピング（映像制作1）
- 第12回 プロジェクションマッピング（映像制作2）
- 第13回 作品発表1
- 第14回 作品発表2
- 第15回 総評

■**事前・事後学習**：事前に参考文献、サイトを参照し授業に取り組むこと。特に事後に関しては機材やアプリケーションの使用方法を再度確認し、取りこぼしのない学修をすること。

■**教科書**：なし

■**参考文献・サイト**：Media Facades: History, Technology and Content M. Hank Haeusler（著）、New Media Facades: A Global Survey M. Hank Hausler, Martin Tomitsch, Gernot Tscherteu（著）、AntiVJ <http://www.antivj.com/>、United Visual Artist <http://uva.co.uk/>、ART+COM <https://artcom.de/>、rhizomatiks <https://rhizomatiks.com/>

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
レポート	◎				10
授業態度	○	○	○		10
作品発表	◎	◎	◎		50
出席	○	○	○	2/3以上の出席必須	30

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：空間演出デザイン論、プログラミングI、時間表現理論／演習

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：本講義を受講希望の皆さんにはぜひ事前に実例の体験ををして頂くことを希望します。インタラクティブでエンターテインメント性のあるものでなくても結構です。デジタルサイネージやプラネタリウム、4DXによる映画体験など映像による空間体験とは何かを考えて受講するようにして下さい。

# ユーザーエクスペリエンスデザインI

選 択

開講年次：3 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：意思決定に影響する、経験の形成プロセスを理解した上で、ユーザーエクスペリエンスデザイン（User Experience Design, UX）の原則について習得することで、ユーザーの潜在的ニーズを引き出すデザイン提案能力を修得する。併せて、いま世界から注目されているUXの実例を取り上げ、経験価値を高める着眼点および具体例について幅広く理解することで、合理的検証能力の修得を目的とする。

■**到達目標**：①ユーザーの潜在的ニーズや価値の変化を把握する方法論を理解する。  
②①の方法論に基づく、調査計画およびデザイン提案能力を修得する。  
③自ら提案した、デザインの価値について検証する能力を修得する。

■**担当教員**：

金 秀 敬

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 ユーザー・エクスペリエンス・デザイン
- 第 3 回 潜在的ニーズ
- 第 4 回 マルチモーダル知覚と経験
- 第 5 回 経験と価値
- 第 6 回 価値と具現化
- 第 7 回 UXの原則
- 第 8 回 UXの提案
- 第 9 回 UXの調査
- 第10回 UXの検証
- 第11回 UXの分析
- 第12回 UXを考える「アイディアマッピング」
- 第13回 UXを再考する「目的と手段」
- 第14回 UXを可視化する「インフォグラフィックス (infographics)」
- 第15回 まとめ

■**事前・事後学習**：授業では、講義内容の理解度を確認するために、双方向コミュニケーションを重視しています。事前準備および事後復習を通して積極的な姿勢で授業に臨んでください。

■**教科書**：教科書は指定せず、講義ごとに関連資料を提示もしくは配布する。

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎	◎	◎	講義内容の理解度	40
授業態度	○	○	○	質問に対する回答内容	10
発表	○	○	◎	提案の新規性、内容の論理性	50
作品					
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン研究法（人間情報デザイン）、感性情報学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：講義内で行うワークシートは、最終的にポートフォリオでまとめます。

# プログラミングⅢ

選 択

開講年次：3年次前期

科目区分：演 習

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：近年、コンピュータ（マイコン）や、センサ、アクチュエータなど自動化のための要素技術の進歩により、人間とモノの間に介在するインタフェースは飛躍的な発展を遂げている。これらの技術によって構成される製品は、従来のボタン入力にとどまらず、表情や音声、動作など、人間から発せられる様々な情報を入力として取り扱うことができる。このような仕組みを総称してフィジカルコンピューティングという。ここでは、フィジカルコンピューティングに必要なハードウェアの基礎とその機能および役割を概説する。また、これらのハードウェアに機能を持たせるためのプログラミング実習を行い、自動制御の仕組みを理解するとともに、実動モデルの制作を通してフィジカルコンピューティングを活用したデザインのあり方を模索する。

■**到達目標**：①【技術の理解】自動化のための要素技術に関する知識とその役割について理解する。  
②【表現力の拡張】プログラミング技術の習得によりハードウェアの制御方法を獲得し、様々な機能を実現する力を養う。  
③【実践力】授業で得た技術や知識を活用し、実際に駆動するモデルを実現し、デモンストレーションを含むプレゼンテーションを行う。

■**担当教員**：

三谷 篤史

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション、自動化のための要素技術の基礎
- 第2回 プログラミング実習1・時間の制御
- 第3回 プログラミング実習2・スイッチの使い方
- 第4回 制御とは、制御の仕組み
- 第5回 プログラミング実習3・センサの使い方
- 第6回 プログラミング実習4・アクチュエータの使い方
- 第7回 課題説明1・ブレインストーミング、アイデア展開
- 第8回 課題制作2・アイデア展開の続き、制作テーマ決定
- 第9回 課題制作3・電子回路制作
- 第10回 課題制作4・プログラミング
- 第11回 課題制作5・外観制作
- 第12回 課題制作6・組み立て、基板の組み込み
- 第13回 課題制作7・動作確認、デバッグ
- 第14回 課題制作8・制作物の最終調整およびプレゼン準備
- 第15回 最終プレゼンテーション

■**事前・事後学習**：プログラミング実習においては、各授業での到達目標を設定する。事前に資料を配付するので、各授業で実施する内容を事前に確認しておくこと。授業時間内に到達目標を達成しない場合には、授業時間外にこなしておくこと。課題制作においては、授業時間のみでは作品を完成させることができないことが想定されるので、残りの作業は授業時間外に行うことになる。

■**教科書**：資料を適宜配布する

■**参考文献**：舟橋宏明監修『最新メカトロニクス入門』（実教出版）

秦明宏 他『PICマイコンの基礎とセンサ活用入門』（CQ出版社）

河西真史 他『PICマイコンによるメカトロニクス入門』（CQ出版社）

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	○	◎	○	課題制作のポートフォリオ(第三者にわかりやすい内容になっているか)	20%
授業態度				積極的に取り組んでいるか	10%
発表			◎	プレゼンテーション(第三者にわかりやすい内容になっているか)	20%
作品	○	○	◎	実動モデルの制作	50%
出席				1/3以上の欠席で欠格	
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：製品系CAD実習、プロダクトデザインⅡ、デザイン総合実習Ⅲ、Ⅳ、プログラミングⅠ、Ⅱ

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：課題制作においては、事業時間内外に関わらず、担当教員から必要なサポートを得るよう努めること。

# ヒューマンインタラクションI

選 択

開講年次：3 年次前期

科目区分：演 習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：インタラクションとは人と人、人と機械、人と環境などの人が接するあらゆる対象との間に存在する相互作用性を指し、近年では特に人と機械のインタラクションを指すようになりました。この授業では人と機械のみならず、人と人、人と環境のインタラクションにも目を向け、互いに影響を及ぼしあうシステムの構築と基礎的な実装、インタラクション性の基本的な評価方法の習得を目指します。

■**到達目標**：①インタラクションデザインの基礎的な知識を習得する。  
②インタラクションデザインの実践を行うことができる。  
③制作したデザインのインタラクション性を評価することができる。

■**担当教員**：

矢久保 空遥

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 インタラクションデザインとは、課題内容説明
- 第 2 回 調査・実験1
- 第 3 回 調査・実験2
- 第 4 回 コンセプト設定・様相設定
- 第 5 回 シナリオ設定・システムフローの作成
- 第 6 回 作品制作1
- 第 7 回 作品制作2
- 第 8 回 作品制作3
- 第 9 回 作品制作4
- 第10回 作品制作5
- 第11回 評価手法に関する説明
- 第12回 作品の評価
- 第13回 評価結果の分析
- 第14回 最終発表資料の作成
- 第15回 最終発表会

■**事前・事後学習**：

事前学習：調査、資料、素材の準備等を行うこと。  
事後学習：制作実習の補完、評価用分析、報告書作成などを行うこと。

■**教科書**：適宜スライド資料を投影します。紙媒体での資料が必要な学生は研究室等に来て、印刷物を受け取るようにしてください。

■**参考文献**：授業内で適宜提示

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎		◎	授業内レポート 最終発表資料	20
授業態度	○	○	○		10
発表	○	◎	◎		30
作品	○	◎	◎	作品・最終発表資料	30
出席					10
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：ヒューマンインタラクションII、プログラミング系科目全般、プロダクトデザインI・II

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：既存製品の機能・基盤・仕組み等を別な用途へと転換するという手法によりインタラクティブな作品を制作します。このため、授業外での自己学習や制作が非常に重要となります。履修前・履修中に問わず、本授業に関して質問がある場合は適宜対応します。

# ビジュアライゼーションII

選 択

開講年次：3 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：プログラミングをデータの関係性を結ぶツール、3Dプリンタをデータに質量を与えるツールと捉え、論理的思考による可視化（ビジュアライズ）する多様なスキルの習得を目指すと共に新たなビジュアライズ表現の可能性を探る。具体的には、世界像の可視化としてのゲームプログラミング、流れの可視化としてのパーティクルプログラミング、声や運動の可視化としての3Dプリンタを用いた立体造形を行う。

■**到達目標**：プログラミングや3Dプリンタを用いて意図したビジュアライズ表現ができる。

■**担当教員**：

藤木 淳

■**授業計画・内容**：

第 1 回 ゲームプログラミング基礎

第 2 回 ゲームプログラミング基礎

第 3 回 ゲームプログラミング応用

第 4 回 ゲームプログラミング課題制作

第 5 回 ゲームプログラミング課題発表

第 6 回 パーティクルプログラミング基礎

第 7 回 パーティクルプログラミング基礎

第 8 回 パーティクルプログラミング応用

第 9 回 パーティクルプログラミング課題制作

第10回 パーティクルプログラミング課題発表

第11回 3Dプリンタ基礎

第12回 3Dプリンタ応用

第13回 3Dプリンタ課題制作

第14回 3Dプリンタ課題制作

第15回 3Dプリンタ課題発表

■**事前・事後学習**：本授業ではプログラミングソフトProcessingを使用するため、Processingの復習をしておくことが好ましい。

■**教科書**：使用しません。適宜資料を配布します

■**参考文献**：プログラミング関係、3Dプリンタ関係、アルゴリズム関係

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標	評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①		
定期試験			
小テスト・授業内レポート			
授業態度	○	授業に対する積極的な参加姿勢	20
発表	◎	プレゼンテーション能力	30
作品	◎	①期待する結果へと導ける総合的スキル② 独創性、洞察力	50
出席	○	2/3以上の出席が必須	欠格条件
その他			

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：プログラミングI&II

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：本授業では、可視化の手段としてプログラミングを用いるが、諸々サポートするのでプログラミングの苦手意識に関係なく、ビジュアルライズに興味ある学生は受講してほしい。

# ユニバーサルデザイン都市札幌

自由

開講年次：3年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：パラリンピック開催が地域社会に与える影響、特に生活環境・観光・社会インフラ・住民の相互交流等をユニバーサルデザイン視点から整備・促進するための方法論について学ぶ。

■**到達目標**：①北海道および札幌市におけるユニバーサルデザインの意義と方法論の理解  
②パラリンピックがユニバーサルデザイン都市実現に果たす役割の理解

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎酒井 正幸、高井 真希子、張 浦華、小宮 加容子、中原 宏

■**授業計画・内容**：

第1回 概要とオリエンテーション

第2回 パラリンピックの概要と意義

第3回 パラリンピックと障害者スポーツ

第4回 ユニバーサルデザイン社会

第5回 オリンピック・パラリンピックとまちづくり（その1：札幌冬季オリンピック1972と札幌の都市計画）

第6回 オリンピック・パラリンピックとまちづくり（その2：札幌冬季オリンピック1972と真駒内のまち）

第7回 ユニバーサルデザイン都市における「おもてなしトイレ」整備

第8回 北海道のユニバーサルツーリズム

第9回 障害者へのサポート体験（車椅子ユーザー）

第10回 外国人へのサポート

第11回 盲導犬を知る

第12回 ユニバーサルマナー

第13回 「ユニバーサルデザイン都市札幌のコンセプト提案」をテーマとするワークショップ（1）

第14回 同上ワークショップ（2）

第15回 ふりかえりと総括

■**事前・事後学習**：

（事前）身の回りの製品・サービス・建物・設備・公共交通等を自分以外の属性を持つユーザーの視点で観察してみよう。

（事後）演習を通じて学んだことを日常生活で実践してみよう。

■**教科書**：

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：授業態度50%、課題レポート50%

■**関連科目**：ユニバーサルデザイン論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：地域のユニバーサルデザイン化は人間空間デザインおよび人間情報デザインの両コースに共通する課題であり、コースを問わず受講することが望ましい。

# デザイン総合実習Ⅲ(建築・環境) ※人間空間デザインコース

必修 開講年次：3年次前期 科目区分：実習 単 位：2単位 講義時間：60時間

■**科目のねらい**：デザイン基本科目、展開科目及び発展科目であるデザイン総合実習Ⅰ、Ⅱ(建築・環境)と人間空間コース関連展開科目、発展科目を踏まえて、インテリアデザイン、建築設計、ランドスケープデザイン、環境設計、都市景観・まちづくりなどの様々な観点からの空間デザインの調査・分析と計画・設計を学ぶ。1. 市街地における公共空間の計画、2. 建築デザインとランドスケープデザインのインテグレーションの課題をとおし、実践的かつグローバルなデザイン能力を身につけるとともに、卒業研究に向けた準備を行う。また、後半の建築デザインとランドスケープデザインのインテグレーションでは、人間情報デザインコースと連携して総合的なデザイン提案を行なう。  
なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目(建築設計製図)である。

■**到達目標**：①企画・調査・分析力の習得  
②構想力・表現力の習得  
③コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の習得

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎山田 良・斉藤 雅也・羽深 久夫・矢部 和夫・椎野 亜紀夫・山田 信博・大島 卓・片山 めぐみ・金子 晋也・細谷 多聞・柿山 浩一郎

■**授業計画・内容**：

1. 市街地における公共空間の計画(美術館/歴史的建造物)
  - 第1回 市街地になつ美術館施設の計画と設計(ガイダンス・エスキス)
  - 第2回 市街地になつ美術館施設の計画と設計(企画提案・計画・設計)
  - 第3回 市街地になつ美術館施設の計画と設計(プレゼンテーション)
  - 第4回 講評会
  - 第5回 歴史的建造物のリノベーションの提案(調査・分析、設計方針の検討)
  - 第6回 歴史的建造物のリノベーションの提案(企画提案、計画・設計)
  - 第7回 歴史的建造物のリノベーションの提案(計画・設計・プレゼンテーション)
  - 第8回 講評会
2. 建築デザインとランドスケープデザインのインテグレーション(複合施設/地区計画)
  - 第9回 建築・ランドスケープの総合デザイン提案(ガイダンス・エスキス)
  - 第10回 建築・ランドスケープの総合デザイン提案(企画提案、計画・設計)
  - 第11回 建築・ランドスケープの総合デザイン提案(計画・設計)
  - 第12回 建築・ランドスケープの総合デザイン提案(計画・設計)
  - 第13回 建築・ランドスケープの総合デザイン提案(プレゼンテーション)
  - 第14回 建築・ランドスケープの総合デザイン提案(プレゼンテーション)
  - 第15回 講評会

■**事前・事後学習**：

事前学習：課題計画に必要な事前調査(敷地、文献、事例など)を行っておくこと。  
事後学習：講評会の指摘を十分理解し、課題作品の見直し・再検証を行うこと。

■**教科書**：適宜、資料を配布する。

■**参考文献**：授業の中で紹介する。

■**成績評価基準と方法**：授業への参加(出席を含む20%)、取組み状況(30%)、プレゼンテーション(20%)、提出作品(30%)を総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度	○	○	○	積極的な姿勢	10
発表	○	○	◎	プレゼン能力と発表内容	20
課題・作品	○	◎	○	作品の充実度	30
出席	○	○	○		10
その他	◎	◎	○	制作プロセス・計画性	30

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習Ⅰ・Ⅱ(建築・環境)、人間空間デザインコースの関連展開科目・発展科目

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：4年次の「卒業研究」への準備となる実習のため、実習をとおし、希望する指導教員の研究領域について十分に学ぶことが重要です。

# デザイン総合実習Ⅲ(地域コミュニケーション・総合系) ※人間空間デザインコース

必修 開講年次：3年次前期 科目区分：実習 単 位：2単位 講義時間：60時間

■**科目のねらい**：デザイン総合実習Ⅰ、Ⅱをはじめ、専門教育科目の履修を踏まえ、他コース学生との共同による課題制作を行い、知識・技術を発展させる。専門性の異なる者とのグループ作業の中で、みずからの専門性を活かす方法を体験的に学ぶ。

■**到達目標**：①異分野連携による課題解決のプロセスを習得する。  
②課題発見からコンセプト立案、デザイン案の具現化、高質化、および検証にいたるデザインの全プロセスを総合的に習得する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎上遠野 敏（1担当）若林 尚樹、大島 卓（2担当）、小宮 加容子

■**授業計画・内容**：

1. 「地域資源・市民力を活用した国際芸術祭の企画」
  - 第1回 オリエンテーション、課題説明と参考事例紹介
  - 第2回 関連資料の調査
  - 第3回 現地調査
  - 第4回 企画立案
  - 第5回 中間発表とアドバイス
  - 第6回 プレスリリースの作成①
  - 第7回 プレスリリースの作成②
  - 第8回 プレゼンテーション
2. 「まちで子どもを育てる」（コース間テーマ共有課題）
  - 第9回 グループディスカッション
  - 第10回 ヒアリング、リサーチ
  - 第11回 課題制作（企画提案、計画、設計）
  - 第12回 課題制作（計画、設計）
  - 第13回 課題制作（計画、設計）
  - 第14回 プレゼンテーション1
  - 第15回 プレゼンテーション2

■**事前・事後学習**：

事前学習：課題計画に必要な事前調査（敷地、文献、事例など）を行っておくこと。

事後学習：講評会の指摘を十分理解し、課題作品の見直し・再検証を行うこと。

■**教科書**：適宜、資料を配布する。

■**参考文献**：授業の中で紹介する。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験				
小テスト・授業内レポート				
授業態度	○	○	積極的な姿勢	10
発表	○	◎	プレゼン能力と発表内容	20
課題・作品	○	◎	作品の充実度	30
出席	○	○		10
その他	◎	◎	制作プロセス・計画性	30

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習Ⅰ・Ⅱ、人間空間デザインコースの関連展開科目・発展科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：4年次の「卒業研究」への準備となる実習のため、実習をとおり、希望する指導教員の研究領域について十分に学ぶことが重要です。



# デザイン総合実習Ⅲ(ものづくり・総合系) ※人間情報デザインコース

必修 開講年次：3年次前期 科目区分：実習 単 位：2単位 講義時間：60時間

■**科目のねらい**：デザイン総合実習Ⅰ、Ⅱをはじめ、専門教育科目の履修を踏まえ、他コース専門分野の知識・技術を広く学ぶ。また、専門性の異なる教員からの指導を受けるなどし、みずからの専門性をあらためて見直す。

■**到達目標**：①課題発見からコンセプト立案、デザイン案の具現化、高質化、および検証にいたるデザインの全プロセスを総合的に習得する。  
②自らの専門性を定義し、知識・技術・方法論等の観点から自分の売りを明確化する。  
③異分野連携の観点に配慮した課題解決のプロセスを習得する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

細谷 多聞・◎柿山 浩一郎・斉藤 雅也・羽深 久夫・矢部 和夫・椎野 亜紀夫・山田 信博・山田 良・大島 卓・片山 めぐみ・福田 大年・金子 晋也

■**授業計画・内容**：

1. 自らの専門性を高める課題（テーマ・詳細は、オリエンテーションで配布する課題書から選択する）

- 第1回 専門分野での課題の指定（ガイダンス・課題発見）
- 第2回 専門分野での課題検討1
- 第3回 専門分野での課題検討2
- 第4回 専門分野での課題検討3
- 第5回 専門分野での課題検討4
- 第6回 専門分野での課題検討5
- 第7回 専門分野での課題検討6
- 第8回 専門分野での総合デザイン発表（プレゼンテーション）

2. 自らの専門性をもとに、他の専門性を持つ学友の専門性を知る課題

- 第9回 指定された環境を魅力的にする総合デザイン提案（ガイダンス・エスキス）
- 第10回 指定された環境を魅力的にする総合デザイン提案（企画提案、計画・設計）
- 第11回 指定された環境を魅力的にする総合デザイン提案（計画・設計）
- 第12回 指定された環境を魅力的にする総合デザイン提案（計画・設計）
- 第13回 指定された環境を魅力的にする総合デザイン提案（プレゼンテーション）
- 第14回 指定された環境を魅力的にする総合デザイン提案（プレゼンテーション）
- 第15回 講評会

■**事前・事後学習**：

- 事前学習：書籍や配布された資料等の読み込み、情報の収集と整理等を行うこと。  
担当教員毎の課題に対し、進捗報告用のレジュメ等をまとめること。
- 事後学習：指摘・指導内容を十分吟味し、見直し・再検証を行うこと。  
必要に応じて、報告書、モデル作成、プロトタイピング等を行うこと。

■**教科書**：適宜、資料を配布する。

■**参考文献**：授業の中で紹介する。

■**成績評価基準と方法**：異なる専門性をもつ学友の学び内容把握、または、異分野教員からの指摘に対する対応の姿勢（授業態度40%）、制作した作品の完成度（作品の充実度30%）、課題提出状況（デザインプロセスの修得30%）、を総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度	○	○	◎	積極的な姿勢	40
課題作品	○	◎	○	作品の充実度	30
課題提出	◎	○	○	制作プロセス・計画性	30
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、その他関連展開科目・発展科目、卒業研究等

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：後半は、異なる専門性を持つ学友の考え方に、教員の指導を受けながら、テーマ・ゴールに辿り着くプロセスを体験するコース横断的観点による実習です。自らの専門性を意識し、グループ内での貢献ができるよう、自らの役割を果たす姿勢を大切にしてください。

# デザイン総合実習Ⅲ(情報・総合系) ※人間情報デザインコース

必修 開講年次：3年次前期 科目区分：実習 単 位：2単位 講義時間：60時間

■**科目のねらい**：デザイン総合実習Ⅰ、Ⅱをはじめ、専門教育科目の履修を踏まえ、他コース学生との共同による課題制作を行い、知識・技術を発展させる。専門性の異なる者とのグループ作業の中で、みずからの専門性を活かす方法を体験的に学ぶ。

■**到達目標**：①課題発見からコンセプト立案、デザイン案の具現化、高質化、および検証にいたるデザインの全プロセスを総合的に習得する。  
②自らの専門性を定義し、知識・技術・方法論等の観点から自分の売りを明確化する。  
③異分野連携の観点到配慮した課題解決のプロセスを習得する。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎藤木 淳、若林 尚樹、松永 康佑、大島 卓、小宮 加容子

■**授業計画・内容**：

## 1. 「生活エンタテインメント」

- 第1回 オリエンテーション、課題制作（企画提案）
- 第2回 プレゼンテーション（企画提案）、課題制作（計画・設計）
- 第3回 プレゼンテーション（計画・設計）、スキルアップ講座
- 第4回 課題制作（設計・実装）、スキルアップ講座
- 第5回 課題制作（設計・実装）、スキルアップ講座
- 第6回 課題制作（設計・実装）、スキルアップ講座
- 第7回 課題制作（ビデオ制作）
- 第8回 プレゼンテーション（最終）

## 2. 「まちで子どもを育てる」（コース間テーマ共有課題）

- 第9回 グループディスカッション
- 第10回 ヒアリング、リサーチ
- 第11回 課題制作（企画提案、計画、設計）
- 第12回 課題制作（計画、設計）
- 第13回 課題制作（計画、設計）
- 第14回 プレゼンテーション1
- 第15回 プレゼンテーション2

■**事前・事後学習**：

- 事前学習：書籍や配布された資料等の読み込み、情報の収集と整理等を行うこと。  
担当教員毎の課題に対し、進捗報告用のレジュメ等をまとめること。
- 事後学習：指摘・指導内容を十分吟味し、見直し・再検証を行うこと。  
必要に応じて、報告書、モデル作成、プロトタイピング等を行うこと。

■**教科書**：適宜、資料を配布する。

■**参考文献**：授業の中で紹介する。

■**成績評価基準と方法**：異なる専門性をもつ学友との共同、または、異分野教員からの指摘に対する対応の姿勢（授業態度40%）、制作した作品の完成度（作品の充実度30%）、課題提出状況（デザインプロセスの修得30%）、を総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度	○	○	◎	積極的な姿勢	40
課題作品	○	◎	○	作品の充実度	30
課題提出	◎	○	○	制作プロセス・計画性	30
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、その他関連展開科目・発展科目、卒業研究等

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：後半は、異なる専門性の学友や、教員の指導を受けながら、テーマ・ゴールに辿り着くプロセスを体験するコース横断的観点による実習です。自らの専門性を意識し、グループ内での貢献ができるよう、自らの役割を果たす姿勢を大切にしてください。

# インターンシップ

選 択

開講年次：3 年次集中

科目区分：実 習

単 位：2 単位

講義時間：60 時間

■**科目のねらい**：企業等において一定期間の就業体験をすることによって、各職場の実情を理解するとともに、「仕事」とは何かを自身で考える。事前学習において、社会人としての自覚やマナーを身に付けるとともに、研修先となる企業等を調査・研究し、その上で、企業等において大学で学んだ知識・技術を実践し、研修終了後にはレポートとしてまとめ、発表する。

■**到達目標**：①インターンシップ制度に関する知識の習得  
②社会人マナーの習得  
③社会観および職業観の習得

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎三谷 篤史・片山 めぐみ・金子 晋也・矢久保 空遙

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション・インターンシップの心構え（4月11日）  
第 2 回 インターンシップで何を学ぶか（5月9日）  
第 3 回 社会人マナー講座（6月6日）  
第 4 回 マッチングについて（6月27日）  
第 5 回 インターンシップ実施に向けて（7月18日）  
第 6 回～29回 研修先における実習（8月中旬～9月中旬頃、1～2週間程度）  
報告書作成および提出（研修終了後1週間以内）  
第30回 最終報告会（11月上旬頃）

■**事前・事後学習**：本授業では研修の事前および事後それぞれに提出課題を設ける。研修前には、研修希望先の企業や業界について十分に調べる。研修に際しては、第1回目～3回目の授業内容を改めて復習し、研修に臨むこと。研修終了後は、研修の成果をまとめ、自分自身の就職活動に生かしていくこと。

■**教科書**：授業時にプリントを配布します

■**参考文献**：授業時に適宜紹介します

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度	◎	◎	○	積極的な姿勢	20
発表					
作品	○	○	◎	提出物の質および充実度	40
出席	○	○	○		10
その他	○	◎	◎	研修先での評価	30

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：現場における就業体験を通して実社会の見聞を広め、職業に対する意識を啓発すると共に、自己能力を涵養して将来の進路決定に役立てることが目的です。自己を知り、社会を知り、それらを対比させ、自分を客観的に見つめ直す好機となりますので、多くの学生の参加を期待します。

# デザイン展開プロセス

選 択

開講年次：3 年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：これまで学んだデザインプロセスを元に、「もの」や「こと」を、いかにビジネスに展開していくかを学ぶ。デザインを実現していくためのプロセス、デザインマネジメント、プロジェクトマネジメントや顧客提供価値等に関する座学と、サービスデザインを意識した小テーマの演習（ワークショップ）や体験ゲーム等により、体得する。

■**到達目標**：①デザイン展開プロセス全体像の理解  
②デザインをビジネスに展開していく能力の習得  
③グループワークを通じたデザインマネジメントの体得

■**担当教員**：

安齋 利典

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション、デザイン展開プロセスの概要について
- 第 2 回 デザインマネジメントとは
- 第 3 回 プロジェクトマネジメントとマネジメントシステム
- 第 4 回 HCDプロセスと演習テーマ設定
- 第 5 回 ユーザーを把握する
- 第 6 回 要求事項を見つける
- 第 7 回 解決策のためのプロジェクト計画
- 第 8 回 プロジェクトの具体化
- 第 9 回 提案を実現するためのモデル化
- 第10回 ビジネスモデルと解決策の収斂
- 第11回 要求事項に対する評価
- 第12回 体験学習1
- 第13回 体験学習2
- 第14回 デザインの品質とまとめ
- 第15回 プレゼンテーションと評価

■**事前・事後学習**：授業内容理解のための小レポートと、対象テーマに関する提案や、パネル／プレゼンテーション等の課題を課す。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：「プロダクトデザイン—商品開発に関わる全ての人へ—」／日本インダストリアルデザイナー協会編（株式会社ワークスコーポレーション）

「デザインマネジメント入門」／長沢 伸也、岩谷 昌樹、佐藤 典司、岩倉 信弥、中西 元男（京都新聞出版センター）

「デザインマネジメント」／坂下 清、鶴田 剛司、竹末 俊昭、佐藤 典司（有限会社白樺工芸）

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎	○		毎回の授業のレポート	30
授業態度	◎	○			20
発表		◎			20
作品		○	◎	課題の提案内容	30
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：プロダクトデザインI、デザイン総合実習I～IV

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：これまで学んできたデザインの知識と方法を統合すべく、演習を通してデザイン展開プロセスを体得し、卒業研究や就職活動に役立つように授業を活用していただきたい。

# 構造力学Ⅱ

選 択

開講年次：3 年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：「構造力学Ⅰ」で履修した構造物の応力およびその求め方をベースに、断面の性質・構造物の変形・不静定構造の解法（たわみ角法、固定モーメント法）を理解する。また、実際の構造設計のプロセスを理解する。  
なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（構造力学）である。

■**到達目標**：①部材断面の性状・不静定構造の解法を理解し、②実際の設計プロセスと構造力学の関わりについて理解する。

■**担当教員**：

石丸 修二

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション～構造力学と構造設計
- 第 2 回 部材断面の性質
- 第 3 回 応力度と歪度
- 第 4 回 許容応力度と座屈
- 第 5 回 静定梁の変形
- 第 6 回 仕事と変形
- 第 7 回 不静定構造の解析（たわみ角法 その1）
- 第 8 回 不静定構造の解析（たわみ角法 その2）
- 第 9 回 不静定構造の解析（固定法 その1）
- 第10回 不静定構造の解析（固定法 その2）
- 第11回 骨組みの弾塑性性状と保有水平耐力
- 第12回 地震と振動応答解析
- 第13回 構造デザイン（その1）
- 第14回 構造デザイン（その2）
- 第15回 構造デザイン（フィールドワーク）

■**事前・事後学習**：講義では例題を説明しながら解いていきますが、同様な問題を演習課題として毎週出します。それらを翌週までに提出し、理論・解法を復習することが必要です。（課題は1～2時間程度で解ける量とします。）

■**教科書**：『建築構造の力学Ⅰ』／寺本隆幸（森北出版株式会社）2,800円 ISBN4-627-50541-8 C3352  
『建築構造の力学Ⅱ』／寺本隆幸（森北出版株式会社）2,800円 ISBN978-4-627-50551-3 C3352  
（必須ではありませんが、購入をお勧めします）

■**参考文献**：『最新 建築構造力学Ⅰ』／小幡 守（森北出版）  
『建築構造』／青木博文他（実教出版）

■**成績評価基準と方法**：出席および演習課題提出の提出を重点的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎			授業・課題で出した問題と同程度の問題を正解すること	20
授業態度	○	○	○		
課題・作品	◎	◎		課題提出は必須	40
出席	◎	◎	◎	最低2/3以上の出席は必須	40

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：構造力学Ⅰ（3年次前期）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：「構造力学Ⅰ」と同様に簡単な数学と物理の知識が必要ですが、できるだけわかりやすい授業を心がけます。また、構造デザインについての授業を設ける予定です。

# 建築構法

選 択

開講年次：3 年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：住宅を中心とする建築は、環境と共生しながら人間を安全に守る装置であるために、意匠、計画のほかに材料、構造、施工を踏まえた建築構法からデザインを行い、空間を成立させなければならない。木構造における、木材の性質、継手・仕口、床組、軸組、小屋組と各部詳細の基本を概説しながら、基本寸法や断熱材を含めた構成を理解させる。木構造の理解の上に、鉄筋コンクリート構造、鋼構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造、組積造についても、床組、軸組、小屋組と各部詳細の基本を概説する。また、実際の建築物の見学を行い、実寸の建築構造を理解する。

■**到達目標**：①建築構法の概要を理解する。  
②木造建築の特徴を理解する。  
③各部構法の特徴を理解する。

■**担当教員**：

金子 晋也

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 建築構法の概論
- 第 2 回 木構造 (1) 建築工事のながれ
- 第 3 回 木構造 (2) 木材、木の性質
- 第 4 回 木構造 (3) 軸組と基礎
- 第 5 回 木構造 (4) 小屋組
- 第 6 回 木構造 (5) 各部構法 (床・壁・天井・屋根)
- 第 7 回 木構造 (6) 開口部・建具
- 第 8 回 鉄筋コンクリート構造 (1) 鉄筋・コンクリートの性質
- 第 9 回 鉄筋コンクリート構造 (2) 構造形式と各部の詳細
- 第 10 回 鋼構造
- 第 11 回 鉄骨鉄筋コンクリート造、組積造
- 第 12 回 木構造・鉄筋コンクリート構造・鋼構造における断熱材
- 第 13 回 建築の保存・再生の構法
- 第 14 回 木構造・鉄筋コンクリート構造・鋼構造の実際 (見学会 1)
- 第 15 回 木構造・鉄筋コンクリート構造・鋼構造の実際 (見学会 2)

■**事前・事後学習**：

事前学習：配布資料および教科書の通読。

事後学習：授業内容の復習と、授業内で紹介した建築に関する資料を調べること。

■**教科書**：『建築構造』／青木博文他（実教出版）  
『建築構造用教材』／日本建築学会（丸善）1,900円

■**参考文献**：『建築構法 第五版』内田祥哉編著（市ヶ谷出版社）  
『建築材料用教材』／日本建築学会（丸善）1,900円

■**成績評価基準と方法**：定期試験（60%）、小テスト（20%）、授業態度等（20%）により総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・レポート	◎	◎	◎	構法の特徴を論述することができる。	60
授業態度	○	○	○	授業中の質問への返答	10
発表					
課題・作品	○	○	○	課題の提出状況。内容	30
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他	○	○	○	見学会における態度	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：構造・材料実験（3年次 後期）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：建築が空間として成立し、人間の安心・安全を守るには建築構造の基本と、その構成を考える構法の理解が不可欠であり、専門用語の修得が必須である。また、本講義で得た視点を、各自のデザインに反映させる事を期待する。

# 構造・材料実験

選 択

開講年次：3 年次後期

科目区分：実 習

単 位：2 単位

講義時間：60 時間

■**科目のねらい**：建築を成立させる空間デザインは、自然や都市環境において自立する空間と外力（風、地震等）に対して安全な空間を成立させるために、建築材料としての性能とそれを組み合わせたとときの建築構造としての性能の理解が必要である。木構造・鉄筋コンクリート構造の構造形式と構造材料・仕上げ材料を矩計図により理解する。構造材料のうち、基本となる木材、セメント・コンクリート、鉄筋等の物理的特性を把握するために、試験用供試体を制作し、強度試験を行い、応力度とひずみ度の関係からヤング係数についての考察を行う。なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要なとされる指定科目（建築材料）である。

■**到達目標**：①建築構造における木構造、鉄筋コンクリート構造、鋼構造の基本を理解する。  
②木材、コンクリート、鋼の力学的特性について実験を通し理解する。  
③木構造、鉄筋コンクリート構造の施工における力学的特性を理解する。

■**担当教員**：

羽深 久夫

■**授業計画・内容**：

第 1 回	建築構造の実際(1) 実測図の作成	第10回	木材の曲げ応力度・ひずみ度試験 木材のヤング係数の考察
第 2 回	建築構造の実際(2) 矩計図の作成	第11回	木材の実寸軸組変形試験
第 3 回	建築構造の実際(3) 平面詳細図、断面詳細図の作成	第12回	コンクリートの圧縮試験 コンクリートのヤング係数の考察
第 4 回	木構造の構造と材料(1) 平家建矩計図の作成(1)	第13回	鉄筋の引張試験 鉄筋のヤング係数の考察
第 5 回	木構造の構造と材料(2) 平家建矩計図の作成(2)	第14回	鉄筋コンクリート構造におけるひび割れ面のせん断実験
第 6 回	木構造の構造と材料(3) 2階建矩計図の作成(1)	第15回	鉄筋コンクリート構造における異形鉄筋の付着実験
第 7 回	木構造の構造と材料(4) 2階建矩計図の作成(2)		
第 8 回	鉄筋コンクリート構造の構造と材料 大学施設の建矩計図の作成(1)		
第 9 回	鉄筋コンクリート構造の構造と材料 大学施設の建矩計図の作成(2)		

■**事前・事後学習**：毎回の授業テーマについて、事前に調べておく事こと。実測、実験については後日提出させるレポートに、実験については事前の準備と事後の片付けに、授業時間外の作業が必要となります。

■**教科書**：『建築構造設計』／和田章他（実教出版）  
『建築材料用教材』／日本建築学会（丸善）1,900円

■**参考文献**：『建築構造』／青木博文他（実教出版）  
『建築構造用教材』／日本建築学会（丸善）1,900円『建築設計製図』／赤地龍馬（実教出版）  
『建築施工』／大野義照他（実況出版）  
『木質構造（第2版）』／平井卓郎他（東洋書店）

■**成績評価基準と方法**：授業内課題（40%）、実験レポート（30%）、実験考察発表（30%）により総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎	◎	◎	矩計図を提出すること。	40
授業態度					
発表	◎	◎	◎	実験レポートの考察を発表すること。	30
課題・作品					
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他	◎	◎	◎	実験レポートを提出すること。	30

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：一般構造（2年次後期）、構造力学I（3年次前期）、建築生産（3年次後期）、建築構法（3年次後期）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：木構造、鉄筋コンクリート構造、鋼構造における建築構造と建築材料について、矩計図の作成と強度試験を通して理解し、建築を物理的、化学的に考え、構造として構成してゆく方法を身につける。

# 建築生産

選 択

開講年次：3 年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：建築は諸工事の生産の基礎的技術・過程つまり施工を理解しなければ現実化できない。各種構造・工事の具体的施工法、基本的な考え方について解説する。また、施工管理の具体例についても詳述する。今後、建築生産は社会的なより広い観点から計画・設計・施工さらに維持管理そして使命を終え解体されるまでを強く意識していかざるをえない。これらの知見をもとにデザインにも応用できる思考力を養うことを目的とする。

■**到達目標**：①建築施工の各工事のながれと内容の実際を理解する。  
②原価・工程・品質・安全そして維持の各管理の仕組を理解し、これらの知見を応用できる。  
③設計者・施工者の社会的責任について学び、建築生産の根底に欠かせないデザイナー・技術者としての倫理を考察することができる。

■**担当教員**：

佐野 天彦

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 建築生産の概要 過去の歴史～今後の展望、建築生産とデザインの接点
- 第 2 回 各種の調査・法令・資格と建築施工の概要
- 第 3 回 解体工事・仮設工事（安全管理）・土工事
- 第 4 回 躯体工事1（木造躯体工事1）
- 第 5 回 躯体工事2（木造躯体工事2）
- 第 6 回 躯体工事3（鉄筋コンクリート躯体工事1）
- 第 7 回 躯体工事4（鉄筋コンクリート躯体工事2）
- 第 8 回 現場見学（木造、鉄筋コンクリート工事）
- 第 9 回 躯体工事5（鉄骨、PC版躯体工事）
- 第10回 仕上げ工事1（屋根・防水工事、外装工事）
- 第11回 仕上げ工事2（断熱工事、内装工事、間仕切壁工事、天井工事）
- 第12回 設備工事（設備工事、電気工事）
- 第13回 建築物のライフサイクルと維持管理、建築工事に関わる契約
- 第14回 品質管理 工程管理と原価管理（工事費積算）
- 第15回 施工管理と設計監理の関わり、建築技術者倫理

■**事前・事後学習**：テキストの該当するページを読んで、疑問点を明らかにしてから授業に参加すること。授業後のレポート課題は適宜提示する。

■**教科書**：『建築施工』／監修：大野義照（実教出版）ISBN978-4-407-20337-0 C4352

■**参考文献**：『建築構造』／青木博文他（実教出版）  
『建築構造用教材』／日本建築学会（丸善）1,900円 ISBN4-8189-0444-9 C3052  
『絵とき建築材料』／廣瀬幸男他（オーム社）2,800円 ISBN4-274-10306-4 C3052

■**成績評価基準と方法**：出席（10%）、レポート（40%）、定期試験（50%）により総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	○	基本知識の習得	40
小テスト・レポート	○	◎	◎	課題に対する考察	50
授業態度					
発表					
課題・作品					
出席	○	○	○	出席回数	10
その他					

■**関連科目**：一般構造（2年次 後期） 建築構法（3年次 後期） 構造・材料実験（3年次 後期）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：建築生産は現実社会の中で、実際の建築が出来上がるための制度・技術・過程を主に理解するものである。設計者からみた設計監理と施工者からみた工事管理、双方の立場に立って理解を深めたい。特に本講義では木造・RC造・S造の生産技術、品質・工程・安全・原価管理の具体的内容について詳述する。これらを理解しないと、建築が現実化・成立しない。また建築生産は多職種の人々が建物の完成という行為に向かって行う共同作業であり、社会的な資産を世に生み出す責任の大きい行為でもあるということを知り、建築生産の基礎的な知識と技術者としての思考力を身につけてもらいたい。



# 建築法規

選 択

開講年次：3 年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：建築に関連する法令は、都市・建築空間の質、建築・住宅の性能に大きくかかわってくる。建築計画、設計及び施工を行うに当たって必要となる関係法令について、建築基準法を中心に条文の趣旨及び背景について解説するほか、都市計画法、消防法、建築士法といった法令とのかかわりについても論及する。事例を紹介しながら解説することで、各法令の必要性と趣旨を十分理解させる。

なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（建築法規）である。

■**到達目標**：条文を解説し建築物の意匠設計に法令の主要規定を反映することができること及び設計図を見て設計内容が法令の主要規定に適合しているか否かを判定できることを到達目標とする。

■**担当教員**：

小林 宏

■**授業計画・内容**：

第 1 回 建築基準法を学ぶために 憲法と建築基準法の関係、法の目的と意義、法の生い立ちと構成等について学び、法の概要を把握する。	第 5 回 建築基準法集団規定2 建築物の用途制限に関する規定を学ぶ。	第10回 建築基準法単体規定2 構造設計と構造計算に関する規定を学ぶ。
第 2 回 建築基準法を理解するための基礎知識 条文を正確に読み、法を正しく理解するための基礎的な事項（用語の定義、面積高さ等の算定方法）を学ぶ。	第 6 回 建築基準法集団規定3 建築物の規模制限(建ぺい率、容積率等)に関する規定を学ぶ。	第11回 建築基準法単体規定3 構造種別ごとの構造仕様に関する規定を学ぶ。
第 3 回 建築基準法制度規定 建築計画の段階から着工、完了、維持管理に至るまでの各種の手続き及び制度の運用に関する規定を学ぶ。	第 7 回 建築基準法集団規定4 建築物の形態制限(道路斜線、隣地斜線、北側斜線等)に関する規定を学ぶ。	第12回 建築基準法単体規定4 建築物の防火に関する規定を学ぶ。
第 4 回 建築基準法集団規定1 建築物と道路に関する規定を学ぶ。	第 8 回 建築基準法集団規定5 防火・準防火地域内の建築物に関する規定を学ぶ。	第13回 建築基準法単体規定5 建築物の避難等に関する規定を学ぶ。
	第 9 回 建築基準法単体規定1 採光、換気、階段・廊下等の居住環境等に係る一般構造に関する規定を学ぶ。	第14回 建築基準法単体規定6 建築設備に関する規定を学ぶ。
		第15回 建築関係法令 都市計画法、建築士法、建設業法、消防法、バリアフリー新法、耐震改修促進法等建築関係法令の概要を学ぶ。

■**事前・事後学習**：

- ・建築基準法は技術法規で、条文が難解であるため、あらかじめ講義資料を配付する。配布した講義資料は、必ずファイリングし、講義資料を基に予習を十分に行い授業に臨むこと。
- ・事後学習のため、授業のテーマごとに演習問題を配布するので、自らの理解度を深めるため、必ず講義資料及び法令集をひもとき条文を解説して答えを導き提出すること。
- ・予習時間として、また、復習・演習問題の所用時間としてそれぞれ2時間程度が必要である。

■**教科書**：基本建築関係法令集 法令編（平成30年版）：井上書院

■**参考文献**：最新建築法規入門（2013年度版）：実教出版

建築法規用教材（2018年版）：日本建築学会

建築法規PRO（2018）図解建築申請法規マニュアル：新建築確認申請実務研究会編・第一法規

■**成績評価基準と方法**：期末試験の成績を主とし、演習問題の提出状況及び出席状況を加味して評価する。ただし、出席回数が全体の2/3に満たない場合は、単位を認定しない。

評価方法	到達目標	評価基準		評価割合 (%)
定期試験	◎	試験問題：70点満点	合計で60点以上となること。	70
演習問題	○	提出及び理解度：20点満点		20
出席	○	出席状況：10点満点 2/3以上の出席		10
その他				欠格条件

◎：極めて重視する。 ○：重視する。 空欄：評価に加えない。

■**関連科目**：一般構造（2年次後期）、都市計画論（3年次前期）、構造力学I（3年次前期）、構造力学II（3年次後期）、建築構法（3年次後期）、構造・材料実験（3年次後期）、建築生産（3年次後期）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

- ・建築関係法令は、木造建築士、2級建築士及び1級建築士の資格試験の試験科目となっている。なお、建築士の資格試験の受験資格として、当該科目の単位取得が義務付けされている。
- ・木造で階数3以上又は床面積100m<sup>2</sup>（木造以外は30m<sup>2</sup>）を超える建築物等の設計は、建築士の資格がなければ行うことができないこととなっている。

# 寒冷地デザイン論

選 択

開講年次：3 年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：寒冷地特有の空間やプロダクトなどに関わるデザインについて理解を深める。北海道や北欧をはじめ、諸外国の寒冷地におけるデザイン事例に基づき、その背景と成立プロセスを学ぶ。具体的には、寒冷地をアドバンテージとした地域独自のデザイン事例の紹介と、寒冷地の住まいの機能性を決定する光・熱・空気環境のデザインを学ぶ。  
なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（その他）である。

■**到達目標**：①寒冷地のポテンシャルを活かすデザイン提案を行なう力をつける。  
②寒冷地の住まいの機能性を決定する光・熱・空気の振る舞いを理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎齊藤 雅也・山田 良

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 寒冷地をアドバンテージとした空間デザイン1
- 第 2 回 寒冷地をアドバンテージとした空間デザイン2
- 第 3 回 寒冷地デザインと建築ディテール
- 第 4 回 寒冷地デザインと風景・ランドスケープ
- 第 5 回 室内空間演出とプロダクトデザイン
- 第 6 回 室内空間を快適にする背景とプロセス
- 第 7 回 ショートターム課題①
- 第 8 回 寒冷地デザインの見方・考え方
- 第 9 回 寒冷地・温暖地の建築環境システム
- 第10回 寒冷地のポテンシャルを活かす住まいの熱環境デザイン
- 第11回 伝熱のメカニズム（理論と応用）
- 第12回 寒冷地のポテンシャルを活かす住まいの光環境デザイン
- 第13回 光拡散のメカニズム（理論と応用）
- 第14回 寒冷地デザインの建築事例・視察
- 第15回 ショートターム課題②

■**事前・事後学習**：事前に参考図書の内容を確認しておくこと。事後は授業内容を復習して、定期試験に臨むこと（特に、到達目標②）。

■**教科書**：授業時にプリント等を配布する。

■**参考文献**：山田：ノルウェーのデザイン（誠文堂新光社）、  
齊藤：設計のための建築環境学 日本建築学会編（彰国社）

■**成績評価基準と方法**：定期試験（20%：齊藤）＋授業内レポート（40%：山田＋20%：齊藤）＋出席（15%：共通）＋その他（5%：共通）による総合評価（100%）。遅刻は減点対象とする。全15回のうち、10回以上の出席がない場合は齊藤担当の定期試験を受けることができない。前半（山田）・後半（齊藤）の出欠席に偏りがある場合も定期試験の受験可否を判断する。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験		◎		20
授業内レポート	◎	○	山田(40)＋齊藤(20)	60
授業態度	○			
発表				
課題・作品				
出席		○	全15回(欠格判断)	15
その他		○		5

■**関連科目**：デザイン工学、建築デザイン論、環境計画論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：人間情報デザインコースの学生の受講を歓迎する。

# ユーザーエクスペリエンスデザインⅡ

選 択

開講年次：3 年次後期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：ユーザ体験を中心に考える課題解決手法学ぶとして、高齢者やハンディキャップを含む様々なユーザを想定し、生活道具のあり方について、機能価値だけではなく、心地よさや満足感など感性価値を重視するデザインの実現を目指し、問題発見、潜在ニーズの調査から、人に優しい解決策を提案し、評価実験のプロセスを学ぶ。フィールドサーベイやヒアリング調査を通じて、これらの解決策を体系化させ、ユーザエクスペリエンスの手法として習得させる。

■**到達目標**：①疑似体験によりユーザの特徴と潜在ニーズを抽出し、機能性と感性を配慮した問題解決を提案できる方法を習得する。  
②更にモックアップを用いたユーザ評価を得る方法を習得する。

■**担当教員**：

張 浦華

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 道具と行為の再考
- 第 3 回 良い体験を得るための提案
- 第 4 回 体験することによる問題の発見
- 第 5 回 問題点、潜在ニーズの整理
- 第 6 回 アイデア展開
- 第 7 回 デザイン提案とコンセプトの立案
- 第 8 回 モデル製作1
- 第 9 回 モデル製作2
- 第10回 モデル製作3
- 第11回 モデル製作4
- 第12回 モデルの試用による評価実験
- 第13回 評価実験結果の検討、デザイン修正
- 第14回 プレゼン資料作成
- 第15回 プレゼンテーション

■**事前・事後学習**：日常生活の体験を通して道具と人間との関わりをよく観察し、道具の機能配置を組み替えることにより新たな可能性を発見する。各回の授業前には発表の準備を行い、授業後にはプロセスシートの作成を宿題とする。最終的にはポートフォリオにまとめる。

■**教科書**：適宜資料を配布する

■**参考文献**：適宜資料を配布する

■**成績評価基準と方法**：取組み姿勢、提出物、およびプレゼンテーションにより評価する。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
取り組み姿勢	○	○	積極的な姿勢、努力度	30
発表	○	◎	第三者に理解しやすい内容	30
課題・作品	◎		モデル・パネルの完成度	30
出席	○	○	2/3以上の出席	10
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習I

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

# ヒューマンインタラクションⅡ

選 択

開講年次：3 年次後期

科目区分：演 習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：インタラクションとは、人間が何か行動をした際に、その行動が一方通行ではなく相手側の機器がその行動に対応した反応をする、ということです。この授業では、ユーザの経験を中心として、機器に新たな機能や魅力を付加するインタラクションデザインの理論・方法論・具体的な設計法を、実際の製作実習を通じて学習します。

■**到達目標**：①インタラクティブシステムのデザイン調査ができる。  
②インタラクティブシステムの基本的な設計ができる。  
③インタラクティブシステムの基本的な評価ができる。

■**担当教員**：

石井 雅博

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 インタラクティブシステムのデザイン調査、テーマの検討
- 第 2 回 インタラクションの様相決定、インタラクティブシステムの構想、既存システムとの比較
- 第 3 回 インタラクティブシステムの要件定義と基本設計、ユーザ・使用環境の確認
- 第 4 回 プロトタイプ製作のためのハードウェア・ソフトウェアの選定
- 第 5 回 プロトタイプ製作のためのハードウェア・ソフトウェアの動作確認
- 第 6 回 プロトタイプの製作1
- 第 7 回 プロトタイプの製作2
- 第 8 回 プロトタイプの製作3
- 第 9 回 プロトタイプの製作4（完成）
- 第10回 評価システム製作1（プロトタイプの改変）
- 第11回 評価システム製作2
- 第12回 評価システム製作3（完成）
- 第13回 評価のためのデータ収集（被験者実験）
- 第14回 データの統計的分析、構想・設計の検証
- 第15回 報告書の作成

■**事前・事後学習**：

- 事前学習：調査、試用、素材の準備等を行うこと。
- 事後学習：製作実習の補完、評価用分析、報告書作成などを行うこと。

■**教科書**：デジタル資料を配布します。

■**参考文献**：『未来を築くデザインの思想』（ビー・エヌ・エヌ新社）、『ヒューマンコンピュータインタラクション入門』（サイエンス社）、『スーパーヒューマン誕生』（NHK出版新書）

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート		◎			20
授業態度	○	○	○		20
発表					
作品	◎	○	○	プロトタイプと報告書	60
出席					
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：ヒューマンインタラクションⅠ、プログラミング、デザイン研究法（人間情報デザイン）、プロダクトデザイン、Webプログラミング、ユーザーエクスペリエンスデザイン、統計の世界

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：インタラクティブシステムの製作とその評価までを演習を通して体験します。

# 学部連携演習

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：演習

単 位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**：看護学部およびデザイン学部学生を対象に、スタートアップ演習、学部連携基礎論と段階を踏みながら学習することで両学部相互の専門性に対する理解を深めてきた。それらをもとに、さらに学生自身の専門性を広げるとともに、異分野の人材と連携する能力を養うことを目的に両学部合同による演習を行う。両学部の学生を少人数グループに編成し、学部連携基礎論により札幌市南区の地域に見出したテーマや課題に対し、相互の学生が共同・協力して課題解決に取り組む。

■**到達目標**：①看護およびデザインの自己の専門性について理解を深める。  
②相互の専門性を尊重し合い、協同して課題に取り組む姿勢を身につける。  
③課題の再評価と焦点化から実施・評価にいたる解決プロセスを習得する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎若林 尚樹、羽深 久夫、柿山 浩一郎、山田 信博、山田 良、大島 卓、金 秀敬、小宮 加容子、松永 康祐、矢久保 空遥、田島 悠史

◎定廣 和香子、川村 三希子、菊地 ひろみ、大野 夏代、貝谷 敏子、菅原 美樹、藤井 瑞恵、本田 光、村松 真澄、伊東 健太郎、武富 貴久子

■**授業計画・内容**：

第1回 オリエンテーション	第25回 プレゼンテーション準備・ポスター作成
第2回 レクチャー（目標達成アプローチ）	第26回 プレゼンテーション準備・ポスター作成
第3回 チーム別活動（テーマのディスカッション）	第27回 プレゼンテーション準備・ポスター作成
第4回	第28回 発表準備
第5回～第24回	第29回 全体発表

担当教員指導のもと、テーマにもとづいたチーム別活動を行います。この活動には視察・調査等、学外でのフィールドワークが含まれます。また、10月16日の演習終了時に個人活動評価票による中間評価を行ない、学習活動評価表を提出していただきます。

■**事前・事後学習**：グループワークに際しては、必要な資料、調査を検討し、準備して臨んでください。また、終了後は、学習活動評価票を活用し、目標達成度を確認しながら、自らの課題を明確にしてください。

■**教科書**：授業の進行により随時紹介する。また、適宜参考資料を提供する。

■**参考文献**：授業の進行により随時紹介する。また、適宜参考資料を提供する。

■**成績評価基準と方法**：成績評価は本演習の到達目標に対し、以下の観点から行ないます。

①：専門性の理解 ②：協調性・積極性・交渉力・コミュニケーション力・課題に取り組む態度 ③：提案力・企画力・実践力・課題解決過程の理解・成果産出の意義

出席日数10% 授業への参加態度と積極性60% 各担当教員が成績評価を行う。

成果物30% 全体発表（ポスター発表を含む）は演習担当教員全員が成績評価を行う。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度	○	◎	○	積極性・協調性	60
発表	◎	◎	◎	明快な説明	
課題・作品		◎	◎	明快で説得力があるか	30
出席	○	○	○		欠格条件 10

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：スタートアップ演習、各学部の専門教育科目等

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：学部連携基礎論でデザインと看護による地域の理解と課題の焦点化に取り組んでから1年が経過しました。その後、専門教育を受けて研鑽を積み、今回はそれぞれが専門性を高めた上での連携となります。学部連携演習では、学部連基礎論を通して見出した地域課題の解決に向けた提案の実現に向け、両学部の専門性を相互に活かし相乗効果が発揮できるよう学生諸君の積極的な取り組みを期待します。また、主体的活動を行う際にも教員の指導のもと、報告・連絡・相談を欠かさないようにして下さい。

# デザイン総合実習Ⅳ(人間空間デザインコース)

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：実習

単 位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**：デザイン総合実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、及び専門教育科目の履修を踏まえ、学内外の具体的な課題をテーマとした実践的なデザインワークを経験し、社会におけるデザインの役割を体験的に学ぶ。併せて、ゼミに準じた形式による個別指導のもと、卒業研究に向けての準備を行う。

■**到達目標**：①企画・調査・分析力の習得  
②構想力・表現力の習得  
③コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の習得

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎須之内 元洋、上遠野 敏、斉藤 雅也、羽深 久夫、矢部 和夫、椎野 垂紀夫、高井 真希子、武田 亘明、山田 信博、山田 良、石田 勝也、大島 卓、片山 めぐみ、小宮 加容子、金子 晋也

■**授業計画・内容**：

前半課題・後半課題の詳細は、事前ガイダンスにおいて各担当教員が提示する

1. 前半課題

- 第 1 回 各担当教員より課題オリエンテーション
- 第 2 回～6回 講座・リサーチ・スタディ・制作・執筆等
- 第 7 回 課題成果発表

2. 後半課題

- 第 8 回 各担当教員より課題オリエンテーション
- 第 9 回～14回 講座・リサーチ・スタディ・制作・執筆等
- 第15回 課題成果発表

■**事前・事後学習**：

事前学習：課題に必要な事前リサーチを行っておくこと

事後学習：成果発表に対する講評を十分理解し、成果物の見直し・再検証を行うこと

■**教科書**：事前ガイダンスにおいて担当教員から提示する

■**参考文献**：事前ガイダンスにおいて各担当教員が提示する

■**成績評価基準と方法**：下記表は評価基準目安である。詳細は、事前ガイダンスにおいて各担当教員が提示する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度	○	○	○	積極的な姿勢	10
発表	○	○	◎	プレゼン能力と発表内容	20
課題・作品	○	◎	○	成果物の完成度	30
出席	○	○	○	6回以上の欠席は単位不可	10
その他	◎	◎	○	取組過程・計画性	30

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習Ⅰ～Ⅲ、関連専門教育科目、卒業研究

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：4年次の「卒業研究」への準備となる実習である。事前に本科目ガイダンスを実施し、各教員の専門性や教員毎の授業計画を、履修希望学生に提示する。履修を希望する学生は、自身の卒業研究テーマと指導教員の研究領域とを鑑み、前半／後半課題それぞれ選択を希望する担当教員を事前に提出する。コース教員による協議を経て、前半／後半課題の担当教員を決定する。

# デザイン総合実習Ⅳ(人間情報デザインコース)

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：実習

単 位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**：デザイン総合実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲをはじめ、専門教育科目の履修を踏まえ、学内外の具体的な課題をテーマとした実践的なデザインワークを経験し、社会におけるデザインの役割を体験的に学ぶ。併せて卒業研究に向けての準備を行う。

■**到達目標**：①社会におけるデザインの役割に関する知見を得る。  
②学内外の具体的な課題を対象に、これまで培ったデザイン能力を実践、自らを検証する。  
③卒業研究を見据え、担当教員の専門性を知る。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎石井 雅博、安齋 利典、細谷 多聞、若林 尚樹、柿山 浩一郎、張 浦華、藤木 淳、三谷 篤史、大淵 一博、金 秀敬、  
福田 大年、松永 康佑、矢久保 空遙

■**授業計画・内容**：

第1回 オリエンテーション(担当教員/課題選択に関して)、担当教員からの概要説明  
第2回 担当教員/課題選択、担当教員毎のオリエンテーション  
第3回～14回 実践的なデザイン活動(詳細は担当教員/課題選択毎に異なる)  
第15回 報告会

■**事前・事後学習**：

事前学習：書籍や配布された資料等の読み込み、情報の収集と整理等を行うこと。  
担当教員毎の課題に対し、進捗報告用のレジュメ等をまとめること。  
事後学習：指摘・指導内容を十分吟味し、見直し・再検証を行うこと。  
必要に応じて、報告書、モデル作成、プロトタイピング等を行うこと。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：授業の中で紹介する。

■**成績評価基準と方法**：積極的な参加態度(10%)、各回の課題発表(40%)、最終的な作品(50%)を総合的に判断して評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度	○	○	○	積極的な姿勢	10
発表	○	○	◎	担当教員の専門性の観点からの発表内容	40
課題・作品	○	◎	○	課題テーマに対する解答の質	50
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、その他関連展開科目・発展科目、卒業研究Ⅰ・Ⅱ等

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：

# キャリアデザイン

選 択

開講年次：3 年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：自己・職業・社会の理解を目指す。就職・進学・起業など幅広く、かつ具体的に、職業に関わる業界の特性、企業の職種、仕事の内容などについて理解し、求められる人材を描く。また、インターンシップ体験などをふまえ、就職活動の流れを理解し、実践に役立つ能力を養う。  
職業人として、なりたい自分になれる、なりたい自分を作れる力を身につける。

■**到達目標**：①主体的にキャリアデザインできる力を習得する  
②進路を考えるにあたり、自身の軸を見つけることができる  
③進路選択に備えて、実践的なスキルを身につける

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎安齋 利典、須之内 元洋

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーションと就職活動計画立案
- 第 2 回 自己分析講座●
- 第 3 回 エントリーシート対策●
- 第 4 回 自分の将来像をデザインする
- 第 5 回 ポートフォリオに関して●
- 第 6 回 進路研究
- 第 7 回 企業が求める人材●
- 第 8 回 OB/OG講演会●
- 第 9 回 対象（企業・職業）の絞り込みと設定／選択基準の設定
- 第10回 一般常識模擬試験・ウェブテスト対策●
- 第11回 面接官が見る履歴書と面接のポイント●
- 第12回 ギャップ分析と対策
- 第13回 グループディスカッション講座●
- 第14回 内定者報告会●
- 第15回 まとめと報告・評価

\*各回のテーマに●が付いている回は、外部講師等を招いて実施する。

■**事前・事後学習**：エントリーシート記入、自分の将来像のまとめ、進路研究、一般常識模擬試験・ウェブテスト受験、プレゼンテーション準備等の宿題を課すことがある。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：なし

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎	◎	○	ワークシート等	40
授業態度	○	○	○	取り組み姿勢	10
発表	○	○	◎	自己PR等	30
作品					
出席	○	○	○	欠格条件	20
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：フィールドスタディ、インターンシップ

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：この授業を受ける前にポートフォリオを完成させておくこと。事前にインターンシップを経験しておくことが望ましい。



# 地域プロジェクトⅢ(発展編)

自由開講年次：3年次・4年次(通年) 科目区分：演習 単 位：2単位 講義時間：60時間

■**科目のねらい**：地域プロジェクトⅠ・Ⅱを通して獲得した知識・技術を基盤とし、実際に地域の活性化を目指し、教員が関与するプロジェクトにリーダーとして、参画することを通して、様々な条件下において地域課題を解決するための応用展開能力を習得する。

■**到達目標**：①教員の指導下において、地域と連携し、企画する地域プロジェクトをリーダーとして企画・運営・評価する。  
②①の活動を通して、地域の様々な課題解決につながるプロジェクトを立案・実施・評価するために必要な知識、技術、態度を理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎定廣 和香子・大淵 一博

■**授業計画・内容**：

## Section 9. 地域プロジェクトを計画する (advance)

1. 地域プロジェクトの計画にリーダーとして参加する。

## Section 10. 地域プロジェクトを実践する (advance)

1. 地域プロジェクトの運営にリーダーとして参加する。

## Section 11. 地域プロジェクトを評価する (advance)

1. 最終報告会 (地域住民向け・学内教員向け)
2. アフターセッション プロジェクトの経年評価と活動の総括

■**事前・事後学習**：関心、興味のあるプロジェクトについて事前に情報収集をして下さい。プロジェクト参加後は、各自で担当した役割や感想をまとめ、プロジェクト実施報告書を提出して下さい。

■**教科書**：特になし

■**参考文献**：適宜参考資料を提供する。

■**成績評価基準と方法**：授業態度 (活動の態度や言動・活動計画・記録、報告会にむけての準備) 40%、発表20%、課題・作品 (Section 9の企画書・報告書・報告内容) 40%、出席状況 (活動受け入れ教員の実施証明書、報告会の参加状況) から総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
授業態度	○	○	◎	活動記録や活動受け入れ先の評価	40
発表			◎		20
課題・作品		◎	○	企画書・報告書・報告内容を含む	40
出席	○	○	○	2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：スタートアップ演習、学部連携基礎論、学部連携演習、札幌を学ぶ、ボランティア活動を考える、インターンシップ (デザイン学部)

■**その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：学生は、公開されているプロジェクトの担当教員と面談の上、活動内容を決定し、計画を立案する。毎回、活動記録および活動受け入れ先の実施証明書を提出する。本科目を受講する前提として、地域プロジェクトⅡの単位を取得している必要がある。

# 建築設備計画

選 択

開講年次：4年次前期

科目区分：講義+演習

単 位：2単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：建築設備は、居住者にとっての光・熱・空気・水などの環境を良好に調整するための電氣的・機械的なシステムで、システムを出入りするエネルギー・物質の流れを適切に計画しなければならない。本講では、空調和、電気・情報、給排水衛生の設備計画にかかわる基礎知識を習得し、それに基づいて実際の住宅や事務所建築における設備計画の事例、省エネルギー計画について理解を深める。

なお、本科目は、建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（建築設備）である。

■**到達目標**：①建築環境システムの構成要素としての建築設備についての理解を深める。  
②建築の省エネルギー性とヒトの快適性を満足する関係を体感し、理解する。  
③建築の環境・省エネルギー計画を作成することができる。

■**担当教員**：齊藤 雅也

## ■授業計画・内容：

- 第 1 回 最新の建築環境・設備のデザイン事例
- 第 2 回 建築設備の基礎知識1（エネルギー収支・物質収支・エクセルギー収支）
- 第 3 回 建築設備の基礎知識2（パッシブソーラーシステム、ZEB/ZEH、創エネ・省エネ）
- 第 4 回 建築設備の基礎知識3（ヒートポンプの原理）
- 第 5 回 各家庭でのエネルギー使用実態に関する演習課題【演習①】
- 第 6 回 空調和設備1（空調和の概要、湿り空気線図、暖冷房システム）
- 第 7 回 空調和設備2（空調負荷・熱搬送システム・換気システム）
- 第 8 回 電気設備1（照明の基礎、昼光照明・電灯照明システム）
- 第 9 回 電気設備2（電気・電力設備、通信情報設備システム、昇降システム）
- 第10回 建築設備を理解するための演習課題【演習②】
- 第11回 給排水設備1（建築と水環境）
- 第12回 給排水設備2（給水・給湯設備、排水設備）
- 第13回 給排水設備3（雨水利用システム、衛生設備）
- 第14回 建築と省エネルギー（省エネルギー基準）
- 第15回 大学キャンパスの環境・省エネルギー計画の作成【演習③】

■**事前・事後学習**：事前に授業内で配布した資料、関連書籍等に目を通しておくこと。事後、復習によって学習内容を確認すること。

■**教科書**：図説 建築設備（学芸出版社）その他、必要に応じて資料を配布する。

■**参考文献**：「設計のための建築環境学 日本建築学会編（彰国社）」

■**成績評価基準と方法**：学期末試験（50%）、授業内演習+課題（20%）、授業態度（15%）、出席（15%）で評価する。原則、遅刻は減点対象（遅刻2回は欠席1回相当）。事前連絡のない就職活動による欠席は欠席扱いとする（証明書要）。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	論述問題50% 算術問題50%	50
授業内演習	◎	◎	◎	上記の演習内容	20
授業態度	○	○	○		15
発表					
課題	◎	◎	◎	授業内演習と一体で評価する。	(20)
出席	○	○	○	2/3以上の出席(欠格条件)	15
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：工学基礎、環境計画論、寒冷地デザイン論、デザイン総合実習I～III

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：演習①では、各自の自宅での電力使用量を予想し、その使用実態と照らし合わせながら、省エネルギー性と快適性について学ぶ。各自が契約している電力供給会社から送られてくる明細（1～3月）を用意すること。インターネット経由で電力使用量を取得することも可能である。

# 住宅論

選 択

開講年次：4 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：住宅建築について、戦後日本での変遷を軸に論じる。文献や事例からそれらの空間概念と時代背景、場所論、風土論などから考察する。また、建築物としてみる住宅に限らず、広く住まいや場、自己のアイデンティティの拠り所としての観点にも触れていく。

■**到達目標**：①戦後日本の住宅建築の変遷と時代背景に学ぶ。  
②住まいや場所のアイデンティティについて考察する。  
③居住空間と身体の関係について考察する。

■**担当教員**：

山田 良

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 住宅にまつわる諸概念
- 第 2 回 戦後日本の住宅建築の変遷①
- 第 3 回 戦後日本の住宅建築の変遷②
- 第 4 回 戦後日本の住宅建築の変遷③
- 第 5 回 場のアイデンティティと住まい①
- 第 6 回 場のアイデンティティと住まい②
- 第 7 回 住宅を考える（ショート課題①）
- 第 8 回 住宅と地域性①
- 第 9 回 住宅と地域性②
- 第10回 芸術と住まい①
- 第11回 芸術と住まい②
- 第12回 住宅を考える（ショート課題②）
- 第13回 身体と空間
- 第14回 開放性と混在—集合住宅
- 第15回 住宅を考える（ショート課題③）

■**事前・事後学習**：授業毎に次回のテーマを提示します。シラバスを合わせ確認すると同時に自分のイメージをまとめておいてください。授業後のレポート等は、適宜指示します。

■**教科書**：適宜資料を配布するため、特定の教科書は使用しない。

■**参考文献**：講義内で適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎		50
レポート・授業内課題	◎	◎	◎	用語の理解と内容の論説	30
授業態度	◎	◎	◎	授業への積極的な参加	20
出席	○	○	○	2/3以上の出席	失格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習（空間デザインコース）、空間デザイン論、近現代建築史など

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：戦後日本の近代住宅建築の変遷からはじまり、ひろく空間や場、身体からの観点にも触れていきます。

# ロボティクス

選 択

開講年次：4 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：ロボティクス（Robotics）は、インテリジェントに機能する工学システムの創造であり、メカトロニクスにおける先進的な成果を取り入れ、他の様々な分野の概念を融合させて、次世代の社会生活基盤となりうるシステムを構築することを目的とした学問領域である。ここでは、ロボットの動きを規定する回転・旋回運動及び伸縮動作機構の基本原理を解説する。また、関節を駆動／停止させるモータドライバの特性などを解説し、最後にロボットの実動モデルを制作することにより、ロボットについての理解を深める。

■**到達目標**：①ロボットのメカニズムを理解し、ロボットの動きをデザインするための基礎知識を習熟する。  
②ロボット制作実習を通して、ロボットの動きや機能を実現する技能を身につける。また、制作したロボットについて、プレゼンテーションを行う。  
③グループワークによりロボットを制作する課題を通じて、高度なコミュニケーション能力を高めるとともに、グループワークにおいても自分の個性を積極的に発揮する能力を養う。

■**担当教員**：

三谷 篤史

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 ロボティクス概論
- 第 2 回 ロボットの動きを規定するメカニズム
- 第 3 回 演習：機械要素の設計・制作実習
- 第 4 回 最近のロボット技術の動向
- 第 5 回 実習（ロボット制作実習課題の説明実習・アイデア展開）
- 第 6 回 実習（アイデア展開・アイデアスケッチ）
- 第 7 回 実習（実現性確認、改善提案）
- 第 8 回 中間報告会（プレゼンテーション）
- 第 9 回 実習（モックアップ制作、プロトタイプシミュレーション）
- 第10回 実習（モックアップ制作、プロトタイプシミュレーション）
- 第11回 実習（部材制作1）
- 第12回 実習（部材制作2）
- 第13回 実習（組み立て）
- 第14回 実習（動きのデザイン）
- 第15回 プレゼンテーション

■**事前・事後学習**：座学においては、各回のテーマに関連する内容を事前に調べておき、受講後は授業内で紹介した専門的知識に関して調査し理解を深めること。課題制作においては、グループメンバー間で綿密な連絡体制を維持し、グループワークに必要な準備をして授業に臨むと共に、授業時間外での作業についても打ち合わせしておき、課題制作に臨むこと。

■**教科書**：必要に応じて適宜紹介する。

■**参考文献**：有本卓『ロボティクス概論』（コロナ社：978-4339045123）

■**成績評価基準と方法**：制作課題に関する成果作品とそのポートフォリオおよびプレゼンテーションをもって判定する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度	○			積極的に取り組んでいるか	20
発表		○		第三者に理解できる内容となっているか	20
課題・作品		◎		実動モデル	40
出席				2/3以上	欠格条件
その他			○	作品やプレゼンテーションにおいて個性を発揮したか	20

■**関連科目**：プロトタイプシミュレーションI、メカトロニクス、感性インタラクションデザイン

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：ここでの課題は、数人のグループで1つのロボットを完成させることである。それぞれの学生が、これまでに培ってきた様々な技術を駆使して、ユニークなロボットを制作すること。グループワークによる制作を行うため、無断欠席するとグループの他のメンバーに迷惑がかかる場合があるので留意すること。

# ヒューマンケア機器デザイン

選 択

開講年次：4 年次前期

科目区分：演 習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：ヒューマンケア機器とは医療、介護、育児などの支援を必要とするヒューマンケアのための機器のことである。授業では、障がい者だけでなく高齢者から子どもまで幅広いユーザの中から対象を設定し、その対象者が生活の中で必要とするヒューマンケア機器について課題抽出を行い、その改善策として最適な機器のデザインを提案する。

■**到達目標**：①行動・動作について細かく分析し、問題発見をする。  
②ユーザの特性を十分に理解し、発見した問題点に対する改善策を提案する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎小宮 加容子・安齋 利典・張 浦華

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 課題説明
- 第 2 回 現状調査
- 第 3 回 調査結果の分析
- 第 4 回 問題点の整理
- 第 5 回 アイデア展開
- 第 6 回 デザインコンセプトの立案
- 第 7 回 中間発表（デザインコンセプト提案）
- 第 8 回 モデル製作1
- 第 9 回 モデル製作2
- 第10回 モデル製作3
- 第11回 モデル製作4
- 第12回 評価実験
- 第13回 評価実験結果の検討、デザイン修正
- 第14回 プレゼン資料作成
- 第15回 プレゼンテーション

■**事前・事後学習**：各授業の終わりに次回の授業内容および達成目標について説明します。次回の授業までに、現状までの振り返りと達成目標に向けた取り組みを行い、各自、授業で報告をしてもらいます。各自の進み具合に応じて、モデル製作、発表準備など、授業時間外の作業が必要となります。

■**教科書**：作成資料を適宜配布する

■**参考文献**：適宜紹介する

■**成績評価基準と方法**：授業態度（40%程度）、課題発表（20%程度）、課題成果（40%程度）を総合的に判断し成績を判定する。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
授業態度	○	○	積極的な姿勢	40
発表	○	○	明快さ、説得力	20
課題・作品	○	○	完成度、新規性	40
出席			2/3以上の出席	欠格条件

■**関連科目**：ヒューマンファクターズ、ヒューマンファクターズ入門、ユニバーサルデザイン論、デザイン総合実習I、II、III

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：さまざまなユーザの特性について理解し、機能性とデザイン性の両面を考慮した新しいヒューマンケア機器のデザインを提案して欲しい。

# デジタル音響デザイン

選 択

開講年次：4 年次前期

科目区分：講義+演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：映像やアニメーションなど、時間軸の中で画像が動くことによって、必然的に音による表現も必要となる。動画に対応したサウンドや効果音等について、サンプリングやリミックスによる音響表現を学ぶ。多数の事例を紹介し、音響が映像に与える影響や効果について理解を促し、デジタルコンテンツの中でも広域な表現分野である「音」のデザインを習得する。

■**到達目標**：①ネット社会における音響表現について理解する。  
②サウンドシンセシスの基礎について理解する。  
③指定されたサウンドファイルを作成、提出できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎久保 壽光・伊藤 博之

■**授業計画・内容**：

第 1 回	オリエンテーション	(久保)
第 2 回	DAWとは？ 音律史～DAWオペレート	(久保)
第 3 回	DAW演習：ハイブリッドコードでミニマルを作る	(久保)
第 4 回	DAW演習：BPM変化でメロディラインを作る	(久保)
第 5 回	DAW演習：フィールドレコーディングでコンクREETを作る	(久保)
第 6 回	DAW演習：時間を歪める（タイムワープ、オーディオワープ、スライス）	(久保)
第 7 回	視覚の音響化① 図形楽譜を書く	(久保)
第 8 回	視覚の音響化② 図形楽譜を演奏する	(久保)
第 9 回	音響の視覚化① FFT概論	(久保)
第10回	「サンプリングとボーカロイド」	(伊藤)
第11回	「音楽と著作権」	(伊藤)
第12回	音響の視覚化② EQ～フォルマント～個体共鳴	(久保)
第13回	DAW演習：指向性と理想音源～サラウンド	(久保)
第14回	DAW演習：空間と場所（音楽理論史と再生空間の共軌性～Reverb）	(久保)
第15回	DAW演習：音響～ノイズ（環境ノイズ、服飾ノイズ、テクノイズ）	(久保)

■**事前・事後学習**：毎回授業のテーマが変わるので、予定されている授業内容をシラバスで確認し、予めサイトにアップロードする資料に目を通し、疑問点を明らかにしてから授業に参加すること。演習にて制作する作品、または授業後のレポートは、翌週迄に提出する。

■**教科書**：特にありません。

■**参考文献**：「音楽社会学」マックス・ウェーバー（著）、安藤英治（翻訳） 創文社  
「音楽記号学」ジャン=ジャック・ナティエ（著）、足立美比古（翻訳） 春秋社

■**成績評価基準と方法**：提出課題100%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度					
発表					
課題・作品	◎	◎	◎	仕様に沿っていること。	100
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

# ネットワークシステムデザイン

選 択

開講年次：4 年次前期

科目区分：演 習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：インターネットという巨大なシステム基盤の基本的なしくみと現代のIT社会において扱われている情報・コンテンツ・サービスについて理解することを目的とします。ネットワークに関する基本的な知識を習得し、簡単なネットワーク設計を行います。また、簡単なWebプログラミング演習を通じて、Webブラウザ上でのグラフィック表現などについて学習します。

■**到達目標**：①ネットワークシステムの基本事項について理解すること。  
②ネットワークシステム設計の基本的な方法について理解すること。  
③簡単なWebプログラミングができること。

■**担当教員**：

大淵 一博

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション／情報数学（記数法）
- 第 2 回 情報数学（情報量・色彩表記）／UNIXとターミナル
- 第 3 回 正規表現
- 第 4 回 情報数学・正規表現 小テスト
- 第 5 回 ネットワークシステムのしくみ①（IPアドレス）
- 第 6 回 ネットワークシステムのしくみ②（ドメイン・Ethernet）
- 第 7 回 ネットワークシステムのしくみ③（ハードウェア）
- 第 8 回 ネットワークシステムのしくみ④（無線LAN・プロトコル・セキュリティ）
- 第 9 回 ネットワークシステム設計小テスト
- 第10回 ネットワークシステムに関する調査・レポート作成①
- 第11回 ネットワークシステムに関する調査・レポート作成②
- 第12回 JavaScriptによるWebプログラミング（JavaScriptの基礎）
- 第13回 JavaScriptによるWebプログラミング（HTML5とCanvas）
- 第14回 Webプログラミング課題制作①
- 第15回 Webプログラミング課題制作②

■**事前・事後学習**：授業内容の理解度を測るため、2回の試験を実施します。このため、試験内容に関する事前学習が必要となります。また、レポート課題や簡単なプログラミング課題を課しますので授業時間外の作業が必要となります。

■**教科書**：教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

■**参考文献**：『キタミ式イラストIT塾 ITパスポート 平成30年度』（技術評論社）、『図解雑学 インターネット』（ナツメ社）、『改訂新版JavaScript本格入門 ～モダンスタイルによる基礎から現場での応用まで』（技術評論社）

■**成績評価基準と方法**：小テスト、レポート、プログラミング課題、出席状況、授業態度を総合的に評価します。出席数が全体の2/3に満たない場合には、単位が認められません。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
小テスト	○	○		授業内容のポイントを理解していること。	60
レポート	○	○		問題点を把握し、独創的な提案をしていること。	20
プログラミング課題			○	授業内容のポイントを理解していること。	20
出席				2/3以上の出席。遅刻、欠席は全体の評価から減点します。	

■**関連科目**：情報リテラシーI、情報リテラシーII、プログラミングI、プログラミングII、工学基礎

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

# コンテンツ流通技術

選 択

開講年次：4 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：ラジオ、ポッドキャスト、テレビ、ストリーミングなど、コンテンツの放送配信のためのフォーマットを検証しながら、インターネット、デジタルメディアの特性、コンテンツ流通モデルのマネジメントといった、情報配信に関する基本的知識を学びます。また、商用／非商用の相違、コンテンツ配信の権利、著作権やクリエイティブコモンズライセンスといった、映像メディア配信を行なう際に特有のキーワードについても理解します。具体的な配信プロジェクトの構築を通じて、コンテンツの受け手との関係構築マネジメントなどについても学びます。

■**到達目標**：①デジタルメディア時代のコンテンツ流通の複雑さを分析できるようになること。  
②UGC（User Generated Content）の趨勢や、コンテンツの受け手との関係構築マネジメント（CRM）など、コンテンツの流通ネットワークの状況について理解を深める。  
③多様化した配信方法に必要な技術・機材等の基礎知識の習得を目指す  
④本講義で学んだクリエイティブ分野において、自分の得意な専門スキルを見つける。

■**担当教員**：

石田 勝也

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 様々なメディアにおける配信事例の紹介とその意義の考察1
- 第 2 回 様々なメディアにおける配信事例の紹介とその意義の考察2
- 第 3 回 様々なメディアにおける配信事例の紹介とその意義の考察3
- 第 4 回 配信技術機器等、使用機材の紹介
- 第 5 回 事前調査とプロジェクト立案1
- 第 6 回 事前調査とプロジェクト立案2
- 第 7 回 プロジェクト企画発表
- 第 8 回 素材準備、配信スタジオ等の設置計画1
- 第 9 回 素材準備、配信スタジオ等の設置計画2
- 第10回 素材準備、配信スタジオ等の設置計画3
- 第11回 プロジェクト進捗状況についてのプレゼンテーション
- 第12回 素材準備、配信スタジオ等の設置計画2
- 第13回 課題発表1
- 第14回 課題発表2
- 第15回 最終講評

■**事前・事後学習**：事前にリアルタイム配信のための文献、サイトを参照し授業に取り組むこと。特に事後に関しては機材やアプリケーションの使用方法を再度確認し、取りこぼしのない学修をすること。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：授業時に適宜配布

■**成績評価基準と方法**：課題、プレゼンテーション、授業態度により総合的に評価します

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度			○	積極的な姿勢。	10
発表			◎	独創性と再現性	30
課題・作品		◎	◎	完成度	60
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：放送メディアデザイン、メディア芸術論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：コンテンツを配信する際の技術はメディアの特性をいかに理解し、その特性を踏まえたコンテンツの企画制作を行うかが重要です。本講義ではコンテンツ制作だけではなく最終アウトプットに必要な機材や技術等の知識の習得も行います。



# 放送メディアデザイン

選 択

開講年次：4 年次前期

科目区分：演 習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：音声や映像を不特定多数に配信する放送メディアは、多様な形態に拡張している。放送技術と視聴文化の歴史と現状を理解し、今日の放送メディアの可能性と展望を理解する。テレビジョンからインターネットやデジタルサイネージまで多様な放送形態と技術を概観し、従来の放送局モデルとはことなる「パブリック」な音響映像コンテンツの企画を立案する。

■**到達目標**：①放送メディアの成り立ちと歴史、文化を理解する。  
②コンテンツの企画制作を通じて、制作マネジメント能力を獲得する。

■**担当教員**：

石田 勝也

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 放送メディアを考える（オリエンテーション：メディアの新旧を考える）
- 第 2 回 メディアの差異とコンテンツ（レポート課題の提示）
- 第 3 回 番組分析発表（レポート発表）
- 第 4 回 音コンテンツの制作課題発表
- 第 5 回 音コンテンツ作品講評
- 第 6 回 課題発表企画検討
- 第 7 回 音声コンテンツの現場を知る（学外講師）
- 第 8 回 企画検討、局設置場所検討
- 第 9 回 第1回放送コンテンツ制作
- 第10回 第1回放送日
- 第11回 第2回放送コンテンツ制作
- 第12回 第2回放送日
- 第13回 第3回放送コンテンツ制作
- 第14回 第3回放送日
- 第15回 最終講評会

■**事前・事後学習**：事前にメディアの違いを理解するためメディア論等の文献、サイトを参照し授業に取り組むこと。事後に関しては機材やアプリケーションの使用方法を再度確認し、取りこぼしのない学修をすること。

■**教科書**：なし。

■**参考文献**：授業時間に適宜指示する。

■**成績評価基準と方法**：

小テスト・授業内レポート：課題に取り組む姿勢と到達目標への達成度。

授業態度：積極的な授業態度。

作品：企画と内容の独創性と完成度。

課題、プレゼンテーション、授業態度により総合的に評価する（作品60%、レポート30%、授業態度10%）。

評価方法	到達目標		評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	
小テスト・授業内レポート	○	○	10
授業態度	○	○	10
発表	○	○	20
作品	○	◎	60
出席	○	○	2/3以上の出席が必須

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：コンテンツ流通技術、メディア芸術論、メディアビジネス、デジタル映像史、デジタルアーカイブ

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：企画制作にあたって音素材の編集が必要になります。音編集ソフト（GrageBand等）の基本的な機能を予習しておいて下さい。放送がつくりだす配信者と視聴者の関係の将来像を考えていきましょう。

# デザインマネジメント

選 択

開講年次：4 年次前期

科目区分：演 習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：デザインマネジメントとは、製品を例とすれば狭義では「製品デザインのマネジメントであり、製品企画、設計要件、市場要求を基に、デザインをまとめ、製品化フォローを行うこと」である。広義においては「デザインの機能と能力を活かし、ヒト、モノ、カネ、情報という経営資源を使い、企業目的を実現するための経営管理である」となる。講義とグループワークの演習を通してこれらについて学び、デザインマネジメント力を習得することを狙いとする。

■**到達目標**：①デザインマネジメントの全体像の理解  
②デザインプロジェクトをマネジメントしていく能力の習得  
③グループワークを通じた役割分担による、具体的提案の精度向上

■**担当教員**：

安齋 利典

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション、デザインとマネジメントについて
- 第 2 回 狭義と広義のデザインマネジメント
- 第 3 回 プロジェクトマネジメントとマネジメントシステム
- 第 4 回 HCDプロセスと対象テーマ設定
- 第 5 回 利用状況の把握と明示
- 第 6 回 ユーザーと組織の要求事項の明示
- 第 7 回 解決策の作成1
- 第 8 回 解決策の作成2
- 第 9 回 解決策の作成3
- 第10回 解決策の収斂と
- 第11回 要求事項に対する評価
- 第12回 体験学習1
- 第13回 体験学習2
- 第14回 まとめとプレゼンテーション準備
- 第15回 プレゼンテーションと評価

■**事前・事後学習**：授業内容理解のための小レポートと、対象テーマに関する提案や、パネル／プレゼンテーション等の宿題を課す。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：「プロダクトデザイン—商品開発に関わる全ての人へ—」／日本インダストリアルデザイナー協会編（株式会社ワークスコーポレーション）  
「デザインマネジメント入門」／長沢伸也、岩谷昌樹、佐藤典司、岩倉信弥、中西元男（京都新聞出版センター）  
「デザインマネジメント」／坂下清、鶴田剛司、竹末俊昭、佐藤典司（有限会社白樺工芸）

■**成績評価基準と方法**：2/3以上の出席（欠格条件）50%、毎回の授業内容をまとめたレポート（300文字程度）40%、授業態度10%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎	○		毎回の授業のレポート	30
授業態度	◎	○			20
発表		◎			20
作品		○	◎	課題の提案内容	30
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：製品デザイン論、デザイン総合実習I～III

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：これまで学んできたデザインの知識と方法を統合すべく、演習を通してデザインマネジメントを体得し、卒業研究や就職活動に役立つように授業を活用していただきたい。

# 起業論

選 択

開講年次：4 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：これからの社会におけるデザインの役割について知識を深め、それに関わる職業や働き方の選択肢のひとつとしての「起業」について、実例を交えながら学ぶ。

■**到達目標**：①なぜ働くのかを理解する。  
②どこで、どのように働くのかを理解する。  
③仕事のつくり方を通じて、自分の働き方を考える。

■**担当教員**：

小林 元

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 どうして働くのか？ どうやって働くのか？
- 第 3 回 「新しい」働きかたについて～起業と企業～
- 第 4 回 経営者の話を聞こう①
- 第 5 回 これからの社会とデザインと仕事
- 第 6 回 新たな価値をつくりだすこと。
- 第 7 回 経営者の話を聞こう②
- 第 8 回 課題発表
- 第 9 回 仕事のつくり方 1 「お金」事業計画
- 第10回 仕事のつくり方 2 「事業内容の工夫」
- 第11回 経営者の話を聞こう③
- 第12回 仕事のつくり方 3 「環境のつくり方」
- 第13回 仕事のつくり方 4 「売りもののつくり方」
- 第14回 仕事のつくり方 5 「売れなかったとき」
- 第15回 総集編

■**事前・事後学習**：授業のテーマに関して、自分ごととして捉えることができるようポイントを事前に指示を出しますので事前学習として考えてみてください。

■**教科書**：教科書は使わず、必要に応じて資料を配布。

■**参考文献**：新クリエイティブ資本論／著：リチャード・フロリダ 訳：井口典夫

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験			◎		40
小テスト・授業内レポート					
授業態度	◎	○	○	積極的な姿勢	30
発表			◎		
課題・作品			◎		30
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他					

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

# デザイン英語

選 択

開講年次：4 年次前期

科目区分：演 習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：共通教育科目における英語教育を踏まえ、学生が将来、さまざまなデザイン活動の場で触れることになる専門用語や英文等が理解できるように、デザインにかかわる英語文献や専門雑誌等を用いながらデザイン英語について学ぶ。さらに、デザインに関する英語論文を読み、内容を理解し、それを日本語で発表する力を習得する。

■**到達目標**：①英語でデザインに関する文献を読解できる。  
②英語のデザインに関する文章を日本語で要約できる。  
③英語のデザインに関する文章を理解し、背景知識を調査し日本語で発表できる。

■**担当教員**：

松井 美穂

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 英語デザイン文献を読む ①
- 第 3 回 英語デザイン文献を読む ②
- 第 4 回 英語デザイン文献を読む ③
- 第 5 回 英語デザイン文献を読む ④
- 第 6 回 英語デザイン文献を読む ⑤
- 第 7 回 英語デザイン文献を読む ⑥
- 第 8 回 デザインに関する英語論文を読む ①
- 第 9 回 デザインに関する英語論文を読む ②
- 第10回 デザインに関する英語論文を読む ③
- 第11回 デザインに関する英語論文を読む ④
- 第12回 デザインに関する英語論文を読む ⑤
- 第13回 英語でデザイン関連の調査を行う ①
- 第14回 英語でデザイン関連の調査を行う ②
- 第15回 各自のデザイン関連調査プロジェクト発表

■**事前・事後学習**：配布されたテキストの指定された部分の英文を読み内容把握に努めておくこと。授業後は単語テスト、内容理解を確認する小テストなどに備えてよく復習しておくこと。予習・復習の所要時間には個人差があるが、数時間が必要である。

■**教科書**：教科書は使わず、毎回資料を配布します。

■**参考文献**：授業中に必要に応じて紹介します。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
課題・発表	◎	◎	◎		50
小テスト/クイズ	◎	○			50
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎より重視する ○重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：英語に関する全ての科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業で使う資料に関する予習と資料背景調査が必要です。授業には、辞書を持参してください。

# 構造力学Ⅱ

選 択

開講年次：4 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：「構造力学」で履修した構造物内の力の流れ、発生する応力およびその計算方法をベースに、断面の性質・構造物の変形・不静定構造の解法（たわみ角法、固定モーメント法）を理解する。また、実際の構造設計のプロセスを理解する。なお、本講は建築士試験受験のための指定科目である。

■**到達目標**：①部材断面の性状・不静定構造の解法を理解し、②実際の設計プロセスと構造力学の関わりについて理解する。

■**担当教員**：

石丸 修二

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション～構造力学と構造設計
- 第 2 回 部材断面の性質
- 第 3 回 応力度と歪度
- 第 4 回 許容応力度と座屈
- 第 5 回 静定梁の変形
- 第 6 回 仕事と変形
- 第 7 回 不静定構造の解析 たわみ角法（1）
- 第 8 回 不静定構造の解析 たわみ角法（2）
- 第 9 回 不静定構造の解析 固定法（1）
- 第10回 不静定構造の解析 固定法（2）
- 第11回 骨組みの弾塑性性状と保有水平耐力
- 第12回 地震と振動応答解析
- 第13回 構造デザイン（その1）
- 第14回 構造デザイン（その2）
- 第15回 構造デザイン（その3）

■**事前・事後学習**：講義では例題を説明しながら解いていきますが、同様な問題を演習課題として毎週出します。それらを翌週までに提出し、理論・解法を復習することが必要です。（課題は1～2時間程度で解ける量とします。）

■**教科書**：なし（資料を毎回、配布します）

■**参考文献**：『建築構造の力学Ⅰ』『建築構造の力学Ⅱ』・寺本隆幸・森北出版株式会社  
『最新 建築構造力学Ⅰ』, 小幡守, 森北出版  
『建築構造』, 青木博文他, 実教出版  
『よくわかる構造力学の基本』, 松本慎也, 秀和システム

■**成績評価基準と方法**：出席および演習課題提出を重点的に評価する。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験	◎		授業・課題で出した問題と同程度の問題を正解すること	30
小テスト・授業内レポート				
授業態度	○	○		
発表				
課題・作品	◎	◎	課題提出は必須	35
出席	◎	◎	最低2/3以上の出席は必須	35
その他				

■**関連科目**：構造力学（3年次 後期）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：「構造力学」と同様に簡単な数学と物理の知識が必要ですが、できるだけわかりやすい授業を心がけます。また、構造デザインについての授業を設ける予定です。

# 卒業研究(空間デザインコース)

必修 開講年次：4年次通年 科目区分：演習 単 位：6単位 講義時間：90時間

■**科目のねらい**：卒業研究はデザイン学部のカリキュラム中で最大・最重要の科目であり、4年間の学部教育の集大成として位置づけられている。デザイン総合実習I・II・IIIをはじめ、空間デザインコース関連の展開科目・発展科目で培った建築計画、建築意匠、建築史、建築環境・設備計画、都市計画、都市景観・ランドスケープデザイン、インテリアデザイン、環境保全学などから各自の研究テーマを具体的に設定する。また、個々の研究指導教員の指導を受けながら1年間考究を行い、論文及び作品としてまとめるとともに、その研究成果を学内で発表・展示する。研究では札幌市をはじめ、具体的な都市、地域、地区を対象とし、対象地の有する歴史・風土・経済社会環境・人的資源・文化・物理的要素等を詳細に把握して、空間の計画や設計の方針の基礎とする。

■**到達目標**：①空間デザインに係る研究課題を発見し、研究計画書を作成することができる  
 ②研究計画書に基づき、研究を推進することができる  
 ③研究の成果を論文および作品としてまとめ、発表することができる  
 ④空間デザイナー、空間プランナーとしての素養や倫理観を持つことができる

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎矢部 和夫・齊藤 雅也・羽深 久夫・山田 信博・山田 良・椎野 亜紀夫・片山 めぐみ・金子 晋也・大島 卓・未定

■**授業計画・内容**：

第1回	オリエンテーション	第16回	卒業論文・作品制作
第2回	テーマ検討	第17回	卒業論文・作品制作
第3回	テーマ検討	第18回	卒業論文・作品制作
第4回	研究計画書の作成	第19回	卒業論文・作品制作
第5回	予備調査	第20回	卒業論文・作品制作
第6回	予備調査	第21回	卒業論文・作品制作
第7回	予備調査	第22回	卒業論文・作品制作
第8回	調査結果考察	第23回	口頭発表(論文提出)
第9回	研究目標設定	第24回	最終発表(作品提出)
第10回	試作検討	第25回	評価を受けての修正
第11回	試作検討	第26回	評価を受けての修正
第12回	中間発表梗概作成	第27回	評価を受けての修正
第13回	中間発表資料作成	第28回	評価を受けての修正
第14回	中間発表資料作成	第29回	展示準備
第15回	中間発表	第30回	最終提出・展示

■**事前・事後学習**：【事前学習】各自が設定したテーマにそって研究を進め、ゼミで結果発表・報告をする準備を行う。  
 【事後学習】ゼミで指示された内容をふまえ、さらに研究を進める。

■**教科書**：適宜資料を配布する

■**参考文献**：適宜資料を配布する

■**成績評価基準と方法**：最終成果品の質(40%)はもとより、研究への取組み態度(20%)、研究・制作を進めていくプロセス(10%)、期限内にまとめる計画性(10%)、最終発表会の内容(20%)により、総合的に評価する。

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
取り組み姿勢	◎	○			積極的な取り組み姿勢	20
発表	○	◎	○		プレゼン能力と発表内容	20
課題・作品	○	◎	◎		論文・作品の充実度	40
出席					2/3以上の出席	欠格条件
その他	◎	○			プロセス・計画性	20

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習I・II・III、学部連携演習、空間デザインコース関連展開科目・発展科目

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：卒業研究は将来社会人として活躍するための訓練でもあります。これに真摯に取り組む、成就することにより、大きな達成感と自信を得ることができると同時に、人間力も高めることができます。

# 卒業研究(製品デザインコース)

必修

開講年次：4年次通年

科目区分：演習

単位：6単位

講義時間：90時間

■**科目のねらい**：4年間の学部教育の集大成として、デザイン総合実習等で培ったそれぞれの専門分野に基づいて研究テーマを設定し、それぞれの研究指導教員の指導を受けながら論文及び作品としてまとめ、研究成果を学内外で発表・展示する。

■**到達目標**：①研究テーマについて専門的に追求し、1年間を通して卒業研究成果を「論文」と「作品」の両方についてまとめる。  
②上記を通じ、調査分析力、問題解決能力、研究推進力、発想力、デザイン制作力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につける。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎安齋 利典・若林 尚樹・柿山 浩一郎・張 浦華・三谷 篤史・金 秀敬・小宮 加容子・矢久保 空遥

■**授業計画・内容**：

第1回	オリエンテーション	第16回	卒業論文・作品制作
第2回	テーマ検討	第17回	卒業論文・作品制作
第3回	テーマ検討	第18回	卒業論文・作品制作
第4回	研究計画書の作成	第19回	卒業論文・作品制作
第5回	予備調査	第20回	卒業論文・作品制作
第6回	予備調査	第21回	卒業論文・作品制作
第7回	予備調査	第22回	卒業論文・作品制作
第8回	調査結果考察	第23回	口頭発表（論文提出）
第9回	研究目標設定	第24回	最終発表（作品提出）
第10回	試作検討	第25回	評価を受けての修正
第11回	試作検討	第26回	評価を受けての修正
第12回	中間発表梗概作成	第27回	評価を受けての修正
第13回	中間発表資料作成	第28回	評価を受けての修正
第14回	中間発表資料作成	第29回	展示準備
第15回	中間発表	第30回	最終提出・展示

■**事前・事後学習**：事前・事後学習は、指導教員によるが、毎回、進捗についてレジュメ等をまとめて報告することが望ましい。

■**教科書**：テーマに応じ、必要と思われる資料を各研究指導教員より紹介する。

■**参考文献**：テーマに応じ、必要と思われる資料を各研究指導教員より紹介する。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験				
小テスト・授業内レポート				
授業態度	○		積極的な取り組み姿勢と計画性	20
発表	○		発表内容と適切なプレゼン	20
課題・作品	◎		論文、作品の完成度	60
出席			2/3以上の出席	欠格条件
その他				

■**関連科目**：デザイン総合実習I～III

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：便宜上授業計画・内容は設定されているが、基本的には研究指導教員の指導方針にしたがうこと。十分な科学的根拠に基づいた、新規性の高い、また卒業研究にふさわしい研究テーマを見つけ、真摯に取り組む中で自らの成長を図ること。第三者に読まれることを想定し、客観的な記述による卒業論文を執筆すること。学部教育の集大成として、時間の許す限り作品の完成度を高める努力をすること。

# 卒業研究(コンテンツデザインコース)

必修 開講年次：4 年次通年 科目区分：演習 単 位：6 単位 講義時間：90 時間

■**科目のねらい**：受講者はこれまで、各コースに所属しながらデザイン総合実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの他、必修・選択諸科目において、総合的なデザインプロセスや特定の専門的技術・知識を身につけた。卒業研究では先に学んだ内容等を総合的に応用し、指導教員の指導のもと設定したテーマに基づき、作品と論文を完成させ、これを発表・展示する。以上のようなプロセスを経て、論理的な思考能力、高い創造能力、高いコミュニケーション能力、管理・運営能力の定着を目指す。

■**到達目標**：①自身が抱く好奇心や課題意識等を出発点とした研究テーマと目標を設定することができる。  
②設定した目標を実現するための妥当な研究計画を立案することができる。  
③研究計画に基づき行動し、テーマや目標に対応した論文・作品を作成することができる。  
④作成した論文・作品を適切に発表・展示することができる。  
⑤物事を創造する人として必要な素養・倫理観を持つ。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

○石井 雅博・城間 祥之・細谷 多間・藤木 淳・大淵 一博・福田 大年・松永 康佑

■**授業計画・内容**：

第1回	オリエンテーション	第16回	卒業論文・作品制作
第2回	テーマ検討	第17回	卒業論文・作品制作
第3回	テーマ検討	第18回	卒業論文・作品制作
第4回	研究計画書の作成	第19回	卒業論文・作品制作
第5回	予備調査	第20回	卒業論文・作品制作
第6回	予備調査	第21回	卒業論文・作品制作
第7回	予備調査	第22回	卒業論文・作品制作
第8回	調査結果考察	第23回	口頭発表（論文提出）
第9回	研究目標設定	第24回	最終発表（作品提出）
第10回	試作検討	第25回	評価を受けての修正
第11回	試作検討	第26回	評価を受けての修正
第12回	中間発表梗概作成	第27回	評価を受けての修正
第13回	中間発表資料作成	第28回	評価を受けての修正
第14回	中間発表資料作成	第29回	展示準備
第15回	中間発表	第30回	最終提出・展示

■**事前・事後学習**：

事前学習：書籍や配布された資料等の読み込み、情報の収集と整理等を行うこと。担当教員毎の課題に対し、進捗報告用のレジュメ等をまとめること。

事後学習：指摘・指導内容を十分吟味し、見直し・再検証を行うこと。必要に応じて、報告書、モデル作成、プロトタイピング等を行うこと。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度	○	○	○	積極的な取り組み姿勢	10
発表			◎	プレゼン能力	10
課題・作品	◎	◎	○	論文・作品の成果	60
出席	○	○	○	2/3以上の出席	欠格条件 20
その他					

■**関連科目**：デザイン総合実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、コンテンツデザインコース関連展開科目・発展科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：卒業研究は将来社会人として活躍するための重要なステップです。真摯な取り組み、大いなる成長を期待します。また、卒業研究は各教員によるゼミ形式で行なわれることと各自がテーマ設定を行なう為、学生個々に授業計画・内容が異なります。



# 卒業研究(メディアデザインコース)

必修

開講年次：4年次通年

科目区分：演習

単 位：6単位

講義時間：90時間

■**科目のねらい**：受講者はこれまで、各コースに所属しながらデザイン総合実習I・II・IIIの他、必修・選択諸科目において、総合的なデザインプロセスや特定の専門的技術・知識を身につけた。卒業研究では先に学んだ内容等を総合的に応用し、指導教員の指導のもと設定したテーマに基づき、作品と論文を完成させ、これを発表・展示する。以上のようなプロセスを経て、論理的な思考能力、高い創造能力、高いコミュニケーション能力、管理・運営能力の定着を目指す。

■**到達目標**：①自身の研究テーマの目的を、社会的貢献性や既知の研究と関連付けて理解できること。  
②研究目的に沿って論文の執筆、作品制作を完成させる。  
③論文は論理的に文章で記述し、作品制作物ではデザイン計画の明確な方向性を示すこと。  
④研究成果を口頭で発表し、討論において的確に自身の考えを述べること。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎上遠野 敏・武田 巨明・石田 勝也・須之内 元洋

■**授業計画・内容**：

第1回	オリエンテーション	第16回	卒業論文・作品制作
第2回	テーマ検討	第17回	卒業論文・作品制作
第3回	テーマ検討	第18回	卒業論文・作品制作
第4回	研究計画書の作成	第19回	卒業論文・作品制作
第5回	予備調査	第20回	卒業論文・作品制作
第6回	予備調査	第21回	卒業論文・作品制作
第7回	予備調査	第22回	卒業論文・作品制作
第8回	調査結果考察	第23回	口頭発表（論文提出）
第9回	研究目標設定	第24回	最終発表（作品提出）
第10回	試作検討	第25回	評価を受けての修正
第11回	試作検討	第26回	評価を受けての修正
第12回	中間発表梗概作成	第27回	評価を受けての修正
第13回	中間発表資料作成	第28回	評価を受けての修正
第14回	中間発表資料作成	第29回	展示準備
第15回	中間発表	第30回	最終提出・展示

■**事前・事後学習**：

予習について：研究テーマに即した先行研究を調査して、仮説や新規性に繋がる起点を構築することが望まれます。  
復習について：論文や作品の完成度や密度を高めるために、授業時間以外に執筆や作品制作に積極的に取り組む姿勢が望まれます。

■**教科書**：適宜資料を配布する

■**参考文献**：適宜資料を配布する

■**成績評価基準と方法**：取組み姿勢、提出物、およびプレゼンテーションにより評価する。

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
卒業研究論文・制作物遂行能力・卒業研究成果物	◎	◎	◎	◎	課題に対する展開能力と独創性、困難性、貢献性	60
研究態度	○			○	積極的な姿勢	10
発表会			◎	◎	独創性と貢献性	30
出席					2/3以上の出席	欠格条件
その他						

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習I・II・III

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：3年までのデザイン総合実習と異なり、卒業研究は大学教育における集大成であり、学生一人一人がメディアデザイン分野の開拓者であるとの気概を持って研究に取り組んでほしい。研究論文・作品制作双方で、独創性や社会的貢献性に富んだテーマが望まれる。研究テーマに関連する専門知識の理解を深め、研究論文作成・作品制作過程では、コース専任教員全員が横断的な指導を行う。中間発表会を通してプレゼンテーション能力の向上にも心がけて下さい。

# 生涯学習概論

自由

開講年次：3年次前期

科目区分：講義

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：今日、生涯学習の重要性が増し、様々な機会と方法で継続的に学習することが求められるようになった。人々の生涯学習は、従来の「生活拡充共生型」の社会教育にとどまらず、職業やまちづくりなどに必要な専門的能力の獲得を目指す「リカレント教育」（あるいは継続教育）を含むものとして展開しているが、後者を含む生涯学習活動を支援・促進する理論と実践の意義を理解する。とくに博物館学芸員を含む生涯学習・関連職員にはどんな専門性が必要なのかを理解することを重視する。生涯学習活動を支援・促進する理論と実践の意義を理解するため講義形式で授業をすすめる。博物館学芸員資格取得に必要な他の科目を履修することをすすめる。それらの科目との関連にふれつつ講義をすすめる。

■**到達目標**：①生涯学習の定義がわかる。  
②生涯学習の具体的な動向を理解する。  
③生涯学習に関わる職員に要請されている専門性の内容がわかる。

■**担当教員**：

木村 純

■**授業計画・内容**：

- 第1回 本講義のねらいと進め方
- 第2回 生涯学習の理念と歴史（1）
- 第3回 生涯学習の理念と歴史（2）
- 第4回 生涯学習推進の行政と体制
- 第5回 生涯学習の現代的課題と学習内容
- 第6回 成人教育学の動向と成人教育の方法
- 第7回 生涯学習の実践事例（1）都市部の実践事例
- 第8回 生涯学習の実践事例（2）農村部の実践事例
- 第9回 生涯学習施設と専門職員（1）博物館とその他の社会教育施設と専門職員
- 第10回 生涯学習施設と専門職員（2）学芸員の役割と専門性
- 第11回 博物館・美術館ボランティアの役割とその学び
- 第12回 博物館・美術館による社会的包摂と居場所づくり
- 第13回 生涯学習計画づくりと住民参加
- 第14回 生涯学習の評価と活用
- 第15回 まとめ

■**事前・事後学習**：各回の授業で事前に読んでおくことが必要な文献や資料を紹介、あるいは配布します。また、事後学習についても、学習しておくべき事項について授業時に配布する用紙に書いて配布します。

■**教科書**：教科書は使わず、毎回詳細な資料を配布します。

■**参考文献**：講義の進行に合わせて適宜紹介します。

■**成績評価基準と方法**：出席30% 中間レポート20% 最終レポート50%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	①到達目標	②到達目標	③到達目標		
出席	○	○	○	毎回出欠を確認する	30
中間レポート	○	○	○	講義の正しい理解に基づく感想が記述されていること	20
最終レポート	◎	◎	◎	課題にたいして論理的で説得力ある記述が行われていること	50

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：博物館学芸員資格取得に必要な科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：講義中の質問を歓迎します。積極的に質問をしたり意見を述べていただきたいと思います。

# 博物館概論

自由

開講年次：3年次前期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：他の学芸員資格取得関連の自由科目内容との関連から、本科目では各内容についての概論を扱う。博物館施設への関心を喚起し、学芸員の役割を理解することを目標とする。博物館は各地域における自然・歴史・文化に係る知識の宝庫であり、地域とのつながりが重要である。

■**到達目標**：博物館の歴史を通して博物館の概念を理解し、併せて博物館法を通して博物館への基本的認識を深める。また、文化財の収集や保存、展示等の基礎的知識を習得する。

- ①博物館の歴史を通して博物館の概念を理解する。
- ②博物館法を通して博物館への基本的認識を深める。
- ③文化財の収集や保存、展示等の基礎的知識を習得する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎矢部 和夫、岩崎 直人、越前谷 宏紀

■**授業計画・内容**：

- 第1回 博物館の目的と機能 矢部
- 第2回 博物館の歴史 越前谷
- 第3回 博物館法と諸制度 越前谷
- 第4回 博物館論 越前谷
- 第5回 博物館における収集・保存 越前谷
- 第6回 博物館における研究・展示 越前谷
- 第7回 博物館の教育と社会 越前谷
- 第8回 博物館の課題とこれから 越前谷
- 第9回 展覧会の運営と形態 岩崎
- 第10回 展覧会の企画(1) 岩崎
- 第11回 展覧会の企画(2) 岩崎
- 第12回 展覧会企画実習(1) 岩崎
- 第13回 展覧会企画実習(2) 岩崎
- 第14回 展覧会企画発表 岩崎
- 第15回 博物館学における美術館 岩崎

■**事前・事後学習**：毎回30分以上の予習、復習を行うことが望ましい。

■**教科書**：使用しない。各時間ごとに資料を配布する。

■**参考文献**：博物館概論 鈴木真理編集「大堀哲監修 博物館学シリーズ1」樹村房

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
出席回数	○	○	○		20
レポート、課題	◎	◎	◎	博物館の役割を把握できたか	80

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：学芸員関連科目すべて

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：いま博物館は住民との関わりのなかで、地域おこしに如何に関わっていくかが問われています。

# 博物館資料論

自由 開講年次：3年次前期 科目区分：講義 単位：2単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：博物館資料の収集、保存・管理、調査研究、展示は博物館活動の基幹業務である。本講義では、これらについて理念と方法を学び、博物館資料の概念を明確にし、博物館活動の基本について理解を図る。前半は美術館資料、後半は考古学資料について学ぶ。

■**到達目標**：博物館学芸員資格保持者にとって文化財保護にいかなる貢献ができ、そのために何をすべきかを習得することを目的とする。

- ①博物館資料の重要性を知る。
- ②美術館資料に関する情報処理とその利用、および資料の保存・管理と公開について熟知する。
- ③考古学資料の情報処理とその利用、保存管理と公開の問題を通じて、博物館の意義を熟知する。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

○佐藤 弥生、小野 裕子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 美術館における資料の意義
- 第3回 美術館資料のドキュメンテーション
- 第4回 美術館資料のデータベース
- 第5回 美術館資料の取り扱い
- 第6回 美術館資料の保存環境
- 第7回 美術館資料をめぐる権利I
- 第8回 美術館資料をめぐる権利II
- 第9回 考古学資料の特質I（資料の特質・他分野との相違点と共通性を理解する）
- 第10回 考古学資料の収集（資料収集の種類と方法を理解する）
- 第11回 考古学資料の整理I（資料に応じたクリーニング方法とその復元方法を理解する）
- 第12回 考古学資料の整理II（資料に応じた分類方法とその記録方法を理解する）
- 第13回 考古学資料の保管（資料の特性に応じた保管方法と管理上の利便性を理解する）
- 第14回 考古学資料の展示（何をどう展示するか、展示の意義とシナリオの必要性を理解する）
- 第15回 考古学資料の活用（資料は誰の物か？誰が、なぜ守るのか？）

■**事前・事後学習**：第1回～第8回：授業内容に即してレポートや課題発表などの作成を課す。課題作成、発表準備など、授業時間外の作業が必要になる。第9回～第15回：[事前学習] 第10回目以降、毎回、次講義に関する予備知識を補えるような小プリントを配布する。[事後学習] 毎回、講義に関するミニ・レポートを課し、講義への理解度を確認する。

■**教科書**：使用しない（講義に関するプリントを毎回配付）

■**参考文献**：大堀哲・水嶋英治編（2012）『博物館学I 博物館概論\*博物館資料論（新博物館学教科書）』、学文社：東京。（ISBN：978-4-7620-2284-5）

玉村雅敏（2013）『地域を変えるミュージアム—未来を育む場のデザイン』、英治出版：東京。（ISBN：9784862761538）

平井康之（2014）『知覚を刺激するミュージアム』、学芸出版：東京。（ISBN：9784761525682）

■**成績評価基準と方法**：レポート80%、授業態度20%。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
レポート、課題	◎	◎	◎	第1回～8回は理解度の高さが窺われるレポート、および課題に対する真摯な姿勢。第9回～15回は毎回の講義に対する理解度を10段階で評価し、ミニレポートの総合点をレポートの評価点とする。	80
出席数・授業態度	○	○	○	完全出席を原則とする。毎回の講義中に行なう質疑応答から、理解度や意欲を評価する。	20

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：博物館学概論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：博物館のための表現者としてのデザイナーを目指すなら、様々な博物館資料の特色とその取り扱いを一通り学び、その上で、博物館の歴史的・社会的役割を理解することが必要です。他大学では珍しい分野別の講師陣を揃えた層の厚い講義が待っています。積極的な受講・取り組みを期待します。

# 博物館情報・メディア論

選 択

開講年次：3 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：博物館における情報メディアの意義と活用を理解する。博物館における情報コミュニケーション活動の役割を考察し博物館などにおける「情報」と「メディア」の概念、情報の展示コンセプトや次世代の情報提供や活用の方向性、方法論を具体的な事例をもとに習得する。メディアアーカイブやインターネットの多様な活用方法などについても学ぶ。

■**到達目標**：①博物館における情報やメディアの活用方法、情報発信の課題と展望を理解し、学芸員として必要な博物館における情報・メディア環境をマネジメントする基礎的能力を養う。  
②博物館情報誌を想定したDTPやウェブ制作の展望と方法論、博物館展示の広報宣伝の手法などを習得し、ICT環境における博物館の未来、デジタルアーカイブやソーシャルメディア時代に対応する次世代の博物館の役割を考察する。

■**担当教員**：

武田 亘明

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 ICT社会における生涯学習とメディアの意義
- 第 2 回 博物館情報とメディア
- 第 3 回 博物館のデジタル化
- 第 4 回 資料情報のドキュメンテーションとデータベース
- 第 5 回 デジタルアーカイブの現状と課題1
- 第 6 回 デジタルアーカイブの現状と課題2
- 第 7 回 webを活用したコミュニケーション戦略検討
- 第 8 回 教育情報の共有とメディア・情報共有サイトの基本
- 第 9 回 美術館取材（芸術の森野外美術館）1
- 第10回 美術館取材（芸術の森野外美術館）2
- 第11回 情報共有サイトの基本設計
- 第12回 情報共有サイトの設計・構築
- 第13回 情報共有サイトの設計・構築
- 第14回 情報共有サイトの発表・講評会
- 第15回 知的財産権と個人情報、生涯学習とまちづくり
- 第15回 生涯学習とまちづくり

■**事前・事後学習**：日頃から生涯学習関係情報を収集すること。毎回の授業で、関係資料や関係施設のウェブの閲覧、アプリケーションの活用について具体的に指示する。

■**教科書**：特に指定しない。

■**参考文献**：授業中に資料を配布する。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験				
小テスト・授業内レポート	○			20
授業態度				
発表		○		20
作品		○		30
出席	○	○	2/3以上の出席	30
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

# 博物館教育論

自由

開講年次：3年次前期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：人々にとっての学びの意義と博物館の役割について理解する。

博物館教育の意義と理念について理解する。

博物館の利用とその学びの特性について理解する。

博物館教育の実践について理解する。

博物館と学校教育の関係について理解する。

■**到達目標**：博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。

①博物館の歴史を概観し、その教育的意義を理解する。

②テーマ別の博物館の利用実態を把握し、その教育機能の意義を理解する。

③博物館の教育機能・理論のあり方の実践についての知識・技術を身につける。

■**担当教員**：

細川 健裕

■**授業計画・内容**：

第1回 生涯学習の定義と博物館教育の意義について理解する

第2回 日本の博物館教育史

第3回 博物館教育の意義と理念（1）コミュニケーションとしての博物館教育

第4回 博物館教育の意義と理念（2）博物館教育の意義

第5回 博物館教育の意義と理念（3）博物館教育の方針と評価

第6回 博物館の利用と学び（1）博物館の利用実態と利用者の博物館体験

第7回 博物館の利用と学び（2）博物館における学びの特性

第8回 博物館教育の実践（自然と生態の博物館）

第9回 博物館教育の実践（科学と技術の博物館）

第10回 博物館教育の実践（芸術の博物館）

第11回 博物館教育の実践（歴史の博物館）

第12回 博物館におけるアクティブラーニング

第13回 博物館教育活動の企画と実施（1）

第14回 博物館教育活動の企画と実施（2）

第15回 博物館教育と学校教育の関連

■**事前・事後学習**：第1・2回は、既習の学芸員資格関連科目について理解を深めた上で受講しましょう。第3～12回の講義内容の事後学習が第13・14回の事前学習として企画内容に活かすことができるように、具体的な教育活動をサービス提供者の視点で取り組むことを求めます。

■**教科書**：使用しない

■**参考文献**：小笠原喜康ほか『博物館教育論』2012 ぎょうせい

George E. Hein『博物館で学ぶ』2010 同成社

ミハエル・パーモンティエ『ミュージアム・エデュケーション』2012 慶應義塾大学出版会

小笠原喜康『ハンズ・オン考—博物館教育認識論』2015 東京堂出版

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
出席状況	○	○		規定数の出席があること	30
講義内提出物など	○	◎	◎	各自の経験をもとに、関連事象を考察していること	30
課題	◎	○	◎	講義内容を理解し、教育普及の実践を想定した企画ができること	40

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：博物館概論、博物館資料論、博物館展示論、博物館資料保存論、生涯学習論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：各自の博物館体験を振り返り、博物館における学びについての意見を求めながら授業を展開します。講義に臨むに当たり、博物館教育について各々の考える理想と課題を整理しておきましょう。

# 博物館経営論

自由

開講年次：3年次後期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：博物館の組織及び施設形態や運営活動について包括的な視点から教示する。文化財や資料の収集、管理、調査研究、活用、教育普及、また博物館の人員構成や活動、施設等の実態について学び、博物館経営（ミュージアムマネジメント）の視点から博物館の運営活動に関して理解を深める。

■**到達目標**：博物館の設置条件、機構や組織を理解し、運営の目的や理念、方法論について考察を深める。併せて博物館の財政基盤や経営について学び、博物館経営（ミュージアムマネジメント）の基礎的な能力を養う。

- ①博物館の制度や様々な組織・運営形態を理解し、博物館運営における今日的な課題を認識する。
- ②博物館の使命や様々な活動の目的を理解し、社会や地域におけるその多様な役割を考える。
- ③博物館が抱える今日的な問題を理解し、ミュージアムマネジメントについての理解を深める。

■**担当教員**：

佐藤 幸宏

■**授業計画・内容**：

- 第1回 ミュージアムマネジメントについて
- 第2回 博物館の行財政制度
- 第3回 博物館の財務形態
- 第4回 博物館の施設・設備
- 第5回 博物館の組織・職員
- 第6回 博物館の展示・教育普及活動
- 第7回 博物館の使命(ミッション)・計画・評価
- 第8回 博物館の倫理(行動規範)
- 第9回 博物館の危機管理
- 第10回 博物館利用者との関係(広報、マーケティング、利用者調査等)
- 第11回 博物館における市民参画(友の会、ボランティア、支援組織等)
- 第12回 博物館ネットワーク及び他館との連携
- 第13回 他機関(行政・学校・教育機関)との連携
- 第14回 博物館と地域社会(地域の活性化や社会との連携)
- 第15回 まとめ

■**事前・事後学習**：毎回授業のテーマが変わるので、予定されている授業内容をシラバスで確認し、予め配布されている資料などに目を通し、ある程度自分の考えをまとめておくこと。受講後は、配布資料などを復習しながら授業内容の理解を深め、さらに参考図書、新聞、ウェブメディアなどを参照しながら、自身の考察を深めることが求められる。予習・復習時間としてそれぞれ、2時間程度が必要である。

■**教科書**：特定の教科書は用いず、講義内容に応じて、適宜、資料を配布する。

■**参考文献**：大堀哲編著『博物館学教程』（東京堂出版）

大堀哲・水嶋英治編著『新博物館学教科書 博物館学Ⅲ—博物館情報・メディア論\*博物館経営論』（学文社）

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業内レポート	○	○	◎	授業内容を理解していること	40
授業態度	○	○	○	積極的な姿勢	20
出席	○	○	○	完全出席はプラスの評価	40

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：博物館概論 博物館資料論 博物館教育論 博物館資料保存論 博物館展示論 博物館情報・メディア論

■**地域との繋がり**：講義の中で北海道の博物館施設を事例として取り上げ、現在、博物館が抱える問題を浮き彫りにする。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：今日、博物館を取り巻く時代や社会状況は大きく変化しています。現職の学芸員としての経験や時事的な問題を事例として扱いながら、現代における博物館運営の問題を一緒に考えてゆきます。

# 博物館資料保存論

自由

開講年次：3年次後期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：資料を適切な環境で保存・管理することは博物館の重要な使命である。資料保存の諸条件の中でも、日本の気候の特徴である夏季の高温多湿によるカビ対策は、多くの博物館の課題である。授業ではIPM（総合的有害生物管理）をはじめ博物館における資料の保存環境について実例を通して学習する。

■**到達目標**：博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う。

- ①博物館における資料保存や展示環境の現状を理解する。
- ②資料を良好に保存するための基礎的な知識を習得する。
- ③文化財の保存と活用を通して自然環境やその保護について考察する。

■**担当教員**：

福岡 孝

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション 博物館における資料保存の意義
- 第2回 I) 資料の保全 1. 文化財保護の歴史
- 第3回 2. 資料の災害対策
- 第4回 II) 博物館資料の保存環境 1. 博物館の施設・設備と保存環境
- 第5回 2. 資料保存の諸条件とその影響
- 第6回 3. 資料の状態調査と修理・修復
- 第7回 4. 伝統的な保存方法
- 第8回 5. カビ対策とIPM
- 第9回 6. 事例研究：樹木・木材の保存について
- 第10回 III) 環境保護と博物館の役割 1. 文化財の保存と返還問題
- 第11回 2. 自然環境の保護・保全
- 第12回 3. 資料の保存と管理制度
- 第13回 市内博物館施設の資料保存の実例I
- 第14回 市内博物館施設の資料保存の実例II
- 第15回 まとめ

■**事前・事後学習**：事後に小テストがあるので、授業内容の理解のほか、見解が分かれる内容・議論については、説得力のある自分の考えをまとめておくこと。

■**教科書**：原則として使用しない。必要なプリントは講義の時に配布する。配布したプリントはファイルに綴じるなどして、紛失しないこと。

■**参考文献**：「博物館資料保存論」 石崎武志編著 講談社・2012年発行。  
「博物館資料保存論」 本田光子・森田 稔編著 放送大学教育振興会・2012年発行。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③		
出席	○	○	○	3分の2以上の出席	30
レポート	◎	◎	○	内容	30
小テスト(3回)	◎	◎	○	30点	30
課題発表	○	○	○	内容	10

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：博物館資料論 博物館展示論 博物館情報・メディア論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：博物館資料保存に関わる内容は、我々が日常生活で体験する現象の中に潜んでいます。それらの現象を科学的に解明し対応することが、博物館の資料保存に結びつきます。新聞やTVなど、マスコミに取り上げられる関連内容にも注目し、問題意識を持って授業に臨んでほしいと思います。



# 博物館展示論

自由

開講年次：3年次後期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：展示の歴史を通じて、手法の発達やその応用での教育活動の在り方を基本とし、博物館種別における展示形態を理論的に理解させ、それらの展示に関わる知識と技術を指導し、効果ある博物館展示の機能に関わる基礎能力と、優れたデザインへの感性を養う。

博物館における展示が果たす教育的役割を基調とし、展示の諸形態の対応できる発想力と創作力を講義や実習で行い、知識や技術を有効に活かすことを学ぶ。

■**到達目標**：①展示に係わる基礎知識と技術を習得する。  
②展示の機能と優れたデザインへの感性を養う。  
③展示諸形態に対応した発想で創作実習する。

■**担当教員**：

亀谷 隆

■**授業計画・内容**：

- 第1回 コミュニケーションとしての展示について
- 第2回 欧米諸国と日本の博物館展示の歴史について
- 第3回 博物館における調査研究と展示について
- 第4回 展示が果たす政治性と社会性について
- 第5回 博物館展示の諸形態について
- 第6回 展示企画とデザインについて (1) -発想と企画-
- 第7回 展示企画とデザインについて (2) -設計と制作-
- 第8回 展示、施工の実例について
- 第9回 展示資料の貸借、協力に関する業務について (他館、所蔵者、専門業者等)
- 第10回 展示構成、動線計画について
- 第11回 展示の照明、演出について
- 第12回 展示と保護について、野外展示について
- 第13回 展示の解説について (文字、人、機器による解説、図録)
- 第14回 展示の実地見学 (札幌芸術の森美術館、野外美術館)
- 第15回 展示の評価と改善・更新について

■**事前・事後学習**：毎回授業のテーマが変わるので、予定されている授業内容をシラバスで確認し、予め配布されている資料などに目を通し、ある程度自分の考えをまとめておくこと。受講後は、配布資料などを復習しながら授業内容の理解を深め、さらに参考図書、新聞、ウェブメディアなどを参照しながら、自身の考察を深めることが求められる。

■**教科書**：

■**参考文献**：『博物館学講座 9』加藤有次他 (共著) 雄山閣出版

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
レポート	○			①展示に係わる基礎知識と技術を習得する。	20
		○		②展示の機能と優れたデザインへの感性を養う。	20
			◎	③展示諸形態に対応した発想で創作実習する。	20
出席	○	○	○		40

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：博物館概論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館教育論

■**その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：博物館における展示は重要であり広い視野で、関連する分野の知識や技術を習得し、個性ある展示への試みと評価を経験するのが望ましい。

# 博物館実習

自由

開講年次：4年次前期

科目区分：実習

単 位：3単位

講義時間：90時間

■**科目のねらい**：学内実習と館内実習を通じて、学芸員業務と博物館の現状に関するより深い理解へ導くことを図ります。

■**到達目標**：博物館関係科目を踏まえて博物館資料の文化財としての意義や構造を知り、博物館の活動に実際に触れます。あわせて個別の博物館の実情に即して、資料収集・保管・展示、調査研究、教育普及等の活動についての具体的な知識・技能を習熟してください。

- ①博物館資料の文化財としての意義や構造を知り、博物館の活動に実際に触れる。
- ②個別の博物館の実情に即して、活動についての具体的な知識・技能を習熟する。

■**担当教員**：

◎矢部 和夫、岩崎 直人、古澤 仁、越前谷 宏紀

■**授業計画・内容**：

- 第1・2回 博物館実習の前に—実習の目的や意義 岩崎・矢部  
第3・4回 美術系博物館運営を推察する 岩崎  
第5・6回 美術系博物館資料のドキュメンテーション作業 岩崎  
第7・8回 美術系博物館資料の取り扱い方 岩崎  
第9・10回 美術系博物館資料をさらに美しく展示する 岩崎  
第11・12回 鑑賞を助ける 岩崎  
第13・14回 展覧会広報物の作成 岩崎  
第15・16回 鑑賞を表現する 岩崎  
第17・18回 自然系または歴史・人文系博物館の学芸員業務—博物館の役割 古澤  
第19・20回 自然系または歴史・人文系博物館の学芸員業務—資料収集の実務習得 越前谷  
第21・22回 自然系または歴史・人文系博物館の学芸員業務—資料の保存・保管の実務習得 越前谷  
第23・24回 自然系または歴史・人文系博物館の学芸員業務—資料分類・図化・写真の実務習得 越前谷  
第25・26回 自然系または歴史・人文系博物館の学芸員業務—資料の公開・活用・収蔵の実務習得 越前谷  
第27・28回 自然系または歴史・人文系博物館の学芸員業務—普及啓発活動に関わる実務習得 越前谷  
第29・30回 学内実習のまとめと館内実習に関する指導 越前谷・矢部

以下、各実習施設において館内実習（5日間以上）を行う。

■**事前・事後学習**：毎回30分以上の予習と復習をすることが望ましい

■**教科書**：指定しない

■**参考文献**：指定しない

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
実習のレポート	○	○	観察力、記載の正確性、新規性	40
実習中の姿勢	○	○	積極性、学ぼうとする意欲	60

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：学芸員取得関連授業科目すべて

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：ひとりの社会人として良識を持って実習に臨んでください。

# 形態機能学Ⅰ

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：演習

単位：2単位

講義時間：60時間

**■科目のねらい：**形態機能学は、ⅠとⅡを合わせて人体の構造と機能を全般的に学習する構成になっています。形態機能学Ⅰでは、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、血液・造血系、消化器系、生殖器系といったいわゆる内臓と、これらを統合する内分泌系について学びます。内分泌系とともに内臓を統合する自律神経系については、形態機能学Ⅱで学びますが、形態機能学Ⅰでも必要に応じて触れていきます。授業では、形態機能学は、病態や看護に関連づけて学びます。

## ■到達目標：

1. 身体の切断面（矢状断、前額断、水平断）などの断面図を説明できる。
2. 四肢における近位、遠位とはどこを指すのかを説明できる。
3. 解剖学的正位とはどのような姿勢を指すのかを説明できる。
4. 各部の名称を説明できる。
5. 全身の器官系（循環器系、呼吸器系など）について、その働きを簡潔に述べることができる。
6. 循環系とリンパ系の関係を説明できる。
7. 心臓の4つの部屋の名前を血流の方向に従って説明できる。
8. 冠状動脈の起始点と心臓表面の走り方を説明できる。
9. スターリングの法則を説明できる。
10. 心音の聴診部位を説明できる。
11. 主な動脈の名前を上行動脈から血流に沿って説明できる。
12. 脈が触れる動脈の名前を説明できる。
13. 収縮期血圧と拡張期血圧を説明できる。
14. 脈圧を説明できる。
15. 血管壁の内膜、中膜、外膜の定義を説明できる。
16. 弾性型動脈と筋性型動脈の働きの違いを説明できる。
17. 抵抗血管（細動脈）の働きを説明できる。
18. 毛細血管と組織との間の栄養物、老廃物のやりとりを説明できる。（血漿滲透圧）
19. 採血に用いられる静脈の名前を説明できる。
20. 静脈の壁の特徴を説明できる。
21. 末梢組織にあるリンパ管の役割を説明できる。
22. 胎生期の循環系について説明できる。
23. 出生後に使われなくなった遺残物の名前を説明できる。
24. 刺激伝導系をペースメーカーになるものから順番に説明できる。
25. 正常の心電図を描いてP波、QRS波、T波の名称を入れることができる。
26. P波、QRS波、T波の意味を説明できる。
27. 心電図から心拍数を算出することができる。
28. 命に危険がある不整脈の心電図がわかるようになる。（課題：A4用紙数枚に心室細動、滑不全症候群、房室ブロックの心電図を調べ記載し、レポートとして提出する）
29. 鼻腔において吸った空気の湿度と温度を最適にする仕組みを説明できる。
30. 副鼻腔の位置と名前を説明できる。
31. 喉頭軟骨（甲状軟骨、輪状軟骨、披裂軟骨、喉頭蓋軟骨）を描くことができる。
32. 発声の仕組みを説明できる。
33. 気管の壁の構造を説明できる。
34. 気管支が気管から分かれる角度は右と左のどちらが小さいかを説明できる。
35. 右肺と左肺の肺葉の数を説明できる。
36. 吸気と呼気のメカニズムを説明できる。（課題：呼吸器モデルを作成して提出する）
37. 肺胞の構造とガス交換を説明できる。
38. II型肺胞上皮細胞の仕事を説明できる。
39. ヘーリング・プロイエル反射を説明できる。
40. 呼吸の化学的調節を説明できる。
41. スパイロメトリーをみて、肺活量はどこを指すかを説明できる。
42. 腎臓の断面図で皮質と髄質を説明できる。
43. 腎小体の構造を説明できる。
44. 糸球体の毛細血管が動脈に挟まれている理由を説明できる。
45. クレアチニン・クリアランスの持つ意味を説明できる。
46. ネフロン（腎単位）に含まれる尿細管の名前を説明できる。
47. 皮質ネフロンと傍髄質ネフロンの役割の違いを説明できる。
48. 対向流増幅系と対向流交換系を説明できる。
49. 尿の濃縮機構を説明できる。
50. 傍糸球体装置の位置と働きを説明できる。
51. レニン・アンジオテンジン・アルドステロン系を説明できる。
52. 集合管に働く水電解質ホルモンの名前を説明できる。
53. 集合管における酸を排出する細胞の名前を説明できる。
54. 腎孟、尿管、膀胱の構造と働きを説明できる。
55. 尿道の長さの男女差について説明できる。
56. 排尿反射について説明できる。
57. 体液全体の体重に占める割合を説明できる。
58. 細胞外液の体重に占める割合を説明できる。
59. 呼吸器と泌尿器による体液の酸塩基平衡のしくみを説明できる。
60. ベンダーソン・ハッセルバルヒの式を書ける。
61. 重炭酸イオン緩衝系について説明できる。
62. 体温の測定部位による違いを説明できる。
63. 体温調節中枢がある脳の部位名を説明できる。
64. 体温の日内変動を説明できる。
65. 高体温、低体温に対する生体の反応を説明できる。
66. 血球の種類と役割を説明できる。
67. 赤血球、白血球、血小板の血中濃度の基準値を説明できる。
68. 赤血球の寿命を説明できる。
69. 赤血球造血刺激になるのはなにかを説明できる。
70. ヘマクリットとは何かを説明できる。
71. ヘマトクリットの基準値を説明できる（男性と女性で）。
72. ヘモグロビンの基準値を説明できる（男性と女性で）。
73. ヘモグロビンの酸素解離曲線が右方移動する条件を説明できる。
74. 血漿に溶けている物質にはどのようなものがあるかを説明できる。
75. 血漿タンパクの一つであるアルブミンの働きを説明できる。
76. 血漿と血清の違いを説明できる。
77. 血液凝固系と線溶系を説明できる。
78. 骨髄における造血を説明できる。
79. 脾臓のある位置と働きを説明できる。
80. 自然免疫と獲得免疫を説明できる。
81. 液性免疫と細胞免疫を説明できる。
82. 胸腺の位置と働きを説明できる。
83. 胸腺の加齢変化を説明できる。
84. リンパ管とリンパ節の働きを説明できる。
85. 免疫グロブリンの種類と特徴を説明できる。
86. 血液型（ABO型とRh型）を説明できる。
87. 能動免疫と受動免疫の例をあげることができる。
88. アルルギーⅠ型～Ⅳ型を説明できる。
89. 歯の断面図でエナメル質、象牙質、セメント質がどれかを説明できる。
90. 乳歯と永久歯の本数を説明できる。
91. 顎関節を動かす咀嚼筋4つの名前を説明できる。
92. 顎口と顎閉口に働く筋肉を説明できる。
93. 消化管の壁の基本構造を説明できる。
94. 食道の入り口と出口の名前を説明できる。
95. 消化管の壁の成分と働きを説明できる。
96. 嚥下を説明できる。
97. 食道の入り口と出口の名前を説明できる。
98. 消化管の壁の基本構造を説明できる。
99. 食道の生理学的狭窄部位を説明できる。
100. 胃の入り口と出口の名前を説明できる。
101. 胃の区分を説明できる。
102. 胃底腺の主細胞と壁細胞の分泌物を説明できる。
103. 胃はなぜ自分を消化しないかを説明できる。
104. ガストリン（消化管ホルモン）の分泌部位と標的細胞を説明できる。
105. 十二指腸腺の働きを説明できる。
106. セクレチンとセクレチン（消化管ホルモン）の標的細胞を説明できる。
107. 総胆管と主胆管が開く十二指腸の部位の名前を説明できる。
108. 小腸の表面積を広げる構造3つを説明できる。
109. 空腸と回腸のうちどちらの消化作用が強いかを説明できる。
110. 膵臓を説明できる。
111. 胎生期に起こる腸の回転を説明できる。
112. 大腸の長さを説明できる。
113. 大腸は部位によって名前が変わっていく。これを口側から順番に説明できる。
114. 虫垂は大腸のどこから出ているかを説明できる。
115. 大腸の形態学的特徴を説明できる。
116. 排便反射について説明できる。
117. 肝臓の機能的な単位である肝小葉の構造を説明できる。
118. 肝門に見られる3つの管の名前を説明できる。
119. 胆汁を分泌する細胞の名前を説明できる。
120. 胆汁の主成分と働きを説明できる。
121. 胆汁の通路の名前を順番に説明できる。
122. 胆汁色素であるビリルビン代謝について説明できる。
123. 膵臓から分泌される消化酵素の種類とその働きを説明できる。
124. 膵内分泌部（ランゲルハンス島）を説明できる。
125. ペプチドホルモンとステロイドホルモンについて作用機序の違いを説明できる。
126. 松果体、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎の位置を説明できる。
127. 下垂体門脈の仕事を説明できる。
128. 視床下部から下垂体後葉への神経分泌を説明できる。
129. 内分泌の負のフィードバック機構を説明できる。
130. 松果体、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎から分泌されるホルモン名とその作用を説明できる。
131. 性腺の機能を調節する最高司令部はどこにあるかを説明できる。
132. 卵巣に性周期をもたらす下垂体前葉ホルモン2種類を説明できる。
133. 卵巣に排卵を引き起こす下垂体前葉ホルモン2種類を説明できる。
134. 子宮に性周期をもたらす卵巣ホルモン2種類を説明できる。
135. 月経の機序を説明できる。
136. 胎盤の構造を説明できる。
137. 妊娠早期にできる胎盤絨毛由来のホルモンの名前を説明できる。
138. 吸乳刺激によって下垂体前葉と後葉から出るホルモンの名前を説明できる。
139. 男性生殖器を構成する器官と働きを説明できる。
140. 生殖細胞が行う減数分裂を説明できる。
141. セルリウム細胞とライディッシュ細胞の存在部位と働きを説明できる。
142. 精液のpHを説明できる。
143. 精液に含まれる1mlあたりの精子の数を説明できる。
144. 勃起と射精のメカニズムを説明できる。
145. 性の分化について説明できる。

## ■担当教員：

高野 廣子

## ■授業計画・内容：

- ( ) 内の数字は到達目標である。
- |                   |                       |                          |                    |                     |
|-------------------|-----------------------|--------------------------|--------------------|---------------------|
| 1. オリエンテーション(1～5) | 5. 呼吸器系、発声のしくみ(29～41) | 7. 体液の恒常性を維持するしくみ(57～65) | 10. 消化器系1(89～99)   | 14. 女性生殖器系(131～138) |
| 2. 循環器系1(6～10)    | 6. 泌尿器系(42～56)        | 8. 血液・造血系(66～79)         | 11. 消化器系2(100～111) | 15. 男性生殖器系(139～145) |
| 3. 循環器系2(11～21)   |                       | 9. 免疫系(80～88)            | 12. 消化器系3(112～124) |                     |
| 4. 循環器系3(22～28)   |                       |                          | 13. 内分泌器系(125～130) |                     |

**■事前・事後学習：**事前学習について：配布する授業資料のなかに、次回の授業テーマについて予習課題を示します。事後学習について：授業内容に関して、重要点を授業資料のなかに復習課題として示します。予習・復習の成果は小テストで確認することができます。このシラサスの到達目標には、授業で取り上げるテーマが詳細に記載されています。予習と復習の参考にしてください。

## ■教科書：「解剖生理学」（南山堂）

## ■参考文献：「解剖学講義改訂3版」（南山堂）、「人体の構造と機能 第4版」（医学書院）

## ■成績評価基準と方法：定期試験（学期末）50%、小テスト30%、受講態度10%、課題10%

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	1-145	28, 36		
定期試験	◎		正答率：6割以上	50
小テスト	◎		正答率：7割以上	30
受講態度	◎		到達目標の達成に向かう気構え	10
課題		◎	内容重視	10
出席			2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

**■関連科目：**人間発達援助論、看護観察技術論、薬理学、病理病態学、感染予防論、基礎看護技術論、生命科学、環境保健、人間工学、臨床栄養学、疾病治療学概論、疾病治療学A/B/C、症状マネジメント論、成人看護学概論、成人看護援助論、臨床薬理学、成人看護学臨床実習Ⅰ、老年看護援助論、がん看護学、小児看護援助論、母性看護援助論、成人看護技術論、小児看護技術論、母性看護学臨床実習、老年看護技術論、透析ケア、重症集中ケア、救急看護学

**■その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）：**形態機能学は、他の専門科目の基礎になるので、勉強から手を抜かないことが大事です。自宅での学習を後押しするために、毎回小テストを行います（1回目を除く）。予習と復習のために少なくとも週3時間は勉強してください。到達目標達成のために予習を欠かさず、授業を真剣に聞きましょう。入学して最初の半年間の勉強がその後学ぶ看護学の理解度に大きく響きます。あとから勉強では遅いのです。

# 形態機能学Ⅱ

必修

開講年次：1 年次前期

科目区分：演習

単位：2 単位

講義時間：60 時間

■科目のねらい：形態機能学Ⅱは、Iと合わせて人体の構造と機能を全般的に学習する構成になっています。形態機能学Ⅱでは、運動器系（骨格と骨格筋）と感覚器系（皮膚、視覚器、聴覚器、平衡覚器）及びこれらを統合する神経系を、病氣や看護に関連づけながら学びます。なお、形態機能学Ⅱでは、体を動かすのに必要な栄養素についても学びます。最後に、これまで学んできた知識を想起し納得するために、骨学実習と人体模型観察実習を行い、札幌医大標本館を見学します。

## ■到達目標：

1. 前頭骨、頭頂骨、側頭骨、後頭骨がどこにあるかを自分の頭で指すことができる。
2. 大泉門、小泉門とは何かを説明し、それぞれが閉じる時期を言える。
3. 上顎骨と下顎骨、頬骨、鼻骨、舌骨がどこにあるかを自分の顔を使って指せる。
4. 頭蓋骨の底面にある蝶形骨の位置を言える。
5. 頭蓋骨の底面にある大きな孔の名前を言える。
6. 脊椎骨（頸椎、胸椎、腰椎、仙骨、尾骨）の数を言える。
7. 脊柱の湾曲を新生児と成人で説明できる。
8. 肋骨はどの椎骨についているかを言える。
9. 椎間板は何かからできているかを言える。
10. 鎖骨、肩甲骨を骨格標本で指せる。
11. 上肢の骨（上腕骨、橈骨、尺骨）を骨格標本で指せる。
12. 寛骨を構成する3つの骨を言える。
13. 下肢の骨（大腿骨、胫骨、腓骨）を骨格標本で指せる。
14. 球関節と蝶形関節の例を言える。
15. 四肢の運動（屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋、回外、回内、対立、背屈、底屈、内反と外反）をやってみせることができる。
16. 胸鎖乳突筋、大胸筋、三角筋、僧帽筋、広背筋の位置と働きを説明できる。
17. 上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、腕橈骨筋の位置と働きを説明できる。
18. 浅指屈筋、深指屈筋の位置と働きを説明できる。
19. 大腕筋と腕伸筋の位置と働きを説明できる。
20. 筋肉注射をするときに用いる筋肉の名前を言える。
21. 大腿四頭筋の位置と働きを説明できる。
22. ハムストリングスといわれる3つの筋の名前と働きを説明できる。
23. アキレス腱はなんという筋肉の腱なのかを言える（2つある）。
24. つま先をもち上げる（足を背屈する）筋肉の名前を言える。
25. 尖足にする（足を底屈する）筋肉の名前を言える。
26. 皮膚の3層の名前を言える。
27. 表皮の5層の名前を言える。
28. 皮膚における感覚終末（自由神経終末、マイスネル小体、ファーター（パチニ）小体）がみられる位置と受容する感覚の種類を言える。
29. 皮膚腺を3つあげて分泌様式の違いを説明できる。
30. 上皮組織と結合組織の特徴を言える。
31. 結合組織で出てくる繊維の名前を2種類挙げることができる。
32. 関節の構造を説明できる。
33. 関節液を産生する部位はどこかを言える。
34. 骨と軟骨の成分を説明できる。
35. 骨芽細胞、破骨細胞、骨細胞の違いを説明できる。
36. モデルリングとリモデリングを説明できる。
37. 軟骨性骨化と膜性骨化を説明できる。
38. 運動単位とは何か。
39. 骨格筋の興奮収縮連関を説明できる。
40. 赤筋と白筋の違いを説明できる。
41. 骨格筋・心筋・平滑筋を比較して違いを説明できる。
42. 糖のエネルギー代謝を説明できる。
43. 脂肪の酸化を説明できる。
44. 糖の新生とは何かを説明できる。
45. 基礎代謝とは何かを説明できる。
46. リポたんぱく質について説明できる。
47. 尿素が肝臓で作られる理由を説明できる。
48. 痛風の原因となる尿酸は何の代謝産物であるかを言える。
49. ミネラルとビタミンの欠乏症を言える。
50. ニューロンを説明できる。
51. シナプスとは何かを説明できる。
52. 静止膜電位と活動電位と電解質との関係を説明できる。
53. 活動電位の「全か無かの法則」を説明できる。
54. 閾値と不応期を説明できる。
55. 有髄神経線維と無髄神経線維の違いを説明できる。
56. 跳躍伝導を説明できる。
57. 神経線維の太さと伝導速度の関係を説明できる。
58. グリア細胞3種類の名前と働きを説明できる。
59. 脳脊髄液の種類とそれらの間にある腔の名前を言える。
60. 脳脊髄液が流れている腔の名前を言える。
61. 脳室の位置と名前を言える。
62. 脳脊髄液の産生部位と吸収部位を言える。
63. 大脳の外観をみて前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉を指すことができる。
64. 大脳皮質の機能局在を説明できる。
65. 大脳基底核の働きと神経核の名前を挙げることができる。
66. 大脳基底核にドミン線維を送る中脳にある神経核の名前を言える。
67. 内側に出血の影響が及び、対側の首から下が半身麻痺になる理由を言える。
68. 大脳辺縁系の働きと神経核の名前を挙げることができる。
69. 匂いは永久記憶になる理由を言える。
70. 視床の働きを説明できる。
71. 視床下部にある神経核を説明できる。
72. 対光反射の中核はどこにあるかを説明できる。
73. 延髄にある生命中枢の具体的な名前を言える。
74. 上行性網様体賦活系を説明できる。
75. レム睡眠とノンレム睡眠を説明できる。
76. 小脳の構造と働きを説明できる。
77. 脳に入る太い動脈はどこに挙がるかを知ることができる。
78. ウィリスの動脈輪はどこにあるかを言える。
79. 硬膜静脈洞の走り方を説明できる。
80. 脳神経12対とその働きを説明できる。
81. 副交感神経線維を含む脳神経4つの名前を言える。
82. 灰白質を脊髄のアウトラインのなかに描き入れて、前角と後角を指すことができる。
83. 脊髄前角細胞の働きを説明できる。
84. 脊髄神経節がある位置を言える。
85. ベル・マジャンディーの法則を説明できる。
86. 脊髄の白質にある伝導路（錐体路、外側脊髄視床路）の位置を言える。
87. 錐体路と一般感覚伝導路はどこで左右が交差するかを言える。
88. 脊髄が終わる部位を言える。
89. 頸神経、胸神経、腰神経、仙骨神経は何対出るかを言える。
90. 腕神経叢を説明できる。（課題：腕神経叢の模型作品を提出）
91. 腰神経叢と仙骨神経叢から出る神経のうち最も太い神経の名前を言える。
92. 大脳神経の支配域を言える。
93. 坐骨神経の支配域を言える。
94. 橋脚神経、正中神経、尺骨神経の支配域を言える。
95. 橋脚神経とゴルジの器器官を説明できる。
96. 腱反射を説明できる。
97. 各臓器に対する交感神経と副交感神経の二重支配の内容を言える。
98. 臓器の近くに自律神経節をもつのは交感神経、副交感神経のどちらかを知ることができる。
99. 交感神経叢の位置を言える。
100. 交感神経の副交感神経の節後線維の末端から出る神経伝達物質を言える。
101. 眼球の構造と各部の働きを説明できる。
102. 目が何に焦点を合わせる方法を説明できる。
103. 眼底の黄斑部を説明できる。
104. 杆状体と錐状体の働きと網膜上の分布を説明できる。
105. マリオット氏の盲点を説明できる。
106. 瞳孔の大きさを変える筋肉を2つ言える。
107. 涙腺と涙路を説明できる。
108. 聴覚の分泌物の役割を説明できる。
109. 眼房水の産生部位と吸収部位を説明できる。
110. 視覚伝導路を説明できる。
111. 外耳、中耳、内耳の構造を説明できる。
112. 耳骨の働きを説明できる。
113. 平衡覚の仕組みを説明できる。
114. 音の高低を脳に伝える仕組みを説明できる。
115. 伝音性難聴と感音性難聴の違いを説明できる。
116. 痛みを伝える神経線維を2種類言える。
117. 痛みの上行路を説明できる。
118. 関連痛の発生機序を説明できる。
119. 痛みの抑制系について説明できる。
120. 骨学実習報告書の提出
121. 人体模型実習報告書の提出
122. 標本館見学感想文の提出

## ■担当教員：

高野 廣子

## ■授業計画・内容：( ) 内の数字は到達目標の番号

- |  |   |                                       |
|--|---|---------------------------------------|
| 1. 運動器系1（骨格系）（1～14）                        | 6. 基礎栄養学2（脂質代謝、タンパク質代謝、ビタミンとミネラルの役割）（43～49） | 10. 神経系4（脳神経、脊髄と体性神経）（80～94）          |
| 2. 運動器系2（筋系）（15～25）                        | 7. 神経系1（神経学総論）（50～58）                       | 11. 神経系5（脊髄反射と交感神経系）と感覚器1（視覚）（95～110） |
| 3. 組織学1（皮膚の構造、上皮組織と結合組織）（26～31）            | 8. 神経系2（脳室、脳脊髄液、大脳皮質、大脳基底核、大脳辺縁系）（59～69）    | 12. 感覚器2（平衡覚、聴覚、痛覚）（111～119）          |
| 4. 組織学2（関節の構造、軟骨組織と骨組織）（32～37）             | 9. 神経系3（間脳、中脳、橋、延髄、小脳、脳の血管）（70～79）          | 13. 骨学実習と人体模型実習1（120）                 |
| 5. 組織学3（筋の興奮収縮連関）と基礎栄養学1（糖のエネルギー代謝）（38～42） |   | 14. 骨学実習と人体模型実習2（121）                 |
|  |   | 15. 札幌医科大学標本館の見学（122）                 |

■事前・事後学習：事前学習について：配布する授業資料のなかに、次回の授業テーマについて予習課題を示します。事後学習について：授業内容に關して、重要点を授業資料のなかに復習課題として示します。予習・復習の成果は小テストで確認することができます。また、このシラバスの到達目標には、授業で取り上げられるテーマが詳細に記載されています。予習と復習の参考にしてください。

## ■教科書：「解剖生理学」（南山堂）

## ■参考文献：「解剖学講義改訂3版」（南山堂）、「人体の構造と機能 第4版」（医学書院）

## ■成績評価基準と方法：定期試験（学期末）50%、小テスト30%、受講・実習・見学態度10%、レポートと作品の提出10%

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	1～122	90	120、121	122		
定期試験	◎		◎		正答率：6割以上	50
小テスト	◎		◎		正答率：7割以上	30
受講態度 実習・見学態度	◎		◎	◎	到達目標達成に向かう姿勢 積極的に学習する態度	5 5
レポート 作品		◎	◎	◎	内容重視	6 4
出席					2/3以上の出席	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■関連科目：人間発達援助論、看護観察技術論、薬理学、病理病態学、基礎看護技術論、環境保健、人間工学、臨床栄養学、疾病治療学概論、疾病治療学A/B/C、症状マネジメント論、成人看護学概論、成人看護援助論、臨床薬理学、小児看護学概論、成人看護学臨床実習I、老年看護援助論、がん看護学、認知症ケア、老年看護技術論、重症集中ケア、救急看護学

■その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）：形態機能学Ⅱは、形態機能学Iとともに他の専門科目の基礎になるので、予習と復習には力をいれましょう。少なくとも週3時間はかけてください。看護師になるという目標達成のためには形態機能学の習得は不可欠です。自習するときには、「覚える」ことに力をいれてください。形態機能学Ⅱでは、最後に骨学実習、人体模型実習、標本館見学が用意されています。これらは、形態機能学で勉強してきたことを再確認するよい機会となります。日頃の学習を怠らずにやっていると、実習や標本館見学を意義あるものに行うことができます。

# 地域保健学概論

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：人々の健康が地域社会の環境に影響されており、人々の健康と生活の向上を図る保健・医療・福祉活動を多角的・重層的に考える。

■**到達目標**：①人々が生活を営む上での健康の意義を述べることができる。  
②社会環境が人々の健康と関連していることを説明できる。  
③様々な健康課題の解決に向けて、保健・医療・福祉対策が講じられていることを知る。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎喜多 歳子・本田 光

■**授業計画・内容**：

- 第1回 人々の健康と地域社会
- 第2回 地域システム
- 第3回 家族の発達を支える地域保健活動
- 第4回 命の誕生を支える地域保健活動
- 第5回 子どもの成長と子育てを支える地域保健活動
- 第6回 労働と健康
- 第7回 高齢者の生活を支える地域保健活動
- 第8回 保健・医療・福祉、地域包括ケアシステム

■**事前・事後学習**：講義の終わりに次回の課題を出します。

■**教科書**：プリントを配布します。

■**参考文献**：国民衛生の動向（厚生労働統計協会）  
公衆衛生マニュアル／柳川洋他（南江堂）  
公衆衛生がみえる2017-2018／医療情報科学研究所編（メディックメディア）

■**成績評価基準と方法**：レポート70%、授業態度・発表10%、課題の提出20%

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
レポート	◎	◎	レポートの評価基準(別紙)による	70
授業態度・発表	○	○	積極的な姿勢	10
課題の提出	○	○	課題等を提出していること	20
出席			2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：公衆衛生学、社会福祉学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：人々の健康の課題を多面的に捉え、課題に対する住民主体の保健・医療・福祉活動を考えます。新聞・テレビのニュースや健康に関する情報に関心を持って臨んでください。

# 看護学原論

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：講義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：この授業においては、看護職・看護学の歴史的発展及び看護学の基本概念である「看護」「人間」「健康」「環境」について学習する。また、看護実践と看護過程・看護理論の関係を学習し、学際的学問としての看護学の特徴及び看護職と看護学との関係を理解する。さらに、看護学生・看護職者の発達過程を理解し、看護学の学習に伴う自己の課題と目標を確認する。

■**到達目標**：①看護・看護職・看護学の起源と歴史、現代社会における看護職の役割と機能について理解する。  
②看護学の基本概念である「看護」「人間」「健康」「環境」の概要を理解し、その相互の関連性について考察する。  
③看護理論・看護過程の意義と機能について理解し、看護職が看護理論・看護過程を活用する意義を確認する。  
④看護学生・看護職者の発達過程を理解し、看護学の学習に伴う自己の課題と目標を確認する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎定廣 和香子・猪股 千代子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 看護学を学ぶ意味と意義
- 第2回 看護・看護職の起源
- 第3回 看護職の役割と機能
- 第4回 看護学の基本概念①
- 第5回 看護学の基本概念②
- 第6回 看護実践を支える問題解決的アプローチ：看護過程
- 第7回 看護実践の特徴と看護職者の発達
- 第8回 統合・試験オリエンテーション

■**事前・事後学習**：授業時に示した目標との関連で学習した内容・態度を自己評価して、次回の授業に臨んで下さい。

■**教科書**：フロレンス・ナイチンゲール著 湯楨ます他訳：看護覚え書 改訂第7版、現代社、2011  
ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの 再新装版 日本看護協会出版会、2016

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	到達目標の達成度	100%
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：看護理論・看護過程論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：この授業では、「看護とは」「看護学とは」など看護学を学びはじめる皆さんにとって最も基本的な内容を取り扱います。授業に対して積極的に参加し、疑問に思った点、わかったこと、わかりにくかったことなど、意見を述べてください。皆さんの意見も反映して授業を創ります。

# 人間発達援助論

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：演習

単 位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：人間を生涯発達の視点でとらえ、人間発達の共通性と特異性を身体と精神の両面から理解する。また、人間の発達段階各期における看護援助の視点を明らかにし、母性、小児、成人、老年における看護を理解するための基礎的知識を学ぶ。

■**到達目標**：①人間発達の共通性・特異性、および人間発達に影響を及ぼす因子を理解する。  
②発達理論の特徴を理解する。  
③人間の発達段階各期における看護援助の視点を身体と精神の両面から理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎小田 和美・松浦 和代・宮崎 みち子・村松 真澄・守村 洋

■**授業計画・内容**：

- 第1回 人間と発達（守村 洋）
- 第2回 発達理論とその背景（守村 洋）
- 第3回 メンタルヘルスと発達（守村 洋）
- 第4回 受胎から胎児期・新生児期の特徴と課題（渡邊 由加利）
- 第5回 生命誕生を支える看護援助（1）：胎児・新生児の看護（渡邊 由加利）
- 第6回 生命誕生を支える看護援助（2）：母性の発達と母子関係（渡邊 由加利）
- 第7回 小児期・思春期の成長・発達と発達課題（松浦和代）
- 第8回 小児期・思春期の健康教育とライフスキル（松浦和代）
- 第9回 育児と学校保健（松浦和代）
- 第10回 ライフサイクルにおける成人期の特徴と課題（小田和美）
- 第11回 成人期の発達と発達課題と健康問題（小田和美）
- 第12回 成人期の特徴と看護援助（小田和美）
- 第13回 ライフサイクルにおける老年期の特徴と課題（村松真澄）
- 第14回 老年期の発達課題と健康上の問題（村松真澄）
- 第15回 老年期の特徴と看護援助（村松真澄）

■**事前・事後学習**：3講毎に大きくテーマが変わるので、予定されている授業内容をシラバスで確認し、テキストの該当するページを読んで、疑問点を明らかにして授業に参加すること。授業後は、講義資料を手掛かりに、テキストや参考文献を活用して、発達の視点での人間の理解を深めること。

■**教科書**：舟島なをみ：看護のための人間発達学（第5版）、東京：医学書院、2017年。  
授業時に資料を配布予定である。

■**参考文献**：上田礼子：生涯人間発達学（改訂第2増補版）、東京：三輪書店、2012年。  
服部祥子：生涯人間発達論 第2版-人間への深い理解と愛情を育むために、東京：医学書院、2010年。

■**成績評価基準と方法**：

- ・授業への参加状況（含、授業内の小テスト・レポート）、および定期試験（各担当教員20%）による総合評価。
- ・単位修得には総合評価60点以上が必要となる。なお、出席時間が授業時間の2/3に満たない場合、成績評価の対象とはならない。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③		
定期試験	◎	◎	◎	内容の理解	各担当教員 20
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	ポイントの理解	試験結果に 加味する。
授業態度	○	○	○	積極的な姿勢	
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：本科目で修得する知識は、今後履修する専門科目の理解に必須のものである。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：看護の対象である人間理解の一側面として、発達段階に視点を置いて学修する。この授業を契機に、人間に関心を持ち、「人を理解するための自分の視点」を発見しよう。  
なお、第4回目以降は、人間の発達段階を基本に3講一組の内容（第4～6、7～9、10～12、13～15回）構成である。

# 看護初期実習

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：実習

単 位：1単位

講義時間：45時間

■**科目のねらい**：看護初期実習は、看護職が活動する地域の保健・医療・福祉の場において、看護職や関連職種の活動を見学体験し、保健・医療・福祉分野への関心と理解を深め、看護学を学ぶ動機づけとする。看護の実際を見学することにより、他職種の専門性と看護職とのかかわりを理解する。

- 到達目標**：①看護の対象は、様々な健康レベルにある人々であることを知る。  
②人々の健康生活を支える看護実践の場を知る。  
③保健・医療・福祉施設での看護場面を通して、看護の役割を考える。  
④対象者の健康上のニーズの充足に対して保健・医療・福祉に関わる他職種との連携を知る。  
⑤看護を学ぶ上での自己の目標を持つことができる。  
⑥看護学生として責任ある行動をとることができる。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

○菅原 美樹・大野 夏代・貝谷 敏子・神島 滋子・藤井 瑞恵・古都 昌子・本田 光・三上 智子・村松 真澄・守村 洋・伊東 健太郎・工藤 京子・小坂 美智代・櫻井 繭子・高橋 奈美・原井 美佳・檜山 明子・矢野 祐美子

■**授業計画・内容**：

1. オリエンテーション

看護初期実習の目的・目標・実習方法等、および実習施設の概要について、オリエンテーションを行う。  
(実習前、および6月4日)。

2. 施設実習（詳細は実習要項を参照のこと）

<実習方法>以下の日程で見学実習を行う。

6月5日～7日：病院・施設での実習

<実習施設>

<保 健>

・札幌市中央健康づくりセンター・札幌複十字総合健診センター・札幌がん検診センター  
・北海道病院健康管理センター（JCHO）・札幌厚生病院

<医 療>

・市立札幌病院

<福 祉>

・札幌市老人福祉センター

3. 実習のまとめ（学内）（6月8日）

■**教科書**：使用しない。

■**参考文献**：適宜、指示する。

■**成績評価基準と方法**：実習内容および記録（80%）、実習レポート（20%）から実習目標の達成度を総合的に評価する。

評価方法	到達目標						評価基準	評価割合 (%)
	到達目標 ①	到達目標 ②	到達目標 ③	到達目標 ④	到達目標 ⑤	到達目標 ⑥		
実習記録	◎	◎	◎	◎	○		ループリックで評価	30%
実習態度	○	○	○	○	○	◎	8. 実習の留意事項	30%
記録物	○	○	○	○	○		ループリックで評価	20%
実習レポート	◎	◎	◎	◎	◎		ループリックで評価	20%
出席							2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：看護初期実習では、看護を広く概観し、現場での経験からひとりひとりが感じ取ったことを、次の学習に活かすことを目指しています。体調を十分に管理して履修しましょう。



# 看護観察技術論

必修

開講年次：1年次前期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：バイタルサインの測定及びフィジカルアセスメントを中心とした技術演習を行い、看護過程の一部である状態把握の基礎技術について学ぶ。

■**到達目標**：①看護における観察の目的を説明する。  
②正確なバイタルサイン測定やフィジカルアセスメント技術などの観察技術を用いて、看護に必要な情報を収集する。  
③援助者としての適切な姿勢や態度を理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎檜山 明子・大野 夏代・武富 貴久子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 観察とは
- 第2回 環境の調整、病床環境
- 第3回 臥床患者のリネン交換
- 第4～6回 バイタルサイン
- 第7回 フィジカルアセスメント総論
- 第8回 健康歴の聴取と身体計測
- 第9回 フィジカルアセスメント 消化器（腹部）
- 第10回 フィジカルアセスメント 呼吸
- 第11回 フィジカルアセスメント 循環
- 第12回 フィジカルアセスメント 神経
- 第13回 フィジカルアセスメント 運動
- 第14回 フィジカルアセスメント 感覚器（眼・耳）
- 第15回 フィジカルアセスメント総合

■**事前・事後学習**：テキストを用いて事前に講義範囲の基礎知識を学習します。また、各回事前・事後課題を課しますので積極的に取り組み、技術獲得に向けて学習を進めてください。

■**教科書**：小野田千枝子監修（2008）. 実践!フィジカルアセスメント. 金原出版.  
茂野 香おる他（2015）. 系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術I 第16版. 医学書院.（後期の基礎看護技術論でも使用します）  
茂野 香おる他（2017）. 系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術II 第17版. 医学書院.（後期の基礎看護技術論でも使用します）

■**参考文献**：山内豊明（2011）. フィジカルアセスメントガイドブック. 医学書院.  
山内豊明（2014）. フィジカルアセスメントワークブックー身体の仕組みと働きをアセスメントにつなげる. 医学書院.

■**成績評価基準と方法**：筆記試験・実技試験90%、提出物等10%。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
試験(筆記・実技)	◎	◎	◎		90%
演習レポート	○	○	○		10%
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：基礎看護技術論、看護過程論、形態機能学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：看護の対象を理解するための観察技術と、その観察技術に必要な看護師としての基本的な態度について学びます。  
「基礎看護学臨地実習I」を履修するためには、本科目の単位を修得していることが望ましいです。  
内容に変更があった場合は、第1回目で提示します。

# 薬理学

必修

開講年次：1年次後期

科目区分：講義

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：医薬品の生体におよぼす作用を理解する上で必要な基礎的知識を習得し、医薬品の有効性、安全性ならびに薬物が生体に作用する仕組みを幅広く学ぶ。また臨床的観点から薬物療法における看護師の役割を学び、チーム医療の一員としての重要性を理解する。

■**到達目標**：①薬物の作用に関する基礎的事項を理解し、説明できる。  
②主な疾患の症状を理解し、薬物の作用を病態との関連性から説明できる。  
③薬物相互作用や有害作用を理解し、薬物の有益性と危険性を説明できる。

■**担当教員**：

松本 真知子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 総論 (I)：薬理学の概念と薬物受容体
- 第2回 総論 (II)：薬力学と薬物動態学
- 第3回 総論 (III)：薬物相互作用
- 第4回 総論 (IV)：薬効と副作用
- 第5回 抗感染症薬
- 第6回 抗がん薬・免疫治療薬
- 第7回 抗アレルギー薬・抗炎症薬
- 第8回 末梢神経作用薬 (I)：交感神経・副交感神経作用薬
- 第9回 末梢神経作用薬 (II)：筋弛緩薬・局所麻酔薬
- 第10回 中枢神経作用薬 (I)：精神疾患・気分障害治療薬
- 第11回 中枢神経作用薬 (II)：神経変性疾患治療薬
- 第12回 心臓・血管系に作用する薬物
- 第13回 呼吸・消化器系に作用する薬物
- 第14回 物質代謝に作用する薬物
- 第15回 救急の際に使用する薬物／消毒薬

■**事前・事後学習**：事前学習として、講義内容をシラバスで予め確認し、該当する教科書の章を良く読んでおくこと。特に各章の始めには、基本的な生理機能や疾患の基礎知識について書かれているので熟読・予習しておくこと。講義後は配布資料を参考にしながら授業内容を復習し、講義中に行った小テストを更に理解するため、教科書の「ゼミナール」を参照に自主的に学習すること。これらの事前・事後学習の所要時間には、個人差はあるが、2～3時間程度必要と考えられる。

■**教科書**：『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学』（医学書院）

■**参考文献**：『NEW薬理学』／加藤隆一、田中千賀子著（南江堂）  
『パートナー薬理学』／重信弘毅、石井邦雄著（南江堂）

■**成績評価基準と方法**：講義内容に基づく基礎知識の理解度を問う筆記試験により主に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	6割以上の正答率	100%
授業態度	○	○	○	授業中の居眠り、おしゃべり、遅刻などは減点の対象とします。	
出席				2/3以上の出席率	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：広範囲にわたる内容を集中的に講義するため、出来るだけ欠席しないこと。教科書の内容に沿った講義資料を配布するが、より理解を深めるため、予習・復習をしっかりと行うこと。得られた知識を確認し、ポイントを理解するため、各章ごとに小テストを行う。小テストは、過去数年間の看護師国家試験から抜粋した問題を含む。

# 病理病態学

必修

開講年次：1年次後期

科目区分：演習

単位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**：病理学の概念、病因論、病変の特徴、健康障害の仕組みについて学び、各器官における疾病を学ぶ上での基礎知識を習得する。また、人体に備わる病態からの回復機構とともに生体防御機構についての概要を理解する。

■**到達目標**：①病気の成り立つメカニズムを理解する。  
②主な疾患の症状、診断、治療法の概要を理解する。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎鳥越 俊彦・廣橋 良彦・塚原 智英・金関 貴幸・中津川 宗秀・久保 輝文

■**授業計画・内容**：

- 第1回 病理病態学総論：病理学と病理診断、細胞障害
- 第2回 病理病態学総論：細胞障害と先天異常
- 第3回 病理病態学総論：炎症と免疫
- 第4回 病理病態学総論：感染症と腫瘍
- 第5回 病理病態学各論：循環器系（総論）
- 第6回 病理病態学各論：循環器系（各論）
- 第7回 病理病態学各論：呼吸器系
- 第8回 病理病態学各論：消化器系（胃腸管）
- 第9回 病理病態学各論：消化器系（肝胆膵）
- 第10回 病理病態学各論：泌尿器系
- 第11回 病理病態学各論：造血器系
- 第12回 病理病態学各論：内分泌系
- 第13回 病理病態学各論：運動器系・皮膚
- 第14回 病理病態学各論：神経系
- 第15回 病理病態学各論：感覚器系・全身疾患

■**事前・事後学習**：事前には教科書をさらっと読んでおく程度でよいと思います。事後には講義資料や小テスト（講師によってある場合とない場合があります）の復習はもちろんのことですが、「こわいもの知らずの病理学講義（仲野徹・著、晶文社）」など一般向けの病理学を扱った図書を読んでみるのもよいかと思います。興味があり、発展的内容を勉強したい場合には「ロビンズ基礎病理学」がおすすめです。

■**教科書**：『病理学（新クイックマスター）』／堤 寛 監修（医学芸術社）

■**参考文献**：『こわいもの知らずの病理学講義』／仲野 徹（晶文社）

■**成績評価基準と方法**：出席率2/3以上が必要条件、成績は定期試験と授業態度にて評価します。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験	○	○	60点以上	90
授業態度	○	○	出席率	10

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：どんなことにも当てはまりますが、最終的には自分で勉強してもらうほかありません。しかし、丸暗記するには膨大すぎる量です。みなさんが教科書をめくり、自分でも勉強できるようになるべく平易な言葉で病理病態のストーリーを説明するよう心がけます。理解できれば、覚えるのはずっと楽です。

# 感染予防論

必修

開講年次：1年次後期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：微生物学的基礎を踏まえ感染症の概念、病原体の特徴と疾患、治療について理解し、免疫現象が病気・病態とどのようにかかわっているかを理解する。また、病原体と免疫反応から感染の予防について学ぶ。

■**到達目標**：①生体の感染防御機構について理解する。  
②個々の病原微生物について、種類、感染経路、感染症の症状、診断、治療、予防について覚える。  
③院内感染予防について理解する。

■**担当教員**：

永坂 敦

■**授業計画・内容**：

- 第1回 微生物学の基礎、1  
微生物学とは、微生物学の目的、微生物学のあゆみ、細菌の性質
- 第2回 微生物学の基礎、2  
真菌、原虫の性質
- 第3回 微生物の基礎、3  
ウイルスの性質
- 第4回 感染とその防御 1  
感染と感染症
- 第5回 感染とその防御 2  
感染に対する生体防御機構
- 第6回 感染とその防御 3  
感染源・感染経路からみた感染症
- 第7回 感染とその防御 4  
感染症の予防、滅菌と消毒
- 第8回 感染とその防御 5  
感染症の検査と診断
- 第9回 感染とその防御 6  
感染症の治療
- 第10回 感染とその防御 7  
感染症の現状と対策
- 第11、12回 臨床編1  
細菌
- 第13、14回 臨床編2  
ウイルス その他
- 第15回 まとめ

■**事前・事後学習**：講義の第1回から10回までは教科書に沿って進めるので、講義前にその単元を一度読んでおくことが望ましい。第11から14回はもっぱら臨床講座となるため講義後に配布されたプリントの復習をしてください。内容が多くなるので復習をしておかないと覚えるのが後々大変です。

■**教科書**：『系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔4〕微生物学』（医学書院）

■**参考文献**：『最新感染症ガイド』日本版Red Book 日本小児医事出版社

■**成績評価基準と方法**：試験100%、但し、合否判定には授業態度と出席状況を考慮する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	○	○	○		100%
授業態度				私語の禁止	考慮する
出席				2/3以上の出席	考慮する

◎：より重視する ○重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：医学の原点は感染症にある。感染症の歴史は人類と病原微生物との葛藤の歴史でもある。微生物に対する防御反応は生体が持つ基本的な免疫反応である。病原微生物について知ることは看護学への第一歩である。短期集中講義形式となりますが職業意識をもって立ち向かって下さい。

# 看護理論

必修

開講年次：1 年次後期

科目区分：講義

単 位：1 単位

講義時間：15 時間

■**科目のねらい**：看護理論は、対象の個性にあわせて適切な看護を提供するために必要不可欠である。この授業においては、看護理論の特徴と機能を確認し、看護過程と看護理論の関係を明確にする。また、様々な看護理論について、グループワークを通して理解を深めるとともに、既存の看護理論の実践への活用可能性と限界を明らかにし、新たな看護理論の開発を展望する。

■**到達目標**：①理論の成り立ち、看護理論の特徴と機能について理解する。  
②様々な看護理論の特徴と限界を確認し、看護理論開発の必要性を確認する。  
③看護理論・看護過程の関係を理解し、看護理論を看護実践に活用する方法を検討する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎定廣 和香子・檜山 明子

■**授業計画・内容**：

第 1 回 看護理論概説①

第 2 回 看護理論概説②

第 3 回 看護のメタパラダイム：ナイチンゲール「看護覚え書き」・グループ・ワークガイダンス

第 4 回 看護業務の定義づけ：ヘンダーソン「看護の基本となるもの」

第 5 回 様々な理論家と理論の特徴I（グループ・ワーク）

第 6 回 キング看護理論

第 7 回 様々な理論家と理論の特徴II（学生発表：解説）\*

第 8 回 看護過程と看護理論・試験オリエンテーション

\*グループワークの発表は、2グループに分かれて実施する。

■**事前・事後学習**：授業で提示した資料・ノートを復習し、理解を確かなものにして下さい。グループワークに必要な事前・事後学習は、別に示します。

■**教科書**：フロレンス・ナイチンゲール著 湯楨ます他訳：看護覚え書 改訂第7版、現代社、2011  
ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの 再新装版 日本看護協会出版会、2016

■**参考文献**：別途提示

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	○	◎	到達目標の達成度	60%
演習成果発表	○	◎	○	別途評価基準を提示	40%
出席				2/3未満の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：看護理論は、効果的な看護を展開する上で必要不可欠です。この授業では、看護理論に関する初歩的な知識を提供すると共に、看護実践への活用の実際について解説します。難しい用語などが多くなりますので、わからないことなどは、ためらわず確認して下さい。看護理論に関する知識は、いつかきっと皆さんを助けてくれます。

# 看護過程論

必修

開講年次：1年次後期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：対象の健康問題を解決するために、アセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案、実施、評価の一連の“問題解決思考と行動”について、それを支える看護理論を用いながら、看護過程の実際を学習し、自己の課題を明確にする。

■**到達目標**：V. ヘンダーソンの看護の定義や概念に基づき、看護過程を展開するための基礎的能力を習得する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎古都 昌子・大野 夏代・武富 貴久子・檜山 明子

■**授業計画・内容**：

第1回 コースオリエンテーション、看護過程の定義と構成要素、事例の提示

第2回 アセスメント① 情報の収集、整理

第3-4回 アセスメント② 情報の分析・解釈

第5-6回 アセスメント③ 情報の統合、全体像の把握

第7-8回 看護問題の明確化、看護計画の立案

第9-10回 実施・評価

第11-14回 実施・評価（演習）

第15回 学びの報告会（グループ発表）、まとめ

■**事前・事後学習**：講義およびグループワークで取り組んだ課題を再度、個人で取り組み、整理することで理解を深めていきます。看護過程の各段階の修得に向けて、自己学習して臨んでください。看護過程の学びの進捗に応じて提示する文献の箇所を読み込んで理解を深めるようにしましょう。

■**教科書**：V. ヘンダーソン：湯楨ます他訳：看護の基本となるもの、再新装版、日本看護協会出版会、2016。

秋葉公子他：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践、第4版、ヌーヴェルヒロカワ、2013。

茂野 香おる他：系統看護学講座 専門分野I基礎看護学 [2] 基礎看護技術I第16版、医学書院、2017。

■**参考文献**：阿部俊子監修：エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 改訂版、中央法規出版、2014。

高木永子監修：看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント第4版、Gakken、2011。

井上智子・窪田哲朗：病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 第3版、医学書院、2016。

■**成績評価基準と方法**：欠席・遅刻および課題レポート提出状況、グループワーク参加状況などから総合的に判断する。

評価方法	到達目標	評価基準	評価割合 (%)
レポートおよび発表(実技を含む)	◎	アセスメント60%、看護問題の明確化12%、計画立案12%、実施10%、評価6%で評価する。	100
出席	◎	2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：既習の全ての専門教育科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：本科目では、問題解決の一連の思考過程を個人課題とグループワークを組み込みながら、段階的に学んでいきます。講義・演習に参加して「自ら考える姿勢」が重要ですので体調を整えて欠席しないようにしましょう。基礎看護学臨地実習Ⅱを履修するためには、この科目の学習が基盤となります。積極的に参加して学習を積み上げてください。

# 基礎看護技術論

必修

開講年次：1年次後期

科目区分：演習

単位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**：対人関係の基本を学ぶとともに、看護行為に共通な援助技術、日常生活の行動を促進する技術、生命活動を支える技術、治療、処置に伴う援助技術などの導入として、看護の基本となる実践的援助技術を主体的に学ぶ。

■**到達目標**：①基礎看護技術の原則と根拠を明確にし、技術を修得する。  
②学修した看護技術項目を、一人であるいは指導を受けながら安全に安楽に実践する。  
③自主的に演習課題に取り組み、技術修得に向けた学修参加をする。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎大野 夏代・樋之津 淳子・武冨 貴久子・檜山 明子・矢野 祐美子

■**授業計画・内容**：

第1回 コースオリエンテーション、看護技術、安全と安楽  
第2～4回 活動と休息：体位変換、移動、移送  
第5～6回 食生活：食事援助技術 食事介助、口腔ケア  
第7～8回 排泄：排泄援助技術①便器・尿器  
第9～10回 清潔：清潔援助技術①足浴  
安楽促進の技術：罨法・マッサージ  
第11～13回 清潔：清潔援助技術②寝衣交換、③洗髪  
第14～16回 清潔：清潔援助技術④全身清拭、⑤陰部洗浄  
第17回 対象への援助（SP演習）  
第18～19回 感染予防：手洗い、ガウン等の装着、滅菌物の扱い  
第20～22回 排泄：排泄援助技術②浣腸、③導尿  
第23～25回 検体採取法：採血、採尿  
第26～27回 薬物療法①経口と薬  
第28～30回 薬物療法②注射法（皮下注射、筋肉内注射）

■**事前・事後学習**：本科目の授業では、毎回、事前・事後課題を授業担当教員が提示します。これにより、看護技術の根拠を理解し、自身の技術の向上をめざします。

■**教科書**：茂野香おる著者代表：系統看護学講座 専門分野I基礎看護学 [2] 基礎看護技術I 第16版、医学書院、2017.  
任 和子著者代表：系統看護学講座 専門分野I基礎看護学 [3] 基礎看護技術II 第17版、医学書院、2017.

■**参考文献**：講義の中で提示します

■**成績評価基準と方法**：筆記試験、実技試験、事前課題、事後課題を総合的に評価します。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
筆記試験	◎				} 90
実技試験	◎	◎	◎		
事前課題			○		} 10
事後課題					
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎より重視する ○重視する

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

- ・事前課題を踏まえた講義をうけ、技術演習、事後課題への取り組みにより必要な知識の習得をめざします。技術演習では、主体的で積極的な参加態度を求めます。
- ・看護学生として援助にふさわしい態度、言葉遣いや身だしなみを整えることも演習を通して学んでいきましょう。
- ・「基礎看護学臨地実習II」の履修にあたり、本科目の単位を修得していることが望ましいです。
- ・内容に変更があった場合は、第1回目で提示します。

# 基礎看護学臨地実習I

必修

開講年次：1年次後期

科目区分：実習

単 位：1単位

講義時間：45時間

■**科目のねらい**：看護の対象となる患者および患者が生活する療養環境について観察やコミュニケーションの体験を通して理解を深めるとともに、臨床場面の参加観察および看護技術の一部実施を通して、専門職としての看護師の援助の専門性について考察する。また、看護学生として自主的・自律的な行動の必要性を認識し、今後の学修課題を考察する。

■**到達目標**：①「看護の対象を知る」ための方法を理解する。

②患者が生活する療養環境を理解する。

③専門職としての看護師の援助の独自性を理解する。

④看護学生としての自己が実習に与える影響を考慮して行動する。

⑤学習者として自主的・自律的に行動する。

⑥実習での学びをもとに専門職を目指す看護学生としての学修課題を明確にする。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎武富 貴久子・定廣 和香子・樋之津 淳子・大野 夏代・古都 昌子・檜山 明子・柏倉 大作・近藤 圭子・田仲 里江・出水 美菜子・大友 舞・鬼塚 美玲・渋谷 友紀・高橋 葉子・中田 亜由美

■**授業計画・内容**：

実習施設 市立札幌病院、手稲溪仁会病院

別途配布する「基礎看護学臨地実習I 実習要項」に基づいて、オリエンテーションを行います。

詳細は実習要項を参照してください。実習に関する変更がある場合は、オリエンテーション時に説明します。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：なし

■**成績評価基準と方法**：実習評価表に基づき、到達目標の達成度を評価基準として、下記のように評価します。ただし、2/3以上の出席を満たさない場合は評価の対象となりません。

評価方法	到達目標						評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③	④	⑤	⑥		
実習内容・記録	◎	◎	◎	○	◎	◎	到達目標の達成度	80
レポート	◎	◎	◎			◎		20
出席							2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：看護学原論、看護観察技術論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：1年次・前期の必修単位をすべて修得していることが望ましい。対象や場に応じた挨拶、実習にふさわしい態度や身だしなみ、自己の健康管理に注意して取り組んでください。



# 地域プロジェクトI(基礎編)

自由 開講年次：1年次・2年次(通年) 科目区分：演習 単 位：2単位 講義時間：60時間

■**科目のねらい**：地域の概念やしぐみ・札幌市の特徴についての基礎知識を基盤とし、実際に地域の活性化を目指し、教員が立案・計画したプロジェクトの参加観察(参加型)を通して、地域課題を解決するために必要な能力の基礎を習得する。

■**到達目標**：①地域の概念やしぐみ・札幌市の特徴について理解を深める。  
②地域プロジェクトの参加観察(参加型)を通して、地域の課題解決につながるプロジェクトが成立するための要件を考察する。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎定廣 和香子・大淵 一博

■**授業計画・内容**：

## Section 1. 地域活動へのいざない

1. オリエンテーション
2. 札幌市のまちづくり・地域活動について(講義)
3. 本学教員の地域プロジェクト事例(講義)

## Section 2. 地域活動の実際を知る(basic)

1. 地域活動に関わる特別講義・公開講座への参加

## Section 3. 地域プロジェクトを体感する

1. 地域プロジェクトの参加観察(中間報告会)

## Section 4. 学習活動を自己評価する

1. 報告会(地域住民向け)
2. アフターセッション(1年間の活動の自己評価)

■**事前・事後学習**：関心、興味のあるプロジェクトについて事前に情報収集をして下さい。プロジェクト参加後は、各自で担当した役割や感想をまとめ、プロジェクト実施報告書を提出して下さい。

■**教科書**：特になし

■**参考文献**：適宜参考資料を提供する。

■**成績評価基準と方法**：授業態度(活動の態度や言動・活動計画・記録、報告会にむけての準備)40%、発表20%、課題・作品(Section 2.の報告内容・報告書)40%、出席状況(Section 1.の受講状況、活動受け入れ先の実施証明書、報告会の参加状況)から総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
授業態度	○	○	◎	活動記録や活動受け入れ先の評価	40
発表			◎		20
課題・作品		◎	○	報告書・報告内容を含む	40
出席	○	○	○	2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：スタートアップ演習、札幌を学ぶ、

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：学生が、自らの関心、興味に従って、主体的に学習する授業である。Section 3は、プロジェクト担当教員と面談の上、活動内容を決定し、計画を立案する。複数のプロジェクトに参加できるが、各プロジェクト終了時に、活動記録および活動受け入れ先の実施証明書を提出する。

# 生命科学

選 択

開講年次：2年次前期

科目区分：講 義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：21世紀は「生命科学」の時代とも言われている。この教科では、分子生物学からゲノムサイエンスまでの発展の歴史を概観しながら、「生命」の基礎である細胞、体を構成する主な成分とそれらの働きについて学び、さらに、生命科学の基本である遺伝情報について、遺伝情報の流れや遺伝子発現制御などに関する理解を深める。また、看護においても重要な対象である癌、老化と寿命、生活習慣病と遺伝子の関係について学び、生命と科学に対する理解を深める。

■**到達目標**：①生命の最小単位である細胞と、生命体を構成している物質を理解し、細胞がどのようにエネルギーを産出し、外部エネルギーを取り入れるのかを理解する。さらに細胞の異常がもたらす疾病について概観する。  
②生命の設計図である遺伝子の複製と発現について理解する。  
③分子からみた生命現象を理解し、さらに病気と遺伝子の関わりを理解し、健康について考える。

■**担当教員**：

山田 恵子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 生命科学とは？ 生命と生命の最小単位・細胞 ―基本構造とその働き
- 第2回 細胞の異常と疾病とのかかわり
- 第3回 生命体を構成している物質…タンパク質と酵素
- 第4回 栄養素の消化と代謝、エネルギーを担う分子
- 第5回 DNAとRNA、ゲノム・遺伝子
- 第6回 生命の設計図―遺伝子の複製とタンパク質合成のしくみ
- 第7回 遺伝子工学の実際
- 第8回 遺伝と病気・健康、生活習慣病の発症機構と遺伝子

■**事前・事後学習**：

- 事前学習：予定されている授業内容をシラバスで確認し、参考文献などで予習しておくことが望ましい。特に高校で「生物」を履修してこなかった学生は、高校程度の知識を身につけておくことが望ましい。
- 事後学習：各章の講義終了後、確認問題を配布するので、各自問題を解き、自分の理解度を確認すること。確認問題は、本試験の試験対策としても有効である。

■**教科書**：特定の教科書は使用しない。プリントを使用して講義を行う。

- 参考文献**：『ZEROからの生命科学』／木下 勉、小林秀明、浅賀宏昭（南山堂） ISBN4-525-13412-7 2,520円  
『わかりやすい分子生物学』／菊池・村松・榊（丸善） ISBN4-621-04661-6 6,090円  
『現代生命科学の基礎』／都筑幹夫編（教育出版） ISBN4-316-80158-9 2,100円  
『いのちの音がきこえますか』／柳澤桂子（コック舎） ISBN4-8431-0074-9 1,575円  
『あなたのなかのDNA』／中村桂子（早川書房） ISBN4-15-050176-9 525円

■**成績評価基準と方法**：出席状況、講義内容に関する確認問題の提出、および定期試験を基に総合的に判断する。定期試験に関しては、不合格点の場合に理解できるまで複数回のレポート提出などによる再試験を行い、学生が理解する努力をする。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	60点以上合格	80%
小テスト・授業内レポート	○	○	○	提出すれば合格とする	20%
出席				2/3以上の出席	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：特に評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：生物学や化学に相当する科目が少ない中、「生命科学」の講義が「生命」を科学の目で理解する力を養うことができる教科であると考え。看護学の理解には、体を構成している沢山の物質とそれらの働きに対する理解がかかせないため、遺伝子のみならずタンパク質や糖質、脂質、ビタミンなどを理解する講義も合わせて行っている。多くの学生が受講することを望む。特に高校で化学や生物学を履修してこなかった学生は、専門科目の理解を助ける科目として是非、受講して欲しい。

# 生命倫理

選 択

開講年次：2年次前期

科目区分：講 義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：インフォームド・コンセントが生命倫理の核にあるのは明らかだが、決定主体である自己をどのようにとらえるべきかは明らかではない。この講義では、従来の生命倫理が前提としてきた自己像を批判的に検討し、あるべきインフォームド・コンセントの姿を模索したい。受講者には、その過程でさまざまな倫理的問題について自ら考えてもらうことになる。

■**到達目標**：①決定主体である自己の成立基盤を理解する。  
②倫理的諸問題について自ら考える力を養う。  
③自分自身の考えを正しく表現する力を養い、コミュニケーション能力の向上をはかる。

■**担当教員**：

村上 友一

■**授業計画・内容**：

- 第1回 自己決定権とその思想的背景
- 第2回 自由主義の帰結
- 第3回 カントのリパタリアニズム批判
- 第4回 自己決定の成立基盤としての平等
- 第5回 平等概念の再検討（1）
- 第6回 平等概念の再検討（2）
- 第7回 自己と共同体の関係を問い直す
- 第8回 自己の成立基盤としての共同体：国家・家族・自己

■**事前・事後学習**：

事前学習について：授業の終わりに次回の授業テーマについて触れ、授業までに事前に調べておくべき事柄を予習のポイントとして指示します。

事後学習について：その回の内容を整理し、理解を深めておくこと。期末レポートでは、講義の理解度が問われることになる。

■**教科書**：特に指定しない。授業内で資料を配布する。

■**参考文献**：授業内で紹介する。

■**成績評価基準と方法**：期末レポート（70%）、授業内レポート（30%）により評価。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
期末レポート	○	◎	◎	自分自身で考え、自らの意見を適切に表現しているか。	70
授業内レポート		◎	◎	問題の理解度、思考の進捗	30
出席				2/3以上の出席。	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業内で提示される問いに主体的に取り組んでください（その時間は、学生同士の私語（?）を許可します）。この授業では、「自分自身で考えること」が要求されます。期末レポートの評価でも、「自分自身で考え、自分の意見を正しく表現すること」を重視します。

# 環境保健

選 択

開講年次：2年次前期

科目区分：講 義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：健康を考える上で、環境は重要なウエイトを占める。とりわけ、現代社会では人間活動の影響を強く受けた環境によって、かつて経験したことのない新たな健康問題が引き起こされている。環境破壊と健康障害等の事例から、健康にとって環境の持つ意味及びそれらが人間の活動にどれだけ影響を及ぼしているかを理解する。

■**到達目標**：①人々の健康や生活と環境との密接なかわりを説明できる。  
②どのような人間活動が環境を破壊し、健康問題を引き起こしているか説明できる。  
③持続可能な循環型社会をつくるための環境保全活動について、世界～個人の日常生活に至る各レベルの取り組みのポイントを述べることができる。

■**担当教員**：

齋藤 健

■**授業計画・内容**：

- 第1回 環境のとらえ方
- 第2回 大気・大気汚染と健康への影響
- 第3回 水・水質汚濁と健康への影響
- 第4回 温度・気圧・放射線・騒音・振動 等の健康への影響
- 第5回 地球環境問題
- 第6回 札幌市における環境保健活動（特講）
- 第7回 生活環境の評価方法
- 第8回 環境保全活動のまとめ

■**事前・事後学習**：

事前学習について：授業の終わりに次回の授業テーマについて触れ、次回の授業までに事前に調べておく事柄を予習のポイントとして指示します。

事後学習について：授業内容に即した形で宿題として関連する論文の調査や演習課題を課します。また、論文内容の把握、発表準備、課題作成など、授業時間外の作業が必要となります。

■**教科書**：指定しない

■**参考文献**：「国民衛生の動向」／厚生指針 増刊（厚生統計協会）  
「環境白書・循環型社会白書／生物多様性白書」／環境省（日経印刷）2013年

■**成績評価基準と方法**：授業・演習態度20%、発表40%、提出物40%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業・演習態度			○	積極的参加 学習環境配慮	20
発表			◎	プレゼンテーション、独創的な発案や他者へのサポートイブな発言	40
提出物	○	○	○	プレゼンテーション資料の作成、ユニークな提案とその根拠	40
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：札幌を学ぶ、現代社会と国際関係、環境を考える など

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：環境が人々の健康・生活に与える恩恵やリスク、人々が環境に及ぼす功罪、そして両者は一体の系として共存関係にあることを理解して下さい。環境を地球規模で考えると同時に、日々実行できる環境保全活動を見つけていきます。

# 人間工学

選 択

開講年次：2年次前期

科目区分：講 義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：保健・医療・福祉分野、看護援助における機械・器具、空間と人間との好ましい対応関係など、安全性・快適性・効率性を考慮した人間工学の基礎的な概念を理解する。

- 到達目標**：①人間工学の基礎的な概念と看護学との関係を理解する。  
②人の動作に必要な機能の特性を理解する。  
③人の生体計測および動作分析方法の基礎を学ぶ。  
④看護ケア・医療福祉機器、病院環境の諸課題を人間工学の視点から説明する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎檜山 明子・樋之津 淳子・佐藤 秀一

■**授業計画・内容**：

- 第1回 看護における人間工学とは（檜山）  
第2回 身体の運動機能・生体計測・動作分析法（佐藤）  
第3回 福祉工学・リハ工学（佐藤）  
第4回 看護における安全と人間工学（檜山）  
第5回 療養環境と人間工学（檜山・樋之津）  
第6回 看護ケア・医療福祉機器と人間工学①（檜山・樋之津）  
第7回 看護ケア・医療福祉機器と人間工学②（檜山・樋之津）  
第8回 まとめ（檜山）

■**事前・事後学習**：授業内容に応じて事前課題を提示します。また、これまで履修した専門科目のうち特に技術演習や実習で生じた疑問や自己課題を人間工学的視点で振り返り、理解を深めてください。

■**教科書**：指定しない

■**参考文献**：大河原千鶴子、酒井一博編（2002）. ヘルス・ケア・ワークを支える 看護の人間工学. 医歯薬出版.  
小川鑛一（1999）. 看護動作を助ける基礎人間工学、東京電機大学出版局.  
野呂影勇（1990）. 図説エルゴノミクス、培風館.

■**成績評価基準と方法**：（2/3以上の出席をもって下記のように評価する）

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③	④		
レポート	○	◎	◎	◎	計測方法、結果と考察が客観的に記述できる	100
出席					2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：看護観察技術論、基礎看護技術論、基礎看護学臨地実習I、基礎看護学臨地実習II

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：楽しみながら学習できると学生からの評価が高い授業です。人間工学は、一見難しそうに見えますが、事前に特別な工学の知識は必要ありません、授業を通して学んで下さい。レーザー距離計などの様々な器具を使いながら、実際にからだやモノを測り、看護ケア・医療福祉機器、病院環境における動作分析をします。基礎看護技術論や観察技術論で既に学んだ看護技術も、人間工学を学ぶと違う角度から見えるようになるはずです。

# 臨床栄養学

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：演習

単 位：1単位

講義時間：30時間

## ■科目のねらい：

ねらい：適切な栄養ケアを行うために必要な、食生活や栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、栄養・食物と薬の相互作用について学ぶ。

方 法：事例を用い、栄養状態の特徴に適した栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的な栄養マネジメントの考え方を理解する。

- 到達目標：①健康時の「栄養状態」について評価・判定できる。  
②「栄養状態の特徴」に応じた栄養ケアマネジメントについて理解できる。  
③患者・家族に「栄養ケア」の基本を説明できる。

## ■担当教員：

高野 良子

## ■授業計画・内容：

- 第1回 健康と食生活、エネルギー代謝
- 第2回 栄養素のはたらきと消化・吸収
- 第3回 栄養補給法、おもな栄養関連疾患と栄養・食事療法の概要
- 第4回 医療保険制度における栄養・食事療法、福祉・介護保険制度と栄養・食事療法
- 第5回 ライフステージと栄養1
- 第6回 ライフステージと栄養2
- 第7回 栄養状態の評価・判定法
- 第8回 栄養代謝性疾患の栄養ケアマネジメント1
- 第9回 栄養代謝性疾患の栄養ケアマネジメント2
- 第10回 消化吸収機能障害の栄養ケアマネジメント1
- 第11回 消化吸収機能障害の栄養ケアマネジメント2
- 第12回 腎機能障害の栄養ケアマネジメント
- 第13回 食物摂取機能障害の栄養ケアマネジメント
- 第14回 食物アレルギーほかの栄養マネジメント、食の安全
- 第15回 在宅医療・介護における栄養ケアのマネジメント

## ■事前・事後学習：

事前学習について：各授業で取り上げる分野について、関連する科目のテキスト等をもちいて「人体の構造・機能および疾病の成り立ちについて」内容把握に努めておくこと。

事後学習について：授業後は内容理解を確認する小テストも実施するので、復習をおこなうこと。

■教科書：系統看護学講座『人体の構造と機能〔3〕 栄養学』／（医学書院）、「七訂食品成分表」（女子栄養大学出版社）／ほかに資料を配布します。

■参考文献：系統看護学講座別巻『栄養食事療法（第3版）』／（医学書院）、他は開講時にリストを提示します。

■成績評価基準と方法：定期試験60%、課題提出物等（小テスト、課題）30%、発表等10%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	○		60
小テスト・授業内レポート	○	○	○	各回の要点を理解していること。	15
授業態度	○	○	○	積極的な姿勢。	10
発表	○	○	○		
課題・作品	○	○	◎		15
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

## ■関連科目：

■その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）：この科目は、看護専門科目での、栄養・食事に関する問題解決の基礎となるものです。積極的に取り組んでください。

# 疾病治療学概論

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：人の健康を損ねる疾病には、共通した発生の要因があって、いくつかの疾病では症状も似ています。そこで、本科目では、諸臓器における疾病発生の基本的な仕組みを学びます。この科目では、治療と看護を考える上で、役に立つ知識を数多く学びます。最後に、治療を行う上で必要となる麻酔法に関する基礎的な知識についても習得します。

■**到達目標**：基礎医学と臨床医学を結びつけて疾患の成り立ちを理解します。習得した知識にもとづいて、患者の状態にそった適切な看護計画をたてることができるようになることが最終到達目標です。

1. 循環器系の病理学用語の定義を明確に述べることができる。
2. アテローム性動脈硬化症における血管を閉塞するに至る過程を説明できる。
3. 狭心症、心筋梗塞の診断方法と予後、治療法を説明できる。
4. 左心不全と右心不全の症候と発症機序を説明できる。
5. アダム・ストークス症候群の定義とこれを引き起こす不整脈の種類を説明できる。
6. 高血圧症の定義と原因、発症要因、治療法を説明できる。
7. ファロー四徴症の発生学的原因と症候を説明できる。
8. 閉塞性肺疾患（気管支喘息と慢性閉塞性肺疾患COPD）と拘束性肺疾患（間質性肺炎、肺線維症、塵肺症）の違いを説明できる。
9. 気管支喘息とCOPDの病因と症候、呼吸機能検査の特徴所見を説明できる。
10. 肺結核の病因と特徴的な病理学的所見、症候を説明できる。
11. 肺癌の組織型分類と好発部位、癌の特徴を説明できる。
12. 新生児呼吸窮迫症候群の病因を説明できる。
13. 急性糸球体腎炎の病因と症候、発症機序を説明できる。
14. IgA腎症の病因と症候、発症機序を説明できる。
15. ネフローゼ症候群の定義と原因疾患を子供と大人で言える。
16. 腎不全の定義と、腎不全の症候を説明できる。
17. 尿路結石症の病因と症状を説明できる。
18. 尿管管腫（ろう）の発生学的病因と症状を説明できる。
19. 呼吸性・代謝性アシドーシスと呼吸性・代謝性アルカローシスの原因を言える。
20. 小児と高齢者が脱水になりやすい理由を言える。
21. 熱中症の症候を重症の程度に応じて説明できる。
22. ショックの症候と発症機序、治療を説明できる。
23. 熱傷（やけど）の重症度を判定できる。
24. 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、腎性貧血の診断に必要な血液検査を言える。
25. 急性白血病と慢性骨髄性白血病、成人T細胞性白血病の病因、症候、予後を説明できる。
26. 特発性血小板減少症の症候と発症機序を説明できる。
27. 血友病の病因と症候を説明できる。
28. DIC（播種性血管内凝固症候群）の病態と原因となる疾患を説明できる。
29. 炎症の四徴とその病理学的裏付けを言える。
30. 急性炎症の治療過程である肉芽組織を説明できる。
31. 慢性炎症の結果できる肉芽腫の成り立ちを説明できる。
32. アレルギー反応I～IV型の原因と発症機序を説明し、具体的な例を挙げることができる。
33. 自己免疫疾患（SLE、関節リウマチ、シェーグレン症候群、強皮症、パーチェット病）の症候と発症機序を説明できる。
34. 後天性免疫不全症（エイズ）の病因と症候、発症機序、予後を説明できる。
35. 移植片対宿主病の病因と症候、発症機序を説明できる。
36. 逆流性食道炎、食道癌、胃潰瘍、胃癌、十二指腸潰瘍、クローン病、潰瘍性大腸炎、大腸癌の病理学的特徴と症候を説明できる。
37. 肥厚性幽門狭窄症、ヒルシウスブルグ病の発生学的原因と症候を説明できる。
38. A型、B型、C型ウイルス性肝炎の病因と、肝硬変、肝癌へ進む割合を説明できる。
39. 門脈圧亢進症の症候の発現機序を説明できる。
40. アルコール性脂肪肝と非アルコール性脂肪肝を説明できる。
41. 胆石症の胆石の成分による違い、症候を説明できる。
42. 急性膵炎、慢性膵炎、膵癌の病因と症候、発症機序を説明できる。
43. 先天性胆道閉鎖症の発生学的原因と症候を説明できる。
44. 溶血性黄疸と閉塞性黄疸における血液中の胆接・直接ビリルビン濃度、灰白便の有無などを説明できる。
45. 脳血管障害（一過性脳虚血発作、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）の病因と症候を説明できる。
46. アルツハイマー病にみられる脳の病理学的変化と症候を説明できる。
47. 動脈硬化性認知症の症候の特徴を言える。
48. パーキンソン病にみられる脳の病理学的変化と症候を説明できる。
49. クロイツフェルト・ヤコブ病の病因と症候、予後を説明できる。
50. 髄膜炎の症候と髄液検査結果を説明できる。
51. 筋萎縮性側索硬化症（ALS）の病因、症候、予後を説明できる。
52. ギラン・バレー症候群の病因、症候、予後を説明できる。
53. 重症筋無力症の病因と症候を説明できる。
54. デュシェンヌ型筋ジストロフィーの病因、症候、予後を説明できる。
55. 変形性関節症の病因と症候を説明できる。
56. 骨粗鬆症の病因と閉経後の女性の骨折の好発部位を言える。
57. 閉塞性動脈硬化症とパーキンソン病の危険因子と共通の症候を説明できる。
58. 周期性四肢麻痺の病因と症候を説明できる。
59. 内分泌器疾患（巨人症、先端巨大症、シーハン症候群、尿崩症、バセドウ病、クレチン病、粘液水腫、テタニー、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、アジソン病、褐色細胞腫）の病因と症候を説明できる。
60. 前立腺肥大症の症状を説明できる。
61. 前立腺癌の腫瘍マーカーを言える。
62. 子宮体癌、子宮頸癌、子宮筋腫の好発年齢、症候と発症機序、治療を説明できる。
63. 乳癌の好発部位、発症要因、治療を説明できる。
64. 糖尿病I型とII型の病因の違い、病態生理、症候、治療を説明できる。
65. 痛風の病因、病態生理、症候、治療を説明できる。
66. 麻酔法の基礎知識を習得する

■**担当教員**：◎は科目責任者

◎高野 廣子・伊東 義忠

■**授業計画・内容**：（ ）内の数字は到達目標の該当項目を示す。

第1回 循環器疾患1 (1～3)	第5回 体液の乱れ (19～23)	第9回 肝臓・胆道・膵臓疾患 (38～44)	第13回 代謝疾患 (64, 65)
第2回 循環器疾患2 (4～7)	第6回 血液・造血器疾患 (24～28)	第10回 脳の疾患 (45～51)	第14回 麻酔法1 (66)
第3回 呼吸器疾患 (8～12)	第7回 免疫・アレルギー疾患 (29～35)	第11回 運動器疾患 (52～58)	第15回 麻酔法2 (66)
第4回 泌尿器疾患 (13～18)	第8回 消化管疾患 (36, 37)	第12回 内分泌疾患と生殖器疾患 (59～63)	

■**事前・事後学習**：

事前学習について：1～12回では、次回の授業テーマに関する問題を集めた問題集を配布します。これを授業を受ける前にやっけてください。  
事後学習について：授業を受けた後に、再度問題集をやってみます。予習・復習の成果は小テストで確認することができます。

■**教科書**：『臨床病態学』第1・2・3巻（ヌーヴェルヒロカワ）『周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護』（医学書院）

■**参考文献**：『器官病理学改訂14版』（南山堂）

■**成績評価基準と方法**：第2～13回目の授業の最初に、予習部分と復習部分について先に配布する問題集を元に小テストを行います。成績評価は定期試験と小テストの結果および受講態度に基づいて行われます。定期試験（学期末）60%、小テスト30%、受講態度10%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	解剖生理学の知識の確認	臨床病理病態学	麻酔法の基礎知識		
定期試験		1～65	66	6割以上	60%
小テスト	◎	◎	◎	6割以上	30%
受講態度		◎		授業への集中度	10%
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：看護観察技術論、薬理学、病理病態学、感染予防論、基礎看護技術論、生命科学、環境保健、人間工学、臨床栄養学、疾病治療学A/B/C、症状マネジメント論、成人看護学概論、成人看護援助論、成人看護技術論、成人看護学臨床実習I、臨床薬理学、老年看護援助論、老年看護技術論、がん看護学、小児看護学概論、小児看護援助論、小児看護技術論、母性看護援助論、母性看護学臨床実習、透析ケア、重症集中ケア、救急看護学、認知症ケア

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：この科目では解剖生理学と病理病態学の知識を確実なものにして、これらを基にして症候の原因と治療と看護を考える力を身につけます。毎回小テストをするので、必ず小テストの勉強をしてきてください。繰り返し記憶することが大事です。

# 疾病治療学A

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立にかかわる基本的病態の概念を述べ、各臓器・器官がどのような病態となつて疾病へと移行して要治療となるのかを学習する。ここでは、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝・内分泌疾患について学習する。

■**到達目標**：各臓器・器官の機能のメカニズムと心身の相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を習得する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎甲谷 哲郎・秋江 研志・和田 典男 他

## ■授業計画・内容：

呼吸器疾患：肺・呼吸調節系の解剖・生理の知識を基に、症状の発現原因を学ぶとともに、看護を行う上で必要な各種呼吸器疾患の成因・病態・診断・治療法の知識を学習する。

第1回 呼吸器感染症  
疾患の種類と病態及び治療法、スタンダードプレコーション  
(対応する教科書の項目：感染症)

第2回 気道疾患・間質性肺炎  
肺機能検査の基礎、気管支喘息及び慢性閉塞性肺疾患の診断と治療  
(対応する教科書の項目：アレルギー性疾患の気管支喘息・閉塞性疾患)  
間質性肺炎を起こす疾患、呼吸器疾患とアレルギー反応  
(対応する教科書の項目：アレルギー性疾患・拘束性肺疾患)

第3回 呼吸不全及び呼吸調節・臨床腫瘍学  
呼吸不全の種類と病態  
(対応する教科書の項目：肺循環障害・換気異常)  
臨床腫瘍学概論

第4回 腫瘍性疾患  
肺癌、転移性肺腫瘍、喫煙の害について  
(対応する教科書の項目：腫瘍・胸腔疾患)

第5回 胸腔疾患  
縦隔疾患、気胸、悪性胸膜中皮腫  
(対応する教科書の項目：胸腔疾患)

循環器疾患

第6回 先天性心疾患、虚血性心疾患  
(教科書第1巻p424-442)

第7回 心膜疾患、心筋症 肺性心、肺塞栓症、心不全  
(教科書第1巻p442-475)

第8回 感染性心内膜炎、弁膜症、ショック、心臓腫瘍  
(教科書第1巻p480-515)

第9回 血圧異常、不整脈疾患  
(教科書第1巻p517-541)

第10回 血管の疾患(教科書第1巻p543-552)

代謝・内分泌疾患：教科書第2巻第8章

第11回 内分泌疾患(1)

第12回 内分泌疾患(2)

第13回 代謝疾患(糖尿病)(1)

第14回 代謝疾患(糖尿病)(2)

第15回 代謝疾患(高脂血症他)

■**事前・事後学習**：あらかじめシラバスで授業計画・内容等を確認すること。授業後は配布資料などを復習し、理解を深めること。

■**教科書**：『臨床病態学』第1・2巻／(ヌーヴェルヒロカワ)

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：試験(80%)、授業態度(20%)

評価方法	到達目標	評価基準	評価割合(%)
定期試験	◎	60%以上の正解をしていること	80
授業態度	○	積極的な姿勢	20
出席	◎	2/3以上の出席	欠格条件
その他			

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：講義をうける前に教科書の対応している部分を読んでおくこと。ある程度教科書の内容を理解していることを前提に授業を行う。



# 疾病治療学B

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立にかかわる基本的病態の概念を述べ、各臓器・器官がどのような病態と なって疾病へと移行して要治療となるのかを学習する。ここでは、消化器疾患、血液疾患、骨・筋肉疾患、腎・泌尿器疾患に ついて学習する。

■**到達目標**：各臓器・器官の機能のメカニズムと心身の相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護 実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を習得する。

■**担当教員**：

永坂 敦 他

■**授業計画・内容**：

第1回 消化器（1）胃

第2回 消化器（2）大腸

第3回 消化器（3）肝

第4回 消化器（4）胆・膵

第5回 臨床免疫学・アレルギー、アナフィラキシー・膠原病総論

第6回 膠原病各論（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、筋患、その他）

第7回 血液疾患（1）

第8回 血液疾患（2）

第9回 変形性関節症、関節リウマチ、脊椎・脊髄疾患

第10回 抹消神経、骨粗鬆症、骨折

第11回 スポーツ障害、骨・軟部腫瘍

第12回 腎疾患（1）

第13回 腎疾患（2）

第14回 泌尿器疾患（1）

第15回 泌尿器疾患（2）

■**事前・事後学習**：あらかじめシラバスで授業計画・内容等を確認すること。授業後は配布資料などを復習し、理解を深めること。

■**教科書**：『臨床病態学』第1・2・3巻／（ヌーヴェルヒロカワ）

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：定期試験により評価。なお、定期試験問題は、担当教員の各分野について総合問題として国試形式で 出題する。

評価方法	到達目標	評価基準	評価割合 (%)
定期試験	◎		100
授業態度		注意しても私語を繰り返す場合は欠席とみなすことがあります	
出席		2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：臨床現場で遭遇する患者さんは授業で示される典型的なものばかりではあ りません。教科書以外の文献や資料などにも積極的に目を通してこれを機会に幅広く関連疾患を理解していくことを希望しま す。

# 公衆衛生学

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：公衆衛生学では、人々の疾病の予防、寿命の延長、身体・精神の健康の増進を図るための組織的な努力について、考え方や活動内容を学びます。

■**到達目標**：①人々の健康を決定するさまざまな要因について説明できること。  
②主な健康指標の定義を説明できること。また、示されたデータを読み取り解釈できること。  
③各々の公衆衛生活動分野における具体的な活動内容を説明できること。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎高橋 恭子・廣田 洋子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 公衆衛生学序論
- 第2回 保健統計
- 第3回 疫学
- 第4回 疾病予防と健康管理
- 第5回、第6回 主な疾病の予防
- 第7回 環境保健
- 第8回 地域保健と保健行政
- 第9回 母子保健
- 第10回 学校保健
- 第11回 産業保健
- 第12回 老人保健・福祉
- 第13回 精神保健
- 第14回 国際保健医療
- 第15回 保健医療福祉の制度と法規

教員の都合により、順序が入替わることがあります。

■**事前・事後学習**：予定されている授業テーマについて参考文献などを確認し、疑問点を明らかにしておくこと。テーマによっては、次回授業までに調査しておく内容を指示する。授業後は配布資料を確認し、授業内容の理解を深める。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：『シンプル衛生公衆衛生学2018』鈴木庄亮、久道 茂監修（南江堂）

『国民衛生の動向2017/2018』（厚生統計協会）

『保健医療福祉行政論』標準保健師講座別巻1（医学書院）

その他参考資料として、学生本人の出生時の「母子健康手帳」（「親子手帳」等）を使用予定

■**成績評価基準と方法**：定期試験75%、授業態度・発表10%、出席15%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎		75%
小テスト・授業内レポート	○	○	○	多様な情報を関連付けて理解を深めている場合に加点対象。	
授業態度	○	○	○	授業の妨げになる行為は減点対象。受講生の理解を深める建設的な質問・意見発表は加点対象。	10%
発表	○	○	○		
課題・作品					
出席	○	○	○	2/3以上の出席	15%
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：地域保健学、保健統計、疫学、国際保健学、環境衛生、保健医療福祉行政論など

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：公衆衛生学は、患者のケアの場面でも、個人の全人的な背景を理解するために有用な知識となります。理解を深めるために、グループワークを適宜実施しますので、積極的に発言をしてください。普段から、新聞、テレビなどの健康に関する情報にも関心を持って授業に臨んでください。

# 社会福祉学

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：講義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：「社会福祉」とは何か、またその対象とは何か（あるいは、誰か）、社会福祉の担い手は誰か等についての基本的な理解を踏まえ、それを実現する、あるいは運営するための国家システムとしての社会保障制度の成立過程と概要を学ぶ。また、貧困や障害など、社会の中で生きていくうえでのさまざまな不都合や不利益を被る人びとの、基本的人権の回復や尊厳の保持、社会正義を目指すための社会福祉実践においては、エンパワメントの姿勢やストレングスの視点といった福祉の「構え」が必要不可欠とされている。そうした「構え」を学び、それ通して実現されるべき「共生社会」についても共に考えてみたい。

■**到達目標**：①社会福祉とは何か、社会福祉の対象とは何か、社会福祉の担い手とはだれかについて学び、目指される「地域包括支援」や「共生社会」について理解する。  
②現代社会を生きる私たちが社会福祉を必要とする背景として「近代化」をとらえつつ、社会保障制度や社会福祉各法の成立過程を把握する。  
③障害を抱える、老いと向き合うといった当事者の経験の主観的理解を通して、倫理や基本的人権、社会正義といった理念を実質的に理解する。  
④1990年代の社会福祉基礎構造改革から今日に至る社会福祉関連の法と施策の展開を理解し、制度としての社会福祉のこれからのあり方について学ぶ。

■**担当教員**：

新田 雅子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 社会福祉とは何か：友人を助けることとの違い
- 第2回 目指される「共生社会」とその困難：コミュニティソーシャルワーカーの仕事
- 第3回 近代国家と社会保障：「人間の価値」という問題（ナチスドイツの障害者暗殺計画を例に）
- 第4回 社会保障のためのシステムとしての社会保険と公的扶助
- 第5回 当事者理解：エイジングゲームの試み
- 第6回 社会福祉基礎構造改革の展開と課題：高齢者に関わる法と施策を中心に
- 第7回 子どもに関わる福祉の法と施策：児童虐待をどう捉えるか（『ルポ 虐待』を読む）
- 第8回 地域住民・ボランティア・行政機関と施設の役割：ネットワークの意味と意義

■**事前・事後学習**：初回の事前学習として、「“お金が無くて今日一食も食べていない”という友人に昼食をごちそうする」ことと、「ホームレス支援活動団体の炊き出しを手伝うこと」とは何かどう違うのかを考えてきてください。前者は社会福祉の実践ではありませんが、後者は社会福祉の実践といえます。その理由を自分なりに考えたうえで、初回講義に臨んでください。2週目(第3回)以降の事前学習については、初回時に指示します。事後学習については、毎回配布するレジュメの内容をよく振り返っておくことのほか、参考資料として新聞記事や文献のコピーを配布するので、それらに必ず目を通すようにしてください。また、インターネットサイトや映画のDVDを紹介したりするので、意識的に見るようにしてください。

■**教科書**：指定しない。授業内で資料を配布する。

■**参考文献**：稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ』有斐閣（2008）ISBN：9784641177062  
坪洋一・金子充・室田信一『問いからはじめる社会福祉学』有斐閣（2016）ISBN：9784641150300  
そのほか、授業中に都度多数紹介する。

■**成績評価基準と方法**：評価は、開講日ごとの「振り返りシート」の内容と定期試験の合計で行う。

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
定期試験	◎	◎	◎	◎	社会福祉のキーワードの理解(30%) 社会福祉の歴史、理念等の理解(30%)	60%
出席	○	○	○	○	・2/3回以上の出席を評価の前提とする。 ・開講日ごとの「振り返りシート」の提出とその内容(1回10点×4回)	40%

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：（再掲します）初回の事前学習として、「“お金が無くて今日一食も食べていない”という友人に昼食をごちそうする」ことと、「ホームレス支援活動団体の炊き出しを手伝うこと」とは何かどう違うのかを考えてきてください。前者は社会福祉の実践ではありませんが、後者は社会福祉の実践といえます。その理由を自分なりに考えたうえで、初回講義に臨んでください。  
本講義では、ほぼ毎回ドキュメンタリー映像や心理実験的なワークを取り入れ、皆さんにリアリティを感じつつ社会福祉とは何かについて考えていただきたいと思います。積極的かつ主体的な学びの姿勢を期待します。

# 家族社会学

保健師コース必修  
看護師コース選択

開講年次：2年次前期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：人間生活の基礎的単位である家族が、現代社会で大きく変化しつつある現状を見据えながら、社会や地域における家族の役割と生活の場として家族が個人に果たす役割や機能について理解する。

■**到達目標**：家族と社会、家族と個人の関係についての関心や理解力を得ること。家族社会学の基礎的な専門用語を習得すること。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎原 俊彦・小田 和美・松浦 和代

■**授業計画・内容**：

- 第1回 家族をどう捉えるか？
- 第2回 日本の家族：特徴とその変化
- 第3回 配偶者選択と家族形成（恋愛・結婚・出産）
- 第4回 配偶者選択と家族形成（離別・死別・再婚）
- 第5回 ライフサイクルの変化と家族の多様化
- 第6回 家族機能と社会的支援（老親の扶養）
- 第7回 家族機能と社会的支援（子どもの養育）
- 第8回 家族機能と社会的支援（子どもの養育）

■**事前・事後学習**：事前にポータルシステムから教材（講義ノート・配布資料）を送付するので、授業までに目を通し、わからない点などを事前にチェックする。事後、教科書の該当箇所を読みながら、教材（講義ノート・配布資料）に書き込みを行いファイルするとともに、ポータルシステムからの課題に取り組む。

■**教科書**：『新しい家族社会学』／森岡清美・望月菫（培風館）¥1,837

■**参考文献**：『テキストブック 家族関係学』山根常男編著（ミネルヴァ書房）¥2,940

『家族ライフスタイルの社会学』／デイヴィド・チール著 野々山久也監訳（ミネルヴァ書房）¥3,150

『これからの家族関係学』／土屋葉編（角川書店）¥2,100

■**成績評価基準と方法**：3回以上欠席すると不合格になります。また受講態度（遅刻、居眠り、おしゃべり）が悪い場合は減点します。授業中に出す課題の採点結果と受講態度で上記の到達目標の達成度を評価します。

評価方法	到達目標	評価基準	評価割合 (%)
授業態度	○	授業中の居眠り、おしゃべり、遅刻などは減点の対象とします。	
課題・作品	◎	課題(4ないし5回)の評価点合計(100点満点)	100%
出席	○	3回以上欠席した場合は、不合格	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：共通教育科目「現代社会と家族」

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：本講義では1年次に開講される共通教育科目「現代社会と家族」の内容をベースに、より専門的な概念や分析方法などを紹介し、将来、必要に応じ、対象者の家族関係を分析・記述・把握する力を養うことを目指している。従って1年次に「現代社会と家族」を履修していることが望ましい。

# 医療情報

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：医療における情報機器の利用と注意点、医療情報を通じた医療者間の連携、患者情報の管理を理解するために、倫理や経営など社会科学的側面、コンピュータやシステムなど理工学的側面、電子カルテ・各種システムや臨床疫学・EBMなど医療的側面など多視点から見た医療情報について学習する。

■**到達目標**：①医療における個人情報の安全な取り扱いと管理方法を列挙できる。  
②医療における情報・システムの役割とその具体的な運用方法を説明できる。  
③医療における情報の発展的な活用方法を提示し、関連分野との関連性を説明できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎小笠原 克彦・遠藤 晃・谷 祐児

■**授業計画・内容**：

- 第1回 医療情報学概論（小笠原）
- 第2回 医療情報の倫理1（小笠原）
- 第3回 医療情報の倫理2（小笠原）
- 第4回 個人情報保護法（小笠原）
- 第5回 コンピュータ・インターネットの仕組み1（谷）
- 第6回 コンピュータ・インターネットの仕組み2（谷）
- 第7回 病院情報システム1（遠藤）
- 第8回 病院情報システム2（遠藤）
- 第9回 医療情報の標準化（谷）
- 第10回 看護情報学入門（谷）
- 第11回 病院経営と医療情報（谷）
- 第12回 地域医療連携と医療情報（谷）
- 第13回 臨床経済学入門（小笠原）
- 第14回 臨床疫学入門（小笠原）
- 第15回 医療安全と医療情報（小笠原）

■**事前・事後学習**：毎回授業のテーマが変わるので、予定されている授業内容をシラバスで確認し、予め配布されている資料などに目を通し、ある程度自分の考えをまとめておくこと。受講後は、配布資料などを復習しながら授業内容の理解を深め、さらに参考図書、新聞、ウェブメディアなどを参照しながら、自身の考察を深めることが求められる。予習・復習時間としてそれぞれ、2時間程度が必要である。

■**教科書**：なし（毎回レジメを配布する）

■**参考文献**：『新版 医療情報—情報処理技術』（日本医療情報学会編）  
『新版 医療情報—医療情報システム』（日本医療情報学会編）

■**成績評価基準と方法**：筆記試験100%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	60%を正解していること。	100
授業態度	○	○	○	授業中の積極的な発言には1回の授業につき1点加点。	
出席				2/3以上の欠席	欠格事項

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業中の積極的な発言を歓迎します。

# 症状マネジメント論

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：演習

単 位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**：患者が自分の症状をセルフマネジメントできるように、患者にとって必要な知識・技術を提供し、看護支援を用いてマネジメントを促進する方法を実践的に修得する。

- 到達目標**：①看護における症状マネジメントの概念と看護の役割について理解し事例で展開できる。  
②様々な症状の定義と発生機序、臨床症状の診方、臨床検査データの読み方が理解でき、これらを統合して症状をアセスメントできる。  
③患者の症状体験に配慮したコミュニケーションスキルを修得できる。  
④患者のセルフケアと看護師のセルフケア支援によって症状マネジメントを進める方策を立案できる。  
⑤症状マネジメントに関連する看護技術を習得する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎藤井 瑞恵・卯野木 健・貝谷 敏子・神島 滋子・菅原 美樹・村松 真澄・工藤 京子・小坂 美智代・柏倉 大作

■**授業計画・内容**：

- 第1・2回 コースオリエンテーション、症状マネジメントとは、臨床検査データの読み方の基本  
第3・4回 発熱／悪心・嘔吐のある対象の症状マネジメント  
第5・6回 発熱のある対象の症状マネジメントの実際  
第7・8回 呼吸困難／呼吸困難のある対象の症状マネジメント  
第9・10回 吸引の技術、酸素療法の技術  
第11・12回 倦怠感/睡眠障害・掻痒感のある対象の症状マネジメント  
第13・14回 摂食・嚥下障害/浮腫・脱水のある対象の症状マネジメント  
第15・16回 摂食・嚥下障害のある対象の症状マネジメントの実際  
第17・18回 浮腫・脱水のある対象の症状マネジメントの実際、輸液の技術  
第19・20回 褥瘡のある対象の症状マネジメント/褥瘡のある対象の症状マネジメントの実際  
第21・22回 頭痛・眩暈/意識障害・痙攣のある対象の症状マネジメント  
第23・24回 言語障害のある対象の症状マネジメントの実際/意識障害・痙攣のある対象の症状マネジメントの実際  
第25・26回 胸痛・動悸/排尿・排便障害のある対象の症状マネジメント  
第27・28回 胸痛・動悸/排尿・排便障害のある対象の症状マネジメントの実際/心電図/救急蘇生法  
第29・30回 まとめ

■**事前・事後学習**：大半の講義と演習が連動している。講義においては、コースガイドのキーワードを参照にテキストの予習を行う。演習においては、コースガイドの事前学習課題（事例）に取り組んで演習に臨む。ルーブリック評価を用いる演習は、その内容に従って学習すること。ミニテスト、演習事前学習、事後学習、評価の確認などの授業時間外学習が必要である。

■**教科書**：小田正枝編著：症状別 看護過程アセスメント・看護計画がわかる！ 照林社

■**参考文献**：鈴木久美他編：成人看護学 慢性期看護第2版 南江堂  
講義の中で別途配布・提示します

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標					評価基準	評価割合 (%)
	到達目標 ①	到達目標 ②	到達目標 ③	到達目標 ④	到達目標 ⑤		
定期試験	◎	◎		◎	◎	授業内容の理解	40
実技試験	○	◎	◎	◎	◎	症状マネジメント技術の実際	30
演習レポート・態度		◎	○	◎	○	レポート内容と演習態度をルーブリックやチェックリストで評価	30
出席						2/3以上の出席	失格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：形態機能学I・II、病理病態学、観察技術論、感染予防論、薬理学、成人看護援助論、成人看護学臨地実習I

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：詳細は初回の講義でオリエンテーションします。各症状に関する講義の後、ミニテストで知識を確認し、演習を行います。演習では1年次に学修した観察技術論の知識と技術が基本となりますので、再確認しながら演習に臨むことを期待します。

# 基礎看護学臨地実習Ⅱ

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：実習

単 位：2単位

講義時間：90時間

■**科目のねらい**：医療機関で療養生活をおくる患者を担当し、基本的な欲求に基づく生活援助を中心に看護過程を展開する。生活援助における基礎看護技術の一部を安全・安楽に実践するとともに、ケアの説明と同意を得るためのコミュニケーションスキル、看護ケアの実践的方法を学ぶ。以上により、看護の対象となる患者とその家族の特性および看護の必要性についての理解を深め、今後の学修のモチベーションを高める。

■**到達目標**：①ヘンダーソンの看護理論を用いて看護過程を展開し、受け持ち患者の日常生活を援助する。  
②看護実践における倫理的行動の重要性を理解し、安全で責任ある行動をとる。  
③上記2つの目標の達成にむけた過程を通して自己の学修課題を明確にする。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎大野 夏代・定廣 和香子・樋之津 淳子・古都 昌子・武富 貴久子・檜山 明子・石引 かずみ・柏倉 大作・近藤 圭子・田仲 里江・大友 舞・渋谷 友紀・中田 亜由美

■**授業計画・内容**：

別途配布する「基礎看護学臨地実習Ⅱ要項」に基づいて、オリエンテーションを行う。

実習時期：5月21日～6月1日

実習施設：市立札幌病院、手稲溪仁会病院

■**教科書**：なし

■**参考文献**：なし

■**成績評価基準と方法**：実習評価表にもとづき、到達目標の達成度を評価基準として、下記のように評価します。ただし、2/3以上の出席を満たさない場合は評価の対象としません。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③		
実習内容・記録	◎	◎	◎	} 到達目標の達成度	76
レポート	○	◎	◎		24
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：1年次の必修単位をすべて修得していることを期待します。既修の知識・技術を統合できるようレディネスを十分整えて実習に臨みましょう。患者様やご家族から学ばせて頂くという看護学生としての基本的な態度と心構えを忘れないこと。対象や場に応じた挨拶や言葉遣い、実習にふさわしい身だしなみ、自己の健康管理も大切です。

# 成人看護学概論

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：成人期にある人の身体・精神・社会的な特徴とライフスタイル、及び健康障害の関係を理解し、病期と機能障害の視点から治療と看護の特徴を学ぶ。成人をホリスティックに理解するための理論、概念を学び、看護過程の展開へ結びつける。

■**到達目標**：①成人期の身体的・心理的・社会的特徴とライフスタイルの関係について説明できる。  
②成人期のライフスタイルと健康障害の関係について説明できる。  
③健康障害の病期および機能障害に基づく治療と看護の特徴を説明できる。  
④看護に有用な理論・概念を適用して、各病期における看護アセスメントの要点を説明できる。  
⑤事例を通して成人期における看護過程の展開を理解できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎小田 和美・卯野木 健・川村 三希子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 ・コースガイド～成人看護学概論と関連科目  
・成人看護学の目的・特性  
・成人保健の動向・成人の発達段階
- 第2回 ・成人期のライフスタイルと健康障害の特徴
- 第3～4回 ・回復期（リハビリテーション期）～慢性期における健康障害・治療・看護の特徴  
・回復期（リハビリテーション期）～慢性期に有用な理論・概念
- 第5～6回 ・急性期（周手術期）における健康障害・治療・看護の特徴  
・急性期看護に有用な理論・概念
- 第7回 ・終末期・がん看護における健康障害・治療・看護の特徴  
・終末期看護・がん看護に有用な理論・概念
- 第8回 ・事例を通して成人期における看護過程の展開を理解する

■**事前・事後学習**：予定されている授業内容をシラバスで確認し、テキストの該当するページを読んで、疑問点を明らかにして授業に参加すること。授業後は、講義資料を手掛かりに、テキストや参考文献を活用して、理解を深めること。

■**教科書**：大西和子他編（2009）成人看護学概論 第2版 ニューヴェルヒロカワ  
鈴木久美他編（2010）成人看護学慢性期看護 南江堂

■**参考文献**：安酸史子他編（2004）ナーシンググラフィカ22 成人看護学概論 第3版 メディカ出版  
氏家幸子他編（2008）成人看護学原論 第3版 廣川出版  
黒田裕子編（2013）成人看護学 第2版 医学書院

■**成績評価基準と方法**：筆記試験70%、授業内での課題レポート30%

評価方法	到達目標					評価基準	評価割合 (%)
	到達目標 ①	到達目標 ②	到達目標 ③	到達目標 ④	到達目標 ⑤		
定期試験	◎	◎	◎	○	◎	授業内容の理解	70%
レポート	○	○	○	◎	○	知識の活用 (論理的思考力)	30%
出席						2/3未満の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：形態機能学I・II、病理病態学、疾病治療学概論、疾病治療学A・B、臨床栄養学、公衆衛生学、生命倫理、人間発達援助論、看護理論、看護過程論、症状マネジメント論、成人看護援助論、成人看護技術論、がん看護学、リハビリテーション看護学、透析ケア、重症集中ケア、救急看護学、パリアティブケア

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：専門科目になってきます。今まで学習した共通科目、専門基礎科目（特に形態機能学I・II）、専門科目（疾病治療学、人間発達援助論、看護理論など）を復習し、理解しておきましょう。



# 成人看護援助論

必修 開講年次：2年次前期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：健康障害の病態と治療を理解し、健康障害を抱える成人期にある対象を身体的・心理的・社会的な側面から分析し、対象の全体像を把握する方法を理解する。また、健康障害の各過程の特徴に応じた看護援助方法について学修し、援助計画の立案までにいたる過程を理解する。

■**到達目標**：①疾病や治療の特徴を理解し、成人期の対象に起こる多様な健康障害について特徴的な看護援助方法について説明できる。  
②ゴードンのアセスメントフレームを用いて健康障害をもつ紙上事例について成人期の特徴を考慮しながら多面的にアセスメントし、その援助方法について看護計画として立案できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎神島 滋子・貝谷 敏子・菅原 美樹・藤井 瑞恵・工藤 京子・小坂 美智代・柏倉 大作

■**授業計画・内容**：

第1回	コースガイド／ゴードンのアセスメントフレームについて	第8回	周手術期にある人への援助①（開胸・開心術）
第2回	脳神経・感覚機能障害のある人への援助	第9回	栄養代謝機能障害のある人への援助
第3回	周手術期における看護援助（術前・術中）	第10回	周手術期にある人への援助②（開腹術）
第4回	周手術期における看護援助（術後）	第11回	講義：問題の明確化とケアプラン作成について
第5回	演習：個人（アセスメント）	第12回	呼吸機能障害のある人への援助
第6回	講義：アセスメントについての質問・助言	第13回	演習：グループで統合し、ケアプランを作成する
第7回	循環機能障害のある人への援助	第14回	血液・造血機能障害のある人への援助
		第15回	発表・まとめ

■**事前・事後学習**：この授業は成人看護学領域で必要な主な疾病や健康障害についての講義と事例についての看護過程について展開する。そのため、事前学習としては各講義に必要な基礎知識として形態機能学の復習と主な疾病についての疾病・治療について復習し、教科書を事前に確認して講義に望む必要がある。また、看護過程論で学んだ看護過程についての復習を前提とする。事後学習として各授業での疑問点を確認し、解決すること。

■**教科書**：雄西智恵美・秋元典子編集：周手術期看護論 第3版、ヌーヴェルヒロカワ、2014  
鈴木久美・野澤明子・森一恵：看護学テキストシリーズNiCE 慢性期看護 改訂版2版、南江堂、2015

■**参考文献**：

- 〈健康障害のある人への看護援助について〉
- 池松裕子・山勢善江編：急性期看護論、ヌーヴェルヒロカワ
  - 鈴木志津枝・藤田佐和編：成人看護学 慢性期看護論、ヌーヴェルヒロカワ
  - ナーシンググラフィカシリーズ【健康の回復と看護】、メディカ出版
    - ②健康の回復と看護 呼吸・循環機能障害、②栄養代謝機能障害、③造血機能障害／免疫機能障害、④脳・神経機能障害／感覚機能障害、⑤運動機能障害、⑥内部環境調節機能障害／性・生殖機能障害、⑦疾病と治療
  - ナーシンググラフィカシリーズ【成人看護学】、メディカ出版
    - ②健康危機状況／セルフケアの再獲得、③セルフマネジメント
  - 黒田裕子編：成人看護学、医学書院
  - 野川道子編：看護実践に活かす中範囲理論、メジカルフレンド社
- 〈看護過程について〉
- 江川隆子編著：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断（第5版）、ヌーヴェルヒロカワ、2016
  - 任和子編著：実習記録の書き方がわかる 看護過程展開ガイド、照林社、2015
  - マージョリー・ゴードン著：アセスメント覚え書き ゴードン機能的健康パターンと看護診断、医学書院、2009
  - 矢田昭子・秦美恵子編：基準看護計画第3版、照林社、2016
  - 貝瀬友子・真野響子編：看護学生のための疾患別看護過程vol.1、vol.2、メジカルフレンド社、2011
  - 菅原美樹・瀬戸奈津子監修：基礎と臨床がつながる疾患別看護過程、学研、2015

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験	◎	◎	各授業の理解度	60
演習の個人レポート	◎	◎	看護過程の記述内容 レポート提出状況	30
演習のグループレポート	○	◎	グループとしての課題達成度	10
出席			2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：これまで学修した関連科目：形態機能学Ⅰ・Ⅱ、病理病態学、疾病治療学概論、疾病治療学A・B、臨床栄養学、看護過程論、症状マネジメント論、成人看護学概論  
今後学修する関連科目：成人看護技術論、がん看護学、リハビリテーション看護学、透析ケア、重症集中ケア、救急看護学、パリアティブケア

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：看護過程の展開能力が求められる成人看護学臨地実習Ⅰの基礎となる重要な科目です。既習した専門科目と関連させながら展開しますので、積極的な授業参加を期待しています。

# 老年看護学概論

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：老年看護学の学修過程の導入であり、今後の老年看護学の学修の方向づけを行うものである。老年看護にとつて最も基礎的な知識と態度について学ぶ。さらに、高齢者を取り巻く環境および高齢者の理解に基づいた老年看護の基礎を理解し、老年看護の目的・役割について理解する。

■**到達目標**：1. 老年看護学の概要を説明できる。  
2. 高齢者の身体的、心理的、社会的特徴を説明できる。  
3. 高齢者を取り巻く社会について理解できる。  
4. 高齢者が地域で生活することを支えるためのケア・システムについて理解できる。  
5. 老年看護における倫理的問題について説明できる。  
6. 老年看護に活用できる理論を理解できる。  
7. 老年看護の目標と役割が説明できる。  
8. 身近な高齢者（祖父母や近隣の人）の生活史をインタビューし、その高齢者について考察し、説明できる。（課題学修）

■**担当教員**：

村松 真澄

■**授業計画・内容**：

第1回 ガイダンス：老年看護学の概要  
第2回 高齢者の理解：身体的・生理的側面、社会的側面と教育老年学  
第3回 高齢者の理解：心理・精神的側面、高齢者の発達課題  
第4回 人口の高齢化現象と課題、高齢者保健福祉政策  
第5回 高齢者が地域で生活することを支える地域包括ケアシステム  
第6回 老年看護の看護過程の展開に活用できる理論  
第7回 老年看護学における倫理的課題  
第8回 老年看護学の目標と役割  
特別講演：「私の老年期の生き方」：現役高齢者が語る「老いの体験」

■**事前・事後学習**：コースオリエンテーションを配布するので事前・事後学習をしてください。

■**教科書**：奥野茂代編著：老年看護学概論と看護の実践 第5版 東京ヌーベルヒロカワ、2013

■**参考文献**：1) 厚生統計協会：厚生指標臨時増刊 国民衛生の動向（最新号）  
2) エリクソン,EH.他：老年期、みすず書房、1997  
3) 正木治恵、真田弘美編集：看護学テキストシリーズNiCE老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは、東京、南江堂、2011  
4) 松木光子編著：看護倫理学—看護実践における倫理的基盤—、医学書院、2010

■**成績評価基準と方法**：出席、授業態度、試験成績、課題レポートを総合的に評価する。但し、2/3以上の出席を満たさない場合は評価の対象としない。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標1-7	到達目標8		
定期試験	◎		問題の60%を正解していること	80%
レポート		◎	レポート内容の適切性・妥当な記述量	20%
授業態度	○		講義への取り組み姿勢	評価時の参考とする
出席			2/3以上の出席	欠格条件

◎より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：人間発達援助論における学習をベースとして、さらに高齢者の理解および看護を深める。高齢者のフィジカルな側面の理解にあたり、生理学、薬理学、疾病治療学など医学的知識や成人看護学の学習を関連させること。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：高齢者の理解を深め、高齢者ケアについて考える。日頃から高齢者への関心をもち、関連する資料を読んでおくこと。

# 精神看護学概論

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：精神看護学の観点から、こころの健康、健康問題、障がいについて広く学びます。個人のこころと精神の機能、生活の場である家庭や職場などの集団におけるこころの問題、そして社会的側面として、精神保健福祉について学びます。

■**到達目標**：①精神看護の枠組みおよび精神保健福祉の考え方がわかる  
②こころのケア／精神看護に必要とされる様々な理論モデルがわかる  
③精神の機能と対人関係によるこころへの影響がわかる  
④こころの健康の重要性を理解し、生活の場と結び付けて考えることが出来る

■**担当教員**：

守村 洋

■**授業計画・内容**：

- 第1回 精神看護の枠組みとこころの理解
- 第2回 生活の場とクライシス（精神的危機）（1）クライシス、家庭における危機、学校における危機
- 第3回 生活の場とクライシス（精神的危機）（2）職場における危機、地域における危機
- 第4回 医療現場における精神危機 看護師のメンタルヘルス、リエゾン精神看護
- 第5回 社会とメンタルヘルス
- 第6回 災害後の精神保健福祉活動 ト라우マ、PTSD
- 第7回 障害を抱えて地域で生きていくこと NIMBY症候群
- 第8回 精神保健福祉、障害者の権利擁護

■**事前・事後学習**：事前学習としてシラバスに掲載されている教科書および単元ごとに関連する参考文献を熟読し、内容把握に努めること。また、事後学習として授業を通して得た学びの根拠を、教科書および参考文献を用いて確認し、自分の考えを深めること。

■**教科書**：『看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術』（メヂカルフレンド社）2015

■**参考文献**：（精神看護学概論・精神看護援助論・精神看護技術論・精神看護学臨地実習共通）  
『精神看護学I—精神保健学』第6版／吉松和哉ほか編（ニューヴェルヒロカワ）2015  
『系統看護学講座 専門分野II 精神看護学I精神看護の基礎』（医学書院）  
精神障害者の退院計画と地域支援（医歯薬出版）

■**成績評価基準と方法**：定期試験100%

出席参加度は、減点法とする。なお、2/3以上の出席を満たさなければ評価の対象としない。

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
定期試験	◎	◎	◎	◎	習得の度合い	100

◎：より重視する ○：重視する △：考慮する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：この科目の基礎に人間発達援助論があります（ライフサイクルと精神保健の部分は人間発達援助論で講義済みですので原則として省略します）。

この科目を基礎として援助の人間関係論、精神看護援助論、精神看護技術論、精神看護学臨地実習、臨床心理学（選択科目）、ヘルスケアマネジメント実習、卒業研究を学びます。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：学問として学ぶだけでなく、自分や周りの人たちのこころの健康に気を配ることが出来るようになることを期待します。また、この科目は、精神障がいを抱えて生きる人たちの看護ケアを学ぶ入り口でもあります。強いストレスに直面している人や精神障がい者にどのように向き合い、自分には何が出来るのだろうかということも考えながら出席していただきたいと思ひます。

# 学部連携基礎論

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：札幌市の各地域の特徴と課題を看護学、デザイン学的視点から分析し、地域の課題を明確化する過程を通し、それぞれの専門性に対する理解を深めるとともに、異分野連携に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。

■**到達目標**：①デザイン学・看護学の理論的知識の特徴を理解し、共通点と相違点を理解する。  
②地域の特徴と課題を看護学、デザイン学的視点から分析し、課題発見のプロセスを理解する。  
③連携による課題解決の可能性に向けた提案を検討・共有する。  
④相互の専門性や価値観を尊重し、異分野連携の意義を考察する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎齊藤 雅也・武田 巨明・松井 美穂・福田 大年・金子 晋也・田島 悠史

◎古都 昌子・小田 和美・喜多 歳子・小坂 美智代・矢野 祐美子・柏倉 大作

■**授業計画・内容**：

- 第1回 全体ガイダンス・連携の実践と地域における実践事例
- 第2回 ガイダンス・南区の基本情報および地区希望調査
- 第3回 交換授業1 デザインの理論・看護の理論
- 第4回 交換授業2 デザイン学と看護学の学問領域の実践方法
- 第5回 グループダイナミクスとプロジェクト活動の基礎
- 第6回 グループワーク「グループワークを進める秘策を考えよう!」
- 第7～9回 グループワーク「担当地域のアセスメントから特徴と課題の発見」
- 第10～12回 グループワーク「地域課題の解決の可能性に向けた提案」
- 第13～15回 学習内容の発表と討論

■**事前・事後学習**：デザイン学・看護学の理解を深めるための相互の情報収集や、南区の理解を深めるための街角ウォッチングによる日常的な情報収集をお願いします。

■**教科書**：

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
レポート	◎	○	○	◎	課題の内容が基準を満たしていること	20
個人活動評価票	○	◎	◎	○	グループワークの取組	40
成果発表	○	◎	◎	○	発表内容(梗概および発表会)	40

◎：より重視する ○：重視する

■**関連科目**：スタートアップ演習、学部連携演習、地域プロジェクトI～III

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：本科目は3年次必修科目である学部連携演習の基盤となる科目です。次年度につながる学習として、プロジェクト活動への理解を深めながら参加されるように期待しています。後半6回目～12回目のグループワークは、グループごとのゼミナール形式で弾力的なスケジューリングが可能です。編入生もカリキュラムに応じた計画をグループで設定します。学習環境を担当教員とともに築いていきましょう。

# 臨床薬理学

必修

開講年次：2年次後期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：薬理学で学んだ基礎的知識をもとに、臨床で使用されている薬物の中で、特に基本となる薬物について、投与方法及び量と薬理効果の関係、薬物が人体に作用する仕組みとともに学ぶ。また、薬物を使用する際に安全面で重要なことや看護における注意点を学ぶ。

■**到達目標**：①臨床で使用されている基本薬物について、投与方法及び量と薬理効果の関係を正しく理解できる。  
②臨床で使用されている基本薬物について、薬物が人体に作用する仕組みを正しく理解できる。  
③薬害の実態について学び、薬物を使用する際に安全面で重要なことや看護における注意点を理解できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎唯野 貢司・後藤 仁和

■**授業計画・内容**：

- 第1回 医薬品総論（1）
- 第2回 医薬品総論（2）
- 第3回 主な生活習慣病に使用する薬（1）
- 第4回 主な生活習慣病に使用する薬（2）
- 第5回 主な生活習慣病に使用する薬（3）
- 第6回 がん・痛みに使用する薬（1）
- 第7回 がん・痛みに使用する薬（2）
- 第8回 脳・中枢神経系疾患で使用する薬
- 第9回 感染症に使用する薬（1）
- 第10回 感染症に使用する薬（2）
- 第11回 救命救急時に使用する薬（1）
- 第12回 救命救急時に使用する薬（2）
- 第13回 アレルギー、免疫不全状態の患者に使用する薬
- 第14回 消化器系疾患に使用する薬
- 第15回 その他の症状に使用する薬

■**事前・事後学習**：テキストの該当するページを読んで、疑問点を明らかにしてから授業に参加すること。受講後は、配布資料などを復習しながら授業内容の理解を深め、自身の考察を深めることが求められる。

■**教科書**：『疾病の成り立ち 臨床薬理学』（メディカ出版）

※ほぼ毎回資料を配布します。

■**参考文献**：『系統看護学講座 専門基礎分野5疾病のなりたちと回復の促進（2）薬理学』（医学書院）

■**成績評価基準と方法**：出席状況・授業態度と講義内容に基づく基礎知識の理解度を問う筆記試験により評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎		80
授業態度	○	○	○	真面目で積極的な姿勢。	20
出席				2/3以上の出席。	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：1年次で学んだ「薬理学」を基に、薬物が臨床でどのように使用されているかを学びます。重複する部分もあるため、1年次の講義内容と併せて学習すること。

# 疾病治療学C

必修

開講年次：2年次後期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立にかかわる基本的病態の概念を述べ、各臓器・器官がどのような病態と なって疾病へと移行して要治療となるのかを学習する。ここでは、外科疾患、感覚器系疾患、歯科・口腔系疾患、脳・神経系 疾患について学習する。

■**到達目標**：各臓器・器官の機能のメカニズムと心身の相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護 実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を習得する。

■**担当教員**：

三澤 一仁 他

■**授業計画・内容**：

外科疾患

第1回 消化器外科(1)

第2回 消化器外科(2)

第3回 乳腺外科

第4回 小児外科ほか

感覚器系疾患

第5回 皮膚疾患と治療(1)

第6回 皮膚疾患と治療(2)

第7回 屈折異常と前眼部疾患

第8回 眼底と視路の疾患

第9回 耳・鼻副鼻腔疾患

第10回 口腔咽喉頭・頸部疾患、頭頸部腫瘍

歯科・口腔系疾患

第11回 歯科疾患と治療

脳・神経系疾患

第12回 中枢神経疾患

第13回 末梢神経、筋疾患

第14回 脳神経外科(1)：脳血管障害、頭部外傷

第15回 脳神経外科(2)：脳腫瘍、小児脳神経外科

■**事前・事後学習**：あらかじめシラバスで授業計画・内容等を確認すること。授業後は配布資料などを復習し、理解を深めること。

■**教科書**：『臨床病態学』第1・3巻(ヌーヴェルヒロカワ)

■**参考文献**：『神経内科ハンドブック』(医学書院)

■**成績評価基準と方法**：出席状況および試験

評価方法	到達目標	評価基準	評価割合(%)
定期試験	◎	60%以上	90%
出席	○		10%

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：

# チーム医療論

選 択

開講年次：2 年次後期

科目区分：講 義

単 位：1 単位

講義時間：15 時間

■**科目のねらい**：近年の医学の進展に伴って医療は急速に高度化・細分化されている一方、医療に対する社会的ニーズも大きく変化し、保健・医療・福祉の統合が求められるようになった。すなわち、医療チームの成員が互いに協力して、患者を中心とした総合的で良質な医療サービスを提供する事が重要となった。チーム医療の構成員として、看護の専門性を活かし積極的に医療に参画することができるよう、チーム医療に必要な基礎知識を習得する。

■**到達目標**：①チーム医療の概念を学び、構成する各職種の役割を説明できる。  
②医療従事者間の連携や協働に必要なスキルを説明できる。  
③チーム医療の実践における効果と課題を理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎矢野 祐美子・猪股 千代子

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 チーム医療の概念（矢野）
- 第 2 回 チーム医療に関わる専門職の役割と機能（矢野）
- 第 3 回 チーム医療の実践に必要な相互関係効果と課題（矢野）
- 第 4 回 チーム医療に必要なスキルやツール（矢野）
- 第 5 回 チーム医療活動の実際 ①（矢野）
- 第 6 回 チーム医療活動の実際 ②（猪股）
- 第 7 回 事例を通してチーム医療の実践について考える（矢野）
- 第 8 回 まとめ（矢野・猪股）

■**事前・事後学習**：予定されている授業内容をシラバスで確認し、これまで履修した授業や実習、自身の経験を振り返り考えをまとめておくこと。受講後は、配布資料などで復習しながら授業内容の理解を深め、さらに参考図書や新聞などを参照しながら、自身の考察を深めること。

■**教科書**：随時資料を使用する。

■**参考文献**：実践チーム医療論 水本清久他編著 医歯薬出版  
新しいチーム医療論 田村由美編著 看護の科学社  
チーム医療論 鷹野和美 編著 医歯薬出版

■**成績評価基準と方法**：レポート 70% 授業態度 30%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
レポート	◎	◎	◎	内容を理解し、自己の考察を深めていること	70%
授業態度	○	○	○	履修者としての役割を果たし、積極的に授業に参加していること	30%
出席				2/3未満の出席で欠格	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：各臨床実習、看護管理学、現代専門職論、ヘルスケアマネジメント実習

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：臨床実習では、看護学生も看護ケアチームの一員としての役割を果たすことが期待されます。また、卒業後は病院・施設・行政などの組織においてチームの一員として活躍が求められます。本講義では、保健医療専門職としての役割・機能・責務を理解し、医療従事者間の連携や協働によりチーム医療の理念を実現することについて考えます。学生の皆さんと意見交換しながら進めますので、主体的に参加してください。

# 感染管理論

選 択

開講年次：2年次後期

科目区分：講 義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：感染管理理論と人間を中心とした医療、看護、介護の立場から感染管理の実践の基本を学ぶ。また、病院、高齢者施設、訪問看護事業所などにおける感染管理の重要性についての理解を深め、また、感染管理関連の国際機関について学ぶ。

■**到達目標**：①感染症の成り立ちを理解し、院内感染と地域感染の相違を述べることができる。  
②感染予防の手法、ハンドラブ等の薬剤・備品に関する知識への理解を述べる事ができる。  
③感染症法などの感染管理関連の法規を理解する。  
④感染予防管理と危機管理・医療の質の改善コンセプトの関係を述べる事ができる。  
⑤CDC、WHO等が感染管理で担っている役割とそれらの組織機能を理解する。  
⑥総合病院における感染管理の実際を知る。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎貝谷 敏子・スーディ神崎 和代・土佐 理恵子

■**授業計画・内容**：

第1回 感染症の成り立ち

感染の定義、感染症成立の条件、感染経路のメカニズムを説明し、感染症成立の相互関係を明らかにする。また、院内感染と地域感染を定義し、医療施設や在宅で発生しやすい感染症について述べる。

第2回 感染症予防法

感染症の患者に対する医療関係法律・規則の概要、届出対象疾患、予防接種法などの概要を患者の情報保護も含めて説明する。

第3回 米国に於ける感染予防対策とCDCガイドライン

米国の感染予防対策の実際とCDCガイドラインから特に標準予防対策を説明し、現在の最先端の感染予防対策や事情を教授する。なかでも基本となる手洗い、防具・備品・洗滌・消毒・滅菌を含む感染管理の運営の基礎を述べる。

第4回 感染予防における危機管理と関連国際機関（CDC、WHO）への理解

感染管理における危機管理を定義し、院内感染や地域感染が発生した場合の管理プロセスを説明する。また、CDCやWHOなどの国際機関の役割を述べる。

第5回 感染予防管理と医療の質改善

感染予防・管理の立場から医療・看護・介護の質評価を講義し、PDCAサイクルを使用して質の改善過程を説明する。また、看護師の担う感染管理の意義と日本の看護職の立場から感染管理専門教育の重要性を述べる。

第6回 感染管理の機器・備品に触れる機会を設定する。

陰圧ルームの適用場面とその意義を理解した上で、簡易性の陰圧ルームの組み立てを経験する。

第7回 病院感染管理の実際（その1）（土佐）

急性期医療施設に於ける感染管理の実践事例をもとに、感染管理の目的と概要を講義する。

感染管理プログラムの展開とサーベランス、感染管理組織の構築、運用、感染管理業務の概要について説明し、感染管理認定看護師の役割と活動について述べる。

第8回 病院感染管理の実際（その2）（土佐）

リスクマネジメントとしての感染管理の意義を実践の立場から講義する。アウトブレイク、職業感染の実例から感染管理がもたらす病院経営上の損失、患者・職員の健康被害について説明する。

※講義の順番は、進行状況などにより調整する可能性がある。

■**事前・事後学習**：グローバル化に伴い、ヒトやモノが自由に国境を越える社会になっている。同時に新興感染症といわれるかつては存在しなかった新型の感染症や日本にはなかった感染症も国内で認められてきた。事前学習としては、新聞記事などから1～2事例の新型感染症について情報収集を行う。さらに、事後学習では、本科目で学んだ内容（特に感染症予防・管理方法のポイント）を復習し、実習の際に感染管理の視点から患者・療養者の行動、環境整備状況を観察し、応用できるようにする。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：在宅看護学講座（2016版）スーディ神崎和代ほか、ナカニシヤ出版  
NEW感染管理 ナーシングベストプラクティス 洪 愛子著 学研  
サーベランスのためのCDCガイドライン 森兼 啓太 メディカ出版

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	評価割合(%)
定期試験 6項目の到達目標を網羅する。	70%
授業参加態度(討論への参加、発言、受講態度など)	30%
出席状況	但し、1/3を超える欠席は欠格とする。

■**関連科目**：感染予防論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：この感染管理論では論拠のある感染管理に関する知識と考える力をつけてほしいと考えています（批評的思考力）。そして、それは現場で活動する時の応用力と的確な判断力に繋がります。感染管理の世界は常に変化しているので最新の感染関連情報に敏感になりましょう。又、日常生活の間で「感染管理」を意識する習慣を身につけましょう。



# 臨床心理学

選 択

開講年次：2年次後期

科目区分：講 義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：現代社会において「こころのケア」が必要とされる場面が増加しており、それに伴って医療、産業、教育、司法など多様な支援場面で臨床心理業務が重要視されてきている。しかし、実際に心のケアがどのように行われているのかは、看護師など関連業種の間でも意外と知られていない。そこで、講義では臨床場面における心理療法のいくつかを紹介することを中心にして、自分自身の心をマネジメントする演習にも取り組んでみたい。さらに、臨床心理学にも看護学にも共通して必要とされる自分の内面を掘り下げることの重要性にも言及する。講義を通して、臨床心理士の機能を理解し、医療現場でのチーム医療にも役立てていくことも期待したい。

■**到達目標**：①臨床心理学的アプローチの視点や技術を体験的に理解する。  
②臨床心理業務を理解する。  
③臨床心理学の考え方を看護に応用するための基礎を理解する。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎守村 洋・菊池 浩光

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション・心理学と看護学との関係
- 第2回 社会ニーズと臨床心理
- 第3回 科学の知と神話の知
- 第4回 心理療法の実際1 認知を変える
- 第5回 心理療法の実際2 ト라우マティック・ストレスへの対応
- 第6回 心理療法の実際3 イメージの力
- 第7回 自分を知ることの大切さ
- 第8回 看護に応用される臨床心理学

■**事前・事後学習**：事前学習としてシラバスに掲載されている参考文献を熟読し、内容把握に努めること。また、事後学習として授業を通して得た学びの根拠を、参考文献を用いて確認し、自分の考えを深めること。

■**教科書**：特に使用せずプリント等を配布する

■**参考文献**：『心理療法序説』（河合隼雄著、岩波書店）  
『ユング心理学入門』（河合隼雄著、培風館）  
『よくわかる臨床心理学 [改訂新版]』（ミネルヴァ書房）

■**成績評価基準と方法**：定期試験80% 出席20%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎		80%
出席	○	○	○	1回出席につき2.5%×8回	20%

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず(減点対象)

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：心理学および臨床心理学の知見は、長い間看護に応用されてきています。人間とは、人生とは、病気とは、といった幅広い視野や、「人はどのように癒されていくのだろう」といった問題意識を抱き、人間理解や自分理解、そして実際の業務に役立ててほしいと思います。

# 援助的人間関係論

必修

開講年次：2年次後期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：看護の基本をなす対象との援助的人間関係の形成について理解を深めると共に、コミュニケーションの理論と技術を修得する。また、受容、共感について理解し、自己と他者との関係が成立し信頼関係を確立することによって援助が可能となることを学ぶ。

■**到達目標**：①自己概念を構築し、対人関係形成における自己の傾向について述べることができる  
②援助者として聴くこと・伝えることができる  
③援助的人間関係を形成するために、意図的に関わることができる

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎守村 洋・藤井 瑞恵・古都 昌子・伊東 健太郎

■**授業計画・内容**：

- 第1、2回 オリエンテーション  
コミュニケーション技法（言語、非言語）、プロセスレコード
- 第3、4回 面接技法：マイクロカウンセリング・基本的かかわり技法①
- 第5、6回 面接技法：マイクロカウンセリング・基本的かかわり技法②
- 第7、8回 援助的人間関係における看護実践場面（模擬患者ロールプレイ）  
（成人看護学臨地実習I）
- 第9～11回 臨床実習場面における援助的人間関係  
・成人看護学臨地実習IIにおける援助的人間関係場面  
・グループ毎にディスカッション（再現ロールプレイ）  
・プレゼンテーションにより学びを共有する
- 第12回 援助する人・自分（自己理解・自己覚知）；パーソナリティ・テスト
- 第13、14回 援助を受ける人・他者（他者理解と援助）；ブラインドウォーク
- 第15回 援助的人間関係のまとめ；援助的人間関係とは（プレゼンテーション）
- ※オムニバス形式のため、順序の変更もありえる

■**事前・事後学習**：事前学習としてシラバスに掲載されている教科書および単元ごとに関連する参考文献を熟読し、内容把握に努めること。また、事後学習として授業（演習）を通して得た学びの根拠を、教科書および参考文献を用いて確認し、自分の考えを深めること。

■**教科書**：『看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術』／山本勝則ら編（メヂカルフレンド社）

■**参考文献**：（下記の参考文献以外にも講義内で紹介する）

- 『人間関係論』／長谷川浩（医学書院）  
『人間を育む人間関係論』／服部祥子（医学書院）  
『ナースのための心理学—人間関係論入門』／岡堂哲雄（金子書房）  
『違和感と援助者アイデンティティ』／宮本真巳（日本看護協会出版会）  
『患者の心に寄り添う聞き方・話し方—ケアに生かすコミュニケーション』／太湯好子（メヂカルフレンド）  
『新版TEGII解説とエゴグラム・パターン』／東京大学医学部心療内科TEG研究会編（金子書房）  
『マイクロカウンセリング』／福原真知子他訳（川島書店）  
『自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード』／長谷川雅美他編（日総研）

■**成績評価基準と方法**：演習単元テーマについては演習参加度により評価する（演習内容によってはプロセスレコード等の記録物を課すこともある）最終評価レポートにより評価する（35%）また、欠席は3点、遅刻・早退は1.5点の減点とする（15%）

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
演習単元テーマ				演習参加度	
・コミュニケーション技法	◎	○	○		10
・援助する人・自分／援助を受ける人・他者	◎	○	○		10
・面接技法	◎	○	○		10
・看護実践場面	◎	○	○		10
・臨床実習場面における援助的人間関係	◎	○	○		10
援助的人間関係論最終レポート	◎	○	○		35
出席状況				2/3以上の出席	15 欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：「対人コミュニケーション」「成人看護学臨地実習I」を履修済みであることが望ましい

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：毎回、体験的に学習します。臨床指導者および模擬患者の参加を得た演習も行います。補習できませんので、欠席しないように臨んで下さい。

# 看護倫理学

必修

開講年次：2年次後期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：看護職に必要な倫理に関する基本的な知識を理解するとともに、倫理的意思決定のプロセスと倫理的意思決定モデルへの理解を深める。さらに、看護実践を行う中で、臨床における倫理的課題への対応には、個人的価値と専門的価値が影響することをふまえて、倫理的視点から考察し、倫理的感受性を高める。

- 到達目標**：①個人的価値と専門的価値が理解できる。  
②看護実践上の倫理的概念が理解できる。  
③看護における倫理的意思決定モデルの特徴が理解できる。  
④事例検討をつうじて、倫理的分析と倫理的意思決定について考察できる。

■**担当教員**：

古都 昌子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 看護倫理とは、価値とは何か  
第2回 専門職と看護倫理  
第3回 看護における倫理的意思決定  
第4回 倫理的意思決定モデルを用いた倫理課題の分析  
第5回 看護倫理とインフォームドコンセント  
第6回 事例検討(1) 生命倫理  
第7回 事例検討(2) 臨床倫理  
第8回 事例検討(3) 臨床倫理 ディベート

■**事前・事後学習**：講義で用いる事例の読み込みや、倫理的意思決定モデルを用いた分析についての理解を深めるための学習を進めて臨んでください。

■**教科書**：日本看護協会監修「看護者の基本的責務一定義・概念／基本法・倫理」、日本看護協会出版会、2016。  
授業時に資料を配布予定である。

■**参考文献**：サラ T. フライ他（片田範子他訳）「看護実践の倫理 倫理的意思決定のためのガイド」第3版、日本看護協会出版会、2010。  
石井トク他編著「看護の倫理資料集 第2版」、丸善、2007。  
ダニエルF.チャンプリス（浅野祐子訳）：「ケアの向こう側－看護職が直面する道徳的・倫理的矛盾」（日本看護協会出版会）2002。  
吉川洋子他監修「学生のための患者さんの声に学ぶ看護倫理」日本看護協会出版会、2010。

■**成績評価基準と方法**：

- ・授業への参加状況および定期試験による総合評価。
- ・単位修得には総合評価60点以上が必要となる。なお、出席時間が授業時間の2/3に満たない場合、成績評価の対象とはならない。

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③	④		
定期試験	○	◎	◎	◎	内容の理解	80
授業内ミニレポート	◎	○	○	○	自分の考えの記述	20
授業態度	○	○	○	○	総合的な評価として参考とする	

◎：より重視する ○：重視する

■**関連科目**：「哲学と倫理」、「生命科学」および「生命倫理」などの学修は、本科目の理解をより深めることにつながります。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：私たちは日常、さまざまな倫理的課題に遭遇します。これらの課題について他者と話し合い、自分の考えをまとめましょう。オープンなディスカッションは倫理的課題の解決に向けて不可欠です。そして、この成果を看護実践における倫理的意思決定に役立てましょう。  
授業は、事例検討を行いながら進める予定です。

# 小児看護学概論

必修 開講年次：2年次後期 科目区分：講義 単位：1単位 講義時間：15時間

■**科目のねらい**：前半の講義では、乳児期から思春期までの子どもの成長・発達、および家族の発達に関する知識と基礎理論を学修します。後半の講義では、子どもの健康生活、育児支援、生活指導、ヘルスプロモーションやセーフティプロモーションの概要を学ぶとともに、今日の課題を考察します。以上の学修を通して、小児看護の役割、責務および実践活動の意義について理解を深めます。

■**到達目標**：①子どもの人権、権利擁護、親権、子どもと親の意思決定のあり方について説明できる。  
②子どもの成長・発達、健康、家族と育児機能、生活環境について説明できる。  
③子どもの発達評価と環境アセスメントの方法を説明できる。

■**担当教員**：

松浦 和代

■**授業計画・内容**：

- 第1回 小児看護の理念・役割・責務と子どもの権利
- 第2回 小児の成長・発達（1）成長・発達の原則と影響因子
- 第3回 小児の成長・発達（2）形態的成長／機能的発達／精神運動機能の発達
- 第4回 小児の成長・発達（3）心理社会的発達／発達評価と環境アセスメント
- 第5回 小児の発達段階に応じた育児支援—乳児期・幼児期
- 第6回 小児の発達段階に応じた生活指導とライフスキルの育成—学童期・思春期
- 第7回 母子保健の動向と小児保健統計
- 第8回 まとめ：小児の発達と絵本

■**事前・事後学習**：事前学習として、「人間発達援助論」を復習しておいてください。

事後学習として、日常場面における小児の観察を行い、観察眼を養ってください。

■**教科書**：『新体系看護学全書小児看護学①小児看護学概論・小児保健』（メヂカルフレンド社）、『新体系看護学全書小児看護学②健康障害をもつ小児の看護』（メヂカルフレンド社）

■**参考文献**：『日本子ども資料年鑑2016』（KTC中央出版）、『成長障害のマネジメント』（医薬ジャーナル社）、『新 子どもの事故防止マニュアル（改訂第3版）』（診断と治療社）、『子ども虐待対応の手引き（改訂版）』（有斐閣）

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	講義内容の理解	80
授業内レポート	○	○	○	ポイント理解	10
授業態度	○	○	○	積極的な姿勢	10
出席				2/3以上の出席	定期試験 受験資格
e-Learning				自学自習状況の参照	0

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：1年次後期に履修した「人間発達援助論」の学習内容を深めていきます。視聴覚教材を有効に活用し、対象理解が進むよう講義を工夫したいと考えています。

# 母性看護学概論

必修

開講年次：2年次後期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：周産期のみならず広くライフサイクル各期にある母性とその家族の特性を身体的、心理的、社会的側面から捉え、現代社会に生きる対象について多面的に理解し、母性保健および看護活動について学修する。

■**到達目標**：①母性看護の基盤となる概念が理解できる。  
②母性看護の現状と課題が理解できる。  
③母性看護の対象特性が理解できる。

■**担当教員**：

宮崎 みち子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 母性看護の基盤となる概念 (1) 母性とは リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 母性看護のあり方  
第2回 母性看護の基盤となる概念 (2) 母性看護と倫理 安全・事故予防 母性看護と看護理論 (含、看護過程)  
第3回 母性看護の歴史の変遷と現状 (1) 母性看護の変遷 母子保健統計  
第4回 母性看護の歴史の変遷と現状 (2) 母性看護と組織・法律 母子保健施策  
第5回 母性看護の対象を取り巻く環境—家族 地域社会 生物学的・社会文化的環境  
第6回 母性看護の対象理解 (1)：女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化  
第7回 母性看護の対象理解 (2)：女性のライフサイクルと家族 母性の発達・成熟・継承  
第8回 女性のライフステージ各期の特徴とリプロダクティブ・ヘルス (1)

■**事前・事後学習**：事前にテキスト（授業内容に関連する部分）を読んで授業に参加してください。受講後は配布資料・参考図書・新聞等を活用して学習を継続し、授業内容の理解を深めることを期待します。

■**教科書**：森恵美他「系統看護学講座専門分野II 母性看護学[1]母性看護学概論 第13版」(医学書院、2016年)。  
授業時に資料を配布予定である。

■**参考文献**：母子衛生研究会編「母子保健の主なる統計 平成30年度刊行」(母子保健事業団、2018年)。

■**成績評価基準と方法**：

- ・授業への参加状況および定期試験による総合評価。
- ・単位修得には総合評価60点以上が必要となる。なお、出席時間が授業時間の2/3に満たない場合、成績評価の対象とはならない。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③		
定期試験	◎	◎	◎	内容の理解	100
授業態度	○	○	○	欠席した場合は減点	

◎：より重視する ○：重視する

■**関連科目**：人間発達援助論。また、本科目で修得する知識は、3年次開講の母性看護援助論・母性看護技術論および母性看護学臨床実習の基盤となるものである。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：母性看護学は、女性の生涯を通じての健康支援に関与する学問です。女性の「生命と人権」、「いのちの誕生」および「性と生殖に関する健康と権利」を尊重した看護実践を目指し、その基盤を共に学修しましょう。

# 成人看護学臨地実習I

必修 開講年次：2 年次後期 科目区分：実習 単 位：3 単位 講義時間：135 時間

■**科目のねらい**：成人期にある対象を科学的視点でアセスメントし、個々の対象の健康レベルに応じた援助を実践するため、学習した技術を用いて看護過程を展開する能力を養う。

- 到達目標**：①成人期にある対象をライフサイクルの側面から捉えることができる。  
②成人期にある対象を身体的、心理的、社会的側面から統合的に捉えることができる。  
③成人期にある対象の健康・疾病レベル、環境をアセスメントすることができる。  
④看護問題を解決するために援助方法を計画することができる。  
⑤成人期にある対象の状況に合わせて援助を実施し、評価することができる。  
⑥成人期にある対象と援助的人間関係を形成することができる。  
⑦看護学生としての役割・責任を果たすことができる。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

○小坂 美智代・卯野木 健・小田 和美・川村 三希子・貝谷 敏子・神島 滋子・菅原 美樹・藤井 瑞恵・工藤 京子・柏倉 大作・近藤 圭子・田仲 里江・出水 美菜子・大友 舞・鬼塚 美玲・渋谷 友紀・高橋 葉子・中田 亜由美

■**授業計画・内容**：

実習時期：10月29日～11月16日

実習施設：市立札幌病院、手稲溪仁会病院

実習方法：詳細は実習要項を参照のこと

■**教科書**：なし

■**参考文献**：適宜紹介する

■**成績評価基準と方法**：実習内容・態度、実習記録などから、実習目標の達成度を総合的に評価します。

評価方法	到達目標							評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
実習内容・態度	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	目標到達度 積極的な取り組み態度	80
実習記録	◎	◎	◎	◎	◎			目標到達度	
実習報告会	○	○	○	○	○		○	テーマに適した報告、参加姿勢	10
実習レポート	○	○	○	○	○			テーマに適した内容	10
出席								2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：成人看護学概論、成人看護援助論、症状マネジメント論、看護過程論、形態機能学、疾病治療学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：1年から2年後期前半までの学修内容を統合する重要な実習です。実習までに必修単位を全て修得していることを期待します。また、実習期間は3週間と長くなるため健康管理に留意し、看護職を目指す学生として自己課題を明確にしながら目的意識を持って実習に臨んでください。

# 老年看護援助論

必修 開講年次：2年次後期 科目区分：演習 単位：1単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：老年期の加齢の変化や特有の疾患、症状についてその背景、原因、病態、治療等を学び、高齢者およびその家族を対象とした基本的看護について学ぶ。老年期にある人の加齢や健康障害に対する診断・治療過程における看護過程の展開について自立・自律支援の視点から学ぶ。

- 到達目標**：
1. 高齢者の総合機能評価について説明できる。
  2. 高齢者の診断過程における看護が説明できる。
  3. 生活障害を持った高齢者の日常生活への影響と自立へ向けた身体技法について説明できる。
  4. 高齢者の看護の継続について説明できる。
  5. 病院・介護保険施設の特徴と高齢者が治療やケアを受けるうえでの課題や必要な看護について説明できる。
  6. 老年看護の看護過程の展開方法について理解し、看護理論に基づいて看護計画を立案できる。
  7. 薬物療法を受ける高齢者と家族への看護が説明できる。
  8. 人生の最終段階にある人と家族への看護について説明できる。
  9. 看護過程の発表を通して老年看護における課題が説明できる。
  10. 高齢者特有の疾病と治療について理解し、加齢に伴う諸機能の変化と関連させて説明できる。
  11. 老年看護の国際的な動向についてGeriatric Nursing検索して考察することができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎村松 真澄・原井 美佳・前沢 政次

■**授業計画・内容**：

- |     |  |      |                                    |
|-----|--|------|------------------------------------|
| 第1回 | コースガイダンス 課題提示、高齢者の総合機能評価                         | 第8回  | 高齢者の強みを生かす看護理論に基づく老年看護過程 (ワールドカフェ) |
| 第2回 | 高齢者の診断過程における看護                                   | 第9回  | 薬物療法を受ける高齢者の看護                     |
| 第3回 | 高齢者の治療過程における自立へ向けての身体的技能 / 高齢者の生活障害の模擬体験         | 第10回 | 人生の最終段階にある高齢者の看護                   |
| 第4回 | 看護の継続性：外来、入院、退院、在宅ケアの看護                          | 第11回 | 加齢に伴う諸機能の変化：高齢者に留意すべき病態・疾病の諸特性     |
| 第5回 | 病院・介護保険施設の特徴と高齢者が治療やケアを受けるうえでの課題や必要な看護 (グループワーク) | 第12回 | 呼吸、循環器疾病                           |
| 第6回 | 病院・介護保険施設の特徴と高齢者が治療やケアを受けるうえでの課題や必要な看護 (ワールドカフェ) | 第13回 | 消化機能疾患、内分泌・代謝疾患                    |
| 第7回 | 高齢者の強みを生かす看護理論に基づく老年看護過程 (グループワーク)               | 第14回 | 神経系疾患、精神疾患、認知症、うつ病                 |
|     |  | 第15回 | 骨・運動器疾患                            |

■**事前・事後学習**：コースオリエンテーションやガイダンス資料を配布するので事前・事後学習をすること。

■**教科書**：奥野茂代他編：「老年看護学概論と看護の実践第5版」,東京,ヌーベルヒロカワ,2013 (2年次前期に購入済み)  
新版 認知症の人びとの看護 3版 中島紀恵子著、編集 医歯薬出版

■**参考文献**：奥宮暁子他：生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程,東京,医歯薬出版,2012  
奥野茂代他編：「老年看護学老年看護技術第5版」,東京,ヌーベルヒロカワ,2013  
正木治恵、真田弘美編集：看護学テキストシリーズNiCE老年看護学概論「老いを生きる」を支えることは,東京,南江堂,2013  
堀内ふき他編：ナーシンググラフィカ老年看護学①「高齢者の健康と障害」,東京,メディカ出版,2013  
大淵律子他編：ナーシンググラフィカ老年看護学②「高齢者看護の実践」,東京,メディカ出版,2013

■**成績評価基準と方法**：レポート20点、定期試験80点により総合的に評価する。但し、2/3以上の出席を満たさない場合は評価の対象としない。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標 1~10	到達目標 5~6	到達目標 11		
定期試験	◎	◎	◎	内容の理解	80%
レポート		◎		レポート内容の適切性・妥当な記述量	20%
授業態度	◎	◎	◎	講義・演習への取り組み姿勢	評価時の参考とする
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎より重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：老年看護学概論、症状マネジメント論

■**その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：高齢者が体験している様々な治療過程の困難さを追体験できるように、学修に取り組んでください。集中講義であるため、予習、復習に心がけてください。各講義担当者は開講初回に紹介します。

# 精神看護援助論

必修

開講年次：2 年次後期

科目区分：演習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：精神障害のある対象の生活を理解するとともに、健康障害の病態と治療などを学び、精神の健康上の問題に直面している対象とその家族に対する基本的看護援助方法を学ぶ。また、社会生活の上で生じるさまざまな心の健康障害を持つ人の理解を深め、ライフサイクル各期の精神保健について学ぶ。

■**到達目標**：①精神障害者の病態像および生活への理解を深め、その治療法と基本的看護援助方法を習得する  
②社会生活およびライフサイクル各期での精神保健について説明できる

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎伊東 健太郎・守村 洋・松原 良治 他

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション  
精神障害者の理解と精神看護技術の考え方
- 第2-4回 精神障害の病態と治療など  
(統合失調症、気分障害、神経症)
- 第 5 回 精神医療と看護の歴史の変遷／精神医療をめぐる法律
- 第6-12回 精神障害を抱える対象者および家族への看護 (アセスメント、支援)  
(統合失調症、気分障害、神経症、アディクション、認知症、発達障害、自殺予防)
- 第13回 当事者による地域精神保健福祉活動
- 第14-15回 精神障害リハビリテーション ～精神障害を抱える人の病院から地域への支援～
- ※オムニバス形式のため、順序および内容の変更もありえる。

■**事前・事後学習**：事前に、授業内容を確認して該当箇所について、教科書や文献などで調べておいてください。授業終了後は、配布した資料や教科書を読んで復習をしてください。

■**教科書**：『看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術』／山本勝則ら編 (メヂカルフレンド社)

■**参考文献**：『精神看護学Ⅰ-精神保健学』／吉松和哉ほか編 (ヌーヴェルヒロカワ)  
『精神看護学Ⅱ-精神臨床看護学』／川野雅資編 (ヌーヴェルヒロカワ)  
他、講義の中で紹介する

■**成績評価基準と方法**：出席参加度 (10%)、レポートおよび単位認定試験 (90%) により総合的に評価する。なお、2/3以上の出席を満たさなければ評価の対象としない。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
レポート 単位認定試験	◎	◎		90
授業態度	○	○	積極的な姿勢。	10
出席	○	○	2/3以上の出席	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：精神障害を抱える当事者をゲストスピーカーとして招き、精神障害を抱えながら地域で生活することについて語ってもらう。受講生には積極的に講義・演習に臨むことを期待している。



# 在宅看護学概論

必修

開講年次：2 年次後期

科目区分：講義

単 位：1 単位

講義時間：15 時間

■**科目のねらい**：在宅看護の概念および発展過程について学習する。健康障がいを持ちながら在宅で生活する人々とその家族の健康と生活を支え、生活の質向上を支援する在宅看護活動の展開について学習する。在宅看護における倫理と権利擁護について学ぶ。

■**到達目標**：①在宅看護の概念、役割と機能、歴史的変遷について理解する。  
②在宅看護対象者が有する健康および生活上の課題を理解する。  
③在宅看護活動の特性を理解する。  
④在宅看護活動に必要な諸制度と保健・医療・福祉システムを理解する。  
⑤在宅看護における倫理と権利擁護について理解する。

■**担当教員**：  
菊地 ひろみ

## ■授業計画・内容：

- 第 1 回 在宅看護とは何か  
在宅看護の概念／在宅看護の目的と特性／人々の暮らしと在宅看護
- 第 2 回 在宅看護の歴史的変遷と発展過程
- 第 3 回 在宅看護の対象者（1）  
年代、疾病および生活背景による対象の特性／在宅療養者が有する健康と生活課題／療養者の生活の質向上に対する看護の役割
- 第 4 回 在宅看護の対象者（2）  
在宅療養者の家族が有する健康と生活課題／家族の生活の質向上に対する看護の役割
- 第 5 回 在宅看護を支える保健・医療・福祉システム（1）  
在宅看護と諸制度／在宅療養を支える保健・医療・福祉
- 第 6 回 在宅看護を支える保健・医療・福祉システム（2）  
在宅看護と社会資源／多職種連携／継続看護
- 第 7 回 在宅看護活動の展開  
在宅看護の基盤となる考え方／在宅看護活動の構造／権利擁護
- 第 8 回 在宅看護と倫理、在宅看護の課題・展望  
在宅看護における倫理／在宅看護の課題と展望

\*講義の順番は進行状況により調整をする可能性がある。

## ■事前・事後学習：

事前学習について：授業の終わりに次回の授業テーマについて触れ、次回の授業までに事前に自己学習しておく事柄を指示する。

事後学習について：授業内容に対応した課題を事後学習課題として指示する。

■**教科書**：『在宅看護学講座』（2012）／スーディ神崎和代 他（ナカニシヤ出版）

■**参考文献**：適宜、紹介する。

## ■成績評価基準と方法：

評価方法	到達目標					評価基準	評価割合 (%)
	到達目標 ①	到達目標 ②	到達目標 ③	到達目標 ④	到達目標 ⑤		
定期試験	◎	◎	◎	◎	◎		80%
レポート	○	○	○	○	○	記述内容の適切性、妥当な記述量	20%
授業態度	○	○	○	○	○	講義への取り組み姿勢 授業態度、討論への参加など	評価時の参考とする
出席						1/3を超える欠席は欠格とする	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

## ■関連科目：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：在宅看護学は日本の医療のこれからを担う重要な看護学分野です。可能な限り日常生活を継続しながら療養をする在宅看護の対象者を人として全体的に捉える姿勢が大切です。あなたの周りに在宅看護（訪問看護）を受けている方が居られたらお話を伺ってください。

# 在宅看護援助論

必修 開講年次：2年次後期 科目区分：演習 単位：1単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：在宅看護の対象である在宅療養者、障がい者、要支援要介護者とその家族の健康と生活を理解し、在宅看護活動について学習する。在宅ケアを支える保健・医療・福祉システムとケアマネジメントについて学習する。

■**到達目標**：①訪問看護ステーションの運営および訪問看護師の活動について理解する。  
②在宅看護過程の基本について理解する。  
③在宅ケアを支える保健・医療・福祉システムとその連携について理解する。  
④地域包括ケアシステムの概要およびケアマネジメントの基本について理解する。  
⑤在宅療養者の様々な健康状態と生活上の諸特徴、援助方法を理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎高橋 奈美・菊地 ひろみ・石崎 剛・石谷 タ子・松田 諭

■**授業計画・内容**：

第1回 訪問看護ステーションの運営、体制、訪問看護提供の仕組み  
第2回 在宅医療と看護：在宅診療とは、在宅医の活動、在宅医と訪問看護の連携  
第3回 在宅看護過程（1）：在宅看護過程の枠組みおよびアセスメント  
第4回 在宅看護過程（2）：統合および看護課題の抽出、看護目標の考え方  
第5回 地域包括ケアシステムと在宅看護：地域包括ケアシステムとは、地域包括支援センターの役割と活動  
第6回 介護支援専門員とケアマネジメント：介護支援専門員の役割と活動、ケアマネジメント  
第7回 介護予防と看護職：地域包括支援センターでの看護職の活動、介護予防の取り組みと看護職の役割  
第8回 在宅看護と継続看護：病院から在宅への移行、継続看護と退院支援・退院調整  
第9回 在宅における対象別看護（1）：精神障がいをもつ療養者の在宅看護  
第10・11回 在宅における対象別看護（2）：がん療養者に対する在宅看護  
第12・13回 在宅における対象別看護（3）：医療的ケアを必要とする小児と家族に対する在宅看護  
第14・15回 在宅における対象別看護（4）：難病療養者に対する在宅看護  
※オムニバス形式のため、順序および内容が一部変更する可能性がある。ほぼ毎回、講義と演習を組み合わせで行う。

■**事前・事後学習**：

事前学習について：授業の終わりに次回の授業テーマについて触れ、次回の授業までに自己学習しておく事柄を指示する。  
事後学習：授業で行う演習課題を完成させて、次回の授業の冒頭に提出する。もしくは授業内容に対応した課題を事後学習課題として指示する。

■**教科書**：『在宅看護学講座』スーディ神崎和代他編（ナカニシヤ出版）

『在宅看護過程演習－アセスメント・統合・看護計画から実施・評価へー』上田泉編著（クオリティケア）

■**参考文献**：『在宅看護論－地域療養を支えるケア』櫻井尚子他編（メディカ出版）

『場面でまなぶ在宅看護論』◎supple編集委員会編（メディカ出版）

『実践事例で学ぶ介護予防ケアマネジメントガイドブック』辻一郎監修（中央法規出版）

『ICF対応居宅ケアプラン記載事例集』篠田道子執筆監修（日総研出版）

■**成績評価基準と方法**：定期試験（80%）、授業内レポート・演習提出物（20%）、および授業態度により総合的に評価する。定期試験と授業内レポート・演習提出物の合計が60%未満の場合は再試験の対象となる。2/3以上の出席を満たさない場合は評価の対象としない。

評価方法	到達目標					評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④	到達目標⑤		
定期試験	◎	◎	◎	◎	◎		80%
授業内レポート 演習提出物	○	◎	◎	◎	◎	記述内容の適切性、妥当な記述量	20%
授業態度	○	○	○	○	○	講義・演習への取り組み姿勢	評価時の参考とする
出席						1/3を超える欠席は欠格とする	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：在宅看護学概論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：在宅看護学は各看護分野との関連が深く、応用的かつ実践的な領域です。専門的な内容を豊富に含みますので、講義・演習以外にも資料を活用し、主体的な取り組みを期待します。

# がん看護学

必修

開講年次：2年次後期

科目区分：演習

単 位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：がんの予防から診断と治療、さらに終末期における対象と家族を取り巻く状況を看護の視点から理解する。痛み等の症状マネジメント、対象の心身両面の苦痛を和らげる緩和ケアについても学び、がん看護の役割と看護活動について学修する。

- 到達目標**：①がんを取り巻く看護・医療の動向を理解できる。  
②がんの予防・早期発見と看護師の役割を理解できる。  
③がんの病態と臨床経過を理解できる。  
④がんの治療に伴う患者の身体・心理・社会面への影響と必要な援助を理解できる。  
⑤小児がん患者のQOLを高める支援と家族支援を理解できる。  
⑥がん医療における緩和ケアの必要性を理解できる。  
⑦がん患者の家族に対する援助と死別ケアを理解できる。  
⑧がん看護における看護師の役割を理解できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎川村 三希子・三上 智子・小坂 美智代

■**授業計画・内容**：

- 第1回 がん政策と医療・看護の動向／がんの疫学／がんの予防  
第2回 がん治療に伴う看護1 手術療法  
第3回 がん治療に伴う看護2 化学療法  
第4回 がん治療に伴う看護3 放射線療法  
第5回 小児がん患者のQOL、家族支援  
第6回 小児がん患者のQOL、家族支援  
第7回 がん医療における緩和ケア  
第8回 がん医療における緩和ケア（家族のケア・死別ケア）  
第9回 がんサバイバーシップ各期における課題とケアの実際1  
第10回 がんサバイバーシップ各期における課題とケアの実際2  
第11回 がんサバイバーシップ各期における課題とケアの実際3  
第12回 がんサバイバーシップ各期における課題とケアの実際4  
第13回 がんサバイバーシップ各期における課題とケアの実際5  
第14回 がんサバイバーシップ各期における課題とケアの実際6  
第15回 がんサバイバーからのメッセージ

■**事前・事後学習**：授業前に教科書の該当ページを読み予習して臨んでください。授業を実施した次の回に試験を行ないますので、復習をし準備してください。

■**教科書**：「系統看護学講座 別巻 がん看護学」／小松浩子 医学書院、2017

■**参考文献**：「がんサバイバーシップ」近藤まゆみ、嶺岸秀子編著 医歯薬出版、2006  
「系統看護学講座 別巻 緩和ケア」／恒藤暁、内布敦子編集 医学書院、2014

■**成績評価基準と方法**：（2/3以上の出席をもって下記のように評価する）

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	①-⑦	⑧		
試験(授業内)	◎			80
レポート	○	○		20
出席			2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：症状マネジメント論、成人看護学概論、疾病治療学A、疾病治療学B、臨床薬理学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：授業では、がん患者とその家族の体験DVD、闘病記などを紹介しながら進めます。がんを持ちながら生活するとはどのようなことなのか理解し、何をすることが看護になるのかを考えながら、授業に参加してください。

# 公衆衛生看護学概論

必修

開講年次：2年次後期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：公衆衛生看護活動の理念と機能について理解し、地域で生活する人々が生活の中で直面する健康問題を個人・家族・地域の問題として解決・改善するプロセスにかかわる公衆衛生看護活動について基本的な考え方と方法を学習する。

■**到達目標**：①公衆衛生看護の理念と目的を理解し、地域における保健活動と公衆衛生看護の重要性を述べることができる。  
②公衆衛生看護の対象としてのコミュニティを理解し、地域の健康ニーズについて述べることができる。  
③公衆衛生看護の活動の場における特性と活動方法を説明できる。  
④公衆衛生看護の歴史を理解し、コミュニティケアにおける保健師の役割を説明できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎喜多 歳子・本田 光

■**授業計画・内容**：

- 第1回 公衆衛生看護の定義・対象・機能
- 第2回 公衆衛生看護活動の場（行政）
- 第3回 公衆衛生看護活動の場（産業・学校）
- 第4回 社会環境の変化と健康課題
- 第5回 公衆衛生看護活動の特徴と展開1
- 第6回 公衆衛生看護活動の特徴と展開2
- 第7回 公衆衛生看護の歴史と倫理
- 第8回 公衆衛生看護学概論まとめ

■**事前・事後学習**：講義の終わりに課題を出します。予習を前提に授業を進めます。新たな用語や概念が出てきますので、授業中に理解できなかった内容は教科書で復習してください。

■**教科書**：「公衆衛生看護学原論」／麻原さよみ 他編（医歯薬出版）

■**参考文献**：「標準保健師講座I 公衆衛生看護学概論」／標 美奈子 編（医学書院）  
「無名の語り 保健師が「家族」に出会う12の物語」／宮本ふみ（医学書院）

■**成績評価基準と方法**：定期試験60%、提出物30%、授業態度10%

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③	④		
定期試験	◎	◎	◎	◎	60%以上を正解していること。	60
レポート	◎	◎	◎	◎	課題(レポート)を提出していること。	30
授業態度	○	○	○	○	積極的な姿勢。	10
出席					2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：地域保健学概論、公衆衛生学、保健医療福祉行政論 など

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：教科書だけでなく、新聞やニュース、市町村で出している広報誌などを通して、幅広く人々の健康に関連する課題や問題、現状について関心を持って下さい。

# 地域プロジェクトⅡ(応用編)

自由 開講年次：2年次・3年次・4年次(通年) 科目区分：演習 単位：2単位 講義時間：60時間

■**科目のねらい**：地域の概念やしくみ・プロジェクトの実現に必要な基礎知識を基盤とし、実際に地域の活性化を目指し、教員が立案・計画したプロジェクトにメンバーとして参加する事を通して、地域課題を解決するために必要な能力を習得する。

■**到達目標**：①公開講座に企画運営者の視点から参加し、地域の概念やしくみ・札幌市の特徴、地域課題の解決に向けた知識の普及方法について理解を深める。  
②教員が、地域と連携し、企画する地域プロジェクトにメンバーとして参加することを通して、地域の課題解決につながるプロジェクトを成立させるために必要な基礎的知識、技術、態度について考察する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎定廣 和香子・大淵 一博

■**授業計画・内容**：

## Section 5. 地域活動の実際を知る (advance)

1. 地域活動に関わる特別講義・公開講座への参加  
(企画・運営の視点から)

## Section 6. 地域プロジェクトを計画する (basic)

1. 地域プロジェクトの計画にメンバーとして参加する。

## Section 7. 地域プロジェクトを実践する (basic)

1. 地域プロジェクトの運営にメンバーとして参加する。

## Section 8. 地域プロジェクトを評価する (basic)

1. 報告会 (地域住民向け)  
2. アフターセッション (プロジェクトの評価と活動の自己評価)

■**事前・事後学習**：関心、興味のあるプロジェクトについて事前に情報収集をして下さい。プロジェクト参加後は、各自で担当した役割や感想をまとめ、プロジェクト実施報告書を提出して下さい。

■**教科書**：特になし

■**参考文献**：適宜参考資料を提供する。

■**成績評価基準と方法**：授業態度 (活動の態度や言動・活動計画・記録、報告会にむけての準備) 40%、発表20%、課題・作品40%、出席状況 (活動受け入れ先の実施証明書、報告会の参加状況) から総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
授業態度	○	○	◎	活動記録や活動受け入れ先の評価	40
発表			◎		20
課題・作品		◎	○	Section 6.の企画書および、報告書・報告内容を含む	40
出席	○	○	○	2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：スタートアップ演習、学部連携基礎論、札幌を学ぶ、ボランティア活動を考える

■**その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：学生は、公開されているプロジェクトの担当教員と面談の上、活動内容を決定し、計画を立案する。毎回、活動記録および活動受け入れ先の実施証明書を提出する。2年次生は、地域プロジェクトIの単位を取得している必要がある。3・4年次生は、Section 5の開始に先立ち地域プロジェクトI:Section 1を聴講すること。

# 保健医療福祉行政論I

必修

開講年次：3年次前期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：保健・医療・福祉に関する様々な制度・施策の中から、特に重要と思われるものを取り上げ、その歴史的背景を踏まえながら最近の施策の動向と将来の課題について学ぶ。また、保健医療福祉に関する法律や制度について理解を深める。

■**到達目標**：①各回の講義ごとに取り上げる制度と施策の概要、目的、背景及び今日までの歩み等について正しく理解する。  
②現在行われている施策に対して自分の意見を述べることができる。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎櫻井 繭子・本田 光・守村 洋・近藤 圭子・田仲 里江

■**授業計画・内容**：

- 第1回 地域保健行政
- 第2回 保健医療福祉行政の理念と変遷
- 第3回 医療制度、医療提供体制
- 第4回 母と子の保健医療福祉施策
- 第5回 子どもたちを虐待から守るために
- 第6回 健康危機管理・大規模災害
- 第7回 成人・健康づくりの保健医療施策
- 第8回 高齢者の保健医療福祉施策
- 第9回 障がい者の保健医療福祉施策
- 第10回 精神障がい者の保健医療福祉施策
- 第11～14回 地域の人々の生活と健康を守る法律と施策（演習）
- 第15回 札幌市の保健師活動

\*テーマの順序は、一部変更する可能性がある。

■**事前・事後学習**：授業のテーマは毎回異なるため、第1回目に配布される授業予定表を参考に、授業内容に関連する施策について事前に調べて臨む。受講後は配布資料などを復習しながら授業内容の理解を深める。

■**教科書**：標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論／藤内 修二ら（医学書院）

■**参考文献**：最新保健学講座7 保健医療福祉行政論／野村陽子 編集（メヂカルフレンド社）  
これからの保健医療福祉行政論／星旦二 編集（日本看護協会出版会）  
公衆衛生がみえる（メディックメディア）

■**成績評価基準と方法**：定期試験70%、授業態度30%

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	目標①	目標②		
定期試験	◎	○	授業の理解度	70
授業態度	○	◎	授業、グループワークや発表への取り組み	30
出席			2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：公衆衛生学、社会福祉学、公衆衛生看護学概論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：保健・医療・福祉に関する各種行政施策の中から重要と思われる課題を取り上げ解説します。看護師、保健師の活動はともに行政施策と深く関わっているため、各種行政施策と看護活動との関連性を考えながら学んでください。

# 保健統計

必修

開講年次：3年次前期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：医療・看護分野のほとんどの分野において他の分野に比べると個体変異の大きい数値データや質問紙調査のようなデータを扱うことが多い。このようなデータの解析に対して、共通に適用できるような数学的基礎を学ぶと共に看護分野に必要とされる統計解析上の基礎的知識を修得し今後の看護師業務および保健師業務や看護学研究に反映させる能力を養う。人口統計領域においてはEBN（科学的根拠に基づく看護学）の概念を理解し、実践能力を養う。特に基幹統計における人口統計を理解するための資料の調査、調査の種類などを良く知る。保健統計と現在の社会、医療状況との関連を推測することができる。現在の状況を基にして社会、人口構造の将来について考え、看護師、保健師のかかわり方を捉えることができる疫学的思考態度を身につける。

■**到達目標**：①研究法とデータの収集方法について理解する。  
②統計学の基本的概念である代表値、散布度、母集団、統計量などの基礎的事項を知る。  
③統計的手法の基礎となる推定、検定についてその考え方を理解する。  
④人口統計と保健・医療統計について理解し、人口構造・動向が社会、医療に与える影響について学ぶ。  
⑤情報処理の基礎を知り、情報のセキュリティを身につけてデータベースの使用ができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎片倉 洋子・槇 洋一

■**授業計画・内容**：

第1回 研究とは何か	第9回 推測統計Ⅲ（t検定）
第2回 データの種類・4つの尺度	第10回 推測統計Ⅳ（分散分析）
第3回 記述統計Ⅰ（図、表、代表値、散布度）	第11回 推測統計Ⅴ（カイ二乗検定）
第4回 記述統計Ⅱ（確率分布と標準化）	第12回 人口統計・基幹統計の調査方法、各種統計
第5回 記述統計Ⅲ（散布図と相関）	第13回 各種統計と現況の動向
第6回 記述統計Ⅳ（相関と回帰）	第14回 人口統計・日本の人口動向と世界の統計
第7回 推測統計Ⅰ（母集団と標本・点推定）	第15回 平均・健康寿命、死亡の統計
第8回 推測統計Ⅱ（区間推定と仮説検定）	

■**事前・事後学習**：前半第1回～11回：予習のための事前学習として、1年次に「統計を学ぶ」を受講した学生はその資料を見直すこと。また、参考文献の『基本からわかる看護統計学入門』やその他の統計学の入門書を読むとよい。復習のための事後学習として、毎回配布される資料を読み直し、資料についてある復習問題を解くこと。

後半第12回～15回：予習のための事前学習として、2年次前期で学んだ「公衆衛生学」の序論、保健統計のレジメをもう一度見直しをすること。また、参考文献の『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会・大学の図書館等にある）第2編 衛生の主要指標から第1章人口動態、第2章人口動態、第3章生命表、第4章健康状態と受療状況についてを読み、日本の人口、死亡の統計についてその特徴、人口の変化、変化する要因などについて読み準備をすること。講義日終了時に当日学んだ主要な点について確認のためレジメを読み各自まとめを書くこと。

■**教科書**：統計学の基礎（11回）：教科書は使用しません。毎回プリントを配布します。  
後半（4回）：教科書は使用しません。「国民衛生の動向」を参照する。

■**参考文献**：『基本からわかる看護統計学入門』／大木秀一（医歯薬出版）  
『基礎から学ぶ楽しい疫学』／中村好一（医学書院）  
『国民衛生の動向』／厚生労働統計協会

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標 ①、②	到達目標 ③、⑤	到達目標 ④		
定期試験	◎【前半】		◎【後半】	前半、後半とも定期試験60%の正解を合格 (後半は下記項目も参照される)	前半73% 後半17%
小テスト・ 授業内レポート			○	理解をしている	後半の5%
授業態度			○	質問に答えられる	後半の5%
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：公衆衛生学、疫学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：前半担当教員（槇）より  
研究法の紹介と実際にデータを分析するときに必要な統計を扱います。授業で扱う話題の性質上、どうしても難しくなるときがあります。できるだけわかりやすく説明していきますが、それでもわからないときには積極的に質問してください。

# 疫学I

必修

開講年次：3年次前期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：疫学は、人間集団の観察を通して疾病の要因とその予防対策を考えるために発展してきた学問です。その手法は集団を対象とした公衆衛生分野にとどまらず、臨床や看護の場面でも応用されるようになり、EBM、EBHCやEBNの「科学的根拠」を表すものとなっています。疫学の基本的知識を基にエビデンスの信頼性と妥当性を判断できる力を養います。

■**到達目標**：①疫学概念が理解できる  
②疫学に使われる指標を説明できる  
③疫学が看護の場面でどのように生かされているのか説明できる

■**担当教員**：

喜多 歳子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 疫学の定義・用語・倫理
- 第2回 集団の健康指標
- 第3回 研究方法（記述疫学）
- 第4回 研究方法（分析疫学）
- 第5回 疫学情報の精度と妥当性
- 第6回 疫学の応用・スクリーニング
- 第7回 社会疫学と公衆衛生政策

■**事前・事後学習**：次回に向けて課題を出します。  
疫学特有の用語があります。復習で理解を確実なものにしてください。

■**教科書**：なし（毎回、資料を配布します）

■**参考文献**：『基本からわかる看護疫学入門 第3版』大木秀一著（医歯薬出版）  
『はじめて学ぶやさしい疫学～疫学への招待～（改訂第2版）』日本疫学会監修（南江堂）2010  
『健康・医療の情報を読み解く 健康情報学への招待』中山健夫著（丸善出版）平成26年

■**成績評価基準と方法**：定期試験70%、授業内課題30%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎		70%
小テスト	○	○	○	講義の理解	30%

◎：より重視する ○重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：公衆衛生学、保健統計

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：疫学は、統計の知識を必要とします。統計に苦手意識がある学生は、内閣府統計局ホームページで自己学習をお勧めします。  
「なるほど統計学園」の「学ぶ・知る」<http://www.stat.go.jp/naruhodo/index.htm>  
「なるほど統計学園高等部」<http://www.stat.go.jp/koukou/intro/index.htm>



# 小児看護援助論

必修

開講年次：3年次前期

科目区分：演習

単 位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：小児看護学概論をふまえ、小児期に多い疾患の病態、治療法および看護援助の方法について基本的な知識を習得する。

■**到達目標**：①小児の成長発達と健康状態について、正常と異常のアセスメントに必要な知識を習得する。  
②小児期に多い疾患について、特有な症状、疾患発生のメカニズム、検査方法および治療法に関する基本的な知識を習得する。  
③疾患別の看護援助の要点を習得する。看護援助のあり方を、子どもと家族の成長発達・健康生活への支援の観点から考察できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎三上 智子・松浦 和代・川村 信明

■**授業計画・内容**：

- 第1・2回 オリエンテーション／グループワーク課題の提示  
病児の身体的苦痛を緩和する援助方法（小児におけるトリアージ、症状マネジメント）  
病児の心理的苦痛を緩和する援助方法（コミュニケーションの特徴、プリパレーション）
- 第3回 小児期の主な疾患・治療 ①先天異常 ②新生児疾患（川村）
- 第4回 疾患別看護 ①先天異常 ②新生児疾患
- 第5回 小児期の主な疾患・治療 ③感染症 ④呼吸器疾患（川村）
- 第6回 疾患別看護 ③感染症 ④呼吸器疾患
- 第7回 小児期の主な疾患・治療 ⑤アレルギー・免疫疾患 ⑥予防接種（川村）
- 第8回 疾患別看護 ⑤アレルギー・免疫疾患 ⑥予防接種
- 第9回 小児期の主な疾患・治療 ⑦循環器疾患 ⑧神経・筋疾患（川村）
- 第10回 疾患別看護 ⑦循環器疾患 ⑧神経・筋疾患
- 第11回 小児期の主な疾患・治療 ⑨内分泌・代謝疾患 ⑩腎・泌尿器疾患（川村）
- 第12回 疾患別看護 ⑨内分泌・代謝疾患 ⑩腎・泌尿器疾患
- 第13回 小児期の主な疾患・治療 ⑪血液疾患・腫瘍 ⑫消化器疾患（川村）
- 第14回 疾患別看護 ⑪血液疾患・腫瘍 ⑫消化器疾患
- 第15回 疾患別看護 手術を必要とする疾患と看護

\*疾患別看護の時間に、グループワークの発表・まとめを行う。

\*授業の順番変更や調整の可能性があります。

■**事前・事後学習**：子どもの疾患は、診療科を問わないため多岐にわたる。よって、事前学習では、予定されている授業内容をシラバスで確認し、教科書を読んでおきましょう。事後学習は、配布資料を見直し、参考文献や教科書を活用して疾患への理解を深め、看護援助のあり方を深く考察しましょう。

■**教科書**：『新体系看護学全書 小児看護学①小児看護学概論・小児保健』（メヂカルフレンド社）  
『新体系看護学全書 小児看護学②健康障害をもつ小児の看護』（メヂカルフレンド社）

■**参考文献**：『成長障害のマネジメント』（医療ジャーナル社）  
『NEW小児科学』改定第2版（南江堂）  
『こどもの病気の地図帳』（講談社）

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	講義内容の理解	75
グループワーク	◎	◎	◎	グループワークへの取り組み 発表内容、発表時の態度 疾患・看護援助の理解	20
授業態度	○	○	○	提出物の期限の厳守	5
出席				2/3以上の出席	定期試験 受験資格
e-Learning				自学自習状況の参照	0

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：人間発達援助論、小児看護学概論、疾病治療学概論、疾病治療学A・B・C、症状マネジメント論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：関連科目の理解を前提とします。子どもと家族の健康生活へのアセスメント力を養いましょう。

# 母性看護援助論

必修 開講年次：3年次前期 科目区分：演習 単位：1単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：女性のライフサイクル各期における生理的变化と特徴的な疾病・治療、および対象の生活上の課題を理解し、家族を含めた基本的看護援助について学修する。

■**到達目標**：①女性に特有な生理的变化と疾病が理解できる。  
 ②思春期・成熟期・更年期女性に必要な看護が理解できる。  
 ③妊産褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的特徴、および必要な看護が理解できる。  
 ④妊産褥婦および新生児を取り巻く家族に必要な看護が理解できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】  
 ◎山本 真由美・石引 かずみ・菅原 照夫

■**授業計画・内容**：

第1回	思春期・成熟期女性の生理的变化と特徴的な疾病・治療 (月経異常・性感染症月経困難症・子宮筋腫・生殖器腫瘍など)	}	(菅原照夫)
第2回	更年期女性の生理的变化と特徴的な疾病・治療 (更年期障害・女性生殖器疾患など)		
第3回	妊娠期の生理的变化と特徴的な疾病・治療 (ハイリスク妊娠・妊娠期感染症・妊娠疾患・多胎妊娠・妊娠持続期間の異常・子宮外妊娠など)		
第4回	分娩期の生理的变化と特徴的な疾病・治療 (分娩の三要素の異常・分娩時損傷・異常出血・産科処置と産科手術など)		
第5回	産褥期の生理的变化と特徴的な疾病・治療 (子宮復古不全・産褥期の発熱・産褥血栓症・精神障害など)		
第6回	思春期・成熟期女性の看護：月経・人工妊娠中絶・不妊など 更年期女性の看護：更年期障害・骨粗鬆症など		
第7・8回	妊娠期の看護 (1)：妊婦と胎児の健康状態のアセスメント (2)：妊婦の保健相談・異常妊婦の看護 (妊娠高血圧症候群・切迫流産など)		
第9・10回	分娩期の看護 (1)：産婦と胎児の健康状態のアセスメント (2)：分娩第1期から第4期の看護 (含、帝王切開)		
第11・12回	産褥期の看護 (1)：褥婦の健康状態のアセスメント (2)：身体の回復・育児・家族関係再構築に関する看護	}	(石引かずみ)
第13・14回	新生児期の看護 (1)：新生児の健康状態のアセスメント (2)：出生直後・出生後から退院時・1ヶ月健診の看護		
第15回	産褥期・新生児期の看護および看護過程		(山本真由美・石引かずみ)

■**事前・事後学習**：事前にテキスト（授業内容に関連する部分）を読んで授業に参加してください。受講後は配布資料・参考図書・ワークブック等を活用して学習を継続し、授業内容の理解を深めることを期待します。

■**教科書**：有森直子編：「母性看護学Ⅱ 周産期各論」、(医歯薬出版、2015)

■**参考文献**：有森直子編：「母性看護学Ⅰ 概論」、(医歯薬出版、2015)  
 森恵美他：「系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学〔1〕」、(医学書院、2016)  
 森恵美他：「系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学〔2〕」、(医学書院、2016)  
 横尾京子他編：「ナーシンググラフィカ 母性看護学① 母性看護実践の基本(第4版)」、(メディカ出版、2015)  
 太田操編：「ウエルネス看護診断にもとづく看護過程(第3版)」、(医歯薬出版、2017)  
 大平光子他編：「母性看護学Ⅱ：マタニティサイクル」、(南江堂、2012)  
 佐瀬正勝他編：「ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図(第3版)」、(医学書院、2016)

■**成績評価基準と方法**：

- ・授業への参加状況および定期試験による総合評価。
- ・単位修得には総合評価60点以上が必要となる。なお、出席時間が授業時間の2/3に満たない場合、成績評価の対象とはならない。

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③	④		
定期試験	◎	◎	◎	◎	内容の理解	①30 ②-④70
授業内レポート・課題	○	○	○	○	ポイントの理解	総合評価に加味する
授業態度	○	○	○	○	欠席した場合は減点	

◎：より重視する ○：重視する

■**関連科目**：人間発達援助論 母性看護学概論 小児看護援助論 母性看護技術論 母性看護学臨床実習

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

- ・既習科目との関連性を確認し、これまでの学修成果を本科目に活かしましょう。
- ・女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進と、「生命の誕生」を守り支えるために必要な基本的知識を確実に修得しましょう。

# 成人看護技術論

必修

開講年次：3年次前期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：成人期における健康障害を有する対象とその家族に対する援助技術について、看護過程を展開しながら学ぶ。また、成人期において発症しやすい疾患に対する基本的な看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を主体的に習得する。

■**到達目標**：①成人期の対象者とその家族の特徴を理解し、対象に合わせた援助方法を説明できる。  
②健康障害を有する対象者の看護過程を展開し、必要な看護計画を立案できる。  
③立案した看護を効果的に提供するための基本的な看護技術が実施できる。  
④グループ内で積極的に意見交換を行い演習へ主体的に参加できる。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

○貝谷 敏子・川村 三希子・小田 和美・卯野木 健・神島 滋子・菅原 美樹・藤井 瑞恵・工藤 京子・小坂 美智代・柏倉 大作

■**授業計画・内容**：

- 第1回 講義：身体侵襲を伴う検査を受ける患者に必要な看護技術
- 第2回 講義：消化機能障害患者の症状改善に必要な看護技術
- 第3回 演習：身体侵襲を伴う検査を受ける患者に必要な看護技術
- 第4回 演習：消化機能障害患者の症状改善に必要な看護技術
- 第5回 講義：周手術期患者の看護技術①：術前
- 第6回 講義：周手術期患者の看護技術②：術中・術直後
- 第7回 演習：周手術期患者の看護技術①：術前
- 第8回 演習：周手術期患者の看護技術②：術直後
- 第9回 講義：呼吸・循環機能障害患者の症状改善に必要な看護技術
- 第10回 演習：呼吸・循環機能障害患者の症状改善に必要な看護技術
- 第11回 講義：退院へ向けてのセルフマネジメントをうながす看護技術
- 第12回 講義：慢性疾患患者のセルフマネジメントをうながす看護技術
- 第13回 演習：退院へ向けてのセルフマネジメントをうながす看護技術
- 第14回 演習：慢性疾患患者のセルフマネジメントをうながす看護技術
- 第15回 まとめ

■**事前・事後学習**：講義においては、コースガイドのキーワードを参照に教科書の予習を行う。演習においては、事前にコースガイドの演習事例に取り組み、看護過程を展開して演習に臨む。演習終了後は、演習の学びをまとめたレポートを提出する。

■**教科書**：野崎真奈美・林直子・佐藤まゆみ他編：成人看護学 成人看護技術（南江堂）

■**参考文献**：雄西智恵美・秋本典子：成人看護学 周手術期看護論（Nouvelle Hirokawa）  
中村恵子監修：救急ケアNursing Selection®（学研）  
畑正彦・森美智子監修：ナースのためのチューブ管理マニュアル（学研）  
村上美好監修：写真でわかる臨床看護技術（インターメディカ）

■**成績評価基準と方法**：筆記試験（50%）・技術試験（30%）演習レポート評価（20%）  
なお、出席時間が授業時間の2/3に満たない場合、成績評価の対象とはしない。

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
筆記試験	◎	○	○		各授業の理解度	50
技術試験	◎	○	◎		看護技術の到達度	30
レポート・演習	◎	◎	◎	◎	課題達成度	20
出席					2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：成人看護学概論、成人看護援助論、症状マネジメント論、疾病治療学A・B・C、治療病態学概論、臨床栄養学、在宅看護技術論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：この科目では、的確な判断能力と問題解決能力に基づく看護技術が求められます。特に、引き続いて履修する「成人看護学臨床実習Ⅱ」では大変重要となります。講義日の終了時に、次回の演習のための事例と事前学習課題レポートを提示します。演習では事前学習課題レポートに基づいて実技を展開するので、事前学習は必須です。積極的な受講を期待しています。

# 成人看護学臨地実習Ⅱ

必修

開講年次：3年次前期

科目区分：実習

単位：2単位

講義時間：90時間

■**科目のねらい**：成人期にある対象の特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。疾病・健康問題に応じた生活支援と保健医療チームについて学ぶ。

■**到達目標**：①対象の特性と看護ケアの特殊性が説明できる。

②疾病・健康問題が対象と家族に及ぼす影響について、多角的な視点で統合的にアセスメントできる。

③対象の健康問題と強みを明らかにし、健康回復、適応促進、生活の再構築に必要な看護ケアの計画・実践・評価という一連の看護過程を展開することができる。

④対象の療養生活を支援する保健・医療・看護・福祉チームの役割と機能について説明できる。

⑤看護専門職を目指す学生として、自覚と責任を行動で示すことができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎工藤 京子・貝谷 敏子・神島 滋子・菅原 美樹・藤井 瑞恵・小坂 美智代・柏倉 大作

■**授業計画・内容**：

実習施設：市立札幌病院

実習方法：実習要項参照

■**教科書**：なし

■**参考文献**：適宜、担当教員と相談すること

■**成績評価基準と方法**：実習内容・提出された実習記録物、実習態度、ケースカンファレンス、レポートから実習目標の達成度を総合的に評価します。

評価方法	到達目標					評価基準	評価割合 (%)
	目標①	目標②	目標③	目標④	目標⑤		
実習内容と記録	◎	◎	◎	◎	○	目標達成度を4段階で評価	80
実習態度					◎	積極的に実習に臨む姿勢とチームへの貢献度	10
ケースカンファレンス		○	○			簡潔明瞭な事例紹介と自身の看護実践の報告	5
実習レポート	○	○	○			テーマに適した内容	5
出席						2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：全ての既習科目が該当する。特に看護過程論、症状マネジメント論、成人看護学概論、成人看護学援助論、成人看護学技術論、形態機能学、疾病治療論など。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：成人看護学領域における集大成となる実習です。これまでの学修内容を整理し、自己課題を明確にして、主体的・計画的に実習に臨むことを期待します。

# 老年看護学臨地実習I

必修

開講年次：3年次前期

科目区分：実習

単 位：1単位

講義時間：45時間

■**科目のねらい**：地域で自立・自律した生活を営む健康な高齢者との触れ合いを通して、老年期にある人の発達課題、身体的・精神的・社会的な側面、健康と生活上の課題について総合的に理解する。この理解を通して、多様な健康レベルにある高齢者へ看護を展開するうえで必要な基礎的知識と態度を養う。

■**到達目標**：実習先で出会う高齢者について以下を説明できる。

1. 実習先が地域で果たす役割や機能を説明できる。
2. 実習先の運営にかかわる人やその役割について説明できる。
3. 高齢者が実習先を利用することの意義を説明できる。
4. 高齢者の暮らしぶりや自己の健康への配慮の仕方を説明できる。
5. 高齢者の加齢に伴う身体的な状態について具体的に説明できる。
6. 高齢者の加齢に伴う精神的な状態について具体的に説明できる。
7. 高齢者の加齢に伴う社会的な状態について具体的に説明できる。
8. 高齢者が経験してきた疾病や健康課題、それらに影響を受けている今の生活について説明できる。
9. 高齢者の安全に注意を払い、事故防止に努めることができる。
10. 保健医療を担う一員であることを自覚し、必要時は指導者や担当者、教員へ報告、連絡、相談ができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎原井 美佳・村松 真澄・中田 亜由美

■**授業計画・内容**：

実習は、老人クラブ、老人福祉センター、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホームのうち、いずれか2ヶ所で行う。詳細はオリエンテーションで周知する。

■**教科書**：使用しない

■**参考文献**：奥野茂代 編著 老年看護学概論と看護の実践 第5版 東京 ニューベルヒロカワ 2013

■**成績評価基準と方法**：出席日数、実習の取り組み状況、実習の記録などから到達目標の達成度を総合的に評価する。

評価方法	評価基準	評価割合 (%)
実習評価科目(1～14)	評価表に示す	70
各記録用紙	提出の状況	10
実習の姿勢	グループにおける役割と貢献	20
出席	2/3以上の出席	欠格条件

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：これまでの老年看護学の学修を統合する実習です。対象者との交流から学ぶ姿勢を大切にしてください。挨拶や言葉遣い、身だしなみに留意して実習に臨んでください。

# 精神看護技術論

必修

開講年次：3年次前期

科目区分：演習

単 位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：精神看護援助論を踏まえて精神の健康上の問題に直面している対象とその家族に対する援助技術、対応方法について看護過程を展開しながら学ぶ。また、精神障害のある対象やその家族とのかかわり方や、看護に必要な基本的看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践へつなげていく。

■**到達目標**：①精神の健康上の問題に直面している対象者への効果的な看護技術を習得する  
②精神の健康上の問題に直面している対象者への看護過程を考えることができる

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎伊東 健太郎・守村 洋

■**授業計画・内容**：

- 第1・2回 オリエンテーション  
セルフケア理論を用いた事例展開①②（アセスメント、課題の抽出、目標の設定、具体的な関わり）  
個人ワーク、グループワーク
- 第3回 セルフケア理論を用いた事例展開③（発表）
- 第4回 ソーシャルスキルトレーニング（SST）  
ロールプレイ
- 第5・6回 精神看護における援助技術①  
グループワーク、ロールプレイ、プロセスレコード
- 第7・8回 精神看護における援助技術②  
グループワーク、ロールプレイ、プロセスレコード
- 第9・10回 精神看護における援助技術③  
グループワーク、ロールプレイ、プロセスレコード
- 第11・12回 【前半グループ】精神看護における援助技術④（臨床指導者および模擬患者の協力）  
グループワーク、ロールプレイ、プロセスレコード  
【後半グループ】映像視聴教育
- 第13・14回 【前半グループ】映像視聴教育  
【後半グループ】精神看護における援助技術④（臨床指導者および模擬患者の協力）  
グループワーク、ロールプレイ、プロセスレコード
- 第15回 精神医療機関で従事する精神看護専門看護師と地域で活動するコメディカルの実践

■**事前・事後学習**：事前に、授業内容を確認して該当箇所について、グループワークやロールプレイ、事例発表などに積極的に参加できるよう、教科書や文献などで調べておいてください。授業終了後には、配布した資料や教科書を読み復習をしてください。学習は、主体的、積極的に取り組んでください。

■**教科書**：『看護実践の根拠がわかる 精神看護技術』／山本勝則ら編（メヂカルフレンド社）

■**参考文献**：『セルフケア概念と看護実践』／南裕子・稲岡文昭監修、粕田孝行編（へるす出版）  
『エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図』／川野雅資編（中央法規）

■**成績評価基準と方法**：出席参与度（30%）、提出物（プロセスレコード等・50%）、最終評価レポート（20%）により総合的に評価する。なお、2/3以上の出席を満たさなければ評価の対象としない。演習時にはプロセスレコードまたはアクションシートの提出を課す。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
提出物 ・援助技術① ・援助技術② ・援助技術③ ・援助技術④ ・映像視聴教育	◎	◎		50 (10) (10) (10) (10)
最終評価レポート	◎	◎		20
授業態度	○	○	積極的な姿勢。	30
出席	○	○	2/3以上の出席	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：精神科看護を実践的に展開する上での技術を習得し、オレム－アンダーウッドによるセルフケア理論に基づいたアセスメントを考えます。終講直後の「精神看護学臨地実習」で活用するためにも、積極的に演習に臨むことを期待している。

# 精神看護学臨地実習

必修

開講年次：3年次前期

科目区分：実習

単位：2単位

講義時間：90時間

■**科目のねらい**：精神看護の特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。

- 到達目標**：①対象とのかかわりを通し、精神障害のある対象を理解する  
②治療的コミュニケーションの技法及び精神科における看護援助を実践する  
③精神障害をもつ対象の生活を理解し、地域社会での支援システムを説明できる  
④看護学生として責任ある行動や態度を修得する

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎伊東 健太郎・守村 洋・出水 美菜子

■**授業計画・内容**：

別途、配布する「精神看護学臨地実習要項」「オリエンテーション資料」に基づいて、オリエンテーションを受け、2週間の精神看護学臨地実習に臨む。

精神科急性期病棟あるいは慢性期病棟において1週間の実習を行い、もう1週間はデイケア等社会資源にて実習を行う。週の順序は問わない。金曜日は学内にてロールプレイ（1週目）と実習報告会（2週目）を通じて実習での学びを深める。

■**教科書**：『看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術』／山本勝則ら編（メヂカルフレンド社）

■**参考文献**：『精神障害者の退院計画と地域支援』／田中美恵子編著（医歯薬出版）

■**成績評価基準と方法**：実習目標の到達度（90%）、学内演習・報告会（10%）とする。出席参加度は、減点法とする。なお、2/3以上の出席を満たさなければ評価の対象としない。

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
実習目標に対する到達度	◎	◎	◎	◎		90
学内演習・報告会	○	○	○	○		10

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：「精神看護学概論」「援助の人間関係論」「精神看護援助論」「精神看護技術論」

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：健康管理に留意し実習に臨んで欲しい。実践の現場から多くのことを学んでもらいたい。

# 在宅看護技術論

必修

開講年次：3年次前期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：在宅療養者と家族に必要な基本的看護技術について理解し、効果的な在宅看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践につなげていく。

■**到達目標**：①在宅の生活援助技術と医療管理技術について、在宅療養者の特性を踏まえて説明できる。  
②基本的な在宅看護技術について、根拠および実施方法を説明できる。  
③基本的な在宅看護技術を習得する。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎菊地 ひろみ・高橋 奈美

■**授業計画・内容**：

第1回 コースガイダンス

第2回 在宅における食の援助と排泄ケア

第3回 在宅におけるリハビリテーション

第4回 在宅における環境・移動・安全：住環境整備／転倒予防

第5回 在宅における清潔ケア（1）：入浴／清拭／部分浴／整容

第6回 在宅における清潔ケア（2）：技術演習

第7回 在宅における薬物療法（1）：服薬管理／疼痛管理／血糖測定・インシュリン自己注射

第8回 在宅における薬物療法（2）：技術演習

第9回 在宅における呼吸ケア（1）：在宅人工呼吸療法／在宅酸素療法／気管内吸引

第10回 在宅における呼吸ケア（2）：技術演習

第11回 在宅における栄養ケア（1）：在宅経管栄養法／在宅中心静脈栄養法

第12回 在宅における栄養ケア（2）：技術演習

第13回 在宅における感染管理・リスクマネジメント

第14回 訪問看護の基本的態度と面接技術：訪問時のマナーと面接技術／訪問看護の倫理

第15回 在宅訪問時の基本的態度と面接技術（演習）

※単元の順序は変更することがある

■**事前・事後学習**：

事前学習について：次回の授業の在宅看護技術について自己学習し、レポートを作成・提出する。レポートのテーマなど、詳細は都度指示する。

事後学習について：授業の内容について、次回の授業の冒頭に内容理解を確認する小テストを行うので、それに備えて良く復習しておく。

■**教科書**：『在宅看護学講座』 スーディ神崎和代他編（ナカニシヤ出版）

『写真でわかる訪問看護 訪問看護の世界を写真で学ぶ』／押川眞喜子監修（インターメディカ）

■**参考文献**：『Nursing Mook3 スキルアップのための在宅看護マニュアル』／角田直枝編（学習研究社）

『よくわかる在宅看護』角田直枝編（学研メディカル秀潤社）

『在宅療養指導とナーシングケア—退院から在宅まで 1～6』／宮崎歌代子他編（医歯薬出版）

■**成績評価基準と方法**：定期試験（60%）、提出物（20%）小テスト（20%）、および授業態度を参考として総合的に評価する。総合評価が60%未満の場合は再試験の対象となる。小テストは、単元ごとの内容を次回講義のはじめに実施する。2/3以上の出席を満たさない場合は評価の対象としない。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	○	内容の理解	60
提出物	◎	◎	◎	記述内容の適切性、妥当な記述量	20
小テスト	◎	◎	◎	単元ごとに実施し、点数を積算する	20
授業態度	○	○	○	講義・演習への取り組み姿勢	評価の参考
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：在宅看護学概論、在宅看護援助論、在宅看護学臨地実習

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：医療依存度の高い在宅療養者増加に伴い、生活援助技術と医療管理技術の双方が、在宅看護に求められています。演習は、「在宅看護学臨地実習」などで経験するであろう在宅看護援助技術の中から、特に重要な項目を中心に構成しています。グループワーク主体とした演習を展開しますので、個々の参加度が課題達成に大きく影響します。皆さんの能動的・主体的な取り組みを期待します。



# 在宅看護学臨地実習

必修

開講年次：3年次前期

科目区分：実習

単 位：2単位

講義時間：90時間

■**科目のねらい**：在宅で療養している人とその家族の健康と生活に対する援助の実際を理解する。また、地域ケアシステムにおける保健・医療・福祉ネットワークと専門職の役割および支援の実際を学ぶ。

- 到達目標**：①対象者と家族を、健康および生活の両面から全体的に捉えられる。  
②地域や在宅環境の特性に応じた援助の実際を理解できる。  
③介護予防における看護職の役割について捉えられる。  
④地域ケアシステムを構成する関係機関および専門職の活動と連携について理解できる。  
⑤看護学生として責任ある行動と態度を実践できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎菊地 ひろみ・高橋 奈美

■**授業計画・内容**：

2週間の実習期間の中で、訪問看護ステーション（療養通所介護事業所を含む）のいずれかにおいて1週間、地域包括支援センターもしくは居宅介護支援事業所において1週間の実習を行う。

詳細は「在宅看護学臨地実習要項」を参照のこと。

<実習施設>

- ・訪問看護ステーション（療養通所介護事業所を含む） 18施設
- ・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所 27施設

■**教科書**：在宅看護学概論、在宅看護援助論、在宅看護技術論で使用した教科書

■**参考文献**：在宅看護学概論、在宅看護援助論、在宅看護技術論で配布した資料

■**成績評価基準と方法**：実習の取り組み状況、カンファレンス・学内演習の内容、実習記録、レポートにより実習目標の達成度を総合的に評価する。実習指導者の評価と担当教員の評価を合算する。2/3以上の出席を満たさない場合は評価の対象としない。

評価方法	到達目標					評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④	到達目標⑤		
実習記録	○	○	○	○	○	記録内容の適切性、事前・事後学習の妥当性	20%
レポート	◎	◎	○	◎	○	レポート内容の適切性・妥当な記述量	25%
実習カンファレンス	◎	◎	◎	◎	○	発表内容・ディスカッション内容の適切性	25%
学内演習	◎	◎	◎	◎	○	発表内容の適切性	20%
実習態度	○	○	○	○	◎	実習に対する積極性、実習中の態度・発言	10%
出席						2/3以上の出席	欠席数、遅刻・早退に応じて減点

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：在宅看護学概論、在宅看護援助論、在宅看護技術論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：対象者の生活の場に足を踏み入れることを熟慮した言動が不可欠です。対象者の協力のもとに実習が成立していることを自覚し、積極的に行動し、在宅看護の実践から多くを学び取ることを期待します。

# リハビリテーション看護学

必修 開講年次：3年次前期 科目区分：演習 単 位：1単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：様々な疾病や外傷により生じる生活機能の障がいの特徴について学習し、リハビリテーションの観点から看護の役割を理解する。また、疾患や障がいに応じたリハビリテーションの看護援助について学ぶ。

■**到達目標**：①リハビリテーションにおける看護の役割を説明できる。  
②生活を困難にしている疾病や障がいの特徴について列挙できる。  
③障がいを持つ人とその家族の生活の再構築のための看護支援を具体的に計画できる。  
④生活の自立に向けた安全・安楽な看護援助技術を習得できる。  
⑤グループで主体的に計画をたて、協同して学修できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎神島 滋子・柏倉 大作・山中 康裕・石井 陽史

■**授業計画・内容**：

第1回 講義	コースオリエンテーション	第10回 講義(山中)	リハビリテーション医学(医師からみたリハビリテーション)
第2回 講義	リハビリテーションとはなにか	第11回 講義(石井)	リハビリテーション医学(セラピストからみたリハビリテーション)
第3回 講義	国際生活機能分類について	第12回 講義	生活の再構築のための支援(ゲストスピーカー：高次脳機能障害当事者家族)
第4回 講義	リハビリテーション看護におけるアセスメント	第13回 講義	チーム医療とリハビリテーション
第5回 講義	疾病の回復過程とリハビリテーション看護	第14回	グループワークの発表
第6回 演習/グループワーク		第15回	グループワークの発表
第7回 演習/グループワーク			
第8回 演習/グループワーク			
第9回 演習/グループワーク			

※この科目はオムニバス授業のため、非常勤講師の都合により日程変更の可能性があります。

■**事前・事後学習**：

事前学習：講義については教科書の該当部分を読んで望むこと。演習では課題となっている障害への援助について教科書などで確認して望むこと。

事後学習：講義、演習ともに理解できなかった点、疑問点など明確にして解決するように努めること。

■**教科書**：ナーシング・グラフィカ成人看護学⑤リハビリテーション看護、奥宮暁子他編、メディカ出版、2017

■**参考文献**：・ICF国際生活機能分類—国際障害分類改訂版一、世界保健機構(中央法規)  
・ナーシングセレクション⑩リハビリテーション看護、奥宮暁子、石川ふみよ他監訳(Gakken)  
・生活の再構築を必要とする人の看護I、奥宮暁子・阿部篤子編(中央法規)  
・生活の再構築を必要とする人の看護II、奥宮暁子・阿部篤子編(中央法規)  
・QOLを高めるリハビリテーション看護第2版、貝塚みどり他編(医歯薬出版株式会社)  
・邂逅、多田富雄・鶴見和子(藤原出版)  
・奇跡の脳、ジル・ポルト・テイラー/竹内薫訳(新潮社)  
・困ってるひと、大野更紗(ポプラ社)  
・重い障害を生きるということ、高谷清(岩波新書)  
・心臓に障害を持つ中学生からのメッセージ・医者を目指す君へ、山田倫太郎(東洋経済新聞社)  
・サルコペニアを防ぐ!看護師によるリハビリテーション栄養、若林秀隆他編(医学書院)  
・ナーシング・プロフェッション・シリーズ 高次脳機能障害を持つ人へのナーシングアプローチ、石川ふみよ・奥宮暁子編(医歯薬出版株式会社)

■**成績評価基準と方法**：定期試験60%、授業内課題40%

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
定期試験	◎	◎	○	○	100点満点を60%に換算	60%
演習			○	◎	演習への参加、レポートの提出と評価	15%
グループワーク	○	○	◎	○	グループワークへの参加状況と貢献度・発表	25%
出席					2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：看護観察技術論、基礎看護技術論、成人看護学概論、成人看護援助論、成人看護技術論、症状マネジメント論、疾病治療論など

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：様々な障害を理解するためには体験記などを読み、当事者の体験を感じましょう。すべての疾患や障害を持つ人にはそれぞれの生活があります。その人の今後を見すえた生活の再構築への援助(すなわちリハビリテーション看護)は皆さんのこれからの看護活動の大切な基礎となります。グループワークは様々な障害をもつ個別(家族を含む)の看護を具体的に考えるための重要な学修です。グループで協力すること自体もチーム医療を考える上で大切な学修の機会と考えて臨んでください。

# 認知症ケア

必修

開講年次：3年次前期

科目区分：演習

単 位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：最新の論拠に基づいてアルツハイマー病やその他の認知症の発現過程と疾患について理解し、その援助方法について学ぶ。さらに、認知症を持つ人の日常生活・社会生活への適応を支援する看護、および介護を担う家族を支援する方法について学ぶ。

- 到達目標**：
1. 認知症と現代社会の課題について説明できる。
  2. 認知症の定義と4大認知症の臨床的特徴を説明できる。
  3. 認知症の人が治療を受けるときの看護について説明できる。
  4. 認知症の人のQOLを高める環境整備や栄養のケアについて説明できる。
  5. 認知症の人の症状アセスメントとケアの基本について説明できる。
  6. 認知症の人が地域で暮らすための取組と課題について説明できる。
  7. 認知症の人の人権擁護とケアにおける倫理的課題を説明できる。
  8. 認知症の人の家族やケア提供者が直面している課題を説明できる。
  9. 認知症の人に対するコミュニケーションについて説明できる。
  10. 認知症の人に関する看護課題についてGeriatric Nursingを用いて検索し、考察できる。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

○村松 真澄・原井 美佳

■**授業計画・内容**：

- 第1回 認知症とはなにか、現代社会における認知症、歴史（村松）
- 第2回 認知症の病態と定義・治療（村松）
- 第3回 認知症の人が治療を受けるときの看護（村松）
- 第4回 認知症の人のQOLを高める環境整備および栄養（村松）
- 第5回 認知症の人の症状アセスメントとケアの基本（原井）
- 第6回 地域で認知症の人が安心して暮らすことができる地域包括ケア（村松）
- 第7回 地域包括ケアの在り方提案：グループワーク（村松）
- 第8回 地域包括ケアの在り方提案：ワールドカフェ方式（村松）
- 第9回 認知症の人の人権擁護とケアにおける倫理的課題（原井）
- 第10回 倫理的課題の事例検討：グループワーク（原井）
- 第11回 倫理的課題の事例検討：ワールドカフェ方式（原井）
- 第12回 認知症の人の家族、及びケア提供者の課題（原井）
- 第13回 認知症の人とのコミュニケーション（原井）
- 第14回 認知症の人とのコミュニケーション：演習（原井）
- 第15回 認知症ケアの今後の課題（村松）

講義の進捗状況により授業の順番変更や調整の可能性がある。

■**事前・事後学習**：コースオリエンテーションを配布するので事前・事後学習すること。

■**教科書**：新版 認知症の人々の看護 3版 中島紀恵子著、編集 医歯薬出版

■**参考文献**：認知症と診断されたあなたへ 小澤 勲／黒川 由紀子編 医学書院  
私の脳で起こったこと レビー小体型認知症からの復活 樋口直美 ブックマン  
ぼくが前を向いて歩く理由：事件、ピック病を超えて、いまを生きる 中村成信 中央法規出版  
認知症になった私が伝えたいこと 佐藤雅彦 大月書店

■**成績評価基準と方法**：総合的に評価する。

評価方法	到達目標										評価基準	評価割合 (%)		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
講義の予習とまとめ	◎	◎	◎	◎	◎				◎			内容の適切性および発展性	40%	
国際的老年看護学の課題の検索と考察、今後の課題											◎	内容の適切性および発展性	10%	
授業態度	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
ロールプレイ									◎			参加度とまとめの内容の適切性および自己課題の明確化	10%	
グループワーク・ワールドカフェ						◎	◎					グループ活動への貢献・参加度と発表内容の適切性 ワールドカフェの参加度とまとめの内容の適切性	40%	
出席状況												2/3以上の出席	欠格条件	

◎：より重視する ○重視する 空欄：評価の参考とする

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：認知症状やアルツハイマー病という疾患に焦点をおくのではなく、あくまでも認知症という疾患をもつ人を理解し、よりよい看護を探求するという姿勢で授業に臨んで下さい。

# 健康教育指導法

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：人々が自らの健康を増進する力を育むために実践する健康教育について、基本的な理念と知識、教育活動に必要な方法を理解する。

- 到達目標**：
1. 健康教育の定義、目的を説明することができる。
  2. 健康教育実践に必要な知識・態度・技能を身につけることができる。
  3. 対象集団の健康課題をアセスメントし、効果的な健康教育計画を立案できる。
  4. 対象集団に対して健康教育を実施する。
  5. 健康教育実施後に企画評価の概念に基づいて評価できる。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎田仲 里江・櫻井 繭子・近藤 圭子

■**授業計画・内容**：

- |         |                          |            |
|---------|--------------------------|------------|
| 第1回     | コースガイダンス                 | 看護における健康教育 |
| 第2回     | 健康教育の方法・媒体               |            |
| 第3回     | 健康教育の基礎知識（健康相談と個別健康教育）   |            |
| 第4回     | 健康教育の企画・実施・評価            |            |
| 第5-12回  | 健康教育演習（指導案作成、デモンストレーション） |            |
| 第13・14回 | 健康教育発表会                  |            |
| 第15回    | 健康教育実施後の評価               |            |

■**事前・事後学習**：

予習について：授業の終わりに授業外課題（2回実施）について、お知らせします。

復習について：授業の内容についてのミニテストを2回実施します。

また、健康教育指導案作成、教材作成、発表準備などに授業時間外の作業が必要となります。

■**教科書**：講義時に適宜、資料を配布する。

■**参考文献**：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院

「最新保健学講座別巻1 健康教育論」／宮坂忠夫 他（メヂカルフレンド社）

毎日の食事のカロリーガイド5訂増補 女子栄養大学出版社

■**成績評価基準と方法**：定期試験40%、ミニテスト・授業外課題レポート20%、リフレクションシート30%、提出物10%を総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標 ①	到達目標 ②	到達目標 ③		
定期試験	◎	◎	◎	60%以上正解していること。	40
ミニテスト 授業外課題レポート	◎	◎	○	・2回の授業のミニテスト(5点×2回=10点) ・2回の授業外課題とその学び(5点×2回=10点) ・欠席 0点 提出期限遅れ 1点減点	20
授業・演習態度 リフレクションシート	○	◎	◎	・グループワークへの参加状況を毎回のリフレクションシートに記載し、積極性・役割遂行 発表会での役割・メンバーとの協働を担当教員が評価する。 ・意見交換時の発表(1回1点：最大5点まで) 欠席や不参加 1点減点	30
提出物(グループ)	○	◎	◎	・学習目標および提出物の作成意図を理解していること。 ・確かな根拠に基づき、創意工夫が見られること。 ・提出期日が守られていること。	10
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：公衆衛生保健学概論、公衆衛生学、人間援助論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護援助論I、臨床栄養学 など

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：健康教育実践に必要な知識や技術を学ぶとともに、自分自身の日常生活や保健行動を振り返る機会としましょう。演習では、すべてのグループがプレゼンテーションを実施し、聴衆から直接評価をいただき、改善に向けての考察を加えます。他者の健康を支援する専門職にふさわしいといえるヘルスリテラシーを高めてください。

# 研究方法論

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：演習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：看護学と看護臨床における研究の意義、研究の概念、研究の方法論と基本的なステップを学修します。また、文献検索の実際を体験的に学修し、先行研究の活用方法を修得します。学修過程を通して、卒業研究に必要とされる基礎的な能力、態度、および倫理観を養うことをめざします。

■**到達目標**：①看護学と看護臨床における研究の意義、研究の概念、研究の方法論と基本的なステップについて説明できる。  
②関心のある看護研究課題について文献検索を行い、文献レビューを作成できる。  
③関心のある看護研究課題について研究計画書の作成を試み、理論的文脈を推敲する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎貝谷 敏子・神島 滋子・檜山明子

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 看護研究の意義と動向、研究倫理と研究者の責務
- 第 2 回 看護研究の概要—基本的なステップ
- 第 3 回 研究疑問と研究課題（演習）
- 第 4 回 批判的リーディング・レビューマトリックスの作成
- 第 5 回 文献検索の実際（講義）
- 第 6 回 文献検索の実際（演習）
- 第 7 回 研究計画の立て方 看護研究における概念枠組みと研究デザイン・研究デザインに基づく研究方法の選択
- 第 8 回 研究計画書の作成・倫理的配慮
- 第 9 回 量的研究の概念枠組みの作成（グループ演習）
- 第10回 量的研究の概念枠組みの作成（グループ演習）
- 第11回 質的分析手法（グループ演習）
- 第12回 質的分析手法（グループ演習）
- 第13回 研究計画書の推敲と理科系の作文技術
- 第14回 研究結果の解釈・報告書の作成とプレゼンテーション
- 第15回 模擬指導・卒業研究の進め方

■**事前・事後学習**：看護研究のプロセスに沿って演習を取り入れながら、最終的には研究計画書を作成することを課題としている。計画書の作成までに4つのレポート課題があり、講義の進捗に合わせてながら事後課題として取り組む。講義の準備としては、コースガイドに従って、教科書の予習部分を確認して授業に臨むことを基本とする。

■**教科書**：小笠原知枝・松木光子編『これからの看護研究—基礎と応用』第3版（ヌーヴェルヒロカワ）

■**参考文献**：

研究方法全般：

- 南裕子編（2008）. 看護における研究. 日本看護協会出版会.
- D.F.ポーリット&B.P.ハングレー『看護研究 原理と方法』（医学書院）
- N.バーンズ&S.K.グローブ『バーンズ&グローブ看護研究入門』（エルゼビア・ジャパン）
- S.B.Hulley『医学的研究のデザイン』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
課題レポート	◎	◎	◎	講義内容の理解 レポートはルーブリックで評価	70
授業態度	○	○	○	積極的な学修姿勢	30
出席				2/3以上の出席	失格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：情報リテラシーI・II、疫学I、保健統計、卒業研究

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：卒業研究に連動する科目です。研究活動に対する皆さんの関心と自主性が高まることを期待しています。

# 小児看護技術論

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：健康障害をもつ子どもとその家族に必要な基本的看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、看護実践能力の向上をめざす。また、子どもとその家族を対象とした援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。

■**到達目標**：①子どもと家族の健康生活への支援について習得し、対象に合わせた援助方法がわかる。  
②小児看護に特有な看護技術について習得し、状況に応じた援助方法がわかる。  
③事例演習を通して、子どもと家族に必要な看護過程の展開ができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎三上 智子・松浦 和代

■**授業計画・内容**：

第1・2回 コースオリエンテーション

小児看護における看護過程・模擬事例グループワークミーティング

第3～13回 小児看護に特有な看護技術

①バイタルサインズの測定

②身体計測

③フィジカルアセスメント（乳児・幼児・学童）

④食事の援助（小児の栄養・調乳と授乳・離乳食・経管栄養法）

⑤清潔の援助（オムツ交換・入浴・清拭）

⑥日常生活場面でおこる事故とその予防

⑦救急看護（心肺蘇生）

⑧検査・処置時の援助（腰椎穿刺・骨髄穿刺・尿検査等）

⑨転倒転落の予防

\*技術演習は小グループに分かれ、変則的な時間配分のプログラムで実践する。

第14・15回 模擬事例における看護過程の展開 グループワークの発表・まとめ

\*複数事例の中から1事例を選び、患児と家族に必要な看護計画を立案する。

また、子どもや家族への指導や説明の資料を作成し、発表する。

■**事前・事後学習**：看護技術ごとに事前課題を課します。教科書や事前配布資料を活用して基本的な知識を学修した上で技術演習に臨んでください。事後学習では、DVDを視聴したり技術指導を受けたりし、練習を積み重ね、技術習得を目指しましょう。

■**教科書**：新体系看護学全書 小児看護学①小児看護学概論・小児保健 メヂカルフレンド社  
新体系看護学全書 小児看護学②健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社

■**参考文献**：適宜紹介する

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎		講義・演習内容の理解(基礎知識60%、応用問題40%)	55
授業内レポート	◎	◎		ポイントの理解	20
グループワーク	○	○	◎	グループワークへの取組み 発表内容、発表時の態度 看護過程の理解	20
授業態度	○	○	○	提出物の期限の厳守	5
出席				2/3以上の出席	定期試験 受験資格
e-Learning				自学自習状況の参照	0

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：小児看護学概論、小児看護援助論、疾病治療学概論、疾病治療学A・B・C、症状マネジメント論、人間発達援助論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：関連科目で学習した内容をしっかりと復習しましょう。技術演習は、ユニフォーム（ナース服・ナースシューズ）で行います。臨床実習に準じた身だしなみに整え、緊張感をもって臨んでください。

# 小児看護学臨地実習

必修 開講年次：3年次後期 科目区分：実習 単 位：2単位 講義時間：90時間

■**科目のねらい**：小児看護の対象特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。

- ①子どもの成長・発達・保育について理解を深める。
- ②健康障害をもつ子どもと家族への生活支援について学ぶ。

■**到達目標**：①保育園実習を通して、子どもの健康生活、育児支援、ヘルスプロモーションやセーフティプロモーションの基礎知識をふまえた看護実践を行う基礎的能力を養うことができる。

- ②①について、その効果を評価できる。
- ③病棟・外来実習を通して、疾患や障がいをもつ子どもと家族の看護、生活習慣の自立支援、健康教育や家族支援の基礎知識をふまえて、看護実践を行う基礎的能力を養うことができる。
- ④③について、その効果を評価できる。
- ⑤臨地実習を通して、対象者やチームメンバーとの効果的なコミュニケーション能力を向上させる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎三上 智子・松浦 和代

■**実習内容**：

実習は、3か所（保育園、病棟、外来）で行う。

実習施設

保育園実習：公立保育園・子育て支援センター

病棟・外来実習：市立札幌病院・KKR札幌医療センター・天使病院・札幌医科大学附属病院

実習方法：下記の図に示すようなローテーションで実習を行う。

	第1週目					第2週目				
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
A-1グループ 10数名	保育園 2~3人/施設			市立・外来 KKR・外来 天使・外来 札医・外来		市立・病棟 KKR・病棟 天使・病棟 札医・病棟				
A-2グループ 10数名	市立・病棟 KKR・病棟 天使・病棟 札医・病棟					保育園 2~3人/施設			市立・外来 KKR・外来 天使・外来 札医・外来	

実習内容：要項参照

■**教科書**：なし

■**参考文献**：小児看護学概論、小児看護援助論、小児看護技術論で使用した教科書および配布資料

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標					評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④	到達目標⑤		
実習内容	◎	○	◎	○	◎	効果的なコミュニケーション能力、アセスメント能力、看護実践能力、安全への配慮	50
実習記録物	○	◎	○	◎	○	実習での学び、子どもの理解、アセスメントから実践・評価までの記述内容	30
実習態度	○	○	○	○	○	責任ある行動、主体的な学習姿勢	20
出席						2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：小児看護学概論、小児看護援助論、小児看護技術論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：保育園・病棟・外来、それぞれの社会の中で、一人一人の子どもとその家族が生きている姿を感じとってください。子どもの目線の高さに大人のあなたが合わせ、遊び心をもって関わりましょう。子どもたちや子どもと接する大人（看護師・保育士）から多くのことを学ぶことを期待します。

実習時期は冬季であり、子どもたちと接するにはエネルギーが必要です。うがいと衛生的な手洗いをし、しっかりと体調管理しながら実習に臨んでください。

# 母性看護技術論

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：妊娠・分娩・産褥期にある母子（含、胎児および家族）にとって必要な援助技術について、看護過程を展開しながら、学生が主体的に学修する。

■**到達目標**：①母性看護に必要な基本的技術が、原理と根拠を明確にして実施できる。  
②事例演習を通して、褥婦および新生児（含、家族）に必要な看護過程が展開できる。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎石引 かずみ・山本 真由美

■**授業計画・内容**：

- 第1回 コースオリエンテーション・母性看護に必要な看護技術のデモンストレーション
- 第2回～3回 妊娠期の看護技術（妊婦健康診査：レオポルド触診法、子宮底・腹囲の測定など）
- 第4回 分娩期の看護技術（産痛緩和法、緊急時の対応など）
- 第5回～7回 産褥期の看護技術（子宮復古の観察・促進の援助、乳房の観察など）  
看護過程（産褥期）の展開
- 第8回～13回 新生児期の看護技術①（育児技術：沐浴、臍処置、衣類の交換など）  
新生児期の看護技術②（健康診査：バイタルサインの測定、フィジカルアセスメントなど）  
看護過程（新生児期）の展開
- 第14回～15回 看護過程フィードバック、既習技術の復習・まとめ

\*順序は変更の可能性があります。

\*技術演習は、基本的に2講連続でグループにわかれて行います。

■**事前・事後学習**：

事前学習：第1回コースオリエンテーション時に詳細な演習日程表を配布します。演習項目はグループ毎に異なるため、次回の演習項目を確認し、配布資料および教科書の該当ページを読んで、疑問点を明らかにしてから授業に参加すること。また、母性看護援助論で配布した資料の関連ページを復習しておくこと。

事後学習：講義最終日の翌々週から実習開始となります。授業で学んだ技術は対象者に実際に提供します。各自、技術の確実な修得に向けて復習しておくこと。

■**教科書**：有森直子編「母性看護学Ⅱ 周産期各論」（医歯薬出版、2015）  
配布資料を適時配布する

■**参考文献**：森恵美他「系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論 [2]」（医学書院、2016）  
平澤美恵子他「写真でわかる母性看護技術」（インターメディカ、2017）  
横尾京子他「ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護技術」（メディカ出版、2016）  
櫛引美代子「カラー写真で学ぶ周産期の看護技術 第2版」（医歯薬出版、2007）  
// 「カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術 第2版」（医歯薬出版、2017）  
太田操「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程第3版」（医歯薬出版、2017）  
佐正勝他「ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図第3版」（医学書院、2016）

■**成績評価基準と方法**：

- ・授業への参加状況および定期試験・提出物による総合評価。
- ・単位修得には総合評価60点以上が必要となる。なお、出席時間が授業時間の2/3に満たない場合、成績評価の対象とはならない。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験	◎			70
看護過程		◎	内容の適切性・提出期限の厳守	30
授業態度	◎	○	積極的な姿勢・演習の態度	減点
出席	◎	○	2/3以上の出席 欠席した場合は、減点とする	減点

◎：より重視する ○：重視する

■**関連科目**：母性看護学概論 母性看護援助論 母性看護学臨床実習 小児看護援助論 小児看護技術論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：関連科目で学修した内容を復習し、技術に必要な基礎知識を事前に確認した上で授業に臨んでください。主体的かつ積極的な態度で学修に臨むことを期待しています。



# 母性看護学臨地実習

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：実習

単位：2単位

講義時間：90時間

■**科目のねらい**：母性看護の対象特性を理解し、看護に必要な基本的知識・技術・態度を養う。

■**到達目標**：①妊娠・分娩・産褥期にある母子（含、胎児および家族）の特性が理解できる。

- ②看護過程が理解できる。
- ③安全と人権に配慮した看護が実践できる。
- ④医療従事者に必要な連携・協働が実践・考察できる。
- ⑤母子および家族の看護を通し、生命の誕生について考察できる。
- ⑥看護学生としての自覚を持って学修を進めることができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎山本 真由美・渡邊 由加利・石引 かずみ・大友 舞

■**授業計画・内容**：

- 1) 実習施設：市立札幌病院・天使病院・JCHO北海道病院・札幌医科大学附属病院
- 2) 実習期間：平成30年11月19日～平成30年12月14日  
平成31年1月21日～平成31年2月1日  
この期間に上記いずれかの施設にて、2週間の実習を行う。
- 3) 実習内容：オリエンテーション、外来実習、病棟実習、NICU実習、学内実習、カンファレンス、実習報告会  
詳細は、別途配布する「母性看護学臨地実習要項」を参照のこと。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：有森直子編：「母性看護学I 概論」，（医歯薬出版，2015）

有森直子編：「母性看護学II 周産期各論」，（医歯薬出版，2015）

森恵美他：「系統看護学講座専門分野II 母性看護学概論 母性看護学〔1〕」，（医学書院，2016）

森恵美他：「系統看護学講座専門分野II 母性看護学各論 母性看護学〔2〕」，（医学書院，2016）

平澤美恵子他：「写真でわかる母性看護技術アドバンス」，（インターメディカ，2017）

横尾京子他編：「ナーシンググラフィカ 母性看護学① 母性看護実践の基本（第4版）」，（メディカ出版，2015）

太田操編：「ウエルネス看護診断にもとづく看護過程（第3版）」，（医歯薬出版，2017）

大平光子他編：「母性看護学II：マタニティサイクル」，（南江堂，2012）

佐瀬正勝他編：「ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図（第3版）」，（医学書院，2016）

■**成績評価基準と方法**：

- ・実習内容および実習記録による総合評価。
- ・単位修得には総合評価60点以上が必要となる。なお、出席時間が授業時間の2/3に満たない場合、成績評価の対象とはならない。

評価方法	到達目標						評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③	④	⑤	⑥		
実習	◎	◎	◎	◎	◎	◎	実習内容、実習態度、実習記録を基に評価する	100%
出席						◎	2/3以上の出席 欠席した場合は、減点とする	

◎：より重視する ○：重視する

■**関連科目**：人間発達援助論 母性看護学概論 母性看護援助論 母性看護技術論 小児看護援助論 小児看護技術論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：本科目は、学内での学修を統合する重要な位置づけです。実習では周産期に焦点を当てて学修します。実習前に既習の知識・技術を十分復習し、準備を整えて臨んでください。特に、看護過程の展開を振り返り、再確認をしてください。また、実習時期は冬季のため、体調管理に十分留意してください。

# 老年看護技術論

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：高齢者の状態を総合的に評価する方法を学び、高齢者の看護に必要な知識と技術を修得することをねらいとする。これらについて主体的に追求し、効果的な老年看護の実践を展開する姿勢と能力を養う。

- 到達目標**：①高齢者を客観的に理解するための総合機能評価を説明できる。  
②高齢者とのコミュニケーションの基本的な技術を理解し実践できる。  
③生活機能障害を有する高齢者への看護技術の根拠がわかり実践できる。  
④高齢者と家族が望む人生の最終段階のケアについて考察できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎原井 美佳・村松 真澄

■**授業計画・内容**：

コースオリエンテーション、高齢者の総合機能評価

高齢者の急変に対応できる看護技術

高齢者の生活の質を高める清潔・整容保持

高齢者の生活の質を高める移動・活動

高齢者の生活の質を高める口腔保健（1）

高齢者の生活の質を高める口腔保健（2）

高齢者の気持ちをくむコミュニケーション（1）

高齢者の気持ちをくむコミュニケーション（2）

高齢者の生活の質を高める食支援（1）

高齢者の生活の質を高める食支援（2）

高齢者の生活の質を高める排泄自立

グループワークプロジェクト

（高齢者と家族が望む人生の最終段階のケア、高齢者の生活を生き活きさせるアクティビティ支援）

高齢者と家族が望む人生の最終段階のケア（1）

高齢者と家族が望む人生の最終段階のケア（2）

高齢者の生活を生き活きさせるアクティビティ支援

■**事前・事後学習**：オリエンテーション、ガイダンス資料において適宜指示する。

■**教科書**：真田弘美、正木治恵 編集：看護学テキストシリーズNICE、老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する。東京、南江堂、2016  
新版 認知症の人びとの看護 3版 中島紀恵子著、編集 医歯薬出版

■**参考文献**：適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**：定期試験70%、課題レポート30%

評価方法	評価基準	評価割合 (%)
定期試験	問題の60%を正解していること	70
レポート	内容の適切性 (提出期限の超過は不可)	30
授業態度	講義・演習の取り組み	評価の参考
出席	2/3以上の出席	定期試験の 受験資格

■**関連科目**：老年看護学概論、老年看護援助論、老年看護学臨地実習I、基礎看護技術論、症状マネジメント論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：老年看護学臨地実習IIIにおいて、本科目での学びを実践できるようにグループワークと演習を通して到達目標を目指してください。

# 老年看護学臨地実習Ⅱ

必修 開講年次：3年次後期 科目区分：実習 単 位：2単位 講義時間：90時間

■**科目のねらい**：老年期にある対象を、人生の最終段階まで地域で暮らすことを支えるために加齢や疾病とそれに影響される生活障害をも含め、統合的にアセスメントができる。その上で対象の自立・自律を尊重したQOLの向上のための支援ができる基礎的能力を養う。

- 到達目標**：
1. 老年期にある対象を身体的、精神的、社会的、発達の側面から統合的に説明ができる。
  2. 老年期にある対象の健康課題をアセスメントし、看護上の課題（強み）を抽出し、ウェルネス思考で看護計画が立案できる。
  3. 老年期にある対象の状態にあった援助方法を実施し、評価することができる。
  4. 老年期にある対象と援助的人間関係を形成することができる。
  5. 老年期にある対象の人権を擁護し、人生と人格を尊重した態度を表出できる。
  6. 保健・医療・福祉チームの一員としての看護職の役割を説明でき、学生としての立場で役割を果たすことができる。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎村松 真澄・原井 美佳・中田 亜由美

■**授業計画・内容**：

実習施設：医療法人溪仁会 札幌西円山病院  
医療法人溪仁会 札幌溪仁会リハビリテーション病院  
社会福祉法人愛全会 サン・グレイス  
詳しくは実習要項を参照のこと

■**教科書**：奥野茂代 編著 老年看護学概論と看護の実践 第5版 東京 ヌーベルヒロカワ 2013  
真田弘美、正木治恵 編集：看護学テキストシリーズNiCE、老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する。東京、南江堂、2016  
新版 認知症の人々の看護 3版 中島紀恵子 著、編集 医歯薬出版

■**参考文献**：適宜紹介する

■**成績評価基準と方法**：出席日数、実習内容、実習記録などから実習目標の達成度を総合的に評価する  
実習内容及び倫理・学修姿勢（80%）、レポート（20%）、で評価する。

評価方法	評価目標	評価基準	評価割合 (%)
	到達目標1～10		
実習	◎	到達目標達成度 主体的な姿勢	80
レポート	◎	内容の適切性	20
出席		2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：これまでの学習を統合する重要な実習です。寒い季節で感染症も流行する時期なので体調管理を実施してください。学生であることを理解して臨床指導者と報告・連絡・相談を密にしてください。対象や場に応じた挨拶や言葉遣い、実習にふさわしい身だしなみ、自己の健康管理にも注意して実習に取り組んでください。対象者も学生自身にも事故がないように気をつけてください。

# 透析ケア

選 択

開講年次：3年次後期

科目区分：講 義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：人体組織における腎臓の機能を復習し、慢性腎臓病（CKD）の病態、及び生活習慣病との関連性を理解する。慢性疾患に共通する自己管理の知識・技術に基づいて、透析療法とそれに伴う合併症の自己管理を支援する患者教育方法を理解する。慢性腎臓病をもつ人ならびに慢性透析者がその人らしい生活を送られるよう支援するための心理社会的アセスメントと援助方法について理解する。

■**到達目標**：①腎機能、慢性腎臓病の病態、透析療法の原理、働きについて理解する。  
②慢性腎臓病の自己管理を支援する患者教育の知識と技術を学ぶ。  
③透析療法と自己管理が透析者とその家族の生活・人生に与える影響について理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎藤井 瑞恵・木村 剛

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 慢性腎不全（CRF）から慢性腎臓病（CKD）へ、腎代替療法（血液透析・腹膜透析・腎移植）
- 第 2 回 透析療法と合併症、患者教育の原理原則、個別性を尊重した段階的教育
- 第 3 回 腎臓移植療法と看護
- 第 4 回 透析導入期・維持期の自己管理支援／食事指導、シャント管理、高齢者への指導、感染対策、災害時の対応他
- 第 5 回 長期透析合併症のケア／合併症の予防、下肢病変予防のフットケア、社会資源の活用他
- 第 6 回 腹膜透析者のケア／透析液バッグ交換、カテーテル出口部ケア、療法選択の支援
- 第 7 回 腎代替療法と共に生きる（北海道腎臓病患者連絡協議会の活動、体験談）
- 第 8 回 透析患者への心理社会的援助：まとめ

■**事前・事後学習**：事前学習としては疾病治療概論の「7. 腎疾患」を復習したうえで授業に臨む。事後学習は、毎回配布する資料や講義中に提示される参考文献に目を通すこと。

■**教科書**：『臨床病態学』第2巻（ヌーヴェルヒロカワ）（2年次開講科目「疾病治療学概論」等で使用したもの）

■**参考文献**：『CKD診療ガイド2012』（東京医学社）

『腎不全看護』（医学書院）

『透析療法の理解とケア』（学研）

『第8版 腎臓病食品交換表 治療食の基準』（医歯薬出版株式会社）

『NEW慢性腎不全患者のセルフケアガイド—保存期・透析期・移植期』（学習研究社）

『写真でわかる透析看護—透析患者のQOL向上を目指すケア』（インターメディカ）

『透析患者のこころを受けとめる・支える サイコネフロジーの臨床』（春木繁一）

『やさしいサイコネフロジー入門—透析・腎移植患者の精神・心理的問題とその対応のコツ』（東京医学社）

『慢性疾患の病みの軌跡 コービンとストラウスによる看護モデル』（医学書院）

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	授業内容の理解	80
小レポート	○	○	◎	レポートテーマの理解	20
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：形態機能学I・II、病理病態学、疾病治療学概論、疾病治療学A・B、臨床栄養学、看護過程論、症状マネージメント論、成人看護学概論、成人看護技術論、がん看護学、リハビリテーション看護学、重症集中ケア、救急看護学、パリアティブケア

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：医療技術の進歩により透析療法は安全で有効な治療法として普及し、慢性透析者の生存率も飛躍的に向上した。その一方で、慢性透析者にとって人工腎臓による非生理的な排泄やテクノロジーに依存した生活は、身体のみならず心理社会的な苦痛を伴う。看護師は、こうした課題に直面する慢性透析者とその家族がその人らしい満足のある生活・人生を送られるよう支援することが期待されている。さらには、透析人口の増大と高齢化に伴い、透析看護に対する質の向上、専門性も求められている。本講では、第3回までの講義で慢性腎臓病の病態と透析療法の知識を習得した上で、第3回目からは、透析療法を受ける透析者とその家族に対するケアの実際について学ぶ。また、現場看護師から透析者とその家族への思い、やりがいについても伝えていきたい。第6回目は、在宅医療の一形態である腹膜透析療法の支援方法と、血液／腹膜透析者とその家族の心理社会的課題に焦点をあてた看護援助方法について学ぶ。第7回目は透析者の生活体験の語りを聴く。

# 重症集中ケア

選 択

開講年次：3 年次後期

科目区分：講 義

単 位：1 単位

講義時間：15 時間

■**科目のねらい**：重症集中ケアを必要とする患者の身体的、心理的、社会的側面を理解し、患者とその家族に適切な看護援助をするために、集中治療看護の概念、沿革、集中治療を受ける患者にみられる特徴的な病態とその治療・ケアの方法について学ぶ。

- 到達目標**：①集中治療と看護の歴史の変遷、特徴、役割を理解する。  
②重症集中ケアが必要な患者の身体的・心理的・社会的特徴および家族の特徴を理解する。  
③集中治療を必要とする患者の病態と患者・家族への看護援助方法を理解する。  
④集中治療領域における倫理的課題について考察する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎卯野木 健・菅原 美樹・高橋 正浩

■**授業計画・内容**：

第 1 回 重症集中ケア概論

集中治療と看護の歴史の変遷／集中治療が必要な患者・家族の特徴／重症集中ケアの特徴と役割

第 2 回 重症集中ケアに必要な基本的看護技術

第 3 回 脳神経障害に対する集中治療と看護ケア

第 4 回 急性呼吸障害に対する集中治療と看護ケア

第 5 回 循環障害に対する集中治療と看護ケア

第 6 回 集中治療中の患者のリハビリテーション

第 7 回 集中治療領域における倫理的課題

第 8 回 まとめ 課題学習

■**事前・事後学習**：毎回授業のテーマが変わるので、予定されている授業内容をシラバスで確認し、予め配布される資料に目を通して出席してください。受講後は、配布資料の復習、参考図書、ウェブメディアなどを参照しながら、授業内容について理解を深めることが求められます。予習・復習時間としてそれぞれ、1時間程度が必要です。

■**教科書**：教科書は使用せず、毎回資料を配布します。

■**参考文献**：『クリティカルケア看護論』／池松裕子編集（ヌーヴェルヒロカワ）

『クリティカルケア看護Ⅰ』／池松裕子編著（メヂカルフレンド社）

『クリティカルケア看護Ⅱ』／池松裕子編著（メヂカルフレンド社）

『クリティカルケア看護 理論と臨床への応用』／寺町優子他編集（日本看護協会出版会）

■**成績評価基準と方法**：定期試験80%、課題20%

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
定期試験	◎	◎	◎	○	60%以上正解していること	80
課題				◎	課題の提出と内容の適切性	20
出席					2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：症状マネジメント論、救急看護学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：入院日数の短縮化や医療技術の高度化・進歩によって、集中治療を必要とする患者は集中治療室以外の様々な場所で治療を受ける機会が多くなっています。こうした現状を踏まえ、集中治療を受ける患者・家族の看護に必要な基礎知識を提供します。講義では急性・重症患者看護専門看護師をゲストスピーカーに迎え、臨床現場のリアリティのある看護を学べます。

# 救急看護学

選 択

開講年次：3 年次後期

科目区分：講 義

単 位：1 単位

講義時間：15 時間

■**科目のねらい**：救急医療と看護の特徴を理解し、救急患者と家族に適切な看護を提供するために、救急病態を理解し、必要な処置・治療に関する知識を習得する。

- 到達目標**：①救急医療・救急看護の特徴と役割、現状について理解する。  
②救急患者にみる多彩な病態と治療および看護について理解する。  
③生命危機状況にある患者・家族の心理状態と心のケアの必要性を理解する。  
④脳死と臓器提供について理解し、救急看護師の役割を考察する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎菅原 美樹・卯野木 健・三上 剛人

■**授業計画・内容**：

第 1 回 救急看護学概論

わが国の救急医療制度、札幌市の救急医療体制、救急患者の特徴、救急看護の特徴と役割

第 2 回 プレホスピタルケアと実際

プレホスピタルケアとは、プレホスピタルケアの実際、札幌市のプレホスピタルケアの現状、救急看護師との協働

第 3 回 救急看護に必要な基本的看護技術

二次救命処置（ACLS）、包帯法

第 4 回 救急病態と看護ケア①

急性呼吸不全、熱傷の病態理解と治療および看護ケア

第 5 回 救急病態と看護ケア②

外傷、中毒の病態理解と治療および看護ケア

第 6 回 救急患者の家族の心のケア

救急患者・家族の心理的特徴、救急患者と家族のニーズの把握と心のケア

第 7 回 脳死下における臓器提供の現状と倫理的課題

日本における脳死と臓器移植の現状、脳死と臓器提供における救急看護師の役割

第 8 回 まとめ 課題学習

■**事前・事後学習**：毎回授業のテーマが変わるので、予定されている授業内容をシラバスで確認し、予め配布される資料に目を通して出席してください。受講後は、配布資料の復習、参考図書、ウェブメディアなどを参照しながら、授業内容について理解を深めることが求められます。予習・復習時間としてそれぞれ、1時間程度が必要です。

■**教科書**：教科書は使用せず、毎回資料を配布します。

■**参考文献**：『救急看護学』／山勢博彰・山勢善江・菅原美樹編（医学書院）

『看護のための最新医学講座第25巻救急[第2版]』／日野原重明他監修（中山書店）

『救急ケア』／中村恵子監修（学習研究社）

『ACLSプロバイダマニュアル』／American Heart Association（中山書店）

■**成績評価基準と方法**：定期試験80%、課題20%

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
定期試験	◎	◎	◎	○	60%以上正解していること	80
課題				◎	課題の提出と内容の適切性	20
出席					2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：症状マネジメント論、重症集中ケア

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：人間の命を救うという意味において、救急看護は看護の原点です。救急医療の第一線で活躍している講師陣の講義から、わが国の救急医療と看護について学びを深めましょう。

# 放射線医療管理論

選 択

開講年次：3年次後期

科目区分：講 義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：医療を含め、さまざまな領域で利用されている放射線の物理学的性質、生物学的作用に関する基礎的知識を理解する。また、医療の分野を中心とした放射線利用、防護・障害防止の考え方について学ぶ。

■**到達目標**：1895年レントゲン博士によるX線の発見以降、120年が経過し、医療領域における放射線診断、治療は、重要な役割を果たしている。

放射線概論では、X線発見以降の進歩発展について、歴史的経過を背景として学修する。同時に、医療者として必要な放射線防御の詳細についても学修する。

放射線診断各論では、CT、核医学検査など、放射線診断学の詳細を学修する。

放射線治療各論では、放射線治療の現状を説明するとともに、主な疾患に対する標準的治療方法、治療結果、有害事象を学修する。

癌治療として、担癌患者さんとどのように向き合い、接していきながら、治療を進めていくかについても考え、理解を深めていく。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎池田 光・神島 保

■**授業計画・内容**：

第1回 放射線概論

第2回 放射線診断概論

第3回 放射線診断各論 1

第4回 放射線診断各論 2

第5回 放射線治療概論

第6回 放射線治療各論 1

第7回 放射線治療各論 2

第8回 まとめ

■**事前・事後学習**：あらかじめシラバスを確認すること。授業後は配布資料などを復習し、理解を深めること。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：レポートにより評価する

評価方法	到達目標	評価基準	評価割合 (%)
レポート	◎		100
出席		2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

# 公衆衛生看護援助論I

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：公衆衛生看護活動において、看護師および保健師が用いる特徴的な援助方法の基盤となる理論、知識および技法について学ぶ。特に、個人・家族のセルフケア能力を高める援助方法、特定の集団の特徴的な問題を解決するための援助方法について理解を深める。また、地域における看護職の機能と役割を理解し、地域ニーズに対応した保健活動の展開と実践方法について学ぶ。

■**到達目標**：①公衆衛生看護活動（行政、産業、学校）の目的、目標、役割、機能を説明することができる。  
②公衆衛生看護の対象となる地域の人々の特性を理解し、セルフケア能力を高めるための効果的な援助（健康相談、健康診査、家庭訪問、地域組織活動）を説明することができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎櫻井 繭子・本田 光・近藤 圭子・田仲 里江

■**授業計画・内容**：

第1回	保健指導とその方法：保健指導、健康相談・健康診査・家庭訪問・地区組織活動 地域看護活動における家族
第2回	成人保健活動
第3～4回	母子保健活動
第5回	高齢者保健活動
第6回	難病保健活動、障害者保健活動
第7回	健康危機管理（災害・感染症保健活動）
第8回	精神保健活動
第9回	産業保健活動
第10～12回	産業保健活動（健康相談演習）
第13回	産業保健活動（ゲストスピーカー）
第14回	学校保健活動
第15回	学校保健活動（ゲストスピーカー）

■**事前・事後学習**：授業のテーマは毎回異なるので第1回目に配布される授業予定表を確認し、授業内容に関連する「国民衛生の動向」の内容把握に努めて臨む。受講後は配布資料などを復習しながら授業内容の理解を深める。

■**教科書**：準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動／（医学書院）  
国民衛生の動向／（厚生労働統計協会）

■**参考文献**：準保健師講座2 公衆衛生看護技術／（医学書院）  
保健師業務要覧／日本看護協会監修（日本看護協会出版社）  
家族看護学 理論と実践 第3版／鈴木和子他（日本看護協会出版社）  
産業看護学／河野啓子（日本看護協会出版社）  
学校保健マニュアル／衛藤隆他（南山堂）

■**成績評価基準と方法**：定期試験60%、提出物30%、授業態度10%

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	目標①	目標②		
定期試験	◎	◎	到達目標の達成度	60
提出物	○	○	提出物を提出していること	30
授業態度	○	○	授業、演習への積極的な取り組み	10
出席			2/3以上の出席	欠格要件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護援助論Ⅱ、公衆衛生学、保健医療福祉行政論Ⅰ・Ⅱ、疫学Ⅰ、公衆衛生看護技術論、ヘルスプロモーション活動論、公衆衛生看護学臨地実習Ⅰ・Ⅱ

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：看護師および保健師に必要な個人・家族・集団・地域全体の健康増進を目的とした活動の展開方法を学びます。日常生活を基盤に包括的、予防的視点をもって学修に臨んでください。



# 公衆衛生看護援助論Ⅱ

保健師コース必修

開講年次：3年次後期

科目区分：演習単

位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：地域に暮らす人々の健康の維持増進及び健康な地域づくりのために行う保健師の役割や機能について学ぶ。とくに地域の人々の生活や健康状態を統計資料やその他の関連資料から把握し、地域の健康課題を抽出する方法を学ぶ。さらに健康課題の解決・達成のために行われる各種の保健事業について理解を深める。

■**到達目標**：①地域アセスメントの目的、意義、方法について説明できる。  
②対象地域の基本構造と健康状態を把握し、健康課題を明らかにする。  
③健康課題の解決・達成のために行われている保健事業について理解を深める。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎本田 光・櫻井 繭子・近藤 圭子・田仲 里江

■**授業計画・内容**：

第1回 講義：地域アセスメントの基礎I「地域アセスメントの目的・意義」  
第2回 講義：地域アセスメントの基礎II「地域の概要・地域の基本構造」  
第3回 講義：地域アセスメントの基礎III「地域全体の健康状態の把握」  
地域アセスメントの基礎IV「健康課題の抽出」  
第4回 講義：地域アセスメントの基礎V「健康課題と保健事業（既存事業の理解）」  
第5～8回 演習：地域の概要・地域の基本構造  
第9～11回 演習：地域全体の健康状態の把握  
第12～14回 演習：健康課題と保健事業  
第15回 まとめ

■**事前・事後学習**：第1回目の授業で配布する授業計画に、各単元に該当するテキストの頁を記載します。学生は、指定されたテキストの頁を予め通読してから講義を受講してください。演習では、授業で配布する資料およびテキストの内容を復習しながら課題に取り組むことが求められます。また、授業時間外の個人およびグループ作業が求められます。

■**教科書**：地域看護アセスメントガイド／佐伯和子他（医歯薬出版株式会社）  
公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術（医歯薬出版株式会社）  
国民衛生の動向2018/2019（厚生労働統計協会）

■**参考文献**：授業で都度、紹介する。

■**成績評価基準と方法**：レポート40%、Gへの貢献・発表30%、課題の提出30%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③		
GWへの貢献	○	◎	◎	グループワークへの貢献	20
演習課題の提出	○	◎	◎	教員の指導を受けて修正し、演習要項に記載されている条件を満たして作成、提出できていること	30
プレゼンテーション	○	○	○	セミナープレゼン、資料の完成度	10
最終レポート	◎	○	○	論旨の構成と理解の程度	40
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：公衆衛生看護学概論、保健統計、疫学I・II、公衆衛生看護援助論I、ヘルスプロモーション活動論、公衆衛生看護学臨地実習I・II、保健医療福祉行政論I・II

■**課題の提出等**：・地域アセスメントに関する課題を課します。  
次年度の「ヘルスプロモーション活動論」「公衆衛生看護学臨地実習I・II」と関連づけて、実習地域の地域アセスメントを課題とします。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：保健師の基本的な技術の一つである地域アセスメントを学びます。講義・演習を通して、地域を看護する保健師の役割や機能について考察を深めてください。

# 看護教育学

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：看護教育学の理念・基本概念の理解を基本として、わが国における看護教育制度、看護学教育におけるカリキュラムのプロセス、教授＝学習過程、教育評価などの看護教育の展開の過程について学習することを通し、看護職養成教育の現状と今後の課題について考察する。また、これらの学習を通して、大学において看護学を学ぶ意義と課題を確認する。

■**到達目標**：①看護教育学の理念・基本概念を理解し、看護基礎教育課程において看護教育学を学習する意義を明らかにする。  
②看護教育制度の特徴と課題を理解し、看護学教育の高等教育化の必要性を明らかにする。  
③看護教育カリキュラム編成・授業計画の立案・教育評価の基本を理解し、自己評価の必要性を確認すると共に看護学の学習を進める上での個々の課題を明らかにする。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎定廣 和香子・武富 貴久子

■**授業計画・内容**：

第1回 ガイダンス・看護教育学と看護学教育

第2・3回 看護教育制度

第4・5回 看護教育カリキュラム

第6・7回 授業計画の立案と教育評価

第8回 統合（試験オリエンテーション）

■**事前・事後学習**：授業後に再度該当ページを読み、授業目標に対する自分の理解を明らかにしておくこと、目標達成度が高まります。

■**教科書**：杉森みどり・舟島なをみ：看護教育学第6版、医学書院、2016

■**参考文献**：授業時に紹介する。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	60点以上	100
出席				3分の2以上の出席	試験受験資格

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：看護教育学は、学生の皆様を含む看護職者の発達の支援を通して、看護の対象に質の高い看護を提供することを目指す学問です。また、その研究対象は、看護学教育の各領域に共通して普遍的に存在する要素（学習活動、教育活動、カリキュラム、教育評価、看護学実習etc）です。講義では、様々な看護教育学の研究成果を紹介しながら授業を進めていきます。皆様が、看護学の学習を進める上での課題や問題を解決するヒントを見つけていただければ幸いです。

# 学部連携演習

必修 開講年次：3年次後期 科目区分：演習 単 位：2単位 講義時間：60時間

■**科目のねらい**：看護学部およびデザイン学部学生を対象に、スタートアップ演習、学部連携基礎論と段階を踏みながら学習することで両学部相互の専門性に対する理解を深めてきた。それらをもとに、さらに学生自身の専門性を広げるとともに、異分野の人材と連携する能力を養うことを目的に両学部合同による演習を行う。両学部の学生を少人数グループに編成し、学部連携基礎論により札幌市南区の地域に見出したテーマや課題に対し、相互の学生が共同・協力して課題解決に取り組む。

■**到達目標**：①看護およびデザインの自己の専門性について理解を深める。  
②相互の専門性を尊重し合い、協同して課題に取り組む姿勢を身につける。  
③課題の再評価と焦点化から実施・評価にいたる解決プロセスを習得する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎若林 尚樹・羽深 久夫・柿山 浩一郎・山田 信博・山田 良・大島 卓・金 秀敬・小宮 加容子・松永 康祐・矢久保 空遥  
他  
◎定廣 和香子・川村 三希子・菊地 ひろみ・大野 夏代・貝谷 敏子・菅原 美樹・藤井 瑞恵・本田 光・村松 真澄・  
伊東 健太郎・武富 貴久子

■**授業計画・内容**：

第1回	オリエンテーション	第25回	プレゼンテーション準備・ポスター作成
第2回	レクチャー（目標達成アプローチ）	第26回	プレゼンテーション準備・ポスター作成
第3回	チーム別活動（テーマのディスカッション）	第27回	プレゼンテーション準備・ポスター作成
第4回		第28回	発表準備
第5回～第24回		第29回	全体発表
	担当教員指導のもと、テーマにもとづいたチーム別活動を行います。この活動には視察・調査等、学外でのフィールドワークが含まれます。	第30回	全体発表 個人活動評価票の提出（第2回目）
	また、10月16日の演習終了時に個人活動評価票による中間評価を行ない、学習活動評価表を提出していただきます。		

■**事前・事後学習**：グループワークに際しては、必要な資料、調査を検討し、準備して臨んでください。また、終了後は、学習活動評価票を活用し、目標達成度を確認しながら、自らの課題を明確にしてください。

■**教科書**：授業の進行により随時紹介する。また、適宜参考資料を提供する。

■**参考文献**：授業の進行により随時紹介する。また、適宜参考資料を提供する。

■**成績評価基準と方法**：成績評価は本演習の到達目標に対し、以下の観点から行います。

- ①：専門性の理解
- ②：協調性・積極性・交渉力・コミュニケーション力・課題に取り組む態度
- ③：提案力・企画力・実践力・課題解決過程の理解・成果産出の意義  
出席日数 10% 授業への参加態度と積極性 60% 各担当教員が成績評価を行う。  
成果物30% 全体発表（ポスター発表を含む）は演習担当教員全員が成績評価を行う。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度	○	◎	○	積極性・協調性 明快な説明	60
発表	◎	◎	◎		
課題・作品		◎	◎	明快で説得力があるか	30
出席	○	○	○		欠格条件 10

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：スタートアップ演習、各学部の専門教育科目等

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：学部連携基礎論でデザインと看護による地域の理解と課題の焦点化に取り組んでから1年が経過しました。その後、専門教育を受けて研鑽を積み、今回はそれぞれが専門性を高めた上での連携となります。学部連携演習では、学部連携基礎論を通して見出した地域課題の解決に向けた提案の実現に向け、両学部の専門性を相互に活かし相乗効果が発揮できるよう学生諸君の積極的な取り組みを期待します。また、主体的活動を行う際にも教員の指導のもと、報告・連絡・相談を欠かさないようにして下さい。

# 地域プロジェクトⅢ(発展編)

自由 開講年次：3年次・4年次(通年) 科目区分：演習 単 位：2単位 講義時間：60時間

■**科目のねらい**：地域プロジェクトI・IIを通して獲得した知識・技術を基盤とし、実際に地域の活性化を目指し、教員が関与するプロジェクトにリーダーとして、参画することを通して、様々な条件下において地域課題を解決するための応用展開能力を習得する。

■**到達目標**：①教員の指導下において、地域と連携し、企画する地域プロジェクトをリーダーとして企画・運営・評価する。  
②①の活動を通して、地域の様々な課題解決につながるプロジェクトを立案・実施・評価するために必要な知識、技術、態度を理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎定廣 和香子・大淵 一博

■**授業計画・内容**：

Section 9. 地域プロジェクトを計画する(advance)

1. 地域プロジェクトの計画にリーダーとして参加する。

Section 10. 地域プロジェクトを実践する(advance)

1. 地域プロジェクトの運営にリーダーとして参加する。

Section 11. 地域プロジェクトを評価する(advance)

1. 最終報告会(地域住民向け・学内教員向け)

2. アフターセッション プロジェクトの経年評価と活動の総括

■**事前・事後学習**：関心、興味のあるプロジェクトについて事前に情報収集をして下さい。プロジェクト参加後は、各自で担当した役割や感想をまとめ、プロジェクト実施報告書を提出して下さい。

■**教科書**：特になし

■**参考文献**：適宜参考資料を提供する。

■**成績評価基準と方法**：授業態度(活動の態度や言動・活動計画・記録、報告会にむけての準備)40%、発表20%、課題・作品(Section 9の企画書・報告書・報告内容)40%、出席状況(活動受け入れ教員の実施証明書、報告会の参加状況)から総合的に評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
授業態度	○	○	◎	活動記録や活動受け入れ先の評価	40
発表			◎		20
課題・作品		◎	○	企画書・報告書・報告内容を含む	40
出席	○	○	○	2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：スタートアップ演習、学部連携基礎論、学部連携演習、札幌を学ぶ、ボランティア活動を考える、インターンシップ(デザイン学部)

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：学生は、公開されているプロジェクトの担当教員と面談の上、活動内容を決定し、計画を立案する。毎回、活動記録および活動受け入れ先の実施証明書を提出する。本科目を受講する前提として、地域プロジェクトⅡの単位を取得している必要がある。

# ペリネイタルケア

保健師コース必修  
看護師コース選択

開講年次：4年次前期

科目区分：講義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：周産期にある対象、妊・産・褥婦、胎児、新生児を中心に、低出生体重児や早産児も含めて、その特徴やケアについて学修する。また、家族支援、育児支援、保健センター等の地域の社会資源についても学ぶ。

■**到達目標**：①胎児期の成長発達と母体の健康管理について理解する。  
②周産期にみられる母体の異常や胎児・新生児の異常と看護について理解する。  
③低出生体重児や早産児の特徴と正常な成長発達を促すために必要な援助について理解する。  
④家族支援、育児支援、周産期医療システムおよび母子保健活動について理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎三上 智子・渡邊 由加利・田仲 里江

■**授業計画・内容**：

- 第1回 周産期医療の対象となる人々と周産期医療システム
- 第2回 妊娠経過に伴う胎児の発育と母体の健康管理
- 第3回 分娩・胎児・新生児の異常とケア
- 第4回 低出生体重児・早産児のケア
- 第5回 母子保健活動（地域と病院との連携・ベビーマッサージ）
- 第6回 育児支援（家庭訪問・育児サークル）
- 第7回 家族支援（母乳育児の支援）
- 第8回（0.5時間）周産期に活用できる社会資源

■**事前・事後学習**：授業内容にあわせて事前学習資料を配布します。資料を読んで授業に参加してください。受講後は配布資料・参考図書・新聞等を活用して学習を継続し、授業内容の理解を深めることを期待します。予習・復習時間としてそれぞれ1時間程度が必要です。

■**教科書**：講義時に適宜資料配布

■**参考文献**：新生児学入門 第4版 仁志田博司（医学書院）  
母子保健マニュアル第7版 高野陽ら（南山堂）  
障害を持つ子を産むということ 19人の体験 野辺明子（中央法規）  
赤ちゃんに先天異常が見つかった女性への看護 山中美智子（メディカ出版）  
DOHaDその基礎と臨床 第1版 板橋家頭夫ら（金原出版）

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標 ①	到達目標 ②	到達目標 ③	到達目標 ④		
レポート	◎	◎	◎	◎	周産期の課題を扱っているか レポートの構成と内容	60
授業態度 ミニッツペーパー	○	○	○	○	積極的な姿勢	40
出席					2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：人間発達援助論、母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護技術論、母性看護学臨床実習、小児看護学概論、小児看護援助論、小児看護技術論、小児看護学臨床実習、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護技術論、公衆衛生看護学臨床実習Ⅰ・Ⅱ

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：妊娠から出産後まで、また胎児期から生後1～2か月頃までの限定された時期における医療と看護、地域の母子保健活動、家族支援等について学びます。生命の始まりの時点で、さまざまな医療従事者が周産期にある対象をどのようにサポートしているのかを理解し、一緒に考えていきましょう。

# パリアティブケア

選 択

開講年次：4年次前期

科目区分：講 義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族の身体的・心理社会的・スピリチュアルなニーズを理解し、QOLを維持・向上するための知識と技術を学ぶ。また、エンド・オブ・ライフケアにおける倫理的諸問題を理解し、多職種チームの一員として看護師が果たすべき役割について習得する。

■**到達目標**：①パリアティブケア（緩和ケア）を受ける対象とその家族が直面する身体的・心理社会的、スピリチュアルなニーズを理解できる。  
②パリアティブケア（緩和ケア）を受ける対象者の価値を尊重し、尊厳を守るための看護師の基本的態度とケアを理解できる。  
③パリアティブケア（緩和ケア）の最終目標である、患者・家族のクオリティ・オブ・ライフを維持・向上するための看護師の役割について考えることができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎川村 三希子・小坂 美智代

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 緩和ケアの概念と関連用語の理解／トータルペインの理解と全人的ケアのためのアプローチ
- 第 2 回 ホスピス・緩和ケアの歴史と理念／QOLの概念とQOLを高めるケア
- 第 3 回 エンド・オブ・ライフ・ケアにおける身体症状のマネジメント
- 第 4 回 喪失・悲嘆・死別の概念の理解とケア／援助者自身のケア
- 第 5 回 エンド・オブ・ライフ・ケアで直面する倫理的な課題と看護師の役割  
インフォームド・コンセント／アドバンス・ケア・プランニングと看護師の役割
- 第 6 回 緩和ケア病棟でのケアの実際と多職種チームアプローチ
- 第 7 回 在宅における緩和ケアの実際と看護師の役割
- 第 8 回 臨死期のケアと看護師の役割

■**事前・事後学習**：参考文献を紹介しますので、事前・事後に関心のある文献を読み、緩和ケアにおける看護師の役割について探究してください。

■**教科書**：毎回ハンドアウトを作ります

■**参考文献**：「緩和ケア」／梅田恵 編集（南江堂）  
「悲嘆学入門」／坂口幸弘（昭和堂）  
上記以外にも、講義内で紹介します。

■**成績評価基準と方法**：レポートによる評価 100%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
レポート	◎	◎	◎		100%
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：成人看護学概論、がん看護学、生命倫理、症状マネジメント論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：すべての医療・福祉の基盤であるパリアティブケアについて理解し、医療や福祉の受け手の尊厳を守るケアとは何かという視点を、一緒に考えていきたいと思います。

# 寒冷地医療

選 択

開講年次：4年次前期

科目区分：講 義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：北海道の風土にある人々の生活や心身の状態について理解し、医療の実際を通して寒冷地における未来志向的な健康支援のあり方について考察する。

■**到達目標**：1. 寒冷地医療、プライマリ・ヘルスケアの概念について説明できる  
2. 寒冷地における医療の実際について説明できる  
3. 寒冷地に暮らす人々の健康上の課題について説明できる  
4. 寒冷地に暮らす人々の健康支援について説明できる

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎原井 美佳・前沢 政次

■**授業計画・内容**：

- 第1回 寒冷地医療とプライマリ・ヘルスケアの概念（原井）
- 第2回 北海道の人々の心身の状態、健康上の課題（原井）
- 第3回 寒冷地医療の実際（原井）
- 第4回 寒冷地における未来志向的な健康支援のあり方、フィールドワークの共有（原井）
- 第5回 寒冷地における医師・医療従事者の偏在（前沢）
- 第6回 寒冷地における高医療費の要因、特に医師誘発型医療費（前沢）
- 第7回 寒冷地医療における事例①（前沢）
- 第8回 寒冷地医療における事例②（前沢）

■**事前・事後学習**：各自、北海道内のひとつの市町村をフィールドとして選定し、寒冷地ならではの地域住民の健康課題・健康支援の実際、今後の課題について、可能な範囲で調査し発表資料を作成する。（フィールドワーク）

■**教科書**：なし

■**参考文献**：坂倉恵美子 他. 積雪寒冷地における高齢者の居場所づくり、ワールドプランニング、2014  
須田力. 積雪の生活と身体活動、北海道大学出版会、2006

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	評価基準	配点
フィールドワークの資料	1. フィールド選定の背景 2. 人々の健康課題の実際 3. 人々への健康支援の実際 4. 今後の課題 1～4に適合した内容と発展性	各10点 合計40点
最終レポート	到達目標1～4に適合した内容と発展性	各15点 合計60点
出席	2/3以上の出席	欠格条件

■**関連科目**：全ての専門科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：看護職として寒冷地における医療を担う際のバックボーンとなるように、共に考察を深めます。

# 公衆衛生看護技術論

保健師コース必修 開講年次：4年次前期 科目区分：演習 単 位：1単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：本科目では、公衆衛生看護の基本的な概念と地域における看護職の機能と役割を理解し、地域で生活する個人や家族、対象集団の健康課題をもつ事例について看護過程を展開する。さらに、公衆衛生看護活動を実践する際に必要な基本的知識と技術を習得する。具体的には、対象とする健康課題に対して効果的な看護を展開するための技術を身につけるために、授業外課題に取り組みながらグループ演習を中心に進められる。

本科目で身につける技術は、公衆衛生看護活動を実践していく上で基礎となるものである。特に実習で必要とする技術の習得に重点をおいている。

- 到達目標**：①個人・家族の発達課題を踏まえた健康課題を説明できる。  
②対象者が課題解決に取り組み、実践するための支援計画を立案できる。  
③公衆衛生看護の実践に必要な家庭訪問について、基本的な技術を習得できる。  
④公衆衛生看護の実践に必要な乳幼児健診について、基本的な技術を習得できる。  
⑤ロールプレイの実施を通して、自己を振り返り、今後の課題を分析できる。  
⑥グループワークにおいて根拠に基づいて積極的に発言できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎近藤 圭子・櫻井 繭子・田仲 里江

■**授業計画・内容**：

- 第1回 コースガイダンス／家庭訪問 講義（新生児・高齢者）  
第2～6回 家庭訪問アセスメントと訪問計画立案、ロールプレイ（新生児・高齢者家庭訪問）  
第7回 乳幼児健康診査 講義  
第8～12回 乳幼児健康診査 グループワークによる演習とロールプレイ（4ヶ月児、3歳児健診）  
第13～14回 事例検討会（講義・グループワーク）  
第15回 まとめ

\*単元の順序は、一部変更する可能性がある。

■**事前・事後学習**：

予習について：授業終了時に、次回までに行う事前学習内容を指示します。

復習について：個人作業、グループワークで行ったアセスメント、ロールプレイについて、学習の理解が深まるよう、各自振り返りを行ってまいります。

■**教科書**：「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」 医学書院

■**参考文献**：「最新保健学講座3、4、5、別巻1」メヂカルフレンド社  
「公衆衛生看護学.jp」インターメディカル社  
「公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術」医歯薬出版

■**成績評価基準と方法**：定期試験、提出物および授業・演習への参加態度を総合的に評価する。評価基準は下記参照。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①～④	到達目標⑤⑥		
グループワーク後の振り返りシート	◎	◎	積極的に講義・演習へ参加し、グループメンバーと協働できること。 欠席回数に応じ減点する。	10
グループワークのメンバー相互評価	◎	◎		10
プレゼンテーション	◎	◎	聴衆に伝わり、わかりやすいこと。	30
定期試験	◎		授業内容を理解していること。	40
提出物	◎	○	記述内容の適切性。 提出期限が守られていること。	10
出席			2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論I、公衆衛生看護援助論I、公衆衛生看護援助論II、健康教育指導法、公衆衛生看護学臨地実習I・II

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：本科目は、公衆衛生看護学臨地実習での実践に繋がる科目です。各演習では、健康教育指導法や公衆衛生看護援助論I・IIで学んだ知識を基盤にしてアセスメントし、具体的な支援計画を立案していきます。積極的な参加とともにグループメンバーとの良い協働を期待します。習得しなければならない技術項目が多いため、授業外課題の学習も不可欠であり、積極的に学んで本科目に臨んでほしいと思います。



# ヘルスプロモーション活動論

保健師コース必修  
看護師コース選択

開講年次：4年次前期

科目区分：演習

単 位：1単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：ヘルスプロモーションの目的とその経緯、関連する諸理論を理解する。また看護の各専門領域におけるケアの知識と技術を地域包括ケアの概念のもとで再整理し、様々な健康レベル、ライフステージにある個人や集団に対し、地域で看護する方法について考察する。

■**到達目標**：①ヘルスプロモーションの目的、経緯、関連する諸理論について説明できる。  
②地域包括ケアの概念について、具体例を挙げて説明できる。  
③地域で看護するために看護の各領域の知識や技術がどのように活用できるか考察できる。  
④看護師コース：退院に向けての生活支援、関係機関との連携について考察し、説明できる。  
⑤保健師コース：地域の健康課題を抽出し、施策・事業との関連について説明できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎本田 光・小田 和美・菊地 ひろみ・守村 洋・渡邊 由加利・櫻井 繭子・近藤 圭子・田仲 里江

■**授業計画・内容**：

第1回 ヘルスプロモーションの概念  
第2回 成人のヘルスプロモーション  
第3回 親と子のヘルスプロモーション  
第4回 在宅療養者のヘルスプロモーション  
第5回 メンタルヘルスプロモーション  
第6回 地域包括ケアの概念  
第7～11回 コース別演習  
・看護師コース：退院支援  
・保健師コース：地域看護アセスメント  
第12回 看護師コースプレゼンテーション：退院に向けての生活支援  
第13-14回 保健師コースプレゼンテーション：地域の健康課題と施策・事業との関連  
第15回 地域を知る方法：地区踏査とエスノグラフィー

■**事前・事後学習**：講義については、配布された資料を読み直して復習し、ヘルスプロモーションや地域包括ケアにおける看護の役割、地域の在り方について、自分なりの考えを整理しておく。また、演習においては、資料作成のために既習事項の復習やデータの入手、整理、発表準備のために授業時間外のグループ作業が必要になります。

■**教科書**：保健師コースのみ：地域看護アセスメントガイド／佐伯和子他（医歯薬出版株式会社）  
標準保健師講座2 公衆衛生看護技術／中村裕美子他（医学書院）

■**参考文献**：成人看護学 ヘルスプロモーション／大西和子（ヌーベルヒロカワ）  
コミュニティアズパートナー：地域看護学の理論と実際／Anderson, Elizabeth T. et al, 金川克子他 訳（医学書院）  
ヘルスプロモーション看護論／Pender, Nola J, 小西恵美子 訳（日本看護協会出版会）

■**成績評価基準と方法**：レポート（演習に関連した提出物）70%、授業への参加態度・発表30%

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④⑤		
個人レポート(総合)	◎	◎	◎		課題について適切に理解し、条件を満たして作成、提出できていること	30
グループレポート(演習)				◎	教員の指導を受けて修正し、演習要項に記載されている条件を満たして作成、提出できていること	40
グループへの貢献参加態度	○	○	○	◎	グループワークへの貢献、プレゼンテーションでの発言と参加態度	30
出席					2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護援助論I・II、健康教育指導法、公衆衛生看護技術論、公衆衛生学、保健医療福祉行政論I・II、保健統計、公衆衛生看護学臨地実習I・II、疫学I・II、公衆衛生看護管理論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：ヘルスプロモーションの概念は、年齢、健康レベルを問わず、人々の生活と健康を支援する上での基本的な考え方です。看護の各専門領域におけるヘルスプロモーションの考え方や活動の実際を紹介しますので、保健師コースでない学生も履修して下さい。  
演習は今後の学修や実践に役立つ内容とし、看護師コースは退院に向けての生活支援、保健師コースは公衆衛生看護学臨地実習に関連する地域アセスメントを行います。

# 公衆衛生看護学臨地実習I

保健師コース必修 開講年次：4年次前期 科目区分：実習 単 位：2単位 講義時間：90時間

■**科目のねらい**：公衆衛生看護の対象と方法を理解し、コミュニティで生活している人々との交流をとおして、多様な健康レベルにある個人や家族、集団を対象とした援助方法を理解する。また、事業所や学校などにおける活動のプロセスを学び、労働衛生管理等の側面や発達段階ごとの健康課題から多様な組織で行われる保健活動を理解する。

■**到達目標**：1. 対象（個人・家族、集団）が健康課題を解決・改善し、セルフケア能力を高める支援方法について理解する。  
2. 集団・組織・地域の人々の生活や健康課題の解決に向けて行われる保健活動の実際を学ぶ。  
3. 多様な組織で行われる保健活動について理解し、地域保健全体における組織間の協働と連携について考察する。  
4. 学生として地域社会や組織の秩序を理解し、主体的・積極的に学習する

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎櫻井 繭子・本田 光・近藤 圭子・田仲 里江・喜多 歳子

■**授業計画・内容**：

別途配布する「公衆衛生看護学臨地実習I要項」に基づいて、下記のスケジュール・実習施設で実施する。

- ・学内オリエンテーション1（実習全体）：5月上～中旬予定
- ・札幌市保健所総合オリエンテーション：5月中旬予定
- ・学内オリエンテーション2（実習施設別）：5月下旬予定
- ・臨地実習 2017年6月11日(月)～7月27日(金) うち2週間

<実習施設>

- ・行政保健：札幌市保健所、札幌市各区役所・保健センター（市内7区：計14カ所）  
根室保健所、根室市役所、中標津保健所、標津町
- ・産業保健：事業所、労働衛生機関
- ・学校保健：札幌市立小学校・中学校

実習施設は学生1人につき、行政機関（保健センターと区役所、または保健所と市町）、事業所等、教育機関の計3カ所とする。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：関連科目で使用した教科書や資料

■**成績評価基準と方法**：実習への参加状況、記録・レポートの内容から、目標1)～4)の達成度を評価する。

評価方法	実習目標				評価基準	評価割合 (%)
	目標1)	目標2)	目標3)	目標4)		
記録		◎		○	記録・レポート・グループワーク・プレゼンの評価を総合して、目標1)～3)の達成度を判断する。	70
レポート		◎		○		20
カンファレンス		◎		◎		10
出席					2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護援助論II、健康教育指導法、公衆衛生看護技術論、ヘルスプロモーション活動論、保健医療福祉行政論III・保健統計・疫学III、公衆衛生学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：関連科目のすべてを統合した実習です。これまで履修した科目の内容を復習し、知識・技術ともに十分な準備をして臨んでください。個人や実習グループメンバーとともに実習での学びを深化させ、疑問を自ら解決する姿勢が求められます。体調管理に留意し、実習場面で積極的に思考・行動できる状態に整えましょう。

# 公衆衛生看護学臨地実習Ⅱ

保健師コース必修

開講年次：4年次前期

科目区分：実習

単

位：3単位

講義時間：135時間

■**科目のねらい**：地域における保健師活動の実際を体験し、地域住民の健康を支援する具体的な保健師活動の展開方法を学ぶとともに、関係機関や他職種との協働連携の意義を理解する。また、地域の健康課題の理解を深め、保健活動の管理と評価、社会資源の開発、健康危機管理などのコミュニティ全体への支援の実際を学ぶ。

■**到達目標**：1. 住民のセルフケア能力を高める支援方法や主体的活動を支えるための援助について理解する。  
2. 地域の人々の生活や健康課題の解決に向けて行われる保健活動について理解する。  
3. 地域の健康課題を明確にするために地域アセスメントを実施することができる。  
4. 地域の健康水準を高めるための保健事業や社会資源の開発・システム化・施策化を進める保健師の役割を理解する。  
5. 健康危機管理体制を整え、発生時や発生後の保健活動と保健師の役割について理解する。  
6. 学生として地域社会や組織の秩序を理解し、主体的・積極的に学習する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎本田 光・櫻井 繭子・近藤 圭子・田仲 里江・喜多 歳子

■**授業計画・内容**：

別途配布する「公衆衛生看護学臨地実習要項」に基づいて、下記のスケジュール・実習施設で実施する。

〈平成30年度スケジュール概要〉

- ・保健所・市町村の実習を併せて3週間とする。
- ・学内オリエンテーション1（実習全体）：5月上～中旬予定
- ・保健所実習（総合オリエンテーション）：5月中旬予定
- ・学内オリエンテーション2（実習施設別）：5月下旬予定

※学内オリエンテーション、保健所実習は公衆衛生看護学臨地実習Ⅰと共通

〈実習期間〉平成29年6月11日（月）～同年7月27日（金）うち、3週間

〈実習施設〉札幌市保健所（1）、保健センター（7）、区役所（7）、根室保健所（1）、根室市役所（1）、中標津保健所（1）、標津町（1）

■**教科書**：保健師コースで使用したものを活用するため、新規購入はない

■**参考文献**：関連科目で使用した資料や実習施設より配布された行政資料等

■**成績評価基準と方法**：実習への参加状況、記録・レポートの内容・カンファレンスから、目標1）～6）の到達度を評価する。

評価方法	実習目標		評価基準	評価割合 (%)
	目標1～5	目標6		
実習記録	◎	○	記録・レポート・カンファレンスの評価を総合して、到達度を判断する。	54
最終レポート	◎	○		20
カンファレンス	◎	○		10
参加状況	○	◎	グループ作業への貢献、積極的な行動調整、指導を受けて修正し、学びを深める実習態度	16
出席			2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えない

■**関連科目**：公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護援助論Ⅰ・Ⅱ、健康教育指導法、公衆衛生看護技術論  
ヘルスプロモーション活動論、保健医療福祉行政論Ⅰ、疫学Ⅰ、保健統計、公衆衛生学  
4年後期科目：保健医療福祉行政論Ⅱ、疫学Ⅱ、公衆衛生看護管理論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：関連科目のすべてを統合した実習です。これまで履修した科目の内容を復習し、知識・技術ともに十分な準備をして臨んでください。また4年生の実習として自らが学習するための環境調整、教員や実習指導者との日程調整や指導を受けるための準備など主体的な行動調整が求められます。自分の学習のための実習を自分でつくっていくという姿勢で臨むことが期待されています。自身の体調管理にも十分に留意してください。

# 看護管理学

必修

開講年次：4 年次前期

科目区分：演習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：看護援助の提供に関わる管理システムについて、基本的な理論や考え方を学習し、看護組織を運営していくために必要な組織論・リーダーシップ論・管理理論などの理論の基礎を理解する。また、より良い看護を提供するための管理方法と今日的課題について学ぶ。

■**到達目標**：①看護管理の目的を理解し、チーム連携のリーダーとしての役割を担う基礎的概念を学ぶ。  
②看護専門職の機能や役割を発揮させるための看護管理者の役割について説明できる。  
③看護活動そのものが専門職者としての自己成長に深く関わるものであることが説明できる。  
④施設受療から在宅までの継続的看護のあり方について説明できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎猪股 千代子・矢野 祐美子

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 看護管理の目的とプロセス ①看護管理の歴史の変遷と看護管理の目的②情報マネジメント  
第 2 回 看護サービス提供論 ①サービスとは②サービスの質③サービス提供体制  
第 3 回 看護組織論 ①組織デザイン②組織構造（理念と組織図）③組織分析（SWOT）  
第 4 回 看護の継続 ①チーム医療（多職種との連携）②連携（前方・後方連携）③連携ツール  
第 5 回 演習 グループワーク1 ヘルスケア提供の組織をつくる：テーマと内容  
第 6 回 演習 グループワーク2 組織を取り巻く外部環境と内部の環境（強み・弱み）の分析  
第 7 回 人的資源活用論Ⅱ ①人材育成（インフロー・内部フロー・アウトフロー）②目標管理  
第 8 回 人的資源活用論Ⅰ ①モチベーション②ストレスマネジメント③労務管理  
第 9 回 リーダーシップ論 ①リーダーシップとフォロワーシップ②マネジメントとの違い③チーム  
第10回 看護管理の実際 ①トップマネジャー（看護部長）の役割  
第11回 演習 グループワーク3 理念・目的・チームビルディング  
第12回 演習 グループワーク4 目標・計画・問題解決／意思決定方法・リーダーシップ  
第13回 演習 グループワーク5 評価方法 プレゼン発表準備  
第14回 演習 プレゼンテーション1  
第15回 演習 プレゼンテーション2

■**事前・事後学習**：毎回、授業の内容が変わるので、予定されている授業内容をシラバスで確認し、テキストなどに目を通し、ある程度、自分の考えをまとめておくこと。現行の保健医療福祉組織のサービスを振り返り、患者にとって、どんなケアサービスが必要か考えておくこと。それが、演習のテーマにつながり、共通のテーマでグループ学習し、課題を完成させる。発表に向けて準備をする時間が必要となる。

■**教科書**：看護の統合と実践〈1〉看護管理（系統看護学講座 統合分野）2018年 医学書院

■**参考文献**：講義の中で適宜紹介する。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
定期試験	◎	◎	◎	◎		60%
グループワーク	○	○		○	積極的な取り組み姿勢	30%
課題提出		○	○			10%
出席状況					2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：医療経営学 看護理論 チーム医療論 医療安全管理論 感染管理論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：大学卒業後は、組織の一員として役割期待に応える存在となる。自分の存在を大切に、組織に貢献できるよう基礎的知識を身につけ、自信を持って課題に対処できる力をつけて欲しい。

# 看護情報学

選 択

開講年次：4 年次前期

科目区分：講 義

単 位：1 単位

講義時間：15 時間

■**科目のねらい**：データと情報の違いを理解し、どのようなデータを情報として看護に活用するかを理解できる。看護の分野で情報科学をどのように活用しているか、その上で守らなければならない倫理や法的根拠を知り、今後の活用について考えることができる。

■**到達目標**：①どのようにデータを情報として活用するかを理解する。  
②看護分野での情報科学技術の活用について理解する。  
③情報を活用する上で守らなければならない倫理、法的根拠を理解する。

■**担当教員**：

佐藤 ひとみ

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 看護情報学とは何か
- 第 2 回 看護の情報とは何か、どう活用するか
- 第 3 回 看護情報の活用について（看護過程への応用を想定した演習）
- 第 4 回 看護情報の活用について（看護過程への応用を想定した演習）
- 第 5 回 看護用語の標準化（標準化という観点で看護診断、クリニカルパスについてふれる）
- 第 6 回 看護情報の倫理・法的根拠
- 第 7 回 看護を支援するシステム
- 第 8 回 看護情報活用の未来（看護研究の視点も加えて）

■**事前・事後学習**：あらかじめ資料を配布するので、事前に内容を確認すること。授業後は課題を示すので、自分の考えをまとめること。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：エッセンシャル看護情報学第2版 太田勝正編・著、前田樹海編・著 医歯薬出版 2014  
系統看護学講座別巻 看護情報学第2版 中山和弘他著 医学書院 2017

■**成績評価基準と方法**：レポート（演習発表等を含む） 100点  
欠席は1回につき5点減点します。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度	○	○	○	積極的な姿勢・発言を重視する。	50
発表	◎	◎		グループ討議に積極的に参加していること。	
出席				欠席1回5点減点	
レポート	◎	◎		データと情報の違い、データをどのように情報化したかという過程と根拠が明確に記述されていること。その上で、自分の考えが述べられていること。	50

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：医療情報学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：臨床場面で役立つ看護情報学を目指します。看護過程の例題を通してデータと情報の違い、データを情報化していくプロセス、臨床で必要とされる知識を統合する過程を学んでもらいます。授業への積極的な参加姿勢を評価します。

# 災害看護学

保健師コース必修  
看護師コース選択

開講年次：4年次前期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：災害時に看護職が果たす役割、医療チームにおける他職種との連携について、災害が健康へ及ぼす影響とともに学ぶ。具体的には、災害直後・初期に発生する人々のニーズと健康問題の理解、被災者にもたらす中・長期的な身体的・心理的・社会的な影響と看護の役割について考察する。また、緊急救援活動についても考える。

■**到達目標**：①災害看護の基礎的知識を理解する。  
②災害時の医療・看護活動の実際を知り、今日的課題を考察する。  
③災害が人々の生活に及ぼす影響を理解する。  
④災害時の看護者役割を述べることができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎矢野 祐美子・喜多 歳子・田仲 里江・浅井 康文

■**授業計画・内容**：

第1回 コースオリエンテーション

災害看護の基礎：災害看護の歩み、定義、法律、用語

第2回 災害医療の基礎：国内外の災害、災害の種類別疾病構造、災害医療と救急医療との違い

第3回 災害対応の基礎：トリアージ、CSCATTT、DMAT、災害拠点病院、災害と情報

第4回 災害急性期・亜急性期の看護：避難所における看護

第5回 災害慢性期・復興期の看護：仮設住宅における健康生活支援、こころのケア

第6回 災害静穏期の看護：病院防災の備え、地域防災の備え

第7回 被災者特性に応じた看護、災害と感染症

第8回 統合学習

■**事前・事後学習**：予定されている授業内容をシラバスで確認し、これまで履修した授業や実習、自身の経験を振り返り考えをまとめておくこと。受講後は、配布資料などで復習しながら課題に解答し、授業内容の理解を深めること。さらに参考図書や新聞などを参照しながら、自身の考察を深めること。

■**教科書**：指定無し。適宜資料を配布する。

■**参考文献**：『災害看護』／酒井明子、長田恵子、三澤寿美（メディカ出版）

『災害看護』／酒井明子、菊池志津子編（南江堂）

『災害看護学・国際看護学』／浦田喜久子、小原真理子編（医学書院）

■**成績評価基準と方法**：課題50% レポート50%

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③	④		
課題	◎	○	◎	○	解答の正解率	50
レポート	○	◎	○	◎	内容の適切性・論理性・創造性	50
出席					2/3未満の出席で欠格	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：既修の専門科目はすべて関連があります。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：実際の災害医療・看護実践場面の画像を見ることに不安がある学生は、事前に申出てください。国内外の災害発生状況等により、授業スケジュールを変更する場合があります。災害はいつ、どこで起こるかわからないだけに日頃の備えが大切です。主体的に学修に取り組んでください。

# 国際看護学

選 択

開講年次：4 年次前期

科目区分：講 義

単 位：1 単位

講義時間：15 時間

■**科目のねらい**：社会、経済、教育、文化的な相違の理解の基に諸外国の看護の仕組みや実際を学ぶ。また、日本の国際的看護活動の歴史と現状を知る。国際的見地から看護を学習することで地球上の人々の健康課題に対する看護の貢献の在り方を考え、異文化に於ける看護・医療サービス提供者としての姿勢を学習する。

■**到達目標**：①グローバル・ヘルスにおける基本的な概念を説明する  
②世界の人々の健康問題を、社会経済的・文化的な要因と関連づけて述べる  
③在日（訪日）外国人、在外日本人の健康課題の特徴を説明する  
④グローバル・ヘルスにおいて看護職である自分自身の果たす役割について考察する

■**担当教員**：

大野 夏代

■**授業計画・内容**：

第 1 回 コースオリエンテーション

グローバル・ヘルス／ミレニアム開発目標～持続可能な開発のための2030アジェンダ／国際看護とは

第 2 回 世界の健康問題の現状

人口／保健指標／健康問題の背景／保健医療人材 世界保健機関（WHO）国際看護師協会（ICN）国際協力機関（国際機関・政府援助・非政府援助）

第 3 回 国際看護の対象者と健康問題、グローバル・ヘルスにおける看護の役割1

異文化理解／在日外国人（訪日外国人）／在外日本人／海外旅行での健康管理

第 4 回 外国人模擬患者演習／外国人市民の体験談（ゲストスピーカー）

第 5 回 国際看護の対象者と健康問題、グローバル・ヘルスにおける看護の役割2

国際協力機関の機能と協力の仕組み／国際的看護活動

第 6 回 国際看護の対象者と健康問題、グローバル・ヘルスにおける看護の役割3 グループワーク

第 7 回 発表

第 8 回 国際的活動とキャリア

■**事前・事後学習**：テキストの該当するページを読んで、疑問点を明らかにしてから授業に参加すること  
授業後のレポートは、適宜提示する

■**教科書**：『国際看護学—グローバル・ナーシングに向けての展開』／新川加奈子・大野夏代（中山書店）（2013）

■**参考文献**：『国際看護・国際保健』／丸井英二（弘文堂）（2012）

『知って考えて実践する国際看護』／近藤麻理（医学書院）（2011）

『系統看護学講座 災害看護学・国際看護学』医学書院（2010）

Nursing in the World (5th Edition)／国際看護交流協会（メヂカルフレンド）（2010）

DVD『目で見る国際看護（全3巻）』／医学映像教育センター（2010）

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
小テスト・授業内レポート	◎	◎	○	○		50%
発表・レポート	○	○	◎	◎		50%

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：全ての専門科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：在日（訪日）外国人や在外日本人の保健医療を中心として、国際協力を含めた、看護職の多様な役割を考えてみましょう。グローバル・ヘルスの考え方は、日本を含めた、世界で仕事をするとき必要です。

# 国際保健学

保健師コース必修  
看護師コース選択

開講年次：4年次前期

科目区分：講義

単

位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：おもにWHOの活動を通じて 国際保健活動について触れる。

■**到達目標**：①健康について説明できる。

②公衆衛生・疫学・グローバルヘルスについて、それらの概要を説明できる。

③WHOの組織と活動について説明できる。

■**担当教員**：

千葉 逸朗

■**授業計画・内容**：

第1回 自己紹介、オリエンテーション

第2回 健康とは、健康権とは

第3回 公衆衛生・疫学・グローバルヘルスの心

第4回 WHOの組織と活動

第5回 日本のODA、エイズや顧みられない熱帯病（NTD）など

第6回 Presentationの方法、グループ演習

第7回 グループ発表会

第8回 まとめ

■**事前・事後学習**：あらかじめシラバスで授業計画・内容等を確認すること。授業後は配布資料などを復習し、理解を深めること。

■**教科書**：適宜資料配布

■**参考文献**：

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
レポート	◎	◎	◎	各回のポイントを理解していること。	80
授業態度	○	○	○	積極的な姿勢	20
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：公衆衛生学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：



# 医療経営学

選 択

開講年次：4 年次前期

科目区分：講 義

単 位：1 単位

講義時間：15 時間

■**科目のねらい**：わが国の医療は、均一な社会システムの中で運営されているが、少子高齢化による経済成長の鈍化を前に、高齢化と技術革新による医療関連費用の増大は深刻な経済問題となっている。その一方で良質な医療サービスを安定して提供できる医療提供システムの改革について社会的要求は高まっている。その背反する社会システムと医療経済活動の構造と動態を踏まえ、少子・高齢社会の現状から介護保険、医療保険を含む看護・医療・福祉サービスの質と経済効果のバランスなど医療経済の側面について理解する。また、医療経営の戦略、医療組織の在り方、顧客満足度評価の基礎を学び、「質の改善」と「費用の適性化」を考察する。

■**到達目標**：①医療福祉経営の組織の仕組み、医療経営の戦略、顧客満足度の評価の基礎を理解する。  
②日本の医療経済の国民経済に占める割合、医療資源の配分の仕組みを理解する。  
③少子化と高齢者人口増加の国民経済への影響を理解する。  
④社会保障制度と市場原理、ケアサービスの質と経済効果のバランスの在り方を理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎猪股 千代子・矢野 祐美子・勝見 真澄

■**授業計画・内容**：

1 回目	医療福祉の経営：経営の枠組み、診療報酬体系	(猪股)
2 回目	医療制度改革と看護：近年の医療制度改革の概要、2025年問題	(矢野)
3 回目	諸外国の医療・保健システム	(矢野)
4 回目	少子化と超高齢社会と医療経営	(勝見)
5 回目	マーケティング：消費者（患者）の認識、経営環境と戦略、顧客満足度	(勝見)
6 回目	戦略的経営のポイント 組織分析の手法（SWOT分析）	(猪股)
7 回目	組織分析の演習	(猪股・矢野)
8 回目	まとめ	(猪股)

■**事前・事後学習**：毎回、授業のテーマが変わるので、予定されている授業内容をシラバスで確認し、あらかじめ配布されている資料などに目を通し、ある程度自分の考えをまとめておくこと。また、将来に向けて、医療人としてパワーアップするために、自己の強みを、どのように、発展させる必要があるか考えをまとめておくこと。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：看護管理学習テキスト第6巻（2011） 日本看護協会出版会

[www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/hoken/gaiyou.html](http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/hoken/gaiyou.html)

中島明彦 ヘルスケア・マネジメント—医療福祉経営の基本的視座（2007年）同友館

■**成績評価基準と方法**：レポート評価70%、出席態度30%

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
レポート評価	◎	◎	◎	◎	到達目標の達成度	70%
出席	○	○	○	○	2/3以上の出席	30%

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：保健医療福祉行政論 保健統計 医療情報 看護管理学

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：大学は誰かから何かを教わるのではなく、自分が関心をもったことを自分で学び探索する場所である。本講義から医療組織の課題を把握し、将来の自己課題発見の手がかりとする事を期待する。

# 医療安全管理論

選 択

開講年次：4年次前期

科目区分：講 義

単 位：1 単位

講義時間：15 時間

■**科目のねらい**：国の医療安全対策の背景と取り組み内容を学習し、組織としての医療安全に取り組む意義と体制を理解する。医療安全に関する用語を学び、ヒューマンエラーの種類と不安全行動の防止対策、さらに具体的なエラーの防止対策を理解する。医療事故に伴う看護職の法的責任について理解する。

- 到達目標**：①医療安全に関する用語を理解する。  
②ヒューマンエラーの種類と不安全行動の防止対策を理解する。  
③国の医療安全対策の背景と取り組み内容を理解する。  
④病院組織における具体的なエラーの防止対策を理解する。  
⑤組織としての医療安全に取り組む意義と体制を理解する。  
⑥医療事故に伴う看護職の法的責任について理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎猪股 千代子・古都 昌子・檜山 明子・矢野 祐美子

■**授業計画・内容**：

1回目	医療安全に関する用語の定義 ①リスクマネジメント ②医療事故、アクシデント ③医療過誤 ④インシデント、ヒヤリ・ハット ヒューマンエラーと対策 ①ヒューマンエラーとは ②エラーの防止対策	(猪股)
2回目	国の医療安全対策 組織としての医療安全対策 安全文化の醸成	(矢野)
3回目	病院組織における医療安全対策とその取り組み ①病院組織における具体的なエラーの防止対策 ②医療安全推進室の役割	(古都)
4回目	医療事故に伴う看護職の法的責任 看護職賠償責任保険制度	(古都)
5回目	医療事故の実態と事故発生後の対応と院内日常業務の管理体制 ①医療事故の実態 ②医事紛争解決への考え方 ③医療事故発生後の対応事例 ④診療録等の記載	(古都)
6回目	転倒・転落とアセスメントの実際 ①アセスメント ②発生状況 ③事例	(檜山)
7回目	危険予知トレーニング ケア実施に伴い発生しやすい事故事例から 安全文化の醸成	(檜山)
8回目	まとめ「自己のエラー特性を知り防止対策を考察する」	(猪股)

■**事前・事後学習**：毎回、授業のテーマが変わるので、予定されている授業内容をシラバスで確認し、あらかじめ配布されている資料や参考文献などに目を通し、ある程度自分の考えをまとめておくこと。また、これまでの学生生活をふりかえり、自己のエラー特性を、事例を挙げて提示し説明できるように考えをまとめておくこと。

■**教科書**：随時資料を提示する。

■**参考文献**：新体系 看護学全書 看護の統合と実践①看護実践マネジメント 医療安全／佐藤エキ子編集 メヂカルフレンド社

■**成績評価基準と方法**：レポート評価 70% 授業態度30%

評価方法	到達目標						評価基準	評価割合 (%)
	到達目標 ①	到達目標 ②	到達目標 ③	到達目標 ④	到達目標 ⑤	到達目標 ⑥		
課題	◎	◎	◎	◎	◎	◎		70%
授業態度	○	○	○	○	○	○	積極的な姿勢・質問など	30%
出席							2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：看護管理学 感染管理論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：医療安全の確保は、医療の質に関わる重要な課題である。安全な医療の提供は医療の基本であり、医療安全の必要性・重要性を自分自身の課題として認識し、在学中だけではなく、卒業後も学びを深め続ける事を期待する。

# 現代専門職論

選 択

開講年次：4年次前期

科目区分：講 義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：現在、保健・医療・福祉のさまざまな分野で活動している方々の職業観、専門職観あるいは人生観等を通して、これからの看護専門職のありようを考える。

■**到達目標**：①それぞれの専門分野の特殊性を理解し、各分野におけるこれからの方向性がわかる。  
②それぞれの活動内容との出会いと専門職者としての個々の人生の中から、職業観の拡充を図ることができる。

■**担当教員**：

樋之津 淳子

■**授業計画・内容**：

第1回 基礎教育と臨床をつなぐ私の仕事

第2回 専門職能団体と私の仕事

第3回 行政と私の仕事

第4回 地域住民の健康を支える私の仕事

第5回 スペシャリストとしての私の仕事

第6回 国際協力と私の仕事

第7回 助産施設で働く私の仕事

第8回 まとめ

■**事前・事後学習**：毎回、講義の要約と専門職観、職業観について800～1200字程度の事後レポートを提出する。

■**教科書**：必要な資料は、その都度配布します。

■**参考文献**：各講師の著書を参考にすること。

■**成績評価基準と方法**：レポート評価75%、レポート提出状況15%、授業態度10%

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
レポート評価	◎	◎	各授業の課題学修到達度	75
レポート提出状況	○	◎	レポート提出状況	15
授業態度	○	○	積極的な姿勢	10

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：各分野で活動されている方々の豊富な体験や職業観から、今までの学修をより幅広く理解し深める機会になるでしょう。また皆さんの将来の目標設定や看護への取り組みや考え方にも大きな影響をもたらすことでしょう。積極的な授業参加を期待しています。

# 保健医療福祉行政論Ⅱ

保健師コース必修  
看護師コース選択

開講年次：4 年次後期

科目区分：演習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：国及び地方公共団体における保健医療福祉行政の現状、課題、各種施策の方向性について理解し、保健医療福祉行政における基本計画の策定、実施、評価についての基本的な知識とその展開方法について、実習を振り返りながら学ぶ。また、地域組織活動支援の理論と方法を学び、保健師活動を通じた地域のソーシャルキャピタルの醸成について考察する。

■**到達目標**：①保健医療福祉行政の計画・実施・評価の方法について説明できる。  
②実習で担当した地域の健康課題を構造化することができる。  
③特定の健康課題に対する事業計画・評価計画を立案し、説明できる。  
④住民の健康づくりに寄与する地域組織とその活動について説明できる。  
⑤地域組織の発展と活動の推進に向けた支援計画を立案できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎本田 光・櫻井 繭子・近藤 圭子・田仲 里江

■**授業計画・内容**：

第 1 回 行政職としての保健師  
第 2 回～4 回 地方自治体における基本計画と保健医療福祉計画の策定・実施・評価  
第 5 回～8 回 実習地域の事業計画の立案・実施・評価（演習）  
第 9 回～11 回 地域組織活動の支援  
第 12 回～14 回 地域組織のアセスメントと支援計画の立案（演習）  
第 15 回 まとめ（小テスト）

■**事前・事後学習**：第 1 回目の授業で配布する授業計画に、各単元に該当するテキストの頁を記載します。学生は、指定されたテキストの頁を予め通読してから講義を受講してください。演習では、授業で配布する資料およびテキストの内容を復習しながら課題に取り組むことが求められます。また、授業時間外の個人およびグループ作業が求められます。

■**教科書**：地域看護アセスメントガイド／佐伯和子他（医歯薬出版株式会社）  
標準保健師講座2 公衆衛生看護技術（医学書院）

■**参考文献**：標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論（医学書院）  
公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術（医歯薬出版株式会社）

■**成績評価基準と方法**：演習（レポート・発表・参加態度）80%、小テスト20%

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	目標①②③	目標④⑤		
演習① 事業計画	◎		課題を理解し、演習要項に記載されている条件を満たして提出している	40
演習② 組織支援		◎	課題を理解し、演習要項に記載されている条件を満たして提出している	40
小テスト	○	○	小テスト	20
出席			2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：保健医療福祉行政論Ⅰ、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護援助論Ⅰ・Ⅱ、ヘルスプロモーション活動論、公衆衛生看護学臨床実習Ⅰ・Ⅱ

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：看護師コース、保健師コースとも同じ履修内容です。

- ・公衆衛生看護学臨床実習Ⅰ・Ⅱで作成した資料も使いながら、健康課題解決のための事業計画の立案・実施・評価の方法論について学びます。
- ・地域組織活動支援の理論と方法は、地域組織だけでなく、患者会や病棟組織など臨床看護の場面、あるいは各自が所属しているサークル活動など、あらゆる組織に対して有効な考え方です。「もっと早く知りたかった」と学生からも好評です。

## 疫学Ⅱ

保健師コース必修  
看護師コース選択

開講年次：4年次後期

科目区分：講義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：疫学の基礎的知識を定着させ、公衆衛生看護への適用を検討する力を身につけます。さらに保健活動評価や研究活動などの実践に向けた疫学調査の方法を学びます。

■**到達目標**：①疫学調査の方法が説明できる  
②疫学研究の信頼性と妥当性を判断できる  
③疾病と保健行動の疫学が説明できる  
④疫学の調査計画を立案できる

■**担当教員**：

喜多 歳子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション・疫学調査の概要（統計資料・目的・方法・倫理）
- 第2回 疫学データの読み方（必要条件・因果関係・指標・リスク）
- 第3回 疫学調査の方法（研究デザイン・誤差・バイアス・交絡）
- 第4回 疫学データの読み方（データ・推定・検定）・小テスト
- 第5回 疾病の疫学（スクリーニング・感染症の疫学）
- 第6回 疾病の疫学（生活習慣病の疫学と保健政策）
- 第7回 社会疫学と公衆衛生看護・小テスト

■**事前・事後学習**：毎回、課題を出します。

■**教科書**：なし（毎回、資料を配布します）

■**参考文献**：『公衆衛生看護学原論』麻原きよみ編（医歯薬出版）2014  
『基本からわかる看護疫学入門』大木秀一著（医歯薬出版）2011  
『国民衛生の動向2018/19』厚生労働統計協会

■**成績評価基準と方法**：小テストと課題レポートで評価する。レポートの評価基準は講義内で説明する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
小テスト	◎	◎			50点
レポート	○	○	◎	知識の応用	50点

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：疫学Ⅰ、公衆衛生学、保健統計、看護情報学、公衆衛生看護概論、公衆衛生看護援助論Ⅱ

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：疫学が実践でどのように使われているのか。保健統計・保健医療福祉政策と関連させた横断的な学びとなります。関連する科目の復習をして授業に臨んでください。

# ヘルスケアマネジメント実習

必修 開講年次：4年次後期 科目区分：実習 単 位：3単位 講義時間：135時間

■**科目のねらい**：ヘルスケアマネジメント実習では、病院等において組織的に看護ケアを提供するためのシステム構築、運営やマネジメント機能について、実践的組織活動を通して学ぶ。具体的には、学生自身が関心のある施設において、これまでの授業で学んできた知識・技術を、実践を通して確認することにより、理論と実践を結び付ける。

- 到達目標**：①チームの一員として役割を担う。  
②ケア実現のためのマネジメント能力を養う。  
③危機発生時の対処方法を理解し、リスクマネジメントができる。  
④看護師の倫理綱領を遵守し、保健医療専門職として責任ある行動を取る。  
⑤既習の知識と技術の統合・活用を通して自己の課題を明確にする。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎矢野 祐美子・猪股 千代子・大野 夏代・貝谷 敏子・神島 滋子・菅原 美樹・藤井 瑞恵・古都 昌子・三上 智子・村松 真澄・守村 洋・伊東 健太郎・工藤 京子・小坂 美智代・高橋 奈美・武富 貴久子・原井 美佳・檜山 明子・鬼塚 美玲

■**授業計画・内容**：

実習施設（予定）：市立札幌病院、手稲溪仁会病院、KKR札幌医療センター、札幌厚生病院、JR札幌病院、天使病院、旭山病院、高齢者総合福祉施設サン・グレイス

実習内容：平成30年度ヘルスケアマネジメント実習 実習要項参照

■**教科書**：指定なし

■**参考文献**：上泉和子他、看護の統合と実践〈1〉看護管理（系統看護学講座 統合分野）、医学書院

■**成績評価基準と方法**：看護実践、実習記録、レポート、発表の内容から実習目標の到達度を評価し、実習態度と合わせて総合的に評価する

評価方法	到達目標					評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③	④	⑤		
看護実践・実習記録	◎	◎	◎	◎	◎	目標到達度	70
実習態度	◎	◎	◎	◎	◎	積極的な取り組み、態度	15
レポート	○	○	○	○	◎	テーマに適した内容	5
発表	◎	◎	○	○	○	テーマに適した発表	10
出席						2/3未満の出席で欠格	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：看護学原論、看護理論、看護管理学、チーム医療論、医療安全管理論、感染管理論、4年間の講義・演習・実習

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：大学看護教育の集大成として、既習の知識・理論・技術を発展・統合させるための実践を中心とした実習です。これまでに培った自己の能力を活用し積極的に実習に臨んでください。この実習によって、自分なりの看護観を形成するとともに、今後の自己課題を明確化できることを期待します。

# 公衆衛生看護管理論

保健師コース必修

開講年次：4年次後期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：人々の健康と生活をより良い状態に維持・向上するために、地域の人々や関係者と協働して行う地域保健活動や社会資源の過不足とその質を評価し、管理する方法を学ぶ。また、新任期の保健師として理解しておくべき管理の機能、新任期から担う管理について考察する。

■**到達目標**：①公衆衛生看護管理機能の定義と特徴を述べることができる。  
②事例管理、地区管理、事業・業務管理、組織運営管理、予算管理、人材育成・人材管理、情報管理、健康危機管理の基本的な管理機能を述べることができる。  
③地域ケアの質の保証のための具体的な方法を考えることができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎本田 光・喜多 歳子・櫻井 繭子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 公衆衛生看護管理機能の定義と基本的な8つの管理機能
- 第2回 保健師の地区活動とソーシャルキャピタル
- 第3回 広域行政と地方分権・主権
- 第4回 組織運営管理と人事管理・人材育成
- 第5回 地域におけるケアの質保証—社会資源の評価と開発
- 第6回 地域包括ケアシステムの構築における保健師の役割
- 第7回 地域ケアシステムづくり—地域会議の企画（演習）
- 第8回 公衆衛生看護管理の意義

■**事前・事後学習**：講義については、配布された資料を読み直して復習し、新任期として理解しておくべき看護管理、新任期から担う看護管理の機能について自分なりの考えを整理しておく。また復習として、学生グループで講義内容を基に問題を作成し、検討し合う。

なお、教科書には指定しないが、予習として「保健師業務要覧第3版p.194-255『公衆衛生看護管理』」を図書室で借りて通読しておくこと講義内容の理解が深まるので、各自で取り組んで欲しい。

■**教科書**：授業で資料を配布する。

■**参考文献**：「保健師業務要覧第3版」／井伊久美子 他編集（日本看護協会出版会）

「最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論」／平野かよ子編集（メジカルフレンド社）

「公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術」／佐伯和子他編集（医歯薬出版株式会社）

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
小テスト	◎	◎		60%以上を正解していること。	50
レポート課題	○	○	◎	課題を適切に理解し、演習要項の条件を満たして作成し、提出されていること	30
授業態度	○	○	○	授業への参加態度、発言、質問	20

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学技術論、ヘルスプロモーション看護論、公衆衛生看護学援助論I・II、保健医療福祉行政論I・II、公衆衛生看護学臨地実習I・II

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：保健師コースの最終的なまとめの授業になります。公衆衛生看護学臨地実習での学習も含めて総合的に公衆衛生看護学の理解を深めていきます。

指定図書を事前に読んで、授業に参加して下さい。また、新たな概念や理解が曖昧な部分は各自で復習をし、学生間でディスカッションしたり、解決しない場合は教員に質問して下さい。

# 卒業研究

必修

開講年次：4年次通年

科目区分：演習

単位：4単位

講義時間：120時間

■**科目のねらい**：卒業研究は、看護学部が育成する人材像に求められる「課題解決能力を高めるための自己研鑽能力」の育成に連なる授業科目です。4年間の集大成として、学生自身が関心のある看護現象を選択し、自らの問題意識をもって研究課題を自ら見いだします。基本的な過程をたどりながら研究活動に取り組み、その成果をまとめ、報告するまでの流れを体験します。この学修を通して、看護現象の捉え方や援助のあり方、看護職者としての役割について認識を深めることをねらいとします。

- 到達目標**：①看護領域に研究課題を見出すことができる。  
②研究の基本的なステップに基づいて、研究計画書を立案することができる。  
③研究計画書に基づいて、研究活動を遂行できる。  
④研究成果を抄録にまとめ、示説発表することができる。  
⑤研究活動を通して、自己の看護観や専門職者としての役割を洞察できる。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

○神島 滋子・猪股 千代子・卯野木 健・小田 和美・川村 三希子・菊地 ひろみ・喜多 歳子・定廣 和香子・樋之津 淳子・大野 夏代・貝谷 敏子・菅原 美樹・藤井 瑞恵・古都 昌子・本田 光・三上 智子・村松 真澄・守村 洋・伊東 健太郎・工藤 京子・小坂 美智代・櫻井 繭子・高橋 奈美・武富 貴久子・原井 美佳・檜山 明子・矢野 祐美子・山本 真由美・石引 かずみ・柏倉 大作・近藤 圭子・田仲 里江

■**授業計画・内容**：

- 第1～2回 オリエンテーション、指導教員の決定（神島）  
研究理論について（神島）  
第3～28回 研究活動（指導教員）  
第29～30回 中間報告会：関連領域の少人数グループで開催する。  
開催日時および要領は指導教員の指示による（指導教員）  
第31～40回 研究活動（指導教員）  
第41～42回 卒業研究発表会および抄録原稿の提出に関するオリエンテーション（神島）  
第43～52回 研究活動（指導教員）  
第53～60回 卒業研究発表会：示説（全教員）

■**事前・事後学習**：看護研究とは何か?について、看護研究方法論で学んだことを復習して望むこと。指導教員とのゼミでは自分の疑問を明確にし、メンバーとディスカッションできる準備をして望みましょう。研究の各ステップでの疑問は教員と十分に話し合い、疑問を早めに解決できるよう事後学習をしてください。

■**教科書**：指定なし

■**参考文献**：指導教員から助言を得、研究課題に応じて選択すること。

■**成績評価基準と方法**：卒業研究の全活動プロセスを通じて、学修成果を総合的に評価します。

評価方法	到達目標					評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④	到達目標⑤		
発表	○	○	○	◎	○	中間報告会および卒業研究発表会の内容	30
研究成果	○	◎	◎	◎	○	提出物の目標到達度 研究遂行の状況や計画性	52
授業態度	○	○	◎	○	◎	研究活動に対する取り組み姿勢	18
出席						2/3以上の出席	欠格要件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：本科目は、全既習科目の理解を基礎とします。また、研究方法論の実践編に位置づけられます。

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：指導教員による個別指導のもと、研究活動の実践を通して看護研究の意義とおもしろさを実感していただきたいと思います。



## 知的財産権論

選 択

開講年次（31年度）：4年次前期

科目区分：講義

単 位：2単位

授業時間：30時間

■**科目のねらい**：知的財産、知的財産権について、歴史的な経緯や制度の変遷を踏まえて、その現代的意義を解説するとともに、情報経済の主要な資産となる知的財産と、情報社会を支える知的財産権制度についてマクロ的観点から理解を深める。ソフトウェア特許やデジタル著作権等の重要事項、それらを取り巻くさまざまな事項についても考察する。特にこの講義では、机上の理論ではなく、実社会においてデザインやコンテンツといった知的財産がどのように活かされ、富を生んでいるかを実態として学ぶ

■**到達目標**：

- ① 知的財産とは何かを説明できる
- ② コンテンツビジネスなど実社会で知的財産がどのように活用されているかを具体的に説明できる
- ③ 将来の仕事と知的財産との関係を説明できる

## デザイン英語

選 択

開講年次（31年度）：4年次前期

科目区分：講義+演習

単 位：2単位

授業時間：30時間

■**科目のねらい**：共通教育科目における英語教育を踏まえ、学生が将来、さまざまなデザイン活動の場で触れることになる専門用語や英文等が理解できるように、デザインにかかわる英語文献や専門雑誌等を用いながらデザイン英語について学ぶ。さらに、デザインに関する英語論文を読み、内容を理解し、それを日本語で発表する力を習得するとともに、専門に関するアイデアを英語で発信する力も身につける。

■**到達目標**：

- ① 英語でデザインに関する文献を読解できる。
- ② 英語のデザインに関する文章を日本語で要約できる。
- ③ 英語のデザインに関する文章を理解し、背景知識を調査し日本語で発表できる。
- ④ デザインに関するアイデアを英語で発信することができる。

## 景観デザイン文化論

選 択

開講年次（31年度）：4年次前期

科目区分：講義

単 位：2単位

授業時間：30時間

■**科目のねらい**：都市空間や農村空間の景観を形成する環境デザインについて、「景観・デザイン・色彩」の観点から多角的に講義を進めます。魅力ある都市景観や農村景観などの事例を紹介し、土木・都市・建築・インテリアの環境デザインと諸構成要素など、総合的に景観デザインの考え方を学びます。また、生活者の視点、高齢者、子供、身障者の視点、管理者側の視点も考慮し、快適な環境デザインのあり方を検討します。魅力ある都市や農村の景観を育む環境デザインは、「まちづくり文化」として重要であることから、幅広く学び研究する講義としたい。

なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目（建築計画）である。

■**到達目標**：

- ① 景観デザインの諸構成要素と文脈形成について、都市空間と農村空間において理解する。
- ② 景観形成における環境デザイン・環境色彩の役割と考え方を学ぶ。
- ③ 魅力ある都市景観や農村景観を活用し、地域活性化を図る手法を考える。

## 住宅論

選 択

開講年次 (31年度) : 4年次前期

科目区分 : 講義

単 位 : 2単位

授業時間 : 30時間

■**科目のねらい** : 住宅建築について、戦後日本での変遷を軸に論じる。文献や事例からそれらの空間概念と時代背景、場所論、風土論などから考察する。また、建築物としてみる住宅に限らず、ひろく住まいや場、自己のアイデンティティの拠り所としての観点にも触れていく。

なお、本科目は建築士受験資格の取得に必要とされる指定科目(建築計画)である。

■**到達目標** :

- ①戦後日本の住宅建築の変遷と時代背景に学ぶ。
- ②住まいや場所のアイデンティティについて考察する。
- ③居住空間と身体の関係について考察する。

## 観光デザイン論

選 択

開講年次 (31年度) : 4年次前期

科目区分 : 講義+演習

単 位 : 2単位

授業時間 : 30時間

■**科目のねらい** : 多様な側面を持つ「観光」を「デザイン」の視点からとらえ、地域再生という新たな社会的課題に対する「観光」の役割や意義・現状の課題について考察する。

自然・歴史・文化・生活・産業など、地域特性や資源を再確認し、地域の魅力を引き出すための方法を学ぶとともに、グループ演習や課題制作、プレゼンテーションを通して企画立案の実践的方法論を身につける。グループ演習では、札幌を対象とした観光ツアーの企画や観光地の改善計画等に取組む。

■**到達目標** :

- ①「観光」や「ツーリズム」に係る基礎知識を習得し、企画立案に活かすことが出来る。
- ②資料蒐集やフィールドサーベイにより地域資源を発見し、提案に結びつける事が出来る。
- ③グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、他者と協働しデザイン提案を行う事が出来る。

## 起業・経営論

選 択

開講年次 (31年度) : 4年次前期

科目区分 : 講義

単 位 : 2単位

授業時間 : 30時間

■**科目のねらい** : デザインに関わる職業について知識を深めるとともに、企業組織や企業経営について学ぶ。また、将来の働き方の選択肢のひとつとしての「起業」について、地域発祥の「起業」の実例を交えながら学ぶ。さらに、働くということにおいて、起業することと就職することの共通点について考察し、これからの働きかたを考える。

■**到達目標** :

- ①なぜ働くのかを理解し、どのように働くのかを説明することができる。
- ②企業とは何かを理解し、説明することができる。
- ③起業するということを理解し、説明することができる。

---

## ユーザーエクスペリエンスデザインⅢ

選 択

開講年次（31年度）：4年次前期

科目区分：講義+演習

単 位：2単位

授業時間：30時間

■**科目のねらい**：製品をはじめとする人工物の設計においては、その利用者であるユーザを身体的側面と認知的側面の両面から理解し、設計要件に昇華する能力が要求される。本講義では、実体形状を有する情報機器や情報処理環境において、ユーザが直面する場面を想定し、その利用状況の観察を生活における広範な習慣に基づいたエスノグラフィック的な視点から読み解く手法を学ぶ。

■**到達目標**：

- ①人間の身体性を基準とした人工物との関わりを人間工学に基づいて分析する手法を理解する。
- ②日常生活の中で、人工物とその使用者との知的関係を客観的に分析する手法を理解する。
- ③人間と人工物との関係を、身体的側面と認知的側面の複合的評価を行う手法を理解する。

---

## ビジュアライゼーションⅢ

選 択

開講年次（31年度）：4年次前期

科目区分：講義+演習

単 位：2単位

授業時間：30時間

■**科目のねらい**：Web上のデータや、自ら収集／取得したデータなどを対象に、閲覧者を定義した上で、適切な表現内容を構築する。さらに、プログラミング等をもちいてインタラクティブ性を与えた形で構成し、閲覧者とデータが対話することで効果的に情報伝達が行われるインタラクティブなビジュアライゼーション手法を模索する。以上のプロセスを通して、効果的な可視化のあり方を自ら模索する能力を身につける。

■**到達目標**：

- ①インタラクティブな表現手法を、その効果／特性の観点から理解する。
- ②自ら伝えるべき情報を構築し、適切な表現手法で伝達するコンテンツを作成することができる。

---

## 卒業研究I

必 修

開講年次（31年度）：4年次前期

科目区分：演習

単 位：3単位

授業時間：45時間

■**科目のねらい**：4年間の学部教育の集大成として、デザイン総合実習等で培ったそれぞれの専門分野に基づいて研究テーマを設定し、それぞれの研究指導教員の指導を受けながら中間発表としてまとめる。

■**到達目標**：

- ①調査分析力、問題解決能力、研究推進力、発想力、デザイン制作力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につける。
- ②研究内容をまとめ、中間発表会にて発表する。

---

## 卒業研究Ⅱ

必修

開講年次（31年度）：4年次後期

科目区分：演習

単 位：3単位

授業時間：45時間

■**科目のねらい**：卒業研究Ⅱにて設定した研究テーマを継続研究し、それぞれの研究指導教員の指導を受けながら論文及び作品としてまとめ、研究成果を学内外で発表・展示する。

■**到達目標**：

- ①調査分析力、問題解決能力、研究推進力、発想力、デザイン制作力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につける。
  - ②研究を完成させ、論文及び作品としてまとめる。
-

**2018 SYLLABUS**  
SAPPORO CITY UNIVERSITY  
平成30年度 履修要項 《授業計画（シラバス）》

---

2018年4月1日 発行  
編集発行 札幌市立大学

- 芸術の森キャンパス：〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目 tel.011-592-2371
  - 桑園キャンパス：〒060-0011 札幌市中央区北11条西13丁目 tel.011-726-2500
-